

2017 年度 シラバス

《目次》

2017 年度開講科目一覧	4
卒業研究	153
索引	163

※各科目の最新シラバスについては、el-Campus（エルキャンパス）のシラバスを確認してください。

※本学に設置しているパソコンは、「Windows」です。スクーリング受講時、その他図書館などの施設は、これを使用します。

※課題（レポート等）作成時に Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel 等の基本ソフトが必要となる場合があります。

※メジャー（専修）については、2014 年度以降設定した名称を表記しました。2013 年度以前の入学者は、該当する『シラバス』を確認してください。メジャー（専修）欄が空白の場合は、メジャーに該当しません。

※科目は、50 音順に配列します。163 ページの索引を参考にしてください。

大手前大学 現代社会学部 現代社会学科 通信教育課程

シラバス項目凡例 (2017年度) 大手前大学 現代社会学部現代社会学科通信教育課程

メジャー (専修) 名	科目に該当するメジャーが記載されています。該当しない科目もあります。 2013年度以前の入学者は、該当する『シラバス』を確認してください。
授 業 科 目 名	授業科目名称が記載されています。
担 当 教 員	科目の担当教員名が記載されています。
レベルナンバー	基礎・発展の度合いを示す指標です。 数値が低いほど基礎的な内容に、高いほど発展的な内容になっています。
単 位 数	単位数が記載されています。
授 業 方 法	科目の授業方法が記載されています。 ◆通信授業：教材（教科書、PDF教材）とデジタル教材を併用した授業 ◆メディア授業：主にデジタル教材を中心に教材（教科書、PDF教材）を併用して期間内に学習を進める授業 ◆スクーリング：各会場（キャンパス等）の教室で受講する授業
デジタル教材活用度	★が多いほどデジタル教材が充実、活用されています。 ★★★ デジタル教材を中心に学習を進めます。 ★★☆ デジタル教材と教科書を併用して学習を進めます。 ★☆☆ 教科書を使用して学習を進め、与えられた課題に取り組みます。 ☆☆☆ スクーリング
単 位 修 得 試 験 受 験 資 格	単位修得試験を受験するための資格を記載しています。 ◆通信授業：全ての教材（課題）が「済」になることが必要です。 ◆メディア授業：受講クール内に全ての教材（課題）が「済」になることが必要です。 ◆スクーリング：出席状況、平常点、課題提出等が指定されています。
単 位 修 得 試 験 実 施 方 法	単位修得試験の実施方法を記載しています。 ◆通信授業 Web 試験：el-Campus で実施する試験 レポート：作成したレポートを定められた期間に el-Campus で提出する試験 ◆メディア授業 Web 試験：el-Campus で実施する試験 レポート：作成したレポートを定められた期間に el-Campus で提出する試験 ◆スクーリング(詳細は授業中に教員が指示します。) 現地試験：スクーリング最終日に受験する筆記試験等 現地試験（レポート）：スクーリング最終日に受験する課題試験 現地試験（課題）：スクーリング最終日に受験する課題試験 レポート：作成したレポートを教員が指示した期日までに el-Campus で提出する試験 注) 上記の他に、提出課題、平常点を重視する科目もあります。
試 験 会 場	スクーリングにて現地試験が行われる会場名（キャンパス等）が記載されています。
学 習 目 標	学習目標が記載されています。
学 習 の 進 め 方	効果、効率のよい授業学習の進め方が記載されています。
授 業 時 間 外 学 習	授業時間以外の予習、復習に必要な学修活動が記載されています。
学 習 内 容	各回ごとの学習内容がタイトルと概要に分けて記載されています。

シラバス項目凡例 (2017年度) 大手前大学 現代社会学部現代社会学科通信教育課程

課 題	各回に指定された課題が記載されています。課題には、確認テスト、小テスト、レポート等があり、科目ごとに異なります。
成績評価方法	成績評価の方法および配分が記載されています。
教科書	使用する教科書の情報が記載されています。教科書を使用しない科目は「なし」と記載しています。
参考書 (任意購入)	使用する参考書名等が記載されています。
必修ソフト・ツール	受講 (試験受験時) に必要なソフトやツールが記載されています。
備 考	スクーリングの受講者上限人数 (目安) が記載されています。履修に際し、注意事項等が記載されています。

※資格について 各資格修得するために必要な科目名称等は、『2017年度 学生便覧』P.74～P.84を参照してください。

メジャー(専修)名				授業科目名	ITビジネス論			担当者	竹本 拓治
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	IT (ICT) 技術はビジネスの世界において幅広く応用されている。当授業ではその理論と具体例を知ることにより、受講者がIT (ICT) 社会で生きていくための現代の教養を身につけることが目標であり、さらに当授業で学んだ知識を土台として新たなビジネスへの萌芽の可能性を期待するものである。								
学習の進め方	本授業では、デジタル教材を主に活用して学習を進めます。一度に進めようと思わず、定期的な学習を心がけること。インターネットや新聞等を通じて、常に最新のニュースをチェックしておくこと。学習をはじめるときには必ず、各回の基礎事項を閲覧してから学習を進めてください。ITビジネス用語については、およその内容を理解しておくこと。身の回りのオールドビジネス(非IT、非ICTビジネス等)に注意を払い、ITまたはICTを活用できないか、活用した場合、どのようにビジネスが変わるかなどを考えるようにすること。また、社会の変化に敏感になり、アントレプレナーシップ(起業家精神)の心構えをもって、日常生活を過ごすこと。各回ごとに課題がありますので課題をクリアしてから次の回へ進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 予習では、IoTやICTにかかわるメディア情報に気を留め、内容を理解しておくこと。 復習では、ITビジネス用語の理解と授業内容の実生活や身の回りのビジネスへの応用を考察すること。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 企業政策におけるITとビジネスモデル				小テスト				
	企業の経営戦略としてのITの役割を中心にその理論を解説する。								
	第2回 企業における経営と組織の変遷とIT				ディスカッション、小テスト				
	高度情報社会、複雑社会における企業、および組織のあり方を説明する。								
	第3回 IT革命と企業統治				小テスト				
	ITと企業統治モデルの変化、および具体的に日本企業のIT化への対応の動向を解説する。								
	第4回 製造戦略を高度化するIT技術				小テスト				
	製造戦略確定の必要性の説明とIT活用の具体的事例について紹介する。								
	第5回 ゲームにおけるオンラインシステムの導入				ディスカッション				
	ITが、ゲームの発展と多様化に貢献した経緯と、オンラインゲームのビジネスモデルを学ぶ。								
	第6回 ゲームにおけるITの進展と現代社会				小テスト				
	オンラインゲームビジネスと現代社会の関係と、今後のゲームの可能性を解説する。								
	第7回 ITの進展と中小企業金融				小テスト				
	1990年代後半に金融業界で起こったITによる金融ビジネスモデル革命を説明する。								
第8回 医療関連業務におけるITの利用				小テスト					
ITが医療関連業務に果たす役割と可能性について説明する。									
第9回 IT化の進展と旅行ビジネスの変化				小テスト					
ITの進展が旅行業界にどのような変化をもたらしたかを説明する。									
第10回 情報システム導入による非製造業効率化の基礎条件				小テスト					
非製造業における製造業をモデルとした情報システム導入による効率化の基礎条件を説明する。									
第11回 メディアミックスによるリテラシー変容				小テスト					
知的財産や文化遺産の電子化が進んだ現代社会の状況について説明する。									
第12回 企業情報システムの統合化モデルの考察				小テスト					
統合化モデルの方向性と、その要件としてのサービス指向の情報化について説明する。									
第13回 IT化によるISO9001品質マネジメントシステムへの展開				小テスト					
文書、記録・データ管理におけるIT化によるマネジメントの特性を説明する。									
第14回 中小企業におけるIT投資の効果分析				小テスト					
IT活用を業務の効率化に留まらず、事業拡大へどうつなげるかを説明する。									
第15回 ベンチャービジネスにおけるIT活用と社会貢献				小テスト					
IT活用の企業経営を分類・説明し、ITを活用したベンチャービジネスの事例を紹介する。									
成績評価方法	平常点(ディスカッションでの積極発言、小テスト)50%、単位修得試験50%								
教科書	なし								
参考書(任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	NPO概論			担当者	前田 佐保
レベルナンバ	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<p>レスター・サラモンが「世界的非営利革命」と呼び、成長を続けるNPO。深化する地域および地球的規模の課題や、多様化する人々の価値観やニーズに効果的かつ効率的に対応できる、新たな「公共の担い手」として注目され、わが国でも1990年代以降、急速に台頭してきた。1995年の阪神・淡路大震災を契機としたボランティアやNPOへの関心の高まりは、1998年の特定非営利活動促進法制定へと結実、着実に発展を遂げている。一方、新公益法人制度が2008年12月に施行され、NPOセクターは新たな段階へ突入した。本授業では、最新の動向にも触れながら、NPOとは何か、ダイナミックに動いているNPOの世界を多角的に理解することをめざす。</p>								
学習の進め方	<p>本授業では、教科書を主教材として学習を進めます。学習を始める時にはオンデマンド教材で各回の学習概要を確認してから進めてください。また、参考資料・文献なども参照してください。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。前半と後半に2回ディスカッションを設けていますので、積極的に参加して議論を深めましょう。</p>								
授業時間外学習	<p>・スライドのみの学習ではなく、必ず教科書をきちんと理解し、必要に応じて参考図書にもあたりながら理解を確実にしてください。</p>								
学習内容	概要				課題				
	第1回 NPOとは何か				小テスト ディスカッション				
	NPOの定義や概念、特徴、NPO法人や公益法人などさまざまな非営利組織の法人制度を理解する。「NPO」という考え方に触れ、実は身近な存在であるNPOを“発見”し、NPOの輪郭を掴むことをめざす。								
	第2回 NPOセクターの歴史、背景				小テスト				
	NPOのルーツ、市民活動の変遷・発展の歴史を辿り、NPOセクターがなぜ台頭してきたのかを理解する。								
	第3回 NPOセクターの現状				小テスト				
	国際比較も踏まえ、世界および日本の社会におけるNPOセクターの位置づけを学び、NPO独自の存在意義・役割、課題や可能性について理解を深める。								
	第4回 NPOの活動				小テスト				
	福祉、青少年、環境、まちづくり、国際交流・協力など多岐にわたるNPOの活動を知る。セクターの発展に重要な役割を果たす中間支援組織についても取り上げる。社会変革の触媒としてのNPOの特徴を理解する。								
	第5回 NPOの組織、マネジメント				小テスト ディスカッション				
人・物・金などの経営資源を有効に活かしてミッションを達成するためには組織のマネジメントが重要である。固有の組織形態や意思決定構造などを踏まえた上で、NPOのマネジメントについて考える。NPOでのキャリア、ボランティア、資金調達、NPO支援制度・施策についても触れる。									
第6回 協働・連携				小テスト					
社会課題の解決に多セクターの連携は不可欠であり、従来その橋渡しを担ってきたのがNPOであるが、近年はCSRや協働の機運の高まりで企業や行政もNPOとの連携を模索してきている。その現状や課題について考察する。									
第7回 社会的企業/社会起業家の台頭				小テスト					
社会イノベーションの担い手として世界的に注目が集まる社会的企業/社会起業家の最新動向（ソーシャルファイナンス含む）について触れる。特にその台頭の背景とNPOの関係性について概観する。									
第8回 基盤整備の新しい動きとNPOの未来				小テスト					
発展に向けてNPOセクター内外でさまざまな基盤整備が進められている。世紀の改革といわれる新公益法人制度の概要や寄付税制、会計基準策定や評価など信頼性向上・アカウンタビリティへのNPO側の自主的な動きにも触れながら、NPOセクターの今後を展望する。									
成績評価方法	小テスト（30%）、ディスカッション（30%）、単位修得試験（40%）により総合評価する。								
教科書	<p>著書 『テキストブックNPO～非営利組織の制度・活動・マネジメント』 著者 雨森孝悦 出版社 東洋経済新報社 出版年度 2010年2月18日 ISBN 9784492100196</p>								
参考書 (任意購入)	<p>『NPOマネジメントハンドブック』、柏木宏著、明石書店、2,310円（税込）、2004年 『NPOジャーナル』vol.1～24、関西国際交流団体協議会編、明石書店、700円（税込）、2003～2009年 『ソーシャル・エンタープライズ』、谷本寛治編著、中央経済社、2,940円（税込）、2006年 『台頭する非営利セクター』、レスター・M・サラモン/H・K・アンハイアー著、ダイヤモンド社、2,446円（税込）、1996年 『NPOデータブック』、山内直人編、有斐閣、3,150円（税込）、1999年 『NPO入門<第2版>』、山内直人著、日本経済新聞出版社、872円（税込）、2004年</p>								
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	アカデミック・ライティング			担当者	杉田 米行
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	-
学習目標	この授業の内容を習得すれば、レポートの書き方がわかるようになる。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。第1、2、4、7回では、ワークシートを使った演習を行います。								
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 レポートは難しくないと考え、楽しみながら最後までやると決意して下さい。 el-Campus、その他の学習内「レポートの書き方」を読んでおいて下さい。 【学習後に復習として実施すべきこと】 習ったことをしっかりと身につけましょう。ワークシートは何度も復習しましょう。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 アカデミック・ライティングとは？				レポート(ワーク・課題シート提出)				
	アカデミック・ライティングの特徴を学ぶ。								
	第2回 最小単位である「文章」の上手な書き方				レポート(ワーク・課題シート提出)				
	適切な文章の書き方を学ぶ。								
	第3回 パラグラフ・ライティングI				レポート(課題シート提出)				
	適切なパラグラフの書き方を学ぶ(その1)。								
	第4回 パラグラフ・ライティング				レポート(ワーク・課題シート提出)				
	適切なパラグラフの書き方を学ぶ(その2)。								
	第5回 パラグラフからパラグラフへ				レポート(課題シート提出)				
パラグラフとパラグラフの関係を学ぶ。									
第6回 レポートの構成				レポート(課題シート提出)					
レポートの構成を理解する。									
第7回 序論超カンタン基本テンプレートと結論超カンタン基本テンプレート				レポート(ワーク・課題シート提出) 、レポート					
序論超カンタン基本テンプレートと結論超カンタン基本テンプレートを理解する。									
第8回 アカデミック・ライティングのまとめ				レポート(課題シート提出)					
総復習をして理解を深める。									
成績評価方法	提出された課題と試験の成績 【A評価】すべての面にわたって極めて良好な理解をしている。 材料さえあれば、独力でレポートを書くことができる能力がある。 【B評価】すべての面にわたって良好な理解をしている。 材料さえあれば、参考書等をみたりしながらも、独力でレポートを書くことができる能力がある。 【C評価】弱い部分もあるが、参考書やまわりの人と相談しながら前向きにアカデミック・ライティングの力を付けようと努力している。 参考書のみだけでなく、教員や友人などまわりの人と相談することができれば、レポートを書きあげることができる能力がある。 【D評価】前向きに努力をしており、今後経験を積むことによって、レポートを形式面で向上させることができる潜在能力がある。 アカデミック・ライティングを身につけたいという不断の努力をし、失敗をしても、何度も挑戦していく能力がある。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)									
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word								
備考	【履修の前提とするもの】 特になし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 特になし								

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	医学一般			担当者	堀川 諭
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	医学の進歩によって人間の寿命は大幅に伸びました。その一方、困難な課題も次々と登場しています。たとえば、プリオンのような新たな感染症の出現、再生医療、臓器移植といった新たな問題です。この授業では、広く医学の基本的知識を学ぶとともに、現代医学が抱えるさまざまな問題についても理解を深めたいと思います。							
学習の進め方	教科書を主教材として学習を進めます。各章のレポートを提出し、単位修得試験のレポートに取り組んでください。							
授業時間外学習	・関連したサイトの閲覧を奨めます。							
学習内容	概要						課題	
	第1章 人の成長・発達と老化						レポート	
	身体の成長・発達、精神の成長・発達、老化							
	第2章 身体構造と心身の機能						レポート	
	身体部位の名称、各器官の構造と機能							
	第3章 疾病の概要						レポート	
	生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患、高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患と膠原病、腎臓疾患、泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症、神経疾患と難病、先天性疾患							
	第4章 障害の概要						レポート	
	視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、発達障害、認知症、高次脳機能障害、精神障害							
	第5章 リハビリテーションの概要						レポート	
リハビリテーションとは、リハビリテーションにおける障害評価、リハビリテーションの諸段階、リハビリテーションにかかわる専門職、リハビリテーションの四つの側面								
第6章 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要						レポート		
国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）への変遷、心身機能と身体構造・活動・参加の概念、背景因子、健康状態と生活機能低下の概念								
第7章 健康のとらえ方						レポート		
健康の概念とプライマリヘルスケア、日本人の人口統計、人口の高齢化と家族、国民健康づくり対策、感染症対策、産業保健、歯科保健								
成績評価方法	各章のレポート（50％）、単位修得試験のレポート（50％）							
教科書	著書 『新・社会福祉士養成講座 第1巻「人体の構造と機能及び疾病 医学一般」』 著者 社会福祉士養成講座編集委員会 出版社 中央法規 出版年度 2015年 ISBN 9784805851005							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト ・ツール								
備考	el-Campusにて専用のレポート様式をダウンロードして使用してください。 この科目は、大学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。							

メジャー(専修)名				授業科目名	イギリスの文化と歴史			担当者	太田 素子
レベルナンバ	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web試験			単位修得試験 試験会場	—
学習目標	イギリスの文化と歴史について学ぶ。まず出来るだけ簡潔にイギリスの歴史を概観する。その上で、イギリスの食と文化、イギリスの物語を取り上げて、最近の新しい研究領域の視点から、イギリス文化を理解できるようにする。								
学習の進め方	この授業では、教科書を主教材として学習を進めます。特に第1回～第4回の歴史の授業では前もって教科書をよんでおいてください。各回の学習の最後には、課題があります。								
授業時間外学 習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を前もって読んでおくこと。 ・毎回、授業後に、その回の要点をまとめておくこと。 								
学習内容	概要							課題	
	第1回 イントロダクション・古代から中世へ							確認テスト	
	イギリスの正式名称と国旗、立憲君主国イギリス、先史時代～中世のイギリス								
	第2回 絶対王政の時代：ヘンリー8世とエリザベス1世							確認テスト	
	絶対王政、ヘンリー8世と6人の王妃、イングランド国教会、エリザベス1世								
	第3回 イギリス革命							確認テスト	
	イギリス革命、市民革命と議会制民主主義、ピューリタン								
	第4回 大英帝国の繁栄・20世紀イギリス							確認テスト	
産業革命、大英帝国の繁栄、ヴィクトリア女王、万国博覧会とクリスタルパレス、20世紀のイギリス									
第5回 イギリスの食と文化							確認テスト		
飽食の現代、嗜好品の時代、イギリス人は紅茶好き・紅茶と砂糖の文化史、イギリス料理はまずい？									
第6回 イギリスの物語							確認テスト		
物語とは、シェイクスピア、シャーロック・ホームズ、不思議の国のアリス、ロード・オブ・ザ・リング、ハリー・ポッター									
成績評価方法	毎回の確認テスト (35%) 単位修得試験 (65%)								
教科書	著書 『コンプトン英国史・英文学史』 著者 加藤憲市・加藤治訳 出版社 大修館書店 出版年度 2008年4月20日 ISBN 9784469243765								
参考書 (任意購入)	『図説 イギリスの歴史』、指昭博、河出書房新社、1,800円(税込)、2002年								
必須ソフト ・ツール									
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	異文化コミュニケーション			担当者	神谷 善美
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	外国文化だけでなく、日本文化内のサブカルチャーも含めて、異なった「文化」間のコミュニケーションの考え方や技術を学びます。この講義終了後に、コミュニケーション能力の上達を実感できるような「学びの場」にしたいと思います。								
学習の進め方	本授業は、教科書（兼ワークブック）を主に活用して学習を進めます。学習を進めるうえで重要なポイントや補足説明をデジタル教材に掲載しますので活用してください。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・受講は、各自で定期的に学習するスタイルを身につけること。 ・学習は、第1章から順に進め、課題レポートを納得できるまで取り組むこと。 ・教科書の各章のセルフチェックとステップアップエクササイズに集中して取り組むこと。 ・メモなどノートを取りながら受講することを推奨。 								
学習内容	概要								課題
	第1回 「新しい常識発見」「ステレオタイプ」「異文化への態度」								レポート
	自文化の発見、偏見を生み出すシステム								
	第2回 「文化とコミュニケーション」								レポート
	異文化コミュニケーションが対象とする文化								
	第3回 「コミュニケーションスタイル」								レポート
	コンテキスト、自己開示								
	第4回 「言語コミュニケーション」								レポート
	言葉の可能性と限界								
	第5回 「非言語コミュニケーション」								レポート
コミュニケーションの広がり									
第6回 「価値観」								レポート	
常識、価値観、文化									
第7回 「自分を知る」								レポート	
意見の対立と解決									
第8回 「異文化コミュニケーションスキル」								ディスカッション	
コミュニケーションの実践的技術									
成績評価方法	各回の課題（40%）、単位修得試験の結果（60%）により総合評価する。								
教科書	著書 『異文化コミュニケーションワークブック』 著者 八代京子、荒木晶子、樋口容視子、山本志都、コミサロフ喜美 出版社 三修社 出版年度 2011年 3月20日 ISBN 9784384018516								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	異文化コミュニケーション演習			担当者	安藤 幸一
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全授業への出席 課題等、教員への指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス) 東京会場
学習目標	外国文化だけでなく、日本文化の中にも存在する、異なった文化間のコミュニケーション技術を学びます。アクティビティやグループ活動、ディスカッションを多用し、頭だけでなく心と身体で学ぶことを目的とします。								
学習の進め方	初日の1時限に「アイスブレイキング」として、講師そして受講者が互いに知り合い、リラックスした環境で講義が進むようにアクティビティを準備しています。2時限以降は、各回のテーマに関する簡単な講義を行い、グループ討論、ゲーム、アクティビティ及び映像教材を使い、その内容を全身で理解できるような授業展開を予定しています。受講者一人一人の積極的、主体的な参加を期待します。								
授業時間外学習	初日終了後に2日目授業に向けた課題を提示します。2日目終了後に単位習得試験(レポート)を提示します。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 アイスブレイク・互いを知る								
	互いを知ること、「人間関係」を、アクティビティを通じて実感する。								
	第2回 文化とは何か								
	映像教材を使って「常識」と「自文化」について学び、異文化を鏡とする「自分自身の発見」について考える。								
	第3回 コミュニケーションとは何か								
	コミュニケーションの様々な形について学び、アクティビティを通じて対話の基礎を学ぶ。								
	第4回 言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション・母語・外国語								
	非言語による意思疎通、母語の重要性、及び「共通語としての」英語習得法について学ぶ。 【演習2日目に向けた課題の提示】								
	第5回 ステレオタイプと偏見								
異文化コミュニケーションを阻害する要因である「偏見」について映像教材を使って学び、グループディスカッションを行う。									
第6回 意見の対立と合意の形成									
アクティビティを使って、異なった意見の対立とことに異文化間の問題解決の方法について学ぶ。									
第7回 文化比較の意味									
日本と西欧を対照的に比較し、グループごとにその違いを数分で表現できるようなスキット(寸劇)を作り、演じ、相互評価を行う。									
第8回 異文化コミュニケーションの方法									
2日間の演習の総まとめを通して、授業終了後に戻っていくそれぞれの「日常世界」における「異文化コミュニケーション」の実践を考える。 【単位修得試験レポート提示・説明】									
成績評価方法	<p>評価対象活動 アクティビティ、グループ活動、ディスカッション、単位修得試験(レポート試験)</p> <p>ABCD評価基準</p> <p>【A評価】 ・異文化コミュニケーションの内実について、論理的理解、行動力、自分自身の意見の論拠・明快さの3つのいずれについても、本演習の中で大きな進歩があった。</p> <p>【B評価】 ・異文化コミュニケーションの内実について、論理的理解、行動力、自分自身の意見の論拠・明快さの3つの内少なくとも2つの評価基準において、本演習の中で大きな進歩があった。</p> <p>【C評価】 ・異文化コミュニケーションの内実について、論理的理解、行動力、自分自身の意見の論拠・明快さの3つの内少なくとも2つの評価基準において、本演習の中で一定の進歩があった。</p> <p>【D評価】 ・異文化コミュニケーションの内実について、論理的理解、行動力、自分自身の意見の論拠・明快さの1つの評価基準において、本演習の中で一定の進歩があった。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	「異文化コミュニケーション ワークブック」、八代京子・荒木晶子・樋口容視子著、三修社、2001年								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	【受講者上限人数】 東京会場：30名 夙川会場：50名								

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	医療人類学入門			担当者	野波 侑里
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<p>・医療人類学的研究を通して、健康・病気・医療について社会・文化との関係を学ぶことにより、健康・病気・医療に関する自らの考えをふりかえり、多様な観点から現状を理解し、比較し、分析して自らの意見を述べるができるようになる。また主体的に医療を選択できるようになる。</p> <p>・異なる社会、文化における医療、病気、健康に関する考え方を学ぶことを通して、グローバル社会における異文化理解を深め、他の社会文化の価値観を理解し、尊重できるようにする。</p>								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 本授業では、ノートを一冊「アイデアノート」として使用しますので準備してください。詳細はオリエンテーションで説明します。ノートの代わりにワークシートも配布資料として準備していますので、利用することも可能です。</p> <p>各回の開始前に、回のポイントとなる事項について、既存の知識や考えを記入します。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 各回の最後に、学んだこと、考えたことを「アイデアノート」に記入します。「アイデアノート」は、単位修得試験の参考にすることができます。</p>								
学習内容	概要				課題				
	第1回 医療人類学とは				確認テスト				
	人類学、医療人類学という学問分野の誕生とその背景、研究分野と具体的研究例を学ぶ。								
	第2回 医療的多元論				確認テスト、ディスカッション				
	医学と医療の違い、医療的多元論について概説する。								
	第3回 ヘルスケアシステム				確認テスト				
	医療人類学における疾病/病い/病気、治療と癒しの違い、ヘルスケアシステムについて概説する。								
	第4回 病いの語り				レポート				
	病いにおける病者とその家族の語りの特徴とその意味について概説する。								
	第5回 医療化				ディスカッション				
	医療化について、様々な具体例をもとに学ぶ。								
第6回 病人と社会				確認テスト					
病いになった時の社会と個人の関係について、特に生物医学の医療現場における医師と病人の関係について学ぶ。									
第7回 心と身体と文化・社会				確認テスト					
心と身体が文化と社会とどのように関係しているかについて様々な観点から学ぶ。									
第8回 近年の日本における医療人類学的研究				レポート					
近年の日本の医療人類学研究から、文化人類学・医療人類学的研究について学ぶ。									
成績評価方法	<p>確認テスト、レポート課題、ディスカッションの内容（質問やコメント含む）、単位修得試験</p> <p>【A評価】各回の確認テストにおいて満点に近い成績をおさめている。 ディスカッションにおいて、内容に適した自己の意見を述べるとともに、他者が学習内容をより深く理解するための手助けや支援を行えている。 レポート課題において、独自の論理的な説明と共に自らの意見を述べるができる。 単位修得試験では、本授業で学習した以上の成果をもって独自の論理的な説明と共に自らの意見を述べるができる。 病気・医療・健康に関する解決が必要な課題に直面した時に、自ら調査し、医療人類学的観点など文化社会的背景を含めた状況を理解し、多様な方向から分析し、独自の論理的な解決法を見つけて意見を述べるができる。</p> <p>【B評価】確認テストにおいてほぼ満点に近い成績をおさめている。 ディスカッションにおいて、適切な受け答えが行われており、他者に何らかの影響を与えられている。 レポート課題において、論理的な説明と共に自らの意見を述べるができる。 単位修得試験では、学習内容をもとに、論理的な説明と共に自らの意見を述べるができる。 病気・医療・健康に関する解決が必要な課題に直面した時に、自ら調査し、医療人類学的観点など文化社会的背景を含めた状況を理解し、多様な方向から分析し、論理的な解決法を見つけて意見を述べることができる。</p> <p>【C評価】確認テストにおいて、所定の条件を充足している。 ディスカッションにおいて、双方向に何らかの話題が通じ合っている。 レポート課題において、自らの意見を述べるができる。 単位修得試験では、学習内容をもとに、自らの意見を述べるができる。 病気・医療・健康に関する解決が必要な課題に直面した時に、自ら調査し、医療人類学的観点など文化社会的背景を含めた状況を理解し、分析し、ある程度納得できる解決法を見つけて意見を述べることができる。</p> <p>【D評価】確認テスト、ディスカッション、レポート課題、単位修得試験において、所定の条件を充足している。 全ての課題を通して、学習内容を理解していることを示している。 病気・医療・健康に関する解決が必要な課題に直面した時に、医療人類学的観点など文化社会的背景を含めた状況を理解し、解決法を見つけることができる。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	各回の授業でお知らせします。								
必須ソフト・ツール									
備考	<p>【履修の前提とするもの】 特になし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 特になし</p>								

メジャー(専修)名				授業科目名	インターネット活用			担当者	中崎 修一
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	ー
学習目標	インターネットの歴史やしくみを理解する。 インターネットにおけるサービス提供に関するシステム構成を理解する。 インターネットに関する最新技術を知る。								
学習の進め方	教科書と資料を中心に学習し、毎回確認テストを行い、80%以上の正解を目指す。 単位修得試験はレポート課題の提出とする。								
授業時間外学習	・日頃からインターネット関連のニュースを意識し、授業内容で不明な単語等は調べること。								
学習内容	概要								課題
	第1回 インターネット概説								確認テスト
	インターネット概説								
	第2回 インターネットの歴史と今後								確認テスト
	インターネットの歴史・管理運営・今後								
	第3回 インターネットを支える技術								確認テスト
	プロトコル(通信規約)、IPアドレス、ドメイン名、DNS								
	第4回 World Wide Web								確認テスト
	Webの概要・基礎技術・しくみ								
	第5回 SSL/TLS								確認テスト
	セキュリティ技術概要、暗号化、SSL/TLS								
	第6回 HTML, CSS								確認テスト
	HTML, CSS								
	第7回 Webプログラミング								確認テスト
サーバサイドプログラミング、JavaScript									
第8回 データベース								確認テスト	
データモデル、データベース、SQL、XMLデータベース									
第9回 Webアプリケーション								確認テスト	
スクリプト言語、Webアプリケーション									
第10回 Webシステム構成								確認テスト	
Webサーバ構成、HTTP応答、大規模Webシステム									
第11回 ネットワークのセキュリティと心得								確認テスト	
ネットワーク利用における心得、セキュリティ									
第12回 インターネットとオープンソースソフトウェア								確認テスト	
オープンソースソフトウェア									
第13回 ウェブの時代からクラウドの時代へ								確認テスト	
利用形態の変化、Web2.0									
第14回 まとめ								確認テスト	
インターネットの現状と今後									
成績評価方法	各回の確認テスト(50%)、単位修得試験(50%)								
教科書	著書 『インターネットとWeb技術』 著者 松尾啓志 出版社 オーム社 出版年度 2009年3月15日 1版 ISBN 9784274206771								
参考書(任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	宇宙科学			担当者	山田 義弘
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	教科書とデジタル教材から「宇宙科学」全般を学ぶことにより、宇宙の過去・現在・未来を理解する。								
学習の進め方	教科書とデジタル教材を活用します。「太陽系」、「恒星」、「銀河」、「宇宙論」、「宇宙開発」を学習しますが、天体の概説、宇宙論の基礎、宇宙開発の諸分野で、理解の難しい現象や概念は、デジタル教材で数式を使わないで説明しますので、容易に理解できると思われま。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・四季折々の星や天文現象に興味を持っておくこと。 ・興味を持って分野や現象をさらに深く探ってみること。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 オリエンテーション				ディスカッション				
	「宇宙科学」の概要説明 各自が掲示板に感想を掲載する								
	第2回 太陽系				確認テスト				
	★約46億年前、太陽を中心とする太陽系ができた。太陽系には8個の惑星(水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星)が太陽の周りを回り、160個以上の衛星が惑星の周りを回っていることを理解する。 ★小惑星は火星軌道と木星軌道の間の小惑星帯に集中している。軌道が確定した小惑星の数は、約50万個(2016年12月現在)ある。また“ほうき星”とも呼ばれる彗星も小惑星と同様に太陽系の一員であることを理解する。								
	第3回 恒星				確認テスト				
	★1年間の星の動きを追うと見える星の位置は変わる。地球が太陽の周りを公転しているからだ。太陽が天球上を通る道を黄道と呼ぶ。星がいずれも使われる“黄道12星座”とか全天に88星座があることなどを理解する。 ★人に誕生と死があるように、夜空に輝く恒星にも誕生と死がある。太陽の誕生も別の恒星の死がきっかけだった。星々の生と死は連続とつながっている。恒星の一生とは、いったいどのようなものかを理解する。								
第4回 銀河				レポート					
★私たちがいる銀河を「銀河系」と呼ぶ。銀河系は直径10万光年(1光年は光が1年間に進む距離)、数本の腕をもつ渦巻状の銀河だと考えられている。その中で私たちの太陽系はどのような位置にあるのかを理解する。 ★現在、最も遠くの銀河をとらえたのは、日本の「すばる望遠鏡」(国立天文台ハワイ観測所の口径8.2m反射望遠鏡)だ。2003年3月、約128億年前の銀河をとらえることに成功した。遠い銀河について理解する。									
第5回 宇宙論				レポート					
★宇宙が膨張していることを発見したのは、エドウィン・ハッブル。それまで宇宙は大きさの変化しない定常宇宙という考え方が主流だった。ハッブルによって、宇宙は膨張し進化することが明らかになったことを理解する。 ★宇宙の終わりはいったいどうなるのだろうか。50億年後には、太陽の膨張によって地球は太陽に飲み込まれる。宇宙はお構いなく膨張を続ける。現在の宇宙は加速膨張しているときえいわれていることを理解する。									
第6回 宇宙開発				レポート					
★宇宙に思いを馳せ、その謎を一步一步解き明かしてきた無数の科学者がいるのと同じように、宇宙へ行きたいという夢が人を突き動かす、その夢と技術がリレーされて宇宙開発が進められてきたことを理解する。 ★日本の宇宙開発は、全長23cmの「ペンシルロケット」から始まった。いま日本の宇宙開発は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)が担い、世界でもトップクラスの宇宙開発と宇宙探査を目指していることを把握する。									
成績評価方法	確認テスト(50%)、単位修得試験(50%)より総合評価する。								
教科書	著書 『宇宙のしくみ』 著者 渡部潤一(監修)、坂元志歩(執筆・編集) 出版社 新星出版社 出版年度 2010年6月15日 ISBN 9784405106512								
参考書(任意購入)	『宇宙のふしぎ』、渡部潤一著、ソフトバンククリエイティブ、1,000円(税込)、2009年 『宇宙の物語』、藤井旭著、PHP研究所、2,625円(税込)、2009年 『宇宙論の飽くなき野望』、佐藤勝彦著、技術評論社、1,659円(税込)、2008年								
必須ソフト・ツール									
備考	天文台の大型望遠鏡で月面、惑星、星雲・星団を見たい人が多ければ、兵庫県内の天文施設で1泊2日の観測体験ツアー(実費)を実施したい。								

メジャー(専修)名				授業科目名	英語A (実用文法)			担当者	石谷 春奈
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	実社会で英文を作成するために、多様な場面での確かな英語を運用する力を身につけることを目標とする。「依頼・勧誘の方」など発想別に組み立てられた教科書を使用して、それぞれの目的に相応しい英文法を使い分ける学習をする。								
学習の進め方	この授業は、主に教科書を学習して進めます。各章の解説をよく読んで理解してから、例文を一つずつ丁寧に読んでください。わからない単語や文句は必ず辞書で調べ、すべての例文を和訳してみましょう。解説は、運用方法を中心に書かれていますので、基本的な文法については別に文法書を一冊手元に置いておくことをおすすめします。一通り理解できたら教科書の「EXERCISES」をし、オンデマンド教材で答えを確認して下さい。各章の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の章に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・英語力に応じた文法書を用意して自己学習すること。 ・ノートを取りながら学習を進めること。 								
学習内容	概要				課題				
	第1章 現在の表し方				小テスト				
	現在のことを表す文法形式として、単純現在時制、現在進行形、現在完了形、現在完了進行形を学習する。								
	第2章 過去の表し方				小テスト				
	過去のことを表す文法形式として、単純過去時制、過去進行形、過去完了形、過去完了進行形を学習する。								
	第3章 未来の表し方				小テスト				
	主語の意思や話し手の意図と関係のない未来の出来事や状態を表す文法形式を学習する。								
	第4章 仮定の表し方				小テスト				
	仮定・条件を表すには、話し手の取る態度によって開放条件と却下条件の二つがあり、文法形式として仮定法過去と仮定法過去完了を学習する。								
	第5章 使役の表し方				小テスト				
	使役とは、誰かに何かをさせることである。使役を表すさまざまな動詞を学習する。								
	第6章 命令の表し方				小テスト				
	命令とは、誰かに何かを言いつけることである。直接命令のほかに、間接命令、助動詞を使った命令を学習する。								
	第7章 許可の表し方				小テスト				
	相手の願っていることを許す場合、相手に許しを請う場合の2つの許可の表現を学習する。								
	第8章 依頼・勧誘の表し方				小テスト				
依頼・勧誘とは話し手が利益を受けるために、人に何かを頼んだり誘ったりすることである。助動詞、法、テンス、相などを利用して、相手の意思や能力を尋ねる表現を学習する。									
第9章 提案の表し方				小テスト					
提案とは、こうしたらどうかと自分の意見や考えを提起することである。話し手（自分）を含む表現、含めない表現を学習する。									
第10章 意図・決意の表し方				小テスト					
助動詞や動詞を使って、意図や決意を表す学習をする。									
第11章 推量・可能性の表し方				小テスト					
推量・可能性は、話し手が自分の述べる事柄に関してどの程度事実であるか、あるいは可能であるか、という話し手の判断・態度を表明することである。助動詞、副詞による表現を学習する。									
第12章 原因・理由の表し方				小テスト					
原因・理由を表す文法として、接続詞、前置詞、to不定詞やthat節、副詞などを学習する。									
第13章 目的・結果の表し方				小テスト					
目的を表す文法として、to不定詞やthat節など、結果を表す文法として接続詞、副詞やso/such...that構文などを学習する。									
第14章 譲歩・様態の表し方				小テスト					
譲歩・様態を表す文法として、副詞節や群前置詞などを学習する。									
第15章 比較の表し方				小テスト					
2つの事柄を比較し特性の度合いが等しいことを示す場合はas...as、程度に差があることを示す場合は「比較級+than」、3つ以上の事柄の中で度合いの特性が最も高いことを示す場合は最上級で表すことを学習する。									

	概要	課題
学習内容	第16章 強調の表し方	小テスト
	強意語、再帰代名詞、It is...that 構文などさまざまな文法的手段によって強調する方法を学習する。	
成績評価方法	各章ごと的小テスト (60%)、単位修得試験 (40%)	
教科書	著書 『コミュニケーションのための英文法・英作文』 著者 岸野英治 出版社 英宝社 出版年度 2011年3月1日 ISBN 9784269320185	
参考書 (任意購入)		
必須ソフト・ツール		
備考	この科目は、大学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。	

メジャー(専修)名				授業科目名	英語C(文書作成)		担当者	石谷 春奈
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート		単位修得試験試験会場	-
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な段落構成や件名をつけて、自分の目的に相応しい英文メールを作成することができる。 相手との関係を考慮した英文で自分の気持ちを相手に伝えることができる。 							
学習の進め方	<p>この授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p> <p>また、オンデマンドの授業も丁寧に受講してください。</p> <p>第3、6回のレポートは提出後に添削をします。第6回は希望者のみ。単位修得試験時には添削内容をふまえ、レポートを書き直し、提出する必要があります。</p> <p>添削には時間を要するため、第3、6回のレポートの提出期限は単位修得試験レポート提出期間の【前日23:59】までとします。</p> <p>例) 単位修得試験レポート提出期間が【10(月) - 16(日)】の場合、第3、6回レポートの提出期限は【9(日) 23:59】となります。</p> <p>期限を過ぎて提出された場合は、レポート試験提出期間中の添削は保証しかねます。</p>							
授業時間外学習	辞書を活用すること。							
学習内容	概要						課題	
	第1回 Unit1 SELF-INTRODUCTION						確認テスト	
	自己紹介のE-mailが書ける。							
	第2回 Unit2 EXPRESSING THANKS						確認テスト	
	感謝を伝えるためのE-mailが書ける。							
	第3回 Unit4 CONGRATULATIONS!						確認テスト、レポート	
	お祝いの気持ちを伝えるためのE-mailが書ける。							
	第4回 Unit7 APOLOGIZING						確認テスト	
	おわびの気持ちを伝えるためのE-mailが書ける。							
	第5回 Unit9 ASKING FOR ADVICE						確認テスト	
	アドバイスを求めるためのE-mailが書ける。							
	第6回 Unit11 MAKING A SUGGESTION						確認テスト、レポート	
	提案するためのE-mailが書ける。							
第7回 Unit12 ASKING A FAVOR						確認テスト		
依頼のE-mailが書ける。								
第8回 Unit14 SENDING A GIFT						確認テスト		
お礼のE-mailが書ける。								
第9回 Unit16 A POLITE REQUEST						確認テスト		
ていねいに依頼するE-mailが書ける。								
第10回 Unit19 MAKING A COMPLAINT						確認テスト		
苦情のE-mailが書ける。								
成績評価方法	各回の課題(60%)、単位修得試験(40%)							
教科書	著書 『はじめてのEメール英作文』 著者 松居司、フィリップ・ヒンダー 出版社 南雲堂 出版年度 2011年4月11日 ISBN 9784523175049							
参考書(任意購入)								
必須ソフト・ツール								
備考								

メジャー(専修)名				授業科目名	英語D (英会話)			担当者	田中 キャサリン
レベルナンバ	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	Attend the 2/3 days of schooling 2/3以上の出席			単位修得試験実施方法	現地試験			単位修得試験試験会場	本学 (さくら夙川キャンパス)
学習目標	<p>This course is designed for learners who have a basic knowledge of English grammatical structures and expressions but did not have the chance to use them in a meaningful and communicative way. It will provide a cursory review of the four skills of listening, speaking, reading and writing through active participation in pair work, small discussion groups and short presentations. At the end of the course, learners will be able to achieve some level of confidence in using English practically.</p> <p>このクラスは、基礎的な英文法や英語表現の知識はもっているものの、英語をコミュニケーションの道具として、生き生きとした意味を表す内容をもって使うことのできなかった学習者のためにデザインされました。授業では、ペア練習、小ディスカッショングループ、簡単なプレゼンテーション等、積極的なクラス参加によって、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4要素を「復習」していきます。スクーリング終了後は、学習者が、一定のレベルの自信をもって、実践的に英語を使うことができるようになっていくことを目標とします。</p>								
学習の進め方	<p>Students will work in pairs and small groups to practice and reinforce the lessons. There will be many activities that will require students to participate fully and actively, so be ready at all times.</p> <p>ペアまたは小グループで練習を行い英語力を強化していきます。積極的な参加が求められる演習がたくさんありますので、心づもりをしてください。</p>								
授業時間外学習	<p>・英語で自己紹介ができるように準備をしておく。</p>								
学習内容	概要				課題				
	1. Introduction of the course				Write down YOUR expectations of the course				
	Going Back to Basics: The 4 Skills of Listening, Speaking, Reading and Writing: Going through the syllabus and expectations of this class. 基礎にかえる：聞く、話す、読む、書くの4つのスキル: シラバスとこの授業で期待されていることを確認する。								
	2. Getting to know each other: how do we introduce ourselves.				One-minute self introductions				
	お互いを知る：自己紹介の仕方								
	3. People.				Examining your fear of speaking English				
	英語への恐怖心を克服する：英語に対する恐怖心を克服するには何が必要か。								
	4. Work, Rest, and Play.								
	聞く、話す、読む、書くの基礎：聞いて、話して、読んで、書いてみよう。								
	5. Going Places.								
	もっと聞いて、話して、読んで、書いて練習する。クイズ。								
	6. Food.								
	Prepare for the coming of the native English friends. Who are they? 世界各国の私の友達と英語を使って練習する：ネイティブスピーカーを迎えて。誰がやってくるのでしょうか。								
	7. Sports.				Formulating questions				
	質問の仕方と答え方。								
	8. Destinations.								
ネイティブスピーカーを囲んでQ & Aセッションを実際に行う。									
9. Communication.									
上手なコミュニケーションのためのジェスチャーとマナー									
10. Moving Forward.									
コミュニケーションの壁を打ち破る。クイズ									
11. Types of Clothing.									
ロールプレイなどを使い、それまでに学習した内容を復習する。									
12. Lifestyles									
旅に出よう！									
13. Achievements.									
お気に入りの店で買い物をする。									
14. Consequences.									
電話でレストランの予約をする。									
15. Feedback from students and final test.									
授業の感想と最終テスト									
成績評価方法	<p>A test will be given just before the end of each day to assess if students are learning the materials. Participation is more than 50 percent of the grade. Students must participate in this class. 各日の最後にその日学習したことの確認テストを行います。授業への参加が評価の50%以上を占めますので、積極的に参加することが求められます。 Quizzes/クイズ 20%, tests/テスト 30%, and participation and attendance/授業参加態度と出席 50%</p>								
教科書	<p>著書 『World English Level 1 Student Book with Online Workbook』 Second Edition 著者 Kristin L. Johannsen, Martin Milner, and Rebecca Tarver Chase 出版社 CENGAGE Learning ISBN 9781305089549</p>								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考	受講者上限数 演習40名								

メジャー(専修)名				授業科目名	英語表現Ⅰ (基礎)			担当者	堂村 由香里
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	あらゆる分野の人にとって必要とされる英語の基礎力を身につけることを目標とします。(1)現在、過去、未来、そして進行中の出来事の表現 (2)疑問文の作り方 (3)受動態、不定詞、動名詞の用法 (4)比較級 (5)分詞、接続詞の働き などについて学びます。								
学習の進め方	この授業では、教科書を主教材として学習を進めます。英和辞書(紙ベースでも電子辞書でも可)、あるいは英英辞書を準備の上、わからない単語や文法事項は丁寧に辞書をひき、単語の意味だけでなく用例や語法も含め、辞書を「読む」という姿勢で、学習に臨んでください。教科書に掲載している問題はオンデマンド教材で答え合わせを行います。各Unitの学習の最後には確認テストがありますので、確認テストを終わらせ、次のUnitに進みましょう。学習を済ませた教材の音声に合わせて発話練習(シャドーイング)を行い、英文を定着させましょう。(教科書付属のCD-ROMはこの科目では使いません。練習問題が入っていますので、発展学習を希望する方はご参照ください。)								
授業時間外学習	英語雑誌や英字新聞を読んだり、インターネット上の英語サイトを見て生の英語に触れること。								
学習内容	概要				課題				
	Unit1 I Love Music !				確認テスト				
	現在形、現在進行形；友人とのあいさつ→自己紹介をする								
	Unit2 Cherry Blossoms are Special.				確認テスト				
	過去形、過去進行形；お花見に行く→文化を紹介する								
	Unit3 Life in Japan				確認テスト				
	未来表現；学校生活について→予定を語る								
	Unit4 Shopping for Beautiful Eyes				確認テスト				
	助動詞(1)；薬局での買い物→商品をたずねる								
	Unit5 I Love Sports !				確認テスト				
	疑問文(1)what, who；スポーツのたのしみ→意見を言う								
	Unit6 A Part-time Job				確認テスト				
	疑問文(2)when, where, why, how；アルバイト探し→条件をたずねる								
	Unit7 Love and Peace				確認テスト				
	受動態；音楽のメッセージ→夢を語る								
	Unit8 "Cosplay" is Cool !				確認テスト				
	不定詞；コスプレコンテスト→推量する								
	Unit9 Africa or Italy ?				確認テスト				
	動名詞；海外旅行の行き先→興味を語る								
	Unit10 No Smoking, Please.				確認テスト				
	分詞；タバコのマナー→忠告する								
	Unit11 Let's Go to a Movie !				確認テスト				
	助動詞(2)；映画のストーリー→病状を説明する								
	Unit12 Which Class is Better ?				確認テスト				
	原級・比較級比較；クラス登録のアドバイス→比較する								
	Unit13 The Best Concert				確認テスト				
	最上級比較；デートの誘い→友人を誘う								
	Unit14 To Chicago, Please.				確認テスト				
接続詞；ネットでチケット手配→手順を説明する									
成績評価方法	確認テスト (40%)、単位修得試験 (60%)								
教科書	著書 『English Quest Intro』 著者 酒井志延・清田洋一・大崎さつき・田辺 章・箕輪美里・Michael Farquharson 出版社 ヒアソン桐原 出版年度 2011年8月20日 初版 ISBN 9784342547409								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	英語表現Ⅱ (応用)			担当者	西村 道信
レベルナンバ	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語表現上の違いが理解できる。 日常的な会話表現から文章表現まで学習し、比較することにより、その違いを説明できる。 ネイティブの話し方や速度に慣れ、正確に聞き取ることができ、コミュニケーションができる。 								
学習の進め方	<p>この授業では、配布された教科書を読み、各自で学習していただきます。学習の進め方は、教科書の指示通りに学習して下さい。先ず予備学習から始めます。次に付属のDVDを観てNEWS STORYを聞き取り、空白を埋めます。その後で、内容理解の問題を解いて下さい。ただし、NEWS STORYの空白部分は聞き取りが難しいものもありますので、答えをオンデマンド教材で確認できるようにしてあります。学習に活用して下さい。教科書はUnit 1からUnit 15まであり、各Unitが終わる毎に確認テストがあります。そして確認テストがすべて終了した後、単位修得試験を受けることになります。</p>								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> News Storyのリスニングについては、すべて聞き取れるようにしておくこと。 Exerciseをすべて行い、News Storyの内容と照合しながら解答を確認しておくこと。 								
学習内容	概要				課題				
	Unit 1 Loss of Hearing				確認テスト				
	イヤホンの音量に気をつけて難聴を防ぐ								
	Unit 2 Bringing up Baby: Gorilla				確認テスト				
	ゴリラの母親代わりの飼育係が赤ちゃんゴリラをどのように育てるか								
	Unit 3 Dear Santa				確認テスト				
	サンタに手紙を出す子供達の願いにどのように報いるか								
	Unit 4 Tiffany vs. Costco				確認テスト				
	Costcoで偽物のTiffanyが販売されていると知ったTiffanyの反応								
	Unit 5 Malala's Family Speaks				確認テスト				
	マララの子供教育への情熱に世界が共感								
	Unit 6 Real Answers: Hand Sanitizers vs. Soap				確認テスト				
	除菌効果を巡るローションと石鹸の対決結果								
	Unit 7 Arming Teachers?				確認テスト				
	銃社会のアメリカは生徒を守るのに先生にも銃を持たせるのか								
	Unit 8 Incoming: Asteroid!				確認テスト				
もし巨大な隕石が地球を直撃したらどうなるか									
Unit 9 Afghan Youth Orchestra				確認テスト					
アフガンの子供達のオーケストラがカーネギーホールで演奏する願いとは									
Unit 10 So Long Saturday: Mail Delivery Ends				確認テスト					
アメリカの郵便サービスも財政難には勝てず土曜日には手紙が届かない									
Unit 11 Driving Drowsy				確認テスト					
居眠り運転の危険性についての認識を深める									
Unit 12 Pay Raise? Raising Minimum Wage				確認テスト					
大統領は最低賃金の引き上げを提案したが、その結果はどうか									
Unit 13 On the Run: Syria				確認テスト					
シリアの内戦から逃れてきた家族と子供の生活をスクープ									
Unit 14 Unlikely Alliance: Gay Marriage				確認テスト					
同性愛者どうしの結婚に関するオバマ大統領の見解									
Unit 15 Future Fish: Taste of the Future?				確認テスト					
遺伝子操作で生まれた魚の味はどのようなものか									
成績評価方法	確認テスト (30%)、単位修得試験 (70%) の総合評価とする。								
教科書	著書 『ABC World News 16』 著者 山根繁他編 出版社 金星堂 出版年度 2014年1月 2版 ISBN 9784764739741								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考	この科目は、大学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。								

メジャー(専修)名				授業科目名	音楽とコミュニケーション			担当者	萬 圭介
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	音楽の科学的な要素を理解し説明することができる。 音楽の効果、その仕組み等を理解し、その魅力を人に伝えることができる。								
学習の進め方	この授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各回の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は一通り目を通しておく事。どこから読んでも構いませんので興味を持った項目から読み進めましょう。 ・受講後には、単位修得試験で取り上げたテーマを実践しましょう。それぞれに音楽でのコミュニケーションを積極的に楽しんで頂ければと思います。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 音楽はどうやって私たちの耳に届くのか				確認テスト・レポート				
	音の性質を理解し、その伝わり方、その要素について学習します。								
	第2回 音楽を作るもの				確認テスト・レポート				
	音楽の3要素についてとその役割、また様々な音階などを学習します。								
	第3回 音楽を奏でる				確認テスト・レポート				
	発音方法により分類されたそれぞれの楽器の特徴を学習します。								
第4回 音楽の楽しみ方と技術革新 (1)				確認テスト・レポート					
オーディオの仕組み、メディアの進化や歴史を学習します。									
第5回 音楽の楽しみ方と技術革新 (2)				確認テスト・レポート					
音響技術やその原理、レコーディングやエフェクターについて学習します。 また映像に対する音楽の影響力についても学習します。									
成績評価方法	各回の課題 (50%)、単位修得試験 (50%)								
教科書	著書 『CDでわかる 音楽の科学』 著者 岩宮真一郎 出版社 ナツメ社 出版年度 2011年3月30日 4版 ISBN 9784816347771								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	オンライン教育概論			担当者	合田 美子
レベルナンバ	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	オンライン教育・eラーニングを活用し教育効果を考慮した授業設計と運用方法について説明することができる。オンライン教育・eラーニングに関わるICT技術の基礎を理解しラーニングシステムの教育への応用方法を提案できる。オンライン教育・eラーニングを実施する際に配慮すべき法的課題について指摘できる。								
学習の進め方	eラーニングシステム上のオリエンテーションに従って学習を進めること。まず、各章にある学習目標とポイントの解説教材を視聴し、事前に該当範囲の教科書を一読しておく、より理解が深まります。読み終わったら、理解度の確認のために小テストを受験すること。単位修得試験の範囲は全授業回で扱う内容とする。								
授業時間外学習	・インターネット上でオンライン(eラーニング)教材を検索し、どんな教材が提供されているか観察し、学習の効果・効率は上がりそうか、興味は維持できそうかなど、検討してみる。 ・受講後は、授業での学習内容を踏まえて、インターネット上のオンライン(eラーニング)教材をいくつか検索し、教材の良い点、改善ができそうな点を考え、提案書としてまとめる練習をする。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 eラーニングの基礎知識(1) (教科書:第1章)				小テスト				
	eラーニングとは、eラーニングの学習形態								
	第2回 eラーニングの基礎知識(2) (教科書:第2章)				小テスト				
	eラーニングプロフェッショナルの種類								
	第3回 eラーニングとインストラクショナルデザイン(1) (教科書:第4章)				小テスト				
	インストラクショナルデザイン(ID)とは、ADDIEモデル								
	第4回 eラーニングとインストラクショナルデザイン(2) (教科書:第6章)				小テスト				
	分析・設計・開発フェーズ、IDを支える学習理論								
	第5回 eラーニングとインストラクショナルデザイン(3) (教科書:第8章)				小テスト				
	実施フェーズ、学習支援の大切さ								
	第6回 eラーニングとインストラクショナルデザイン(4) (教科書:第9章)				小テスト				
	評価フェーズ、eラーニングにおけるPDCA								
	第7回 ICTとラーニングシステムとコンテンツ(教科書:第12章)				小テスト				
ラーニングシステムとは									
第8回 eラーニングのための法知識の基礎(教科書:第10章)				小テスト					
eラーニングに必要な法的知識									
第9回 ICT活用による企業内教育と新たな人材開発(教科書:第2章)				小テスト					
eラーニングを活用した企業内教育の現状と可能性									
第10回 まとめ									
オンライン教育・eラーニングの現状と今後の課題									
成績評価方法	学習活動(ディスカッションなど)への参加状況と小テスト(40%)と単位修得試験(60%) ・小テストは、各章の内容から5問出題。合格基準は80%である。合格するまで何度でも受験可。 ・単位修得試験は、授業範囲内から選択式問題と記述式問題を出題する。								
教科書	著書 『これ1冊でわかるeラーニング専門家の基礎 -ICT・ID・著作権から資格取得準備まで-』 著者 玉木欽也監修 出版社 東京電機大学出版局 出版年度 2010年3月30日 1版 ISBN 9784501547608								
参考書(任意購入)	1.インストラクショナルデザインを使って教材を作成するコツを紹介している『教材設計マニュアル』、鈴木克明、北大路書房、2,310円(税込)、2002年 2.eラーニング専門家の職責をインストラクショナルデザインのプロセスに沿って解説している『eラーニング専門家のためのインストラクショナルデザイン』、玉木欽也監修、東京電機大学出版局、2,520円(税込)、2006年								
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	心理学 ビジネス・キャリア	授業科目名	カウンセリング心理学			担当者	寺田 未来 (夙川), 具 英姫 (東京)
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング デジタル教材 活用度 ☆☆☆		
単位修得試験 受験資格	全授業への出席			単位修得試験 実施方法	レポート	単位修得試験 試験会場	本学 (さくら夙川キャンパス) 東京会場
学習目標	カウンセリング心理学の定義、起源、歩みについて講じるとともに、代表的なカウンセリングを概観する。また、カウンセラーに必要な基本的態度に触れ、面接のプロセス時における課題や留意点について概説する。						
学習の進め方	パワーポイントを用いて説明する。必要に応じプリント類、ビデオを使用する。また、カウンセリングのためのワーク、エクササイズも適宜行う。						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業中は積極的にノートテイキングし、その後の復習に役立てること。 ノート、配布資料、教科書に加え、授業中に紹介する関連図書も読み、復習することを推奨。 						
学習内容	概要			課題			
	第1回 カウンセリング心理学の定義						
	定義を学ぶ						
	第2回 カウンセリング心理学の起源と歩み						
	歴史について知る						
	第3回 カウンセラーに必要な基本的態度 その1						
	ラポールについて学ぶ						
	第4回 カウンセラーに必要な基本的態度 その2						
	質問することについて考える						
	第5回 カウンセリングルームについて						
	快適な相談室の環境について考える						
	第6回 面接の実際 受面接における課題や留意点						
	実際にカウンセリングするときに必要なことを押さえる						
	第7回 面接の実際 沈黙について						
	クライアントの沈黙の意味を考える						
第8回 面接の実際 自己開示について							
クライアントが話をすることに思いを馳せる							
第9回 人間主義的理論におけるカウンセリング その1							
ロジャーズの理論を学ぶ							
第10回 人間主義的理論におけるカウンセリング その2							
ロジャーズの理論を学ぶ							
第11回 「グロリアと3人のセラピスト」について							
ビデオ鑑賞の前に必要な解説をする							
第12回 「グロリアと3人のセラピスト」 I							
実際のカウンセリングを鑑賞する							
第13回 「グロリアと3人のセラピスト」 I の解説							
ロジャーズのカウンセリングについて学ぶ							
第14回 「グロリアと3人のセラピスト」 II							
ゲシュタルト療法のカウンセリングを学ぶ							
第15回 「グロリアと3人のセラピスト」 III							
論理療法のカウンセリングを学ぶ							
成績評価方法	授業中の小レポート (60%) と出席状況 (20%)、授業態度 (20%) により評価する。						
教科書	著書 『実践に役立つ臨床心理学』 著者 塩崎尚美 出版社 北樹出版 出版年度 2012年 10月 改訂版 ISBN 9784779303425						
参考書 (任意購入)							
必須ソフト ・ツール							
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義40名						

メジャー(専修)名	心理学	授業科目名	カウンセリング論			担当者	酒井 健, 辻野 達也
レベルナンバ	200	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆
単位修得試験受験資格	2/3以上の出席		単位修得試験実施方法	レポート		単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
学習目標	「カウンセリング」についての理論と技法について、主要な学派の考え方とその実際について学びます。						
学習の進め方	講義を中心にしてすすめます。受講人数によりですが、なるべくディスカッションを取り入れたいと思います。ただ理屈を覚えるのではなく、実際にどういった使い方をするのかについて理解を深めるために、積極的に発言するようにしてください。教科書は、前提となる知識の確認の意味も含めて、事前に読んでおくことを強くすすめます。						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、カウンセリングに関する入門的な図書になるべく目を通しておくこと。 受講後は、図書館等にある映像教材の関連箇所を見るなどして、知識として学んだことと実践をつなげるようにすること。 						
学習内容	概要						課題
	第1回 カウンセリングの基本						
	カウンセラーの基本姿勢である傾聴の技法について、考え方と方法を学ぶ。						
	第2回 カウンセリングの流れ						
	カウンセリングも基本的な流れについて理解する。						
	第3回 パーソナリティ理解の基礎						
	心理理解のために必要なパーソナリティに関する理論を学ぶ。特に精神分析の中の対象関係論に基づく発達論的人格論を学ぶ。						
	第4回 パーソナリティ理解の応用1						
	芸術作品を例に、パーソナリティの具体的な理解の仕方について学ぶ。						
	第5回 パーソナリティ理解の応用2						小レポート作成
	パーソナリティ理解の応用1に引き続き、芸術作品を例に、パーソナリティの具体的な理解の仕方について学ぶ。						
	第6回 共感的理解の練習1						
	カウンセラーの基本である、共感的理解について学ぶ。						
	第7回 共感的理解の練習2						
	共感的理解が実際にどのように行われるかについて学ぶ。						
第8回 傾聴の練習1							
積極的傾聴の練習を行う。グループになり役割を変えながら、練習とディスカッションを行う。							
第9回 傾聴の練習2							
積極的傾聴の練習を行う。グループになり役割を変えながら、練習とディスカッションを行う。							
第10回 傾聴の練習3						小レポート作成	
積極的傾聴の練習を行う。グループになり役割を変えながら、練習とディスカッションを行う。							
第11回 ロールプレイ1							
15分～20分程度のロールプレイを行い、ディスカッションによって、共感的理解や応答の仕方、相談者の気持ちの理解の方法について学ぶ。							
第12回 ロールプレイ2							
15分～20分程度のロールプレイを行い、ディスカッションによって、共感的理解や応答の仕方、相談者の気持ちの理解の方法について学ぶ。							
第13回 事例の批判的検討1							
模擬事例のビデオを見た後に、これまで学んだことを活かして批判的にディスカッションを行い、理解を深める。							
第14回 事例の批判的検討2							
模擬事例のビデオを見た後に、これまで学んだことを活かして批判的にディスカッションを行い、理解を深める。							
第15回 振り返りとまとめ						まとめレポート作成	
質疑を中心に、まとめとしてディスカッションを行う。							
成績評価方法	小レポートの内容(30%)、授業への取組(ディスカッションにおける発言やワークへの取組などを含む30%)、単位修得試験(40%)とする。						
教科書	なし。適宜レジュメを配布する。						
参考書(任意購入)	『カウンセリング・心理療法の基礎—カウンセラー・セラピストを目指す人のために』、金沢 吉展編、有斐閣、2007年12月10日 1版						
必須ソフト・ツール							
備考	受講上限人数 グループワークを含む講義40名						

メジャー(専修)名				授業科目名	化学概論			担当者	牧野 壯一
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web試験			単位修得試験 試験会場	—
学習目標	この科目で習得した化学の知識によって、日常生活における化学の役割を理解できるようになる。 身のまわりに存在する化学物質について正しい知識を得ることで、健康や環境を害する危険性の少ない生活を送る「賢い消費者」になることができる。								
学習の進め方	この授業では、教科書を主教材として学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので、課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・科目に関連した内容を参考図書などで自己学習すること。 ・受講は、各自で定期的に学習すること。 ・課題は納得できるまで取り組むこと。 ・不明な箇所は辞典や専門書などで調べること。 								
学習内容	概要								課題
	第1回 食の化学								確認テスト
	フグはなぜ自分の毒で死なないのか？握り寿司は化学の宝庫だった！？ 食生活における化学の役割について学習する。								
	第2回 環境の化学								確認テスト
	環境にやさしい農業とは？空から「鬼」が降ってくる！？ 私たちの身近な環境における化学の役割について学習する。								
	第3回 化学の不思議								確認テスト
	焦げ付きにくいフライパンとは？悪臭を消す魔法とは？ 私たちの身の回りに存在する便利な製品に使われている化学物質や技術について学習する。								
	第4回 魔法の化学								確認テスト
	微生物が食べるプラスチックとは？味覚を変える魔法の物質！？ 私たちの生活の中に存在する不思議な物質や現象に隠された化学の秘密を探る。								
	第5回 健康と薬の科学								確認テスト
DHAを食べると頭がよくなる！？上手なお酒の飲み方とは？ 私たちの健康に関与する化学物質やメカニズムについて学習する。									
第6回 生物の不思議なしくみ								確認テスト	
植物の色や香りの仕組みとは？ゲノムってなんだろう？ 生命誕生と進化、子孫を残すための工夫など生物の不思議について学習する。									
成績評価方法	各回の課題（30%）と単位修得試験（70%）による総合評価								
教科書	著書 『マスコミに見る化学』 著者 津波古充朝、小山淳子、上地真一 出版社 廣川書店 出版年度 2003年9月20日 ISBN 9784567203005								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト ・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	学習心理学			担当者	枚田 香
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート		単位修得試験 試験会場	—
学習目標	外部からの刺激や内的活動により人間の行動の変容が起こるメカニズムについての知識を身につける。 主に条件づけ、記憶、技能学習、社会的学習、問題解決、推論などに関する理論を理解する。							
学習の進め方	本授業では、指定する教科書の章立てに沿って学習をすすめます。また、デジタルコンテンツで学習を支援します。デジタルコンテンツには、テキストの内容の補足説明やデータを使った実習も盛り込んであります。心理学概論の教科書または心理学の入門書などの書籍で一通りの心理学の基礎知識を確認しておくこと。学習は章ごとに区切られており、各章の最後に課題があります。課題を終わらせてから次の章へ進みましょう。各回の内容をしっかり理解できているか自己評価し、自信がない場合は教材を読み直して復習すること。							
授業時間外学習	・教科書に目を通しておくこと。							
学習内容	概要							課題
	序章 行動と認知の学習							レポート
	ガイダンスおよびテキストを使って学習するにあたっての予備知識の確認							
	第1章 古典的条件づけの基礎							確認テスト
	無条件刺激、条件刺激、無条件反応、条件反応などの用語と条件反射が発生するメカニズムを学習							
	第2章 オペラント条件付けの基礎							確認テスト
	オペラント条件付けのメカニズム、報酬、罰などを使った強化について学習 オペラント条件付けによる行動の消去、強化スケジュールについて学習							
	第3章 技能学習							確認テスト
	技能の上達、学習曲線、練習の条件、転移について学習							
	第4章 社会的学習							確認テスト
	モデルの観察による模倣学習、観察学習、代理強化について学習							
	第5章 問題解決と推理							レポート
	日常生活における問題解決のプロセスと各種理論を学習 演繹法、帰納法、類推などを駆使した推論や新しい概念を考える創造性について学習							
	第6章 概念過程と言語獲得							レポート
概念とその形成、表象、言語の獲得について学習								
第7章 記憶と忘却							確認テスト	
記憶の定義、記憶の種類、手順など、記憶に関する各種理論を学習する 記憶の忘却のメカニズムと原因について学習する								
第8章 意味材料の記憶と表象							確認テスト	
意味を持つ文章などの記憶や心にイメージするメカニズムについて学習								
成績評価方法	各章の課題を含む授業への積極的な参加（50%）、単位修得試験（50%）により総合評価とする。							
教科書	著書 『グラフィック 学習心理学 行動と認知』 著者 山内光哉/春木豊編著 出版社 サイエンス社 出版年度 2010年1月25日 1版 ISBN 9784781909776							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト ・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	家庭の経営			担当者	二階堂 達郎
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	現代の家計は家族形態の多様化もあって急激に変化している。こうした中で、かつて家庭内で受け継がれてきた生活習慣や家計経営上の経験が実態にそぐわないことがしばしば生じている。この授業では、家計という特有な経済単位を経済的側面からとらえ直し、今日における家計の意義やあり方について考える。								
学習の進め方	本授業は、教科書と副読本を活用して学習を進めます。副読本には学習の目標、内容、資料および要点が記載してあります。教科書を参照しながら、副読本を中心に授業を進めます。各単元の終わりに小テストを実施しますので、これをクリアしてから次の回に進んでください。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に教科書と副読本に必ず目を通しておいてください。 受講してわかりにくかったことがあれば、かならず教科書と副読本を納得いくまで見直しておいてください。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 家庭の経済				小テスト				
	家庭の経済的なメカニズムの特徴や役割について学ぶ。								
	第2回 市場経済の中の家計				小テスト				
	企業・政府など他の経済主体との相互関係や市場経済の中で家計が占める地位などについて学ぶ。								
	第3回 家事労働				小テスト				
	家事労働の特徴、現状、問題点などについて学ぶ。								
	第4回 家計の収入				小テスト				
	勤労者（サラリーマン）世帯の家計収入の構造、現状、動向などについて学ぶ。								
	第5回 家計の支出				小テスト				
	勤労者（サラリーマン）世帯の家計支出の構造、現状、動向などについて学ぶ。								
	第6回 収支のバランスと生活水準				小テスト				
	家計の収支の現状、動向や、生活水準にかかわる諸概念や問題について学ぶ。								
	第7回 資産と負債				小テスト				
	勤労者（サラリーマン）世帯の資産と負債の現状、動向などについて学ぶ。								
	第8回 世帯の類型と家計				小テスト				
近年増加している高齢者世帯や単身世帯、共働き世帯などの家計の現状、動向、および問題点などについて学ぶ。									
第9回 ライフサイクルと家計				小テスト					
家計の状態がライフサイクルに応じてどのように変化しているかについて学ぶ。									
第10回 家計とライフプラン				小テスト					
ライフステージごとの家計の特徴とライフプラン（生活設計）について考える。									
第11回 暮らしの安定と生活保障				小テスト					
暮らしを守るために知っておきたい、生活を保障するための社会保障などの制度や仕組みについて学ぶ。									
第12回 暮らしの安全を守るために				小テスト					
暮らしの安全を守るために、食品・生活用品などの商品やサービスの安全性を確保するための制度や仕組みについて学ぶ。									
第13回 消費者トラブルに遭わないために				小テスト					
さまざまな悪徳商法について理解し、その被害から身を守る方法について学ぶ。									
第14回 クレジットやローンをめぐるトラブルに遭わないために				小テスト					
消費者信用をめぐるトラブルや多重債務の実態などについて理解し、それから身を守る方法について学ぶ。									
第15回 環境にやさしい暮らし				小テスト					
ゴミ問題やリサイクルなど生活に身近な環境問題を学び、環境にやさしいこれからのライフスタイルについて考える。									
成績評価方法	各回の課題（50%）、単位修得試験（50%）により総合評価する。								
教科書	著書 『お金と暮らしの生活術』 著者 大藪千穂 出版社 昭和堂 出版年度 2011年5月20日 新版 ISBN 9784812211359								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考	この科目は、大学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。								

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	環境デザイン			担当者	川窪 広明, 井之上 節朗, 神農 悠聖, 松富 謙一, 山野 松雄
レベルナンバ	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	—
学習目標	私たちの生活空間を取り囲む環境について「建築」や「まちづくり」という観点から学習します。人間が暮らす建物やまちには、「良い環境」を取り入れ「悪い環境」を排除するという役割があります。この役割について理解し、私たちが健康で安全な生活を営む基本的な知識を学びます。							
学習の進め方	この授業は、5名の講師がそれぞれの専門分野から「環境デザイン」についてオムニバス形式で講義を行います。各講師の講義を聴講したあと、各回の確認テストを行ってください。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、教科書の該当部分をよく読んでおくこと。 受講後は、学んだ事項に関連する建物の観察や新聞記事の収集などに努めること。また、各講師より推薦された参考図書がある場合は、ぜひ読んでください。 							
学習内容	概要			課題				
	第1回 環境デザインの考え方			確認テスト				
	「環境」をどのように捉えるかを理解し、熱帯性気候、地中海性気候、そしてわが国の気候と住居の関連性を例に、環境と建築との関係を考えます。(担当：川窪広明)							
	第2回 身近な環境デザイン			確認テスト				
	人間が環境の情報を得るために使用する視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚について学びます。また、身近な建築やまちなみを見直し、環境デザインの面白さを再発見します。(担当：川窪広明)							
	第3回 人間の行動と心理			確認テスト				
	人間の行動パターンがどのような心理状態で発生するかを学びます。そして安全で暮らしやすい環境のために、どのようにデザインを工夫すべきかを学びます。(担当：川窪広明)							
	第4回 さまざまな色覚とカラーユニバーサルデザイン			確認テスト				
	遺伝や眼の疾患、加齢変化によるさまざまな色覚のしくみを理解し、できるだけ全ての人に見やすい色彩環境とするためにはどのようなことに配慮すべきかについて考えます。(担当：神農悠聖)							
	第5回 色と建築			確認テスト				
	建築の色彩は大きな面積を占めるため、建築空間において色彩設計をする際は十分な検討が必要です。ここでは建築業界で色を伝達・記述する際に用いられる「マンセル表色系」と、色彩の心理的効果を考慮した建築の配色について学びます。(担当：神農悠聖)							
	第6回 採光と窓			確認テスト、前半のまとめ				
	多くの人が家を建てるときに重要視するであろう「日当たり」の必要性を知り、採光を得るための窓の方式や、日照を調整する方法を学びます。(担当：神農悠聖)							
	第7回 シックハウスと健康			確認テスト				
	現在、問題になっているシックハウス症候群とは何か、さらにそれが人間の健康にどのような影響を与えるのかについて説明します。(担当：山野松雄)							
	第8回 シックハウスと原因			確認テスト				
シックハウス症候群を引き起こす原因について説明します。またこれらの原因が住宅のどのような場所に潜んでいるのかについても説明します。(担当：山野松雄)								
第9回 シックハウスを防ぐために			確認テスト					
すまいを新築したり改装したりする際、シックハウス症候群を防ぐためにどのような点に気をつけるべきか、設計方法から建築材料の選び方、すまいの手入れ方法について説明します。(担当：山野松雄)								
第10回 各部位における建築材料の使い分け			確認テスト					
各部位における建築材料の基本的な使い方(材料選択)、本来の部位以外への使用例、その材料の持つ質感と安全性、室内環境を考慮した特性のある材料などを紹介します。(担当：井之上節朗)								
第11回 これから求められる建築設備			確認テスト					
これからの高齢化社会を考えると必要とされるホームエレベーター、階段昇降機などの設計、設置計画やランニングコストのわからない自然エネルギーを利用したハッシブソーラーシステムについて学びます。(担当：井之上節朗)								
第12回 DIYの手法			確認テスト					
住宅を管理するにあたり、アメリカなどでは一般化しているオーナーズマニュアル(ハウスマニュアル)の考え方を紹介し、具体的にDIYの方法と道具の使い方、住宅機器の定期点検について学びます。(担当：井之上節朗)								
第13回 コーポラティブ住宅の計画			確認テスト					
コーポラティブ住宅は、地域社会における住環境の関わり合いを課題として供給されてきました。コーポラティブ住宅とは何かから、計画のプロセスを通じて良好なコミュニティが生み出される事を学びます。(担当：松富謙一)								
第14回 住宅再生の計画			確認テスト					
木造密集地でのまちづくりを通じた空家の再生方法を学びます。住宅の再生から地域課題を解決する社会的意義を考え、住環境との関わり合いについての重要性を知ります。(担当：松富謙一)								
第15回 住宅の維持管理			確認テスト					
住宅の完成後から建物維持管理についての方法を学びます。共同住宅の大規模修繕計画を参考に、日常の点検のしかたを知り、住宅の設計計画に生かします。(担当：松富謙一)								
成績評価方法	前半のまとめ(40%)、単位修得試験(60%)により評価する。							
教科書	著書 『健康をつくる住環境』 著者 健康をつくる住環境編集委員会 出版社 井上書院 出版年度 2011年3月20日 1版 ISBN 9784753019779							
参考書(任意購入)	『シックハウスがわかる』大阪府建築士会、大阪建築事務所協会、日本建築家協会近畿支部 編 2004年 その他、各講師が必要に応じて推薦する。							
必須ソフト・ツール								
備考	前半のまとめは、第1回から第6回の講義内容について行う。また単位修得試験は、第7回から第15回の講義内容について行う。							

メジャー(専修)名				授業科目名	韓国語Ⅰ (基礎)			担当者	村上 純
レベルナンバ	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web試験			単位修得試験 試験会場	—
学習目標	韓国語の入門講座として、文字 (ハングル) の読み方とその発音練習、簡単な単語や文法および会話の表現などを学習し、韓国語に対する基礎知識を身につけることを目標としている。								
学習の進め方	各回の授業ごとに文字・単語・文法・会話のコーナーがあり、それぞれ講義画面やスキット映像を視聴しながら学習を進める。								
授業時間外学習	韓国ドラマや映画、音楽、料理など、様々な方向から韓国語に触れる機会を増やしてみましょう。また、ハングルを見かけたら意識して読んでみましょう。								
学習内容	概要								課題
	第1回 まずは基本の母音から学びましょう／アンニョンハセヨ								小テスト
	文字	基本母音							
	単語	家族を表すことば							
	文法	語順について							
	会話	「アンニョンハセヨ (こんにちは)」							
	第2回 基本子音を学びましょう／カムサハムニダ								小テスト
文字	基本子音								
単語	自分や相手を表すことば								
文法	文体について								
会話	「カムサハムニダ (ありがとうございます)」								
第3回 平音・激音・濃音を学びましょう／アンニョンヒ ケセヨ								小テスト	
文字	平音・激音・濃音								
単語	国を表すことば								
文法	「名詞＋です/ですか」								
会話	「アンニョンヒ ケセヨ (さようなら)」								
第4回 複合母音を学びましょう／マシッソヨ								小テスト	
文字	複合母音								
単語	食べ物を表すことば								
文法	「はい/いいえ」								
会話	「マシッソヨ (おいしいです)」								
第5回 パッチムを学びましょう／ケンチャナヨ								小テスト	
文字	パッチム								
単語	数を表すことば								
文法	「～は」「～が」「～も」「～と」								
会話	「ケンチャナヨ (だいじょうぶです)」								
成績評価方法	小テスト (50%)、単位修得試験 (50%)								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト ・ツール									
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	韓国語Ⅱ (応用)			担当者	村上 純
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web試験			単位修得試験 試験会場	—
学習目標	韓国語の基礎の段階から、応用の段階へステップアップをはかる。 韓国語を用いて様々な学習活動を行う。 受講生同士のコミュニケーションを図りながら、韓国語学習に楽しく取り組む。								
学習の進め方	この授業では、教科書を主教材、オンデマンド教材を副教材として学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	韓国ドラマや映画、音楽、料理など、様々な方向から韓国語に触れる機会を増やしてみましょう。また、ハンゲルタイピングのアプリなどを用いて授業時間以外にも練習してみましょう。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 コンピューターでハンゲルを書いてみよう				レポート				
	パソコン上でハンゲルの文字を表す方法を学ぶ								
	第2回 名前や地名をハンゲルで表してみよう				レポート				
	自分の名前や地名など、日本語の固有名詞をハンゲルで表す方法を学ぶ								
	第3回 韓国語でプロフィールを作成してみよう				プレゼンテーション				
	自分を紹介するプロフィールを韓国語で作成する								
	第4回 数の表現を学んでみよう				確認テスト				
	韓国語の数字体系について学び、それを用いた様々な表現を学ぶ								
	第5回 いろいろな文章表現を学んでみよう				確認テスト				
	文章の作り方のパターンを学び、それを用いた応用練習を行う								
	第6回 韓国語の歌を聞いてみよう				ディスカッション				
	歌を通して韓国語を学ぶ								
第7回 韓国レストランに行ってみよう				ディスカッション					
食事に関する韓国語や料理の注文の仕方などを学ぶ									
第8回 韓国語でビデオレポートを作成してみよう				プレゼンテーション					
授業で学んだ内容を生かし、韓国語でビデオレポートを作成する									
成績評価方法	課題 (50%)、単位修得試験 (50%)								
教科書	著書 『Let's enjoy ハンゲル』 著者 村上純 出版社 有限会社 国宗 出版年度 2011年4月20日								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト ・ツール	Microsoft Office Power Point (2003以上)、マイク								
備考									

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	企業経営論			担当者	小江 茂徳
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	経営学の基本的な知識を習得することを目的とします。								
学習の進め方	本講義では、教科書すべての内容を習得するのではなく、教科書の中で、いくつかピックアップした章を学習します。内容としては経営学の中でも極めて基本的かつ重要な内容を選択しており、今まで経営学を学んだことのない方、とりわけ高校を卒業したばかりの方にも理解しやすい講義内容になっています。受講中は、教科書をじっくり読んで、理論や専門用語とその意味について修得し、学んだ箇所のポイントを整理したノートを作成し、知識の定着に努めましょう。最後は確認テストを実施してください。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、新聞やニュースから、経営に関する情報を日常的に得るようにしてください。 受講後には、講義で学習した概念や理論を使って、現実の経営現象を説明できることを目標としましょう。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 企業と経営				確認テスト				
	教科書：第1部第1章 企業の社会における位置づけと、企業内の内部構造について理解します。								
	第2回 企業・会社の概念と階形態				確認テスト				
	教科書：第1部第2章 一口に企業といっても、企業にはさまざまな形態があります。この章では、企業の種類にはどのようなものがあるか、またそれぞれのどのような特徴があるのか理解します。								
	第3回 所有・経営・支配と経営目的				確認テスト				
	教科書：第1部第3章 株式と企業の所有の関係性について理解しましょう。とりわけ、所有者と経営者の役割が株式の所有構造により、どのように変化するのが学習しましょう。								
	第4回 株式会社の機関とコーポレート・ガバナンス				確認テスト				
	教科書：第1部第4章 企業内の機関およびその役割について理解しましょう。								
	第5回 日本型企業システム				確認テスト				
	教科書：第1部第5章 日本企業固有の経営の習慣、制度について理解しましょう。								
	第6回 経営戦略の体系と理論				確認テスト				
	教科書：第2部第1章 経営戦略論の系譜について学習しましょう。								
	第7回 全社戦略				確認テスト				
	教科書：第2部第2章 経営戦略は3つのレベルに分類されますが、全社戦略は企業全体のあり方の指針となります。事業分野の選択と資源展開のために、企業がどのように行動すべきなのか理解しましょう。								
	第8回 事業戦略				確認テスト				
教科書：第2部第3章 経営戦略の第2のレベルが事業戦略です。事業が競争優位性を保つ為にどのような戦略が有効であるのか理解しましょう。									
第9回 機能別戦略				確認テスト					
教科書：第2部第4章 機能別戦略とは、企業の各機能レベルにおける戦略を意味します。各機能の具体的な戦略について理解しましょう。									
第10回 組織に関する基礎理論				確認テスト					
教科書：第3部第1章 組織論における重要な古典的理論について学習します。組織論の重要な論者達が、組織をどのように捉えようとしてきたのか、理解しましょう。									
第11回 経営組織の基本形態				確認テスト					
教科書：第3部第2章 分業と協働の体系としての経営組織の基本型と応用型にどのようなものがあるのか理解しましょう。また組織編成における基本原則もきちんと理解しましょう。									
第12回 企業組織の階形態				確認テスト					
教科書：第3部第3章 企業組織にはどのような組織形態が考えられるのか、またそれらにどのような長所や短所があるのか、学習しましょう。									
第13回 経営管理の基礎理論				確認テスト					
教科書：第4部第1章 経営管理論の古典的理論である管理過程論（ファヨール）、人間関係論、モチベーション論、リーダーシップ論等、基礎的な理論について学びます。									
第14回 マネジメントの階層とプロセス				確認テスト					
教科書：第4部第2章 組織を管理するということはどういうことか、理解しましょう。									
第15回 企業経営と情報化				確認テスト					
教科書：第5部第3章 企業経営における情報の持つ意義、また情報を用いたビジネスについて理解しましょう。									

	概要	課題
学習内容	第16回 企業の社会的責任と企業倫理	確認テスト
	教科書：第5部第4章 いまや企業経営においてCSRは重要な経営課題となっています。どのような企業のCSRの取り組みが有るのかを理解し、またご自身の興味ある企業がどのような取り組みをしているのか調べてみましょう。	
成績評価方法	確認テスト（40%）、単位修得試験（60%）	
教科書	著書 『経営学の基本（第5版）』 著者 経営能力開発センター 出版社 中央経済社 出版年度 2015年7月25日 5版 ISBN 9784502124211	
参考書 (任意購入)		
必須ソフト ・ツール		
備考	指定教科書は経営学検定試験の公式テキストとなっておりますが、本講義は、検定試験対策を目的とした講義ではありません。 なお、この科目は、大学から送付された教科書を使用して学習を進め、与えられた課題に取り組みます。	

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	キャリア概論			担当者	岩波 薫
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全授業への出席		単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
学習目標	キャリア形成に関連する最近のトピックや入門的な理論を取り上げ、キャリアについて学ぶための基礎作りを行う。また、自分自身の個性やキャリアに対する考え方などを理解し、将来キャリアをデザインするためのヒントも得たい。							
学習の進め方	一方向的な講義は必要最小限にとどめ、ワークシートやアセスメントなどを用いた個人ワーク、少人数でのグループ・ワークを多用する。受講者どうしの様々な「対話」の方法も試しつつ、相互に理解をしながら、キャリア形成に対する自分自身の考え方を理解できるようにする。また、テーマに沿った話題提供のために、TV番組やビデオなどの視聴も行う。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 講義開始1週間前を目処に、スクーリングで使用するレジュメをel-Campusにアップするので、事前に簡単に目を通して下さい。 スクーリング終了後、講義内でのグループワークの内容を更に個人で深めていく形で個人レポートが課されます(原則ワードで作成)。 							
学習内容	概要			課題				
	第1回 仕事選びの基準とは① 「やりたいこと」と「できること」							
	「やりたいこと」を仕事にするべきか、「できること」を仕事にするべきか、若者たちの事例を用いて議論する。							
	第2回 仕事選びの基準とは② 「やりたいこと」と「できること」							
	前回内容に関する議論と講義。							
	第3回 仕事選びの基準とは③ 才能と努力							
	努力は才能を超えるか、ある若者の事例を用いて議論する。							
	第4回 仕事選びの基準とは④ 才能と努力							
	前回内容に関する議論と講義。							
	第5回 就職氷河期①							
	キャリアの入口で若者をつまづかせている「就職氷河期」。その要因と対策について考える。							
	第6回 就職氷河期②							
	前回内容に関する議論と講義。							
	第7回 ライフサイクルとキャリア① ワークライフバランス							
	仕事と家庭の両立(統合)はどのようにすればよいのか。事例および自身の体験に基づいて議論する。							
第8回 ライフサイクルとキャリア② ワークライフバランス								
前回内容に関する議論と講義。								
第9回 キャリア形成とメンタルヘルス①								
働く人のメンタルヘルスの現状と課題を、マネジメントの視点も含めて議論する。								
第10回 キャリア形成とメンタルヘルス②								
キャリア形成に関するストレス要因とその対策について。								
第11回 キャリア形成と人間関係①								
キャリア形成に影響を与える他者との人間関係について議論する。								
第12回 キャリア形成と人間関係②								
前回内容に関する議論と講義。								
第13回 グループワーク①								
ここまでで学習したことをふまえ、与えられた課題にしたがって、グループ・ワークを行う。								
第14回 グループワーク②								
ここまでで学習したことをふまえ、与えられた課題にしたがって、グループ・ワークを行う。								
第15回 グループワーク発表								
グループワークの結果を発表する。								
成績評価方法	講義への参加(ディスカッションなどへの)とその貢献度合い(量と質):(40%)、レポート:(60%)							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	大久保幸夫著『キャリアデザイン入門I(基礎力編)』日本経済新聞出版社							
必須ソフト・ツール	最終グループ発表をまとめる際には、各自Microsoft Office PowerPointが使えることが望ましい。スクーリング終了後に全員提出の個人レポートは原則Microsoft Office Wordを使用する。							
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義40名。 3日間のスクーリング形式での講義ですので、シラバス上の回数にはとらわれず適切な時間(60分程度)ごとに休憩を入れる形で講義を進行します。							

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	キャリア形成と社会			担当者	山縣 康浩
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート		単位修得試験 試験会場	—
学習目標	一人の経営者が、社会とどのようにかわりながら自分のキャリアを形成してきたかを考察することで、自分自身のキャリア形成を考えるヒントをつかむ。							
学習の進め方	この講義では、教科書を中心に学習を進めます。学習を進めるうえで、ポイントや是非考えて頂きたい事柄などをデジタル教材に掲載しますので、活用してください。レポートでは、教科書と合わせてご自身のご経験も踏まえた内容を記入頂きます。キャリアは、自分自身のものですので、しっかりと考えてみてください。							
授業時間外学習	興味のある経営者の著書にあたってみる。							
学習内容	概要						課題	
	教科書第1章から第7章の補足説明							
	小倉氏のトランジション並びに自分自身のトランジションについて考える。							
	中間レポート						レポート	
	中間レポートの実施。							
	教科書第8章から第15章の補足説明							
小倉氏のキャリアを4Sの視点からまとめてみる。								
成績評価方法	中間レポート(50%)、単位修得試験の結果(50%)により総合評価する。							
教科書	著書 『小倉昌男 経営学』 著者 小倉昌男 出版社 日経BP社 出版年度 2010年12月20日 1版 ISBN 9784822241568							
参考書 (任意購入)	『経営はロマンだ!』、小倉昌男、日経ビジネス人文庫、630円(税込)、2003年 『福祉を変える経営』、小倉昌男、日経BP社、1,365円(税込)、2003年 『折りと経営:ヤマト「宅急便の父」が関わっていたもの』、森健、小学館、1,728円(税込)、2016年							
必須ソフト ・ツール								
備考	この科目は、大学から送付された教科書を使用して学習を進め、与えられた課題に取り組みます。							

メジャー(専修)名	ライフデザイン ビジネス・キャリア		授業科目名	キャリアデザイン論			担当者	森元 伸枝
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート		単位修得試験 試験会場	—
学習目標	自分の過去の経験を振り返り、キャリアデザイン論で学んだ考え方をを使って、自ら説明することができる。 自分らしい働き方を意識して、今後のキャリアについてキャリアデザインができる。							
学習の進め方	この授業では、教科書を主教材として学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	・設置された課題やレポートには納得できるまで取り組むこと。							
学習内容	概要						課題	
	第1回 キャリアデザインとは何か						ディスカッション	
	キャリアデザインを学ぶことの意味を考える。							
	第2回 キャリアデザインの必要性						レポート	
	キャリアデザインの必要性を考える。							
	第3回 キャリアを考える視点						レポート	
	主観的基準と客観的基準のバランスを考える。							
	第4回 仕事生活とキャリアデザイン						レポート	
	キャリアの節目とその変化を理解して、キャリア年表を作成する。							
	第5回 キャリアアンカー						ディスカッション	
	キャリアアンカー（キャリアのよりどころ）について理解する。							
	第6回 過去を振り返る						レポート	
	自分の経験から、キャリアの物語を作る。							
第7回 キャリアサバイバル						レポート		
キャリアサバイバルの概念を理解する。								
第8回 職務と役割の分析						レポート		
職務と役割の戦略的プランニングをする。								
第9回 偶然を自分のものにする						ディスカッション		
ハプンスタンスアプローチを理解する。								
第10回 キャリアのサポーター						レポート		
キャリアを手助けしてくれる人を知る。								
第11回 ワークライフバランス						レポート		
ワークライフバランスとキャリアの選択の関係を理解する。								
第12回 何のために働くのか						ディスカッション		
働くことを通じて、自分が大切にしようとしていることを知る。								
成績評価方法	各回の課題（60%）、単位修得試験（40%）							
教科書	著書 『キャリアデザイン』 著者 田路則子 月岡 亮 監修 ライトワークス 出版社 ファーストプレス 出版年度 2008年11月11日 ISBN 9784904336175							
参考書 (任意購入)	『働くひとのためのキャリア・デザイン』、金井壽宏、PHP研究所、819円（税込）、2001年							
必須ソフト ・ツール								
備考	この科目は、大学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。							

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	キャリアの心理学			担当者	坂本 理郎
レベルナンバ	200	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験			単位修得試験試験会場	本学(さくら川キャンパス)
学習目標	世界が大きく変化しつつあるいま、私たちが職業に就き、職業人として充実した人生を歩んでいくことは、以前よりもますます困難になってきている。このような時代の中で、キャリア形成に関連する理論を学ぶことは、今後の自身のキャリアを考えるうえで重要な指針を得ることになる。加えて、企業の管理職、教育者、あるいはキャリア・カウンセラーとして、他者のキャリア形成を支援するうえでも、たいへん役に立つものである。そこで本講義では、主に心理学の分野からキャリアに関する重要な理論をいくつか取り上げ、自分自身や他者への実用を意識しながら、学んでいくことを目的とする。								
学習の進め方	この講義では、基本的には指定した教科書に掲載されている理論を中心に学ぶ。ただし、教科書にはない、重要な理論や技法についてもいくつか学ぶ。講義中心ではあるが、理論を自分自身に適用してみるためのワークやディスカッションも可能な限り取り入れる。								
授業時間外学習	・授業時間中に事前・事後課題の指示があります。それにしたがって、学習を行ってください。								
学習内容	概要								課題
	第1回 スーパーの理論								
	キャリアの自己概念、ライフ・スパン、ライフ・スペース								
	第2回 ハンセンの理論								
	統合的人生計画								
	第3回 シュロスパーグの理論								
	キャリアの転機を活かす								
	第4回 ホランドの理論								
	パーソナリティ・タイプと職業選択								
	第5回 クルンホルツの理論								
	学習経験と職業選択、ブランドハブスタンス理論								
	第6回 SCCT理論								
	自己認知がキャリア形成に与える影響								
	第7回 第6回までのまとめ								
	第6回までのまとめ(中間試験による復習)								
第8回 シャインの理論①									
組織と個人のニーズの調和、キャリアサイクル									
第9回 シャインの理論②									
キャリア・アンカーとキャリア・サバイバル									
第10回 ホールの理論									
変幻自在のキャリア(プロテアンキャリア)									
第11回 メンタリング									
キャリア形成を支援する人間関係									
第12回 ナラティブ・アプローチ									
物語としてのキャリア									
第13回 ケース・スタディ								「順子さんのケース」	
仮定のクライアントの事例を用いて、理論的な分析を試みる。									
第14回 キャリア・カウンセリングの技法									
カウンセリングの基本的考え方、マイクロ・カウンセリング技法を中心とした基礎スキル、キャリア・カウンセラーに求められる資質と能力。									
第15回 まとめ									
単位修得試験の実施									
成績評価方法	中間試験(30%)、単位修得試験(70%)								
教科書	著書 『キャリアの心理学 新版』 編者 渡辺三枝子編著 出版社 ナカニシヤ出版 出版年度 2011年3月20日 1版 ISBN 9784779501753								
参考書(任意購入)	『キャリアカウンセリング入門一人と仕事の橋渡し』、渡辺三枝子、ナカニシヤ出版、2,310円(税込)、2001年								
必須ソフト・ツール									
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義40名								

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	キャリアマネジメント			担当者	山縣 康浩
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート		単位修得試験 試験会場	—
学習目標	個人の視点、経営の視点、社会の視点からキャリアを捉え、自律的キャリア形成についての考察を深める。							
学習の進め方	この講義では、みなさんご自身の経歴や職歴を中心に、キャリアの考察を深めていきます。まず、過去を振り返る中で、節目においてどのような選択をしてきたのか。そして、みなさんが働く職場ではどのような環境変化が起こり、そして求められる人材がどのようにシフトしてきているのか。そして最後に、将来の視点を入れてキャリアアジェンダを作成していきます。							
授業時間外学習	日頃、見過ごしているかもしれない身近な社会の変化を意識してください。何か、ご自身のキャリア形成につながる事柄が、ころがっているかもしれません。							
学習内容	概要						課題	
	第1回 自分のキャリアの拠り所を考える						レポート	
	節目における選択基準は何かを理解する							
	第2回 働く職場での環境変化Ⅰ						レポート	
	マネジメントの概念が変わったことへの理解を促進する							
	第3回 働く職場での環境変化Ⅱ						レポート	
	働く職場で求められる人材がシフトしていることへの理解を促進する							
	第4回 将来の働く職場を考える						レポート	
	将来を見据えたキャリアを考える							
	第5回 今後必要とされるキャリアを考える						レポート	
	5年後を見据えた、環境変化分析、働く職場分析、自分の生かし方を検討する							
	第6回 キャリアアジェンダ作成							
これまでの内容を踏まえ、将来へのキャリア計画を作成する								
成績評価方法	各回レポート(50%)、単位修得試験(50%) ライブケース作成用紙の提出、各回レポートの提出、職場分析用紙の提出、キャリアアジェンダ作成用紙の提出が必須。 評価ポイントは、やりたいこと、できること、すべきことのマッチングが出来ていること。							
教科書	著書 『キャリア論 個人のキャリア自律のために会社は何をすべきなのか』 著者 高橋俊介 出版社 東洋経済新報社 出版年度 2003年8月1日 ISBN 9784492531648							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト ・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	教育心理学			担当者	枚田 香
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	ー
学習目標	基本的知識として、教育心理学研究の歴史、発達、パーソナリティ、学習、動機づけ理論について解説する。教育現場でのスキルに焦点を当て、学習指導、教育工学とコンピュータを使った教育、学校での集団心理学、カウンセリングまでの応用知識を習得する。							
学習の進め方	本授業では、指定する教科書の章立てに沿って学習をすすめます。また、デジタルコンテンツで学習を支援します。デジタルコンテンツには、テキストの内容の補足説明やデータを使った実習も盛り込んであります。心理学概論の教科書または心理学の入門書などの書籍で一通りの心理学の基礎知識を確認しておくこと。学習は章ごとに区切られており、各回の内容をしっかりと理解できているか自己評価し、自信がない場合は教材を読み直して復習すること。各章の最後に課題があります。課題を終わらせてから次の章へ進みましょう。							
授業時間外学習	・教科書に目を通しておくこと。							
学習内容	概要						課題	
	序章 教育心理学とは						確認テスト	
	ガイダンスおよびテキストを使って学習するにあたっての予備知識の確認							
	第1章 発達						確認テスト	
	身体の発達と心の発達、発達段階と発達課題、児童期、青年期の心理							
	第2章 学習と動機づけ						レポート	
	古典的条件づけ、オペラント条件づけ、試行錯誤学習、記憶のプロセス、記憶の二重貯蔵モデル、動機づけ							
	第3章 学習指導と教育工学						確認テスト	
	学習指導の理論、教育工学とコンピュータ教育、インターネットと子ども							
	第4章 学級の心理学						確認テスト	
	集団の定義、集団規範と同調行動、集団凝集性、リーダーシップ、学級崩壊、いじめ							
	第5章 教育評価						確認テスト	
	教育評価の種類、テスト作成							
	第6章 脳の発達と心						確認テスト	
脳の細胞、脳と神経回路、発達障害と脳、自閉症の脳機能障害								
第7章 パーソナリティの理解						確認テスト		
パーソナリティとは、類型論、特性論、精神分析的理論、心理検査、知能検査								
第8章 学校におけるカウンセリング						レポート		
スクールカウンセリング、不登校、カウンセリング技法、ソーシャルスキルトレーニング								
第9章 幼児期、児童期、青年期の心理的問題						レポート		
愛着、集団生活、不適応、学習障害、自我同一性								
第10章 心理教育的援助サービス						確認テスト		
特別支援教育、発達障害について、アセスメント、教育現場での支援事例								
第11章 スクールカウンセラーの活用						レポート		
スクールカウンセラーの資格、スクールカウンセラーの活用法								
成績評価方法	各章の課題を含む授業への積極的な参加（50%）、単位修得試験（50%）により総合評価とする。							
教科書	著書 『「使える」教育心理学』 著者 安齋順子/荷方邦夫（編著） 服部環（監修） 出版社 北樹出版 出版年度 2013年 増補改訂版 ISBN 9784779303319							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト ・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	暮らしから見る福祉			担当者	二階堂 達郎
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	2/3以上の出席		単位修得試験実施方法	教室で実施する各テスト			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
学習目標	医療・年金・介護・子育てなど暮らしに密接にかかわる生活保障としての社会保障制度について、基礎的な知識を身につけ、全体像に対する理解を深める。							
学習の進め方	教科書の内容をプリントとパワーポイントを用いて説明しながら、講義を進めていく。適宜、テストを実施し、理解度を確認する。							
授業時間外学習	事前に教科書とプリントに必ず目を通しておくこと。							
学習内容	概要				課題			
	第1回 社会保障の基本概念							
	社会保障を学ぶ意義、社会保障制度の概要について学ぶ。							
	第2回 医療保険①							
	医療保険の仕組みについて学ぶ。							
	第3回 医療保険②							
	被保険者と保険料などについて学ぶ。							
	第4回 医療保険③							
	保険給付や診療報酬・薬価基準などについて学ぶ。							
	第5回 医療保険④				中間テスト			
	高齢者医療制度や国民医療費などについて学ぶ。							
	第6回 介護保険①							
	介護保険の仕組みについて学ぶ。							
	第7回 介護保険②							
	介護保険の保険料や給付などについて学ぶ。							
	第8回 介護保険③				中間テスト			
介護サービスの提供体制について学ぶ。								
第9回 年金保険①								
年金制度の仕組み、被保険者や保険料などについて学ぶ。								
第10回 年金保険②								
老齢年金・障害年金・遺族年金などについて学ぶ。								
第11回 年金保険③				中間テスト				
年金の財政方式などについて学ぶ。								
第12回 雇用保険と労災保険								
雇用労働者を対象としている、雇用保険と労災保険について学ぶ。								
第13回 生活保護と社会福祉制度①								
最低限度の生活を保障する生活保護制度について学ぶ。								
第14回 生活保護と社会福祉制度②								
子ども子育て支援や障害者福祉などの社会福祉制度と社会手当について学ぶ。								
第15回 社会保障の財政と今後の課題				まとめのテスト				
社会保障の財政、現在の社会保障を取り巻く状況や諸問題、および今後の課題について学ぶ。								
成績評価方法	各中間テストの成績(60%)とまとめのテストの成績(40%)を踏まえた上で、総合的に評価する。							
教科書	著書『はじめての社会保障』 著者：棕野美智子・田中耕太郎 出版社：有斐閣 出版年度 2017年3月 14版							
参考書(任意購入)								
必須ソフト・ツール								
備考	受講者上限者数を80名とする。							

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	暮らしの安全と消費者問題			担当者	二階堂 達郎
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	近年、私たちの生活水準は大きく向上し、消費生活は豊かになってきた。しかし、一方で、欠陥商品や公害・薬害などによる消費者被害、あるいは商品やサービスの販売や表示をめぐるトラブルは一向に絶えない。また、多重債務など消費者信用をめぐる問題も大きな社会問題になっている。この授業では、わたしたちの暮らしの安全を守るという観点から、消費者問題の理解を深めるとともに、実際に被害を被った場合にとるべき対処法などについて学ぶ。							
学習の進め方	本授業は、教科書に基づいて学習を進めます。各単元の終わりに確認テストを実施しますので、これをクリアしてから次の回へ進んでください。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、教科書の指定された範囲に目を通して授業に臨んでください。 受講してわかりにくかったことがあれば、かならず教科書を納得いくまで見直しておいてください。 							
学習内容	概要						課題	
	第1回 消費者問題とは何か						確認テスト	
	消費者問題の定義、発生の背景、およびわが国における歴史について学ぶ。							
	第2回 消費者被害の現状						確認テスト	
	消費者被害の実態と特徴について学ぶ。							
	第3回 行政と企業の消費者問題対応						確認テスト	
	わが国の消費者行政の仕組みや企業の対応の現状と問題点について学ぶ。							
	第4回 消費生活と契約						確認テスト	
	契約が消費者取引においてもつ意味や効力について学ぶ。							
	第5回 消費者取引の問題点と無店舗販売						確認テスト	
	無店舗販売を中心とした消費者取引の現状と問題点、および特定商取引法の概要について学ぶ。							
	第6回 特定商取引法の規制対象となる取引						確認テスト	
	特定商取引法の対象となっている取引と規制の内容について学ぶ。							
	第7回 クーリング・オフ制度と消費者契約法						確認テスト	
	クーリング・オフ制度とその行使の仕方、消費者契約法の概要について学ぶ。							
第8回 消費者被害の実態と被害事例①						確認テスト		
特定商取引の規制となる商法について、消費者被害の事例を通じて被害への対処法を学ぶ。								
第9回 消費者被害の実態と被害事例②						確認テスト		
特定商取引の規制となる商法について、消費者被害の事例を通じて被害への対処法を学ぶ。								
第10回 金融サービスと資産形成をめぐるトラブル						確認テスト		
金融サービスと資産形成にかかわる消費者被害の事例を通じて、被害への対処法を学ぶ。								
第11回 不動産取引とその他のサービスをめぐるトラブル						確認テスト		
不動産取引や各種サービスにかかわる消費者被害の事例を通じて、被害への対処法を学ぶ。								
第12回 消費者信用をめぐる問題						確認テスト		
消費者信用についての理解を深め、消費者信用にかかわるトラブルへの対処法を学ぶ。								
第13回 商品・サービスの安全性をめぐる問題①						確認テスト		
商品やサービスの安全にかかわる法的規制や被害の実態について学ぶ。								
第14回 商品・サービスの安全性をめぐる問題②						確認テスト		
商品やサービスの安全にかかわる法的規制や被害の実態について学ぶ。								
成績評価方法	各回の課題 (50%)、単位修得試験 (50%) により総合評価する。							
教科書	著書 『消費者問題入門』 編著者 吉田良子 出版社 建帛社 出版年度 2010年10月25日 3版 ISBN 9784767914428							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	経営学総論			担当者	藤本 秀俊
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	初めて経営学を学ぶ初心者の方を対象に、基本的な知識や理論を知ると共に、企業経営の全体像について理解します。							
学習の進め方	本授業は、教科書を主に活用して学習を進めます。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・企業経営の現状を客観的に掴むため普段から新聞を読んだり、ニュース番組を観たりして、話題になっている企業活動の事例に関心を持って知識を増やしておいてください。 ・大企業や有名企業のみならず、中小企業も含めて、より多くの企業活動の実例を知るようにしましょう。 							
学習内容	概要						課題	
	第1章 企業経営入門						確認テスト	
	学びはじめとして、企業経営とはどのようなことを指すのかについて学ぶ。							
	第2章 企業とは						確認テスト	
	企業はどのようにして社会に役立っているのか、社会に対する役割や現代の企業像について学ぶ。							
	第3章 コーポレート・ガバナンス						確認テスト	
	会社は誰が動かしているのか、会社の形態や機関について学ぶ。							
	第4章 経営理念と戦略						確認テスト	
	企業はどのような方針で動いているのか、経営理念の意味、経営戦略の種類について学ぶ。							
	第5章 組織形態						確認テスト	
	企業はどのような仕組みで動いているのか、組織の形、組織形態の基本モデル、発展パターンについて学ぶ。							
	第6章 組織間関係						確認テスト	
	企業は他の企業とどのように協力しているのか、企業集団、系列、戦略的提携について学ぶ。							
	第7章 生産管理						確認テスト	
企業はどのようにしてモノを造るのか、生産方式、コストダウン、QCサークルなどについて学ぶ。								
第8章 組織構造と職務設計						確認テスト		
社員は仕事をどのように分担しているのか、仕事の分業、調整、効率について学ぶ。								
中間レポート						レポート		
第9章 モチベーションとリーダーシップ						確認テスト		
社員はなぜ働くのか、働くことの意味や動機づけ、リーダーシップについて学ぶ。								
第10章 雇用システム						確認テスト		
社員はなぜ組織にとどまろうとするのか、雇用管理、雇用形態等について学ぶ。								
第11章 報酬制度						確認テスト		
社員はどのような報酬を求めるのか、賃金形態と賃金体系、賃金体系の変遷について学ぶ。								
第12章 人材育成制度						確認テスト		
社員はどのようにして育てられるのか、人材育成の枠組み、キャリア支援、人材育成の課題について学ぶ。								
第13章 マーケティング						確認テスト		
会社はどのようにしてモノを売るのか、マーケティングの意味、マーケティング戦略、ブランドについて学ぶ。								
第14章 国際経営						確認テスト		
企業は海外でどのように経営しているのか、グローバル企業の類型、経営課題等について学ぶ。								

	概要	課題
学習内容	第15章 会計制度	確認テスト
	企業の利益はどのようにして測定するのか、財務活動、会計活動の基本について学ぶ。	
成績評価方法	各回の確認テスト（30%）、中間レポートの結果（30%）、単位修得試験（40%）により総合評価する。	
教科書	著書 『経験から学ぶ経営学入門』 著者 上林憲雄、奥林康司、團泰雄、開本浩矢、森田雅也、竹林明 出版社 有斐閣 出版年度 2011年5月30日 1版 ISBN 9784641183483	
参考書 (任意購入)		
必須ソフト ・ツール		
備考	この科目は、大学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。	

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	経営組織論			担当者	小江 茂徳
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	経営組織論の学説を理解し、説明できるようになること、また自分が所属する身近な組織について、自分なりにどのようにうまく運営していけばよいのか考え、説明できるようになることです。							
学習の進め方	この授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各回の該当する章をあらかじめ読了し、さらにオンデマンド教材を使って学習してください。また、教科書で学んだ箇所のポイントを整理したノートを作成し、知識の定着に努めましょう。各回の学習の最後には、課題を設けていますので、課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に新聞やビジネス雑誌、ニュースに良く目を通しましょう。 ・学習した学説や理論の視点を日常生活に当てはめ、理解を深めるようにしてください。 ・受講後には、講義で学習した概念や理論を使って、現実の経営現象を説明できることを目標としましょう。 							
学習内容	概要						課題	
	第1回 いろいろな組織の捉え方ー多様な組織観を探るー						確認テスト	
	経営組織論にて仮定されてきた10の組織観について学習します。							
	第2回 組織の中の個人① 組織の人間モデル						確認テスト	
	組織を理解する上で重要な人間モデルについて学習します。							
	第3回 組織の中の個人② モチベーション						レポート	
	モチベーション論を通して、組織の参加者のやる気をいかに高めていけば良いのか学習します。							
	第4回 個人と組織のかかわり合い						確認テスト	
	個人は、組織に対して、いかに関与していけば良いのかについて学習します。							
	第5回 集団の機能と組織						確認テスト	
	集団に関して、また集団が持つダークサイドについて学習します。							
	第6回 組織におけるリーダーシップ						レポート	
リーダーシップ論を通じて組織の参加者をいかに導いていけば良いのかについて学習します。								
第7回 組織文化						レポート		
組織文化論を通じて、自分の所属する組織の文化を理解する手法について学習します。								
第8回 経営組織の設計①						確認テスト		
代表的な組織形態のメリット・デメリットを理解することを通じて、組織設計の考え方を学習します。								
第9回 経営組織の設計②						確認テスト		
組織設計における基本的な原理について学習します。								
第10回 経営組織の動態化ー組織変革ー						確認テスト		
組織変革におけるさまざまな阻害要因について学習します。								
第11回 組織全体の方向づけと働く個人						確認テスト		
良い経営戦略や組織のあり方について学習します。								
成績評価方法	各回の課題 (40%)、単位修得試験 (60%)							
教科書	著書 『経営組織 (経営学入門シリーズ)』 著者 金井 壽宏 出版社 日本経済新聞社 出版年度 2011年3月17日 ISBN 9784532105372							
参考書 (任意購入)	参考書は、各回の講義ごとにオンデマンド教材上で掲示しています。							
必須ソフト・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	ライフデザイン ビジネス・キャリア			授業科目名	経済学入門			担当者	大沼 種
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度			
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	-
学習目標	<p>日常生活の様々な場面を題材としながら、身近に感じられる経済学を学ぶ。国内外の金融・経済についての新聞記事やニュースの意味がわかるようになることを目指す。</p> <p>具体的な学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本経済の問題点や課題を指摘し、さまざまな施策を公平に評価できるようになる。 ・自国のみならず、他国の現状も考慮に入れ、経済問題に対するさまざまな解決策を比較検討できるようになる。 ・経済の仕組みや専門用語を一般の人に対して理解できるように、わかりやすく説明できるようになる。 								
学習の進め方	<p>この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。</p> <p>各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p> <p>ただし、第1回は理論的な内容なので、ひととおり学習を進めた後にまわしてもよいでしょう。</p>								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 新聞の経済記事の切り抜きはとも役立ちます。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 経済雑誌(「エコノミスト」「東洋経済」)に毎週記載されている経済指標一覧は、現状を数字でつかむのに便利です。日本経済新聞月曜朝刊にも記載されます。成長率や失業率の推移について時々数字を見比べることをすすめます。</p>								
学習内容	概要				課題				
	第1回 経済とは				レポート				
	<p>経済学の代表的な理論を学ぶ。</p> <p>具体的には、まず初めに経済原論と呼ばれる分野を学習する。経済を一国全体でみるマクロ経済学と、企業行動の視点からみるミクロ経済学があり、数式を中心に相立てられており難しいと言われる。</p> <p>経済科目のある各種試験・資格では必須なので、受験する方はこのレベルまでは押さえておくこと。</p>								
	第2回 金融				レポート				
	<p>金融のマクロ的な含意について学ぶ。</p> <p>具体的には、財政・金融という経済各論の2大分野のうち金融を学ぶ。まず金融の仕組みで必須事項を学び、次に株式と債券について学ぶ。最後にアベノミクスについて説明し、財政、金融が全く別の動きをしているわけではなく現実には連動していることを知る。</p>								
	第3回 財政				レポート				
	<p>財政の本質や国の借金について学ぶ。</p> <p>具体的には、税や社会保障を学ぶ機会が少ないが、給与明細表の内容や社会保障身近な所から財政を理解していく。財政は経済から見た国家そのものと言える。</p>								
	第4回 国際経済の原理				レポート				
	<p>ヒト・モノ・カネの移動について理論的に学ぶ。</p> <p>具体的には、まず為替レートの仕組みを学ぶ。円高・円安とは何か。経済にどのような影響を与えるのだろうか。次にTPPという言葉をよく聞くが、貿易自由化はよいことなのだろうか悪いことなのだろうか。更に世界的な貿易の枠組みについて学ぶ。</p>								
第5回 国際経済の論点				レポート					
<p>現代の国際経済の論点をいくつか紹介する。</p> <p>具体的には、国際経済では企業の海外展開を直接投資と呼び、貿易と並んでとても重要である。この直接投資について学ぶ。次に地球上の経済格差である南北問題の解決への取り組みと現状を学ぶ。次にリーマン・ショックについて各国は被害から立ち直ったように見えるが、その複雑な原因と経過を学ぶ。最後に経済活動が引き起こした地球温暖化対策について学ぶ。</p>									
第6回 規制緩和と民営化				レポート					
<p>ミクロ経済学にもとづく規制緩和の理論や現状を学ぶ。</p> <p>具体的には、世の中には経済活動を法で規制した産業がいくつかあるが、それらについて何がどうなっているのか調べていく。鉄道や空港の民間資本の導入、郵政民営化や電力自由化など、具体例を学ぶ。</p>									
第7回 地域と経済				レポート					
<p>地方消滅が予想される中、各地で行われる努力を紹介する。</p> <p>具体的には、日本の多くの商店街にはなぜシャッターが下りてしまったのだろうか。そしてどうすればよいのだろうか。地域経済の歴史をたどり地域再生への動きを探ってみる。</p>									
第8回 社会と経済				レポート					
<p>多様な人間観が多様な経済観を生み出し、政策の選択の違いにつながることを学ぶ。</p> <p>具体的には、経済学を効率の視点のほかに、もう1つの公正の視点を付け加えて考える。</p> <p>更に2つの視点に対応する小さな政府と大きな政府の理論を紹介する。</p> <p>最後にこの2つの視点から現実を見た場合、日本の政党はどのような分布になるのかを考える。</p> <p>そして国民性の相違との関連を比べる。</p>									
成績評価方法	<p>毎回の課題(小レポート)と単位修得試験(大レポート)</p> <p>【A評価】経済現象の全体的な因果関係が理解できる。</p> <p>幅広く経済問題を理解しており、今後の経済変化を見通した選択肢を想定できること。</p> <p>【B評価】個別の経済現象の因果関係が理解できる。</p> <p>対立する見解を調整し、適切な選択肢を想定できること。</p> <p>【C評価】経済用語の意味の専門的な用法が理解できる。</p> <p>対立する見解のそれぞれの主張を述べることができること。</p> <p>【D評価】経済用語の意味が一般的に理解できる。</p> <p>論点の意味を自分の言葉に置き換えて説明ができること。</p>								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	なし								
必須ソフト ・ツール									
備考	<p>【履修の前提とするもの】 特になし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 特になし</p>								

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	健康心理学			担当者	北島 順子	
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度			★★☆
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—	
学習目標	①健康心理学の基礎的事項に関する知識、及び、隣接領域に関する理解を深める。 ②健康心理学に関する知識を実生活において活用できる。								
学習の進め方	①オンデマンド教材で学習する。 ②教科書で学習する。 ③課題に取り組む。								
授業時間外学習	・設置された課題やレポートを納得できるまで取り組むこと。								
学習内容	概要						課題		
	第1回 健康とは何か	健康の定義・歴史						ディスカッション	
	第2回 健康心理学の意義	健康心理学とは、健康心理学台頭の背景						レポート	
	第3回 健康長寿の秘訣	平均寿命、健康寿命						レポート	
	第4回 健康とパーソナリティ	健康リスク要因とパーソナリティ						レポート	
	第5回 健康とストレス	ストレスとは、ストレスの認知理論						レポート	
	第6回 生活習慣と健康心理	健康習慣、生活習慣病						レポート	
	第7回 食習慣と健康心理	食習慣、健康とダイエット、メタボリック・シンドローム						レポート	
	第8回 食行動と健康心理	肥満とダイエットの心理、摂食障害						ディスカッション	
	第9回 運動習慣と健康心理	運動習慣、運動の身体的・心理的効果						レポート	
	第10回 嗜好行動と健康心理①	喫煙と健康、禁煙の秘訣						ディスカッション	
	第11回 嗜好行動と健康心理②	飲酒と健康、アルコール依存症、薬物乱用防止のために						ディスカッション	
	第12回 睡眠習慣と健康心理	睡眠習慣、睡眠障害						レポート	
	第13回 家庭・学校における健康教育	家庭における健康教育で大切にしたいこと						ディスカッション	
	第14回 職場・地域における健康教育	職場・地域環境、職場におけるメンタルヘルスケア対策						レポート	
	第15回 まとめ	各回のまとめ						ディスカッション	
成績評価方法	各回のレポート・課題 (60%)、単位修得試験 (40%)								
教科書	著書 『健康のための心理学』 著者 小林芳郎編著 出版社 保育出版社 出版年度 2007年6月1日 ISBN 9784938795573								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	ライフデザイン	授業科目名	現代社会と家族		担当者	藤田 道代
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート	単位修得試験試験会場	-
学習目標	家族に関わる事柄は、ともすると情緒的に捉えられることが多い。しかし現代社会においては情緒的な思いだけでは家族を把握することは困難である。そこで家族をめぐる諸現象を客観的かつ複層的に考察できる基礎力を、データ等が豊富な教科書をもとに培いたい。					
学習の進め方	この授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。単位修得試験直前に全ての課題をまとめて提出することなく、定期的に学習するスタイルを身に付けてください。課題には学籍番号、氏名を各回毎に、記してください。課題や単位修得試験のレポート作成で、引用・参考にした文献等は必ず一覧で示すこと。					
授業時間外学習	「学習内容」の各回に該当するテキストの章、節をすべて読んでください。参考書も活用してください。サブノートを作るのも有効でしょう。それらを済ませてから、各回の課題を、上記の「学習の進め方」を参考にし、取り組んでください。					
学習内容	概要					課題
	第1回 家族とは					レポート
	家族を考えると、家族実体からと家族イメージからの双方の視点がある。それらを簡単な統計データも参考にしながら認識し、実体とイメージの変化をも合わせて理解する。					
	第2回 近代の家族 イエと近代家族					レポート
	イエ制度と一括りにして言われるが、時代や地域・階層により異なっていた。それらを具体的に理解し、併せて日本の近代家族との連関を理解する。					
	第3回 近代と家族 近代家族概念					レポート
	第2回での「近代家族」概念を通して、戦前の都市中間層家族から戦後家族の流れを理解する。					
	第4回 社会構造と家族の連関					レポート
	家族の多様化を、脱制度化、個人化、ネットワークという視点から理解する。					
	第5回 社会構造と家族の連関					レポート
	働く事と家族との関わり、その日本の特性と、それらの変化を社会構造との連関で理解する。					
第6回 妻と夫					レポート	
カップルまたは夫婦関係に見られる諸相を具体的に理解する。						
第7回 親になること、親であること					レポート	
「少子化」云々という考え方は少し距離を置いて、「親」になる、「親」であるとはどういう事が考えてみる。						
第8回 家族であること、ひとりになること					レポート	
現代は家族各々のライフステージを家族成員としてだけでなく、「ひとり」で生きる選択もできる。そしてそれはどういう事が考えてみる。						
第9回 家族のこれから					レポート	
特定の家族を排除したり個人を生き辛くしている家族の実相を認識する。						
第10回 開かれた家族					レポート	
「普通の家族」、「家族だから当たり前」という考えを家族幻想であるという考え方が。そして家族のこれからは、この幻想を社会も個人もどのように払拭していくかにかかっていると見える。それらを具体的に考えてみる。						
成績評価方法	単位修得試験(50%)、各回のレポート(50%)					
教科書	著書 『よくわかる現代家族 第2版』 著者 神原文子、杉井潤子他 出版社 ミネルヴァ書房 出版年度 2016年5月 第2版					
参考書(任意購入)	『家族を越える社会学』、牟田和恵 編、新曜社、2,310円(税込)、2009年					
必須ソフト・ツール						
備考	この科目は、大学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。					

メジャー(専修)名				授業科目名	考古学の世界			担当者	川口 宏海
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	考古学の発達史を理解できる。 考古学の研究方法が理解できる。 考古学の研究成果が理解できる。								
学習の進め方	この授業では、教科書を主教材として学習を進めます。 各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 教科書をよく読むこと。 設置された課題やレポートを納得できるまで取り組むこと。 ニュースなどで考古学に関する記事を読むこと。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 考古学の定義と誕生				確認テスト				
	考古学とはどんな学問なのかをつかむ。 考古学とはどのように歩んできたのかを理解する。								
	第2回 日本考古学の成立と発展・発見				確認テスト、ディスカッション				
	考古学とはどのように歩んできたのかを理解する。 日本考古学の成立と発展について理解する。 日本考古学の歩みを画期的な発見の歴史とともに説明する。								
	第3回 遺物・遺構・遺跡				確認テスト				
	日本の考古学は何を研究するのか、という観点から、まずは基本的な遺物・遺構・遺跡の概念を理解する。								
	第4回 生産・祭祀などの遺物・遺構・遺跡				確認テスト				
	生産や祭祀に関わる遺物・遺構・遺跡について理解する。								
	第5回 発掘調査の準備と探査方法				確認テスト				
	考古学の基礎知識にはどのようなものが必要かを理解する。 まず発掘調査の準備について、次いで遺跡・遺構の探査方法について理解する。								
	第6回 発掘調査の実施と記録				確認テスト、プレゼンテーション				
	発掘調査を実施するに当たっての準備と、発掘調査を記録する方法について理解する。								
	第7回 発掘資料				確認テスト				
	発掘資料の整理・結果発表・保存処理はどのように行うかを理解する。								
	第8回 石器と土器の実測図				確認テスト				
出土した遺物の実測図を描くには、どのような知識・技術が必要かを理解する。 まずは石器、次いで土器について理解する。									
第9回 型式学的研究・層位学的研究				確認テスト					
考古学の基本的研究方法である型式学的研究と層位学的研究とはどのようなものであるかを理解する。									
第10回 考古学と理化学的研究方法				確認テスト、レポート					
考古学の年代測定法と遺物の産地同定などに理化学的研究方法が用いられていることを理解する。									
第11回 旧石器時代の文化				確認テスト、ディスカッション					
考古学の研究成果として、まず人類の出現以降の歴史と日本の旧石器時代の始まり、特徴などについて理解する。									
第12回 縄文時代の文化				確認テスト					
縄文時代の始まりや時期区分、生業・集落のあり方などについて理解する。									
第13回 弥生時代の文化				確認テスト					
弥生時代の始まりと時期区分、水稲耕作の伝来、卑弥呼の時代などについて理解する。									
第14回 古墳時代の文化				確認テスト					
古墳時代の始まりや古墳時代の特徴・大陸との交流などについて理解する。									
第15回 歴史時代の文化				確認テスト					
飛鳥・奈良時代以降、江戸時代に至る歴史時代の考古学的成果について理解する。									
成績評価方法	各回の確認テスト (30%)、レポート《第10回》・プレゼンテーション《第6回》(20%)、授業参加[ディスカッション《第2回、第11回》など](10%)、単位修得試験 (40%)								
教科書	著書 『考古学キーワード』 著者 安藤 雅雄 出版社 有斐閣 出版年度 2008年2月15日 改訂版 ISBN 9784641058774								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト ・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	行動の科学			担当者	櫻本 和也
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート（第9回の授業内で課題の提示を行う）			単位修得試験試験会場	—
学習目標	心理学の興りから、現代心理学に至るまでの多彩な領域への理解を深め、人間と心理学との関係性を説明できるようになる。								
学習の進め方	1.本授業では、オンデマンド教材を主教材とする。 2.オンデマンド教材と教科書を用いることで、学習効果が促進される。 3.各回の学習の最後にある課題に取り組む。								
授業時間外学習	・教科書に目を通しておく。(興味や関心を引く領域だけでも)心理学概論をはじめ心理学関連科目を受講している際は、他の授業で取り扱う教科書等にも目を通しておくこと尚良い。 ・本科目は心理学及び隣接領域を広範囲にわたり網羅している。本学習を通して、自身の興味や関心を引いた領域は何であったのか、その気づきを基に学習を進め、「心理学」という学問に対する理解の深化を促して欲しい。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 行動の科学とは				確認テスト				
	「行動の科学」とは、「心理学」とは何か、という疑問に対して心理学の歩みを通して理解を深める。								
	第2回 行動の生物学的基礎				確認テスト				
	エソロジー（比較行動学）の領域から、ヒューマン・エソロジーの知見を中心に、行動の生物学的理解を深める。								
	第3回 感覚と知覚				確認テスト				
	心理学における知覚領域の諸理論をとりあげ、感覚と知覚についての理解を深める。								
	第4回 学習と認知				確認テスト				
	「レスポナント条件付け」と「オペラント条件付け」を中心に、刺激と反応との関連で、学習についての理解を深める。								
	第5回 記憶と情報処理				確認テスト				
	記憶、貯蔵、検索などの過程を含む「記憶」について、情報処理モデルに基いて理解を深める。								
	第6回 欲求と動機づけ				確認テスト				
	人間や動物に表れる行動について、私達の心の中に存在している欲求や、動機付けの観点から理解を深める。								
	第7回 胎児期から児童期の発達				確認テスト				
	生まれて間もない赤ん坊が、新しい環境に対して自立した機能を営むに至る適応の過程について理解を深める。								
	第8回 青年期から以降の発達				確認テスト、ディスカッション				
“疾風怒濤”の時代とされる青年期を中心に、青年期以降の人生を射程に入れて発達の理解を深める。									
第9回 パーソナリティとは				確認テスト					
パーソナリティ理論を体系的に理解することで、ありのままの人間についての理解を深める。									
第10回 パーソナリティの形成と測定				確認テスト					
パーソナリティ形成における論争を踏まえ、質問紙法や投影法などの測定方法についての理解を深める。									
第11回 臨床心理と適応への援助				確認テスト、ディスカッション					
価値観が多様化・流動化する現代社会において、きわめて現代的意義を持つ臨床心理学への理解を深める。									
第12回 社会行動—対人行動—				確認テスト					
多くの人と出会う私達は、どういった要因でその人を判断しているのか、対人認知の観点から理解を深める。									
第13回 社会行動—集団過程—				確認テスト					
集団の中で営まれる事の多い人の生活において、他者が個人の行動に与える影響についての理解を深める。									
第14回 社会行動—社会的現象—				確認テスト					
態度、群衆行動、流言などの社会的な現象について、それぞれの特性やメカニズムから理解を深める。									
第15回 まとめ									
本授業のまとめを通して、これまでの学びを振り返る。									
成績評価方法	第1回から第14回にわたっての確認テスト、ならびにディスカッションへ臨む姿勢を踏まえた平常点（40%）、単位修得試験（60%）、それぞれの結果で総合的に評価をする。								
教科書	著書 『人間理解の科学—心理学への招待—』 著者 鈴木清編 出版社 ナカニシヤ出版 出版年度 2011年3月10日 2版 ISBN 9784888487153								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト ・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	心と身体のセラピー演習			担当者	野波 侑里
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席 教員の指示による学習活動を全て完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
学習目標	心と身体の健康について、社会や文化の影響など医療人類学の基本的な考えを理解した上で、受講者が実生活において健康や病気に対して自らが考え、行動できるようになる。医療と健康について現代医学だけでなく伝統医療や代替補完医療、各種セラピーの基本的な知識を身に付け、それらを視野に入れて行動の選択ができるようになる。心と身体のセラピーの実践演習を通して、日々のセルフケアに役立てることができるようになる。								
学習の進め方	本授業は、連続する2日間のそれぞれ1～4時限に開講する。心と身体の健康について理論と実践を通して学ぶ。日本の能や武道における身体の使い方、五感を使ったエクササイズ、ヨガ、そして日本の禅、インドの瞑想、マインドフルネス、NLPなどの手法の中から、いくつかを選び、実際に体験しながら、身体と心の関係について学びを深める。受講者同士が、自らの体験を共有し、ディスカッションして理解を深める。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・受講前に、医療や健康に関する自らの行動を振り返る。 ・受講後は、授業の中で学んだ実践を実生活の中で応用する。 								
学習内容	概要							課題	
	第1回 医療と健康							ディスカッション	
	医療と健康について、医療人類学の基本的なアプローチを学び、自らの医療観、健康観を振り返る。								
	第2回 心と身体のセラピー							ディスカッション	
	心と身体のセラピーの理論と実践について、日本の伝統的なセラピーと海外との比較を行いながら学ぶ。								
	第3回 実践演習I 「身体から心へ①」							ディスカッション	
	五感に働きかけるセラピー(音楽セラピー・タッピング)、ヨガなどの中から、いくつかの実践演習を通して身体と心の関係について学ぶ。受講者の体験を共有し、ディスカッションする。								
	第4回 実践演習II 「身体から心へ②」							ディスカッション、レポート	
	引き続き、五感に働きかけるセラピー(音楽セラピー・タッピング)、ヨガなどの中から、いくつかの実践演習を通して身体と心の関係について学ぶ。受講者の体験を共有し、ディスカッションし、一日目の体験をまとめる。								
	第5回 禅、瞑想、マインドフルネス 「心から身体へ」							ディスカッション	
禅、瞑想、マインドフルネス、NLPなどの歴史と理論を学ぶ。									
第6回 実践演習III 「心から身体へ①」							ディスカッション		
禅・瞑想・マインドフルネス・NLPなどの中から、いくつかの実践演習をとおして、心と身体の関係について学ぶ。受講者の体験を共有し、ディスカッションする。									
第7回 実践演習IV 「心から身体へ②」							ディスカッション		
引き続き、禅・瞑想・マインドフルネス・NLPなどの中から、いくつかの実践演習をとおして、心と身体の関係について学ぶ。受講者の体験を共有し、ディスカッションする。									
第8回 まとめ							レポート		
2日間の演習のまとめと振り返り、今後のセルフケアへの応用について考える。									
成績評価方法	授業への積極的な参加とディスカッション、レポート課題への取り組み、授業後の実生活への実践報告により総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	授業時に適宜提示する。								
必須ソフト・ツール									
備考	定員50名。身体を動かすワークを行いますので、動きやすい楽な服装で授業に参加してください(女性の方は、スカートよりもスラックスの方が好ましい)。タオルと水などの飲み物を持参してください。学習内容は、受講者の状況により、回の移動、変更の可能性があります。								

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	子育て支援活動事例研究			担当者	寺村 ゆかの
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全授業への出席		単位修得試験実施方法	レポート(授業時に実施)			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
学習目標	子育て家庭の孤立、子育て不安、マルトリートメントやひとり親家庭の増加など、現代の子育て家庭が抱える課題を知り、事例検討やディスカッションを通して、それらの支援のあり方を具体的に考え実践に生かせるようになる。							
学習の進め方	パワーポイントを使用しながらレジュメを中心に授業を進める。グループワークでお互いの考え方を話し合い、現代における子どもとその保護者についての課題や支援策を全員で共有する。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会における子育て支援の課題を文献やマスメディアの情報を通して事前に学習しておく。 授業中の事例検討等で学んだ多様な子育て支援の学びを、それぞれの地域でも実践できるように自己学習を深める。 							
学習内容	概要							課題
	第1回 家族とは何か?							
	家族の概念はいつ生まれたか? 近代家族から現代家族へ 育児観の変遷							
	第2回 子育て家庭と取り巻く現状と課題							
	少子社会がもたらす影響、孤立する子育て家庭やひとり親家庭の実情を知る							
	第3回 グループワーク							ディスカッション
	子育て家庭が抱える困難さについてお互いの考えを共有する							
	第4回 子育て不安とは							
	子育てにまつわる負担感・困難感・焦燥感の要因を知り、それらの予防について考える							
	第5回 うつ病(思春期・妊娠後・産後 更年期・老年期)の現状							ミニレポート
	おもに女性を対象に、思春期からの切れ目のない支援の必要性を考える							
	第6回 マルトリートメント(虐待とネグレクト)							
	マルトリートメントが起こる背景とその予防を考える							
	第7回 愛着障害							
	親子の関係性のあり方を考える							
第8回 グループワーク							ディスカッション	
事例検討								
第9回 子育て相談								
相談を受ける時の心構えと配慮のポイントを学ぶ								
第10回 親性準備性を育む							ミニレポート	
親性とは何か? 中高生の赤ちゃんふれあい体験学習の紹介								
第11回 特別な配慮を必要とする子どもを持つ保護者支援								
病気や障がいがある子どもを持つ保護者が抱える困難さや支援の課題を知る								
第12回 家族に問題を抱える子育て家庭への支援								
DV(ドメスティックバイオレンス)、アルコール等の依存症について知る								
第13回 グループワーク							ディスカッション	
事例検討と発表								
第14回 地域における子育て支援								
保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援の取組を知る								
第15回 地域における子育て支援							最終レポート	
乳児家庭全戸訪問事業・地域子育て支援拠点事業・ファミリーサポートセンター事業等を知る								
成績評価方法	1日目と2日目の最終授業内におこなうミニレポート課題の提出状況と内容、およびグループワークへの参加態度(70%)と3日目の最終レポート(30%)を総合的に評価する。							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	適宜紹介する。							
必須ソフト・ツール								
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義40名							

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	子育てと仕事			担当者	細見 正樹
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てと仕事、女性労働に関する諸問題について、具体的な場面を想定しながら説明することができる。 ・子育てと仕事に関する具体的な問題が生じる原因について推論することができる。 ・子育てと仕事、女性労働に関する具体的な問題の解決策を提案することができる。 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料は必ず目を通しておくこと。 ・ノートを取りながら受講することを推奨。 ・受講後には学んだ内容と、講義中に自身でメモをした内容を読み返して理解してください。また、興味を持った項目については、参考書などでさらに勉強を深めてください。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 女性とキャリア				ディスカッション				
	まず今回の講義の全体像を説明する。その後、人生のステージごとのキャリア論（就職、出産、子育てと女性のキャリアなど）について学ぶ。そのうえで、キャリアデザインに関する理論を学ぶ。								
	第2回 女性雇用と法制度				確認テスト				
	まず、女性雇用のこれまでの流れを説明する。次に、男女雇用機会均等法について説明する。そのうえで、ポジティブ・アクション、セクシャルハラスメントと相談機関についても学ぶ。								
	第3回 子育てと雇用環境				確認テスト				
	まず、男女間格差の実態やM字カーブについて説明する。次に、統計的差別や雇用のミスマッチについて説明する。そのうえで、子育てに対する意識について学ぶ。第1～3回の講義を振り返る。								
	第4回 ワーク・ライフ・バランス				ディスカッション				
	まず、育児・介護などファミリー・フレンドリーも含めて、ワーク・ライフ・バランスを学ぶ。このワーク・ライフ・バランスについての企業の取り組みについても説明する。最後に、ワーク・ライフ・バランスを促進するための職場の条件について学ぶ。								
	第5回 柔軟な働き方				確認テスト				
まず、短時間勤務制度と職場での課題について学ぶ。次に、在宅労働の分類と、メリット・デメリットについて学ぶ。さらに、正規雇用と非正規雇用について学ぶとともに、非正規雇用の基幹労働者、限定正社員など最近の流れについて学ぶ。									
第6回 能力開発				確認テスト					
まず、日本の賃金構造（能力給など）について説明する。次に、企業内の職業訓練や政府の公共職業訓練についても説明する。さらに、学歴・資格と仕事の関係も説明する。第4～6回の講義を振り返る。									
第7回 起業とNPO				確認テスト					
まず、起業家の男女別の特徴や支援策について起業にあたっての課題について説明する。次に、ソーシャル・ビジネスについて述べる。さらに、NPOの制度概要と課題についても述べる。									
第8回 行政の関連施策				確認テスト					
まず、雇用や子育て支援に関する、国、地方自治体の政策について説明する。そのうえで、子育て支援、ワーク・ライフ・バランス施策、女性活用支援策について説明を行う。本講義の全体を振り返る。									
成績評価方法	<p>確認テスト、ディスカッション、単位修得試験（レポート試験）</p> <p>【A評価】・子育てと仕事に関する具体的な問題が生じる原因について、①論理性、②説得力、③明快さの3つのいずれも有する推論をすることができる。</p> <p>・子育てと仕事、女性労働に関する具体的な問題について、①論理性、②実効性、③明快さの3つのいずれも有する解決策を提案することができる。</p> <p>・子育てと仕事に関するかなり多くの知識を有している。</p> <p>【B評価】・子育てと仕事に関する具体的な問題が生じる原因について、①論理性、②説得力、③明快さの3つのうち2つ有する推論をすることができる。</p> <p>・子育てと仕事、女性労働に関する具体的な問題について、①論理性、②実効性、③明快さの3つのうち2つ有する解決策を提案することができる。</p> <p>・子育てと仕事に関する多くの知識を有している。</p> <p>【C評価】・子育てと仕事に関する具体的な問題が生じる原因について、①論理性、②説得力、③明快さの3つのうちいずれか1つを有する推論をすることができる。</p> <p>・子育てと仕事、女性労働に関する具体的な問題について、①論理性、②実効性、③明快さの3つのうちいずれか1つを有する解決策を提案することができる。</p> <p>・子育てと仕事に関するある程度の知識を有している。</p> <p>【D評価】・子育てと仕事に関する具体的な問題が生じる原因について推論をしているが、①論理性、②説得力、③明快さのいずれも有していない。</p> <p>・子育てと仕事、女性労働に関する具体的な問題について解決策を提示しているが、①論理性、②実効性、③明快さのいずれも有していない。</p> <p>・子育てと仕事に関する知識をあまり有していない。</p>								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	『新版 女性のキャリアデザイン：働き方・生き方の選択』、青島祐子、学文社、1,944円（税込）、2007年 『キャリアのみかた一図でみる110のポイント 改訂版』、阿部正浩・松繁寿和 編、有斐閣、2,052円（税込）、2014年 『日本のジェンダーを考える』、川口章 著、有斐閣、2,052円（税込）、2013年 『ワーク・ライフ・バランスを実現する職場』、細見正樹、大阪大学出版会、価格未定、2016年（予定）								
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word								
備考	【履修の前提とするもの】 なし。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 各自が実例をテーマとした事例研究を行うため、会社などの組織で働いた経験や子育て経験を持っているか、身近な親戚や友人から実体験を聞くことができれば、イメージが湧きやすい。								

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	子育てと食育			担当者	山下 陽子
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校等における食育の考え方の拠り所とされる食育基本法の概要を理解し、そこで定義されている6つの食育目標を言えるようになる。 ・6つの食育目標の背景や、目標として掲げられている意味を自分の言葉で説明することができるようになる。 ・食育基本法の考え方を応用して、実生活で自分自身の健康管理はもとより、家族や身の回りの人に対しての、適切な食生活を実践(献立、食材調達、調理)できるようになる。 ・子供の心身の健全な育成のための食について理解し、生活の中で食育が実践できるようになり、実際に子供が6つの食育目標のいくつかを達成できるようになる。 ・食育に関するイベントや教室などに参加する際に、スタッフやボランティアとして運営側の立場で参画できるようになる。 <p>■【参考】6つの食育目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.豊かな人間性を育む 2.生活能力を養う 3.食文化を学び継承する 4.健康に生きる知恵を学ぶ 5.環境の大切さを学ぶ 6.食料自給力を高める 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・受講は、各自で定期的に学習するスタイルを身につけること。 ・設置された課題やレポートを納得できるまで取り組むこと。 ・口頭から調理に携わること。 ・食育に関連するシンポジウムや講演会等にも積極的に参加すること。 ・巷に流れる食や健康に関する情報について、広くアンテナをはるとともに、正しく理解できているかどうか、良く考えながら情報収集すること。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 生命の健康維持・増進と食との関わりについて				確認テスト				
	人の生命の誕生、成長、健康維持増進に欠かす事の出来ない食についての総論を解説する。								
	第2回 なぜ今食育なのか				ディスカッション				
	高度多様化した現代の食生活で、改めて食育の重要性が見直されている理由について解説する。現代の食事情が招いたさまざまな疾病や弊害の事例や社会問題について、特に子供の成長に重点を置いて解説する。								
	第3回 風土に根ざした伝統的食文化について				レポート				
	日本の伝統的で風土に根ざした食べ方や習わし、食生活、食文化について解説する。文化・歴史的背景からも、日本の食(伝統的和食、地域食、行事食)について解説する。伝統的な食事や習わしが、子供の健康な心と身体の成長にもたらす影響について解説する。								
	第4回 風土に根ざした現代における健全な食生活について				プレゼンテーション				
	現代社会に対応させた、風土に根ざした日本の食(和食)と健康について解説する。								
	第5回 現代の高度情報社会の正しい食情報理解と食生活について				ディスカッション				
経済・情報化社会の急速な進歩で、あらゆる食情報が氾濫する中で、正しく食情報を選択するための情報と、メディアやコマーシャルの利点と欠点について解説する。食の安心・安全についても解説する。									
第6回 子育て家庭のヘルシー食生活実践Ⅰ(献立・食材選び・お買い物編)				レポート					
第1回から第5回までを踏まえて、実生活で健康的な子育てと食生活を実践するための、献立方法・食材調達方法について解説する。									
第7回 子育て家庭のヘルシー食生活実践Ⅱ(調理編)				レポート					
第1回から第5回までを踏まえて、実生活で健康的な子育てと食生活を実践するための、調理方法とそのコツについて解説する。									
第8回 次世代・未来へ繋ぐ食育実践について				レポート					
全体のまとめと、次世代や未来に健全な食を継承するために、今私たちがすべき食生活について解説する。子供の食育方法についての具体例を解説する。									
成績評価方法	<p>課題、単位修得試験(レポート試験)</p> <p>Web試験での回答率や、レポート課題の中での記述内容から、食についての基本的な知識についての習得度合いを測る。また、4つのレポート課題と、ディスカッション、プレゼンテーション、そして単位修得試験の記述の中で、健康な食の実践、応用の度合いを測る。</p> <p>【A評価】B評価の基準と以下の項目を満たすこと。</p> <p>各課題や試験において活発に発言するとともに、食育現場でも応用出来るようなリーダーシップを発揮していること。あらゆる生活パターンに対応できる子育てと食事管理の具体例を考案する高い能力と技術が備わっていること。プレゼンにおいて、他者の食生活改善を促すことのできるプレゼンができていないこと。</p> <p>【B評価】C評価の基準と下記の項目を満たすこと。</p> <p>各課題や試験において、前向きで積極的な発言を行うこと。自分自身の生活パターンで実践できる望ましい食生活を考え、実践できる能力と技量が備わっていること。現在の生活パターンで、食生活の問題点を把握しており、今後の改善策について具体的な解決方法を見出していること。</p> <p>【C評価】D評価の基準と以下の項目を満たすこと。</p> <p>各課題や試験において、間違っても良いので何らかの回答を行うこと。6つの食育目標を理解し、実施したこともしくはこれから実践しようと思う具体例を考える能力が備わっていること。</p> <p>【D評価】各課題や試験において、積極性は見られないが、何らかの反応があること。レポート課題を提出していること。単位取得試験を実施していること。</p>								
教科書	なし								
参考書(任意購入)									
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel、Microsoft Office PowerPoint								
備考	<p>【履修の前提とするもの】</p> <p>Word、Excel、PowerPointのソフトを利用可能な状態にあること、かつ、基本的な操作を修得していること。</p> <p>自身で調理した献立を撮影し、提出する課題がある。自宅、または、どこか利用可能な場所最低限の調理設備を有していること。</p> <p>※想定する調理器具は、コンロ(ガス、電気、カセット可)、鍋、包丁、まな板など</p> <p>【履修にあたっては以下のことが望ましいもの】</p> <p>とくになし</p>								

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	コミュニケーション概論			担当者	森川 知史
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	確かな人間関係を築き、育てるためのコミュニケーションのあり方を考えたい。他者とコミュニケーションすることで、私たち自身に起こる様々な変化についても考えたい。私たちが日常的に行っているコミュニケーションについて、改めて見つめ直し、考え直すきっかけにしたい。							
学習の進め方	オンデマンド教材を主に活用して学習する。各回は教科書通りの順序・内容で展開するので、教科書もよく読んで学習を進めてほしい。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストをよく読んで学習すること、ノートを取りながら受講することを推奨。 ・受講は規則的に行い、まとめて一気に学習することのないように注意すること。 ・毎回の小テストや最終レポートに取り組み、正解に至らないときには改めてその回の講義を見直すこと。 							
学習内容	概要			課題				
	第1回 はじめに			小テスト				
	科目の目的と概要・小テスト 問題提起(「ことば」「記号」とは?)							
	第2回 ことばとはなにか			小テスト				
	コミュニケーションにも様々な種類があることを知り、人間のコミュニケーションとはどういうものかを考える							
	第3回 ことばと身体			小テスト				
	「ことば」が人間を人間にしている、ということを考える							
	第4回 ことばと身体のコミュニケーション			小テスト				
	ことばを用いるコミュニケーションとことばを用いないコミュニケーションを理解する							
	第5回 交流としてのコミュニケーション			小テスト				
	コミュニケーションを「人間的な交流」という観点から考える							
	第6回 モノとイメージのコミュニケーション			小テスト				
	モノがイメージとしてコミュニケーションに関わっていることに気づく							
	第7回 コミュニケーションのダイナミズム			小テスト				
	関係し影響し合って、相手も自分も成長するものとしてのコミュニケーションの働きに目を向ける							
	第8回 意味とコミュニケーション			小テスト				
私たちの日常を支えている「意味」というものについて考え、コミュニケーションの展開の中で立ち現れる「意味」にも言及する								
第9回 コミュニケーションのいま			小テスト					
私たちのコミュニケーションの「いま」について考える								
第10回 メディアとコミュニケーション			小テスト					
私たちのコミュニケーションに介在するさまざまなメディアを理解する								
第11回 「わたし」とコミュニケーション			小テスト					
対人関係が多種・多様化する現代、「わたし」も多様化・分散化していることを理解する								
第12回 よりよいコミュニケーション			小テスト					
コミュニケーションは生きていく上で極めて重要なものだが、そのあるべき姿をどうかを考える								
第13回 同質な群れからの脱出			小テスト					
確かな人間関係を育てるものとしてのコミュニケーションのあり方を考える								
第14回 人間関係をどう育てるか			小テスト					
人間とはどのような存在か? 人間が人間として成長して「自我」を形成していく過程を「欲望」キーワードとして考える								
第15回 まとめ			レポート					
コミュニケーションについて基本的な考え方・とらえ方を知ったので、自分なりの答をさがすために、常に問い続ける姿勢を忘れないように								
成績評価方法	平常点(全14回の小テスト)(40%)と単位修得試験(60%)							
教科書	著書 『確かな人間関係のためのコミュニケーション論』 著者 森川知史 出版社 京都書房 出版年度 2011年3月1日 初版 ISBN9784763726049							
参考書(任意購入)								
必須ソフト・ツール								
備考								

メジャー(専修)名				授業科目名	コンピュータサイエンス			担当者	佐々木 英洋
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	コンピュータサイエンスは、コンピュータのハードウェア、オペレーティングシステムなどの基本ソフトウェア、応用ソフトウェア、さらに、コンピュータの効果的な利用法まで、コンピュータに関連する広い領域をカバーする学問領域である。また、並列コンピュータ、ネットワークコンピュータなどに対する新たな計算パラダイムが提案されるたびに、コンピュータサイエンスがカバーする領域は拡張しつつある。本講義では、これらの広い領域を横断的に、さらに、基礎から応用までを縦断的に深く探究し、平易に解説し、現代社会の様々な分野で必要とされる知識を学ぶことを目標とする。								
学習の進め方	本授業は、教科書を主に活用して学習を進めます。学習を進めるうえで重要なポイントや補足説明をデジタル教材に掲載しますので活用してください。また、各回の確認テストはすべて受験して下さい。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキストに出てくる用語の意味を調べる。特に用語が外来語・英語等の外国語の場合、単語ごとの逐語訳を調べ、用語の意味につながることを理解すること。 ・テキストに出てくる用語が採り上げられている新聞・雑誌・ニュース等を調べ、どのように社会で使用されているかを理解すること。 ・テキスト・授業に出てきた計算問題の復習を行うこと。 ・関連する図書（特にITパスポート試験に関する書籍）をよく読んで内容を理解すること。 								
学習内容	概要				課題				
	第1章 コンピュータの基礎知識				確認テスト				
	コンピュータの基礎知識、情報とデータについての基本的事項を学ぶ								
	第2章 ハードウェア				確認テスト				
	パソコンの構造と、それらを取りまく機器についての基礎知識を学ぶ								
	第3章 ソフトウェア				確認テスト				
	ソフトウェアの種類と役割について学ぶ								
	第4章 データ形式とマルチメディア				確認テスト				
	文字・画像・音声・動画のデータ量・圧縮形式について学ぶ								
	第5章 コンピュータと情報システム				確認テスト				
	情報システムについての知識・役割を学ぶ。								
	第6章 通信ネットワーク				確認テスト				
コンピュータネットワークの様々な知識を学び、それらがどのように社会で生かされているかを学ぶ									
第7章 インターネットとセキュリティ				確認テスト					
インターネットに関する基礎知識と、ネットワークセキュリティについて学ぶ									
第8章 データベースシステム				確認テスト					
データベースの概要と様々な演算について学ぶ									
第9章 システムの設計と開発				確認テスト					
システム設計の概要、より効率的なシステム設計について学ぶ									
第10章 システムの運用と管理				確認テスト					
システムの運用と管理に関する様々な知識について学習する。									
成績評価方法	確認テスト[5%×10回] (50%) 単位修得試験 (50%)								
教科書	著書 『コンピュータと情報システム(第2版)』 著者 草薙信照 出版社 サイエンス社 出版年度 2015年9月25日 2版 ISBN 9784781913698								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	コンピュータと通信			担当者	中崎 修一
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	ー
学習目標	情報通信ネットワークの長所、短所を説明できる 自分のコンピュータのネットワーク設定ができるようになる 情報通信技術を活用したシステムの検討ができる								
学習の進め方	本授業では、デジタル教材を主に活用して学習を進めます。学習をはじめるときには必ず、各回の学習概要を閲覧してから学習を進めてください。参考書については、デジタル教材では取り扱わない情報も掲載されていますので、学習を深めるためにも是非ご覧ください。回ごとに確認テストがありますので確認テストをクリアしてから次の回へ進みましょう。								
授業時間外学習	・関連する参考図書をよく読んで取り組むこと。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 情報社会とネットワーク概説				確認テスト、意識調査				
	情報社会とネットワーク								
	第2回 情報通信ネットワーク				ディスカッション、確認テスト				
	情報、情報通信、情報通信ネットワーク、通信階層モデル、クライアント/サーバシステム								
	第3回 通信の基礎				確認テスト				
	2進数・16進数、情報通信、通信のしくみ								
	第4回 伝送媒体				確認テスト				
	伝送媒体、プロトコル								
	第5回 通信制御				確認テスト				
	データリンク、パケット、MAC フレーム、イーサネット、データリンク層								
	第6回 IP(Internet Protocol)				確認テスト				
	ARP、IP、ネットワーク層								
	第7回 TCP、UDP				確認テスト、レポート				
	TCP、UDP、トランスポート層								
第8回 通信用アプリケーション(1)				確認テスト					
Web ページ、HTTP(Hyper Text Transfer Protocol)、アプリケーション層									
第9回 通信用アプリケーション(2)				確認テスト					
電子メール、SMTP、POP、IMAP									
第10回 インターネット				確認テスト					
TCP/IP、インターネット									
第11回 ブロードバンド				確認テスト					
ADSL、FTTH、無線通信									
第12回 LAN 構築				確認テスト					
LAN、Windows、Macintosh、Linux									
第13回 セキュリティ				確認テスト					
セキュリティ、Firewall、NAT、通信ポート、アドレス変換									
第14回 様々な問題点				ディスカッション、確認テスト					
問題、ネットワーク運用管理									
第15回 応用技術とまとめ				確認テスト、アンケート					
身近なネットワーク応用技術の紹介									
成績評価方法	授業期間内完了 (30%)、レポート課題 (2回) (30%)、単位修得試験 (40%)								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	『情報がひらく新しい世界④ 情報ネットワークとLAN』、長坂康史、共立出版、2,835円(税込)、2001年								
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	財務分析			担当者	上野 精一
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験 実施方法	Web試験			単位修得試験 試験会場	—
学習目標	財務分析の基本的枠組みを解説した上で、ケーススタディとして財務分析の実践を行うことにより、大企業のみならず身近な中小企業の財務分析ができるようになることを学習目的とする。							
学習の進め方	教科書の内容をデジタル教材で補完することをベースに、疑問点等は科目掲示板等での質疑応答で理解を深める。受講生間のコミュニティとして科目掲示板を利用する。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・受講前には、教科書を通読しておき、不明な用語等は調べておくこと。 ・受講後は、ネットで興味のある上場企業のホームページのIR情報から財務諸表を見つけ、財務分析にチャレンジしてください。 							
学習内容	概要						課題	
	第1講 財務諸表の見方、読み方、基礎知識						小テスト	
	専門用語の理解							
	第2講 貸借対照表の見方、読み方 基礎						小テスト	
	専門用語の理解							
	第3講 貸借対照表の見方、読み方 実践						小テスト	
	ケーススタディ							
	第4講 損益計算書の見方、読み方 基礎						小テスト	
	専門用語の理解							
	第5講 損益計算書の見方、読み方 実践						小テスト	
ケーススタディ								
第6講 キャッシュフロー計算書の見方、読み方 基礎・実践						小テスト		
専門用語の理解、ケーススタディ								
成績評価方法	各講の小テスト（30%）と単位修得試験の結果（70%）により評価する。							
教科書	著書 『「1秒!」で財務諸表を読む方法【実践編】』 著者 小宮一慶 出版社 東洋経済新報社 出版年度 2010年12月16日 ISBN 9784492601907							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト ・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	心理学 ビジネス・キャリア		授業科目名	産業・組織心理学			担当者	服部 泰宏
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★	
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート	単位修得試験 試験会場	-	
学習目標	組織の中で働くということについて「考える力」を養うことを目指す。各回の講義で、組織の中で働くということについて考えるための理論・視点を提供する。みなさんに目指してほしいのは、そうした理論・視点を丸暗記することではなく、それらを使って組織の中で起こっていることについて「考える力」を身につけることである。							
学習の進め方	この授業では、デジタル教材を主教材として学習を進める。各回の学習の最後に提示される課題をクリアし、次の回に進む。 1. デジタル教材での学習 2. 指示に従い、教科書を講読 3. 課題に取り組む							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する参考図書をよく読んで取り組むこと。 ・当該講義後には、講義内容に関連する実例(新聞、TV、Webなど)に目を通すこと。 ・参考図書で自己学習することと、ノートを取りながら受講すること。 ・設置された課題やレポートを納得できるまで取り組むこと。 							
学習内容	概要				課題			
	第1回 イントロダクション				レポート			
	「産業・組織心理学」とはどのような学問か、どのような歴史的背景の中で研究が蓄積され、今日この学問を学ぶ意義はどこにあるのか、ということについて理解することを目指す。							
	第2回 人のやる気について考える①：モチベーションの3系統				レポート			
	第2回から第4回までは、モチベーション理論を紹介し、人のやる気について考える。第2回では、モチベーション理論の体系について理解し、その全体像を把握することを目指す。							
	第3回 人のやる気について考える②：緊張系のモチベーション				レポート			
	何が欠乏していたり、まだ達成していない課題を自覚したりするとき、私たちはそうした緊張状態を解消しようとして心理的エネルギーを生じさせる。第3回は、このようなマイナスのエネルギーに基づくやる気について考察し、こうした側面のやる気は私たちに必要不可欠であることを理解することを目指す。							
	第4回 人のやる気について考える③：希望系のモチベーション				レポート			
	人はマイナスのエネルギーによってだけでなく、積極的な夢、希望、目標、憧れ、自己実現、楽しみなどによっても心理的エネルギーを発生させる。第3回の講義内容と合わせて、私たちのやる気が単一の理論では必ずしも説明できないことを理解することを目指す。							
	第5回 仕事人生について考える①：キャリアとは何か				レポート			
	私たちは「今日は頑張った」「最近やる気がない」といった短期的な視点だけでなく、長い仕事人生をどう過ごすか、「10年後に私は何をしているだろうか」といった長期的な視点を持つ必要がある。第5回から第8回では、長期的な仕事人生について考える。第5回では、キャリアとモチベーションの違いを説明したうえで、キャリアに関する理論が大きく分けて3つの系統に分類できることを説明する。自分自身の仕事人生について考える際、キャリアという視点がいかなる意味で有効なのかということを理解することを目指す。							
	第6回 仕事人生について考える②：ジグソーパズルとしてのキャリア				レポート			
	第6回はキャリアに関する3系統の理論のうち、ジグソーパズルとしてのキャリアと呼ばれるものについて説明する。個人の特性や能力と様々な仕事に必要な特性や能力をいかにマッチングさせるか、ということについて理解することを目指す。							
	第7回 仕事人生について考える③：階段としてのキャリア				レポート			
	私たち人間の成長は、成人とともに終わるのではなく、生涯にわたって続く。年齢を重ねるごとに私たち乗り越えるべき課題が現われ、それを克服することによって少しずつ成長していくことができる。第7回は、仕事人生の発達の側面について理解することを目指す。							
第8回 仕事人生について考える④：旅としてのキャリア				レポート				
私たちの仕事人生は、あらかじめ決められたルートを進んでいくとは限らない。仕事人生は、時として山や谷を越えたり河を渡ったりする旅のように予測できないものだ。第8回では、仕事人生の偶発的で予測不可能な側面、それらに対処する方法について理解する。								
第9回 集団について考える①：集団の功罪				レポート				
私たちは、個人の限界を克服するために、物事に集団で取り組む。ただし、集団で物事に取り組むことによって、それを個人で行っているときには起こらないような問題点も発生する。第9回から第11回までは、こうした集団の功罪について考えていく。第9回では、集団の功罪について概観する。								
第10回 集団について考える②：集団による課題達成				レポート				
集団の物事に取り組むことが必ずしも優れた結果を生むとは限らないということを、欧米の実証研究を紹介しつつ説明する。どのような場面で、集団は非効率になるのか。それはなぜか。こうした点について理解することを目指す。								
第11回 集団について考える③：集団とリーダーシップ				レポート				
集団は時として非効率になるが、それは効果的なリーダーシップによってある程度解消できる。第11回は、集団とリーダーシップのかかわりについて理解することを目指す。								
第12回 リーダーシップについて考える①：リーダーシップとは何か				レポート				
リーダーシップとは何か。リーダーシップとは一体どこにあるのか。こうした素朴な問題について考えた上で、リーダーシップの定義を行う。さらに、リーダーシップ理論には大きく分けて2つの系統があることを説明する。私たちが普段何気なく使っているリーダーシップとは、一体どのような現象なのかということについて理解することを目指す。								
第13回 リーダーシップについて考える②：特性理論と行動理論				レポート				
第13回では、リーダーシップ理論の古典的な2つの系統について説明する。リーダーシップとは人が生まれつき備わった資質・能力であると主張する特性理論と、リーダーシップとは誰もが経験や学習を通して獲得する行動パターンだと考える行動理論とを紹介する。おなじリーダーシップという言葉をめぐる様々な視点が存在すること、それらはそれぞれに正しいが、どちらも完全ではないということを理解することを目指す。								
第14回 リーダーシップについて考える③：新しいリーダーシップ理論				レポート				
今日のような変化の激しい時代においては、古典的なリーダーシップ理論のようなリーダー像とは異なった種類のリーダーが求められる。第14回では、今日の産業組織にとって必要な、新たなリーダーシップのあり方について考える。リーダーシップという現象には、唯一最善のものなどなく、その時代や状況によって優れたリーダーシップが異なるということを理解することを目指す。								
第15回 人と人のつながりについて				レポート				
第15回では、人と人のつながりについて科学的に考える。「人脈が大事だ」とよく言われるが、とにかく知人を多く作ればそれでよいのか。人から人への「口コミ」による情報は、なぜあれほど早くしかも広範囲に広がっていくのか。こうした人と人のつながりに関する素朴な問題を、科学的に理解することを目指す。								
成績評価方法	成績は、次の項目を総合的に評価します。 (1) 第1回から第15回までの「課題」の実施状況 (30%) (2) 単位修得試験 (70%)							
教科書	著書 『産業・組織心理学エッセンシャルズ』 著者 田中堅一郎(編) 出版社 ナカニシヤ出版 出版年度 2013年10月10日 改訂3版 ISBN 9784779505638							
参考書 (任意購入)	講義内で適宜指定します。							
必須ソフト・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	ジェンダーと社会			担当者	藤田 道代
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	2/3以上の出席			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
学習目標	ジェンダーとは「それぞれの社会において社会的・文化的に形成された性別や性差についての知識」と、ここでは簡単に説明しておこう。その具体的内容は時代や地域によって異なっている。その結果、現代社会で様々な矛盾を起こしている。しかし、「ジェンダー」という言葉自体の認識も日本では十分ではなく、ともすると情緒的な反応も未だ見られる。そこで、統計資料やビデオなども用いて、客観的にジェンダーについて考察できる力を養いたい。								
学習の進め方	ジェンダーに関わる事柄は履修生個々の事柄でもある事を自覚し、基礎的な講義を基に履修生相互のディスカスを積極的に行い、ジェンダーに関わる諸問題を掘り下げていく。そのためにテキストを講義までに読んでおくこと。レポート試験にしっかりと取り組んでください。書き方は、el-Campusにある、「レポートの書き方」などを参考にして取組むことを推奨する。								
授業時間外学習	スクーリングまでに、テキストの第5章までは少なくとも読んでおくこと。その後は、参考文献、授業内容にかかわる事例などを新聞や雑誌等で調べる。履修生自身が関心を持っているテーマ等があれば、それについて調べてレジュメを作成し問題提議をし、ディスカッションをできるまでの準備をすれば、第2回目のスクーリング時に機会を供する。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 授業オリエンテーション ジェンダーとは?①								
	「ジェンダー」に関する代表的な理論の概要を紹介								
	第2回 ジェンダーとは?②								
	ジェンダーに関する具体的な考察を通し、履修生個々の問題でもあることの確認。								
	第3回 ジェンダーとは?③								
	性の多様性について								
	第4回 身近な日常生活をチェックする								
	履修生自身の日常からジェンダー事例を考察しあう。								
	第5回 身近な日常生活チェックと、小まとめ。								
	履修生の考察をもとにグループでディスカスし発表。								
	第6回 国際比較から日本の現状把握とその考察①								
	HDI、GII、GGIの指標から日本の状況を概観する。								
	第7回 国際比較から日本の現状把握とその考察②								
	GII、GGIのインデックスをデータで具体的に確認する。								
第8回 国際比較から日本の現状把握とその考察③									
日本の状況を履修生で検討する。(具体的な問題提議の機会提供)									
第9回 家族とジェンダー①									
家族とジェンダーについて「ケア」という視点も取り込んで具体的に考察する。									
第10回 教育、家族、就業とジェンダー②と、小まとめ									
6回目以降の授業内容をもとにグループでディスカスし発表する。									
第11回 日本のジェンダー支援									
これまでの政策と支援の内容を具体的に検討する。									
第12回 日本のジェンダー支援と諸外国との比較検討									
代表的な事例を中心に考察する。									
第13回 日本のジェンダー支援と今後の課題									
グループでディスカスしまとめる。(具体的な問題提議の機会提供)									
第14回 1回目からの授業をふまえてのまとめ									
グループディスカスの発表。									
第15回 今後の課題									
グループ発表をベースに現時点での課題を考える。									
成績評価方法	単位修得試験の結果(70%)、授業への主体的参加度(授業での質問や意見、提出ペーパー内容、自発的レポート提出等)(30%)。								
教科書	著書 『ジェンダーの社会学入門』 著者 江原由美子・山田昌弘 出版社 岩波書店 出版年度 2010年6月 ISBN 9784000280488								
参考書(任意購入)	牟田和恵編『家族を超える社会学』新曜社、落合恵美子『21世紀家族へ第3判』有斐閣選書。その他、授業中に適宜指示する。								
必須ソフト・ツール									
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義40名								

メジャー(専修)名				授業科目名	色彩論Ⅰ			担当者	山下 真知子
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★		
単位修得試験 受験資格	全ての課題が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web試験			単位修得試験 試験会場	—
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・光と色の関係について説明できる ・色に関する基本的な知識項目について、それぞれの意味をせつめいできる ・カラー・コミュニケーションの主な方法を理解し、その手法を用いて「色」を適切に表現できる ・色彩の実用価値や効果を知ること、人間の生活を営む上で「色彩」を有効に用いることができる 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。関連する参考図書をよく読んで取り組むこと、参考図書で自己学習すること、ノートを取りながら受講することを推奨します。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	・関連する参考図書をよく読んで取り組むこと、参考図書で自己学習すること、ノートを取りながら受講することを推奨します。								
学習内容	概要								課題
	第1回 光と色								ミニテスト
	光が「可視光線」と呼ばれる電磁波の一種であること、太陽光は何色なのか、太陽光のプリズムについて、学習する。								
	第2回 色が見えるしくみ								ミニテスト
	物体の色と光の関係性、光源色と物体色の違い、物体によって色の見え方が異なることを学習する。								
	第3回 光と物体と眼								ミニテスト
	眼の構造を知り、眼が色を認識する過程、視細胞の働きと種類について、加齢による見えの変化や色覚異常について学習する。								
	第4回 カラー・コミュニケーションの方法-[1]								ミニテスト
	色を伝達する時のさまざまなルール、方法、色の三属性について学習する。								
	第5回 カラー・コミュニケーションの方法-[2]								ミニテスト
	色見本について知り、それを用いて色を伝える方法を学ぶ。また、色名の種類やそれぞれの特徴などを学習する。								
	第6回 カラー・コミュニケーションの方法-[3]								ミニテスト
	代表的な表色系について学習する。								
	第7回 カラー・コミュニケーションの方法-[4]								ミニテスト
	CCIC表色系とPCCS表色系について学習する。								
第8回 配分の分類と手法-[1]								ミニテスト	
配色を理解する手掛かりとして、マウスを使った演習で、変化と統一とはどのようなことかを体験する。また、配色の意味や色相環を用いて色と色の関係を学習する。									
第9回 配分の分類と手法-[2]								レポート	
色の三属性による配色分類の種類を学習する。また演習では、実際に学習したことを配色し、理解を深める。									
第10回 配分の分類と手法-[3]								レポート、ミニテスト	
明度差、彩度差、トーン差による配色のルールを学び、演習を通して美しい配色の手法を学習する。									
第11回 色彩調和論-[1]								ミニテスト	
著名な色彩の研究者が著した調和論及び、それぞれの特徴を学習する。									
第12回 色彩調和論-[2]								ミニテスト	
色彩調和論の4つの原理を学習する。									
第13回 測色								ミニテスト	
測色の目的、種類とそれぞれの特徴を学び、分光反射率曲線から色相をみてとることを学習する。									
第14回 混色								ミニテスト	
色光、色料の三原色を学び、混色の意味や混色の種類を学習する。									
第15回 色の2つの動き								ミニテスト	
色彩の非視覚的な働きを画面で体験しながら、本授業のまとめを学習する。									
成績評価方法	各回のミニテスト20%、単位修得試験80%								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト ・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	社会心理学			担当者	森下 朝日
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★	
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	—
学習目標	人と人との相互作用や、社会の一員としての自分のあり方について考えることができる。							
学習の進め方	オンデマンド教材を主教材として学習を進める							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・普段からさまざまな社会事象に関心を持ち、問題意識を持って取り組むこと。 ・教科書に目を通し、受講内容に該当する項目を読み込んでおくこと。 ・用語や定義を丸暗記するのではなく、自らの日常に照らし合わせてイメージしながら振り返ること。 ・ディスカッションにおいては、できるだけ多くの意見に目を通すこと。 							
学習内容	概要				課題			
	第1回 社会的認知 (1) 私たちの「もの見かた」				確認テスト			
	私たちが何かを理解し、判断するとき、頭の中では、どのような情報処理がなされているのだろうか。この回では、私たちが、あるものを見て、あるアクションを起こすまでの認知過程について学ぶ。さらに、知覚と記憶スキーマのしくみと特徴について学ぶ。							
	第2回 社会的認知 (2) ヒューリスティックと判断の偏り				確認テスト			
	私たちの社会的判断には、さまざまな形で偏りが生じやすい。この回では、判断の偏りを生じさせている人間の思考経路であるヒューリスティックについて学び、ヒューリスティックによって生じるさまざまな認知バイアスについて学ぶ。							
	第3回 社会的態度 (1) 態度とステレオタイプ				確認テスト			
	この回では、社会心理学を学ぶ上で重要な概念である「態度」について学習する。私たちが日常生活を営む上で、態度がどのように使われ、どのような役割を果たしているかを知り、態度と深いかかわりを持つステレオタイプについて、その概念や機能、性質を学ぶ。							
	第4回 社会的態度 (2) 説得と態度変容				確認テスト			
	前回に引き続き、態度について学ぶ。認知のバランスが態度にどのような影響を与えるかを学んだ上で、説得的コミュニケーションがどのように態度を変容させるのか、その過程や機能について学習する。							
	第5回 原因の帰属 (1) 帰属理論と帰属スタイル				確認テスト			
	社会的認知や動機づけに大きな影響を及ぼす「帰属」について学ぶ。まず、帰属の定義と原理について学び、帰属についての基礎知識を身につけたうえで、自分自身の帰属スタイルを確かめる。							
	第6回 原因の帰属 (2) 帰属がやる気に与える影響				ディスカッション			
	何かに成功したときや失敗したとき、帰属の仕方によって私たちのやる気がどのように変わるかを学ぶ。さらに、帰属の結果、無力感に陥ってしまったとき、どのようにすれば克服できるか、さまざまなアプローチから考える。							
	第7回 対人関係における心理 (1) 対人魅力とその発展				確認テスト			
	対人関係における対人魅力について学ぶ。私たちが誰かに好意を抱くとき、どのような要因が関係しているか、また、そこから対人関係はどのように発展していくかについて学習する。							
第8回 対人関係における心理 (2) 対人葛藤とその解決				確認テスト				
前回とは逆に、この回では、対人関係がこじれてしまったときに生じる対人葛藤について学ぶ。まず、対人葛藤のタイプと解決方法、そこで生じる認知バイアスについて学習し、その上で、葛藤の様相が帰属の仕方によってどのように変わるかを学習する。								
第9回 集団における心理 (1) 集団とは何か				確認テスト				
私たちは、社会生活を営むうえで、常に何らかの集団に属している。この回では、集団とはどのようなものか、人はなぜ集団に所属するのか、集団はどのようにして形成され、どのような機能を持つかなど、集団についての基本的概念を学ぶ。								
第10回 集団における心理 (2) 集団から受ける影響				確認テスト				
個々人が集団から受ける影響について、集団凝集性、すなわち「集団としてのまとまり」を軸に学習する。まとまりが強ければ、その集団は優れた成果を上げることができるのか。また、優れた成果をあげるための集団意思決定は、どのようになされるべきか。これら2点について考える。								
第11回 集団における心理 (3) 同調と少数派の影響				確認テスト				
集団から受ける圧力と、そこから引き起こされる同調行動について学習する。まず、同調とは何か、その定義や発生過程を学び、なぜ同調が起こるのか、何によって行動が左右されるのか、その要因を学習する。さらに、少数の人間が一貫した主張を行ったとき、集団内にどのような影響が生じるのかを学習する。								
第12回 集団における心理 (4) リーダーシップとそのあり方				確認テスト				
リーダーが集団に与える影響、ならびにリーダーのあり方について考える。全体を通じて、望ましいリーダーシップとは何かを模索するリーダーシップ論について、その内容と変遷を学習する。								
第13回 社会における心理 (1) 群集心理と流言の伝播				確認テスト				
群集という巨大な存在が私たち個人に与える影響を、平常時と非常時の2側面から学習する。さらに、流言がどのような要因で伝播し、どのように変容するかを学び、情報を正確に伝えるために、メッセージの送り手と受け手がどのような点に気をつけるべきかを考える。								
第14回 社会における心理 (2) 道徳的判断				ディスカッション				
さまざまな社会的行動について、そのあり方を判断することを道徳的判断とよぶ。この回では、道徳的判断を左右する判断基準や発達段階について学ぶ。さらに、現代社会で大きな問題となっているインターネットを介した暴力について、道徳的判断の観点から考え、ディスカッションを行う。								
第15回 まとめ—授業のふりかえり				確認テスト				
この回では、まとめとして、第1回から第14回までの授業内容を振り返る。その上で、社会心理学とはどのような学問か、包括的に考える。								
成績評価方法	ディスカッションでの積極的発言 (10%) および単位修得試験 (90%) で評価する。							
教科書	著書 『図解雑学 社会心理学』 著者 井上隆二・山下富美代 出版社 ナツメ社 出版年度 2011年2月20日 ISBN 9784816329098							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	社会福祉援助技術			担当者	堀川 諭
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全授業回数の2/3以上出席のこと。ただし、最終日は必ず出席してください。		単位修得試験実施方法	現地試験(レポート)			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
学習目標	少子高齢化の進む現代日本社会において、福祉援助を必要とする人々は飛躍的に増大しています。社会福祉援助技術について基礎的な理解を深めます。							
学習の進め方	主に講義形式で授業を進めますが、理解を深めるために映像を使ったり、ディスカッションを交えるなどして、少しでも興味を持てるよう工夫したいと思っています。なお、教科書は使用せず、講義に必要なプリントを配布します。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 関連したサイトの閲覧を奨めます。 配布したプリントにもう一度目を通していただくこと。 							
学習内容	概要						課題	
	第1回 はじめに							
	相談援助の概念と範囲							
	第2回 相談援助の理念							
	人権尊重、社会正義、利用者本位、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、ノーマライゼーション							
	第3回 相談援助における権利擁護							
	権利擁護の概念・範囲・意義							
	第4回 相談援助の専門職							
	さまざまな専門職							
	第5回 相談援助の原則						小レポート①	
	相談援助の基本的態度、援助者の自己理解							
	第6回 相談援助の対象							
	対象となる人間、問題、ニーズ							
	第7回 相談援助の過程①							
	インテーク、アセスメント、プランニング							
第8回 相談援助の過程②								
インターベンション、モニタリング、ターミネーション、アフターケア								
第9回 面接技法①								
面接の機能・構造・環境、留意点								
第10回 面接技法②						小レポート②		
クライアント中心療法、精神分析療法、行動療法など								
第11回 アウトリーチサービス								
アウトリーチとはなにか。その目的と意義、事例								
第12回 集団を活用した相談援助								
グループワークの定義、意義、方法								
第13回 スーパービジョン								
スーパービジョンの意義と方法								
第14回 相談援助の実践①								
認知高齢者への支援事例など								
第15回 相談援助の実践②						単位修得試験レポート【現地試験(レポート)】		
生活困窮者への支援事例など								
成績評価方法	小レポート(40%)、単位修得試験レポート(40%)、出席・発表など平常点(20%)、で総合的に評価します。							
教科書	なし 講義に必要なプリントを配布します。							
参考書(任意購入)	適宜紹介します。							
必須ソフト・ツール								
備考	長丁場です。できるだけ楽しい授業になるように工夫したいと思います。なお、上記学習内容は、授業の進捗状況により変更されることもあります。							

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	社会福祉概論			担当者	堀川 諭
レベルナンバー	200	単位	4	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業回数の3/4以上出席すること。 ただし、最終日は必ず出席してください。			単位修得試験実施方法	現地試験 (レポート)			単位修得試験試験会場	本学 (さくら夙川キャンパス)
学習目標	社会福祉の基礎的な理解を深めます。								
学習の進め方	主に講義形式で進めますが、映像を使って理解を深めるとともに、グループワークや発表を交えて、できるだけ考える機会を持ちます。なお、教科書は使用せず、講義に必要なプリントを配布します。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・関連したサイトの閲覧を奨めます。 ・配布したプリントにもう一度目を通していただくこと。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 はじめに								
	イントロダクション (授業の進め方など)								
	第2回 社会福祉の概念								
	社会福祉とはなにか								
	第3回 社会福祉の理念①								
	ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン								
	第4回 社会福祉の理念②								
	自立支援								
	第5回 社会保障とは				小レポート①				
	社会保障制度、基本的人権								
	第6回 諸外国の社会福祉の歴史①								
	基本的人権など								
	第7回 諸外国の社会福祉の歴史②								
	西欧の社会福祉の歴史								
第8回 わが国の社会福祉の歴史①									
救済事業 (大正時代以前)									
第9回 わが国の社会福祉の歴史②									
社会・厚生事業の歴史 (大正時代～第二次世界大戦)									
第10回 わが国の社会福祉の歴史③				小レポート②					
社会福祉事業の歴史 (第二次世界大戦後)									
第11回 社会福祉の法制度									
社会福祉六法など									
第12回 高齢者の福祉①									
老人福祉法など									
第13回 高齢者の福祉②									
介護保険法について									
第14回 障害者福祉の理念と定義①									
障害の国際的概念と定義									
第15回 障害者福祉の理念と定義②				小レポート③					
障害者総合支援法									

	概要	課題
学習内容	第16回 身体障害者の福祉	
	身体障害者福祉法	
	第17回 精神障害者の福祉	
	精神保健福祉法	
	第18回 発達障害者・知的障害者の福祉	
	発達障害支援法、療育手帳	
	第19回 低所得者施策と公的扶助	
	生活保護	
	第20回 子どもの福祉	小レポート④
	ひとり親家庭の福祉、児童対策	
	第21回 社会福祉行政と実施機関	
	福祉事務所、児童相談所、身体障害者更生相談所など	
	第22回 社会福祉の専門職①	
	社会福祉にかかわる専門職	
	第23回 社会福祉の専門職②	
	社会福祉にかかわる専門職	
	第24回 相談援助の意義と方法、援助技術①	
	ソーシャルワークの概要	
	第25回 相談援助の意義と方法、援助技術②	小レポート⑤
	社会福祉援助技術	
	第26回 利用者保護	
	措置から契約へ、情報提供、個人情報保護、成年後見制度	
	第27回 社会福祉の動向と課題①	
	核家族化、ひとり親家庭、保育問題、不登校	
	第28回 社会福祉の動向と課題②	
	高齢化の進行	
	第29回 社会福祉の動向と課題③	
	高齢者の医療問題、老後の生活の問題	
	第30回 まとめ	単位修得試験レポート【現地試験（レポート）】
	講義の振り返り	
成績評価方法	小レポート（50%）、単位修得試験レポート（30%）、発表・出席など平常点（20%）で、総合的に評価します。	
教科書	なし。講義に必要なプリントを配布します。	
参考書 (任意購入)	適宜紹介します。	
必須ソフト ・ツール		
備考	長丁場です。できるだけ楽しい授業になるように工夫します。 なお、上記学習内容は、授業の進捗状況により変更されることもあります。	

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	宗教学			担当者	長谷川 琢哉
レベルナンバ	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	日本人は「宗教オンチ」であるとか、「宗教嫌い」であるとかよく言われます。特に特定の宗教を深く信仰していない人は宗教に対して良くないイメージを持つことが多いのではないのでしょうか。しかしその反面、お正月、お盆、クリスマスなど、私たちの日常生活には本来宗教的な意味をもつ行事、習慣などが数多く存在します。また現代の世界情勢を知るためには、宗教の理解は欠かせません。そもそも宗教は人間の生や死と密接に関わるものであり、私たちの生活から完全に排除することは不可能なものです。なんとなく否定的なイメージを持っただけの宗教理解は貧困で不十分なものではないでしょうか。そこで本講義では、宗教について様々な角度からあらためて考えることを目標とします。本講義では現代社会において宗教が問題になる色々な場面が扱われます。それについて受講者の一人一人が問題の所在を把握し、自分で考えるようになることが本講義の最終的な目標です。								
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> この授業は教科書を中心とした学習と、確認テスト、小レポート、単位修得試験レポートによって構成されています。 学習の際にはひとつひとつの課題を順番に進めてください。 なお、小レポートにはコメントをつけますので、次のレポートに取り組み前に確認してください。 								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活の中から宗教的事象について考えること。 関連の参考文献に目を通すこと。 興味をもった問題については、新聞・テレビ・映画・マンガ・インターネット等メディアを通して幅広く情報を集めること。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回(序章) 宗教学への入り口								
	宗教を学問的に考えるということ ・「自分と宗教との関わり」、「日本人は無宗教か」など								
	第2回(第1章) 生と死の意味を問う								
	生や死という事柄について、宗教はどのようにとらえているのか ・「いのちの尊さ」、「妊娠中絶問題」、「脳死判定」、「ホスピス」など								
	第3回(第2章) 生命の循環と継承								
	いのちや世代の循環。環境、家族、共同体における宗教について ・「環境問題」、「人間形成と宗教」、「心の教育」など								
	第4回(第3章) 救いと癒しの現場				確認テスト				
	人間の悩みや苦しみに宗教はどのように答えているのか ・「癒しと宗教」、「宗教性と霊性」、「宗教とボランティア」など								
	第5回(第4章) 差別・暴力・権力と宗教								
	宗教と差別、暴力、権力などの関係を色々な角度から考えてみる ・「男性性と女性性」、「宗教と紛争」、「テロリズム」、「宗教NGO」など								
	第6回(第5章) 政治と宗教の相克				確認テスト				
	宗教と政治はどのように関係しているのか ・「靖国問題」、「慰霊」、「アメリカの公共宗教」、「パレスチナ問題」など								
	第7回(第6章) 現代社会における宗教				第1回小レポート				
	現代社会・消費社会における宗教の諸相 ・「カルト」、「原理主義」、「メディアと宗教」、「スピリチュアル」など								
第8回(第7章) 宗教における実践									
身をもって生きられた宗教を考える ・「祈りと瞑想」、「祭祀と儀礼」、「修行」、「伝道」、「シャーマン」など									
第9回(第8章) 宗教における言葉				確認テスト					
言葉という角度から宗教をとらえる ・「言霊」、「神話と物語」、「教義と神学」、「声と文字」など									
第10回(第10章) 宗教における本質と規範				第2回小レポート					
「あるべき」宗教の規定とその問題点について ・「神秘主義」、「戒律と禁欲」、「宗教の普遍性」、「宗教の本質」など									
第11回(第12章) 「宗教」概念と宗教学									
「宗教」という概念と「宗教学」という学問の成立について ・「『宗教』概念の近代性」、「宗教と科学」、「宗教比較の方法」など									
第12回(第13章) 宗教を心理において問う				確認テスト					
「心理」という角度から宗教を考える ・「宗教体験」、「宗教心理学」、「強さと弱さ」、「臨死体験」など									
第13回(第15章) 宗教を思想において問う									
宗教を思想的に考える ・「宗教多元論」、「ポストモダンと仏教」、「無神論」、「神義論」など									
第14回(第16章) 新しい問いと宗教学				第3回小レポート					
20世紀後半以降の「知」と宗教学の動向 ・「ポストコロニアリズム」、「フェミニズム」、「オリエンタリズム」など									
第15回(終章) 宗教学の実践				確認テスト					
宗教を学ぶということの難しさや危険性 ・「他者の宗教とどう関わるのか」など									
成績評価方法	単位修得試験レポート(70%) 小レポート3回(30%)								
教科書	著書 『宗教学 キーワード』 著者 島園進、葛西賢太、福嶋信吉、藤原聖子(編) 出版社 有斐閣 出版年度 2011年4月30日 初版 ISBN 9784641058835								
参考書(任意購入)	参考図書は教科書の各章の最後に多く挙げられていますので、興味がある方は自分で読んでみましょう。								
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	障害児・障害者心理学			担当者	楠 敬太
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★	
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	—
学習目標	<p>障害分類や障害の捉え方についての変遷を体系的に把握することで、障害について医療モデルと社会モデルの考え方を類別できるようになる。発達最近接領域を理解しつつ、障害児(者)教育の変遷を知ることで、現代における障害児(者)教育にどのような課題があるかを踏まえ、学校教育の場における基礎的環境整備と合理的配慮について具体的な内容を考察し、説明することができるようになる。障害の概要と障害受容のプロセスについて理解し、本人や家族の心理に留意することの重要性を考慮することで、支援の方法について具体的な計画を立案することができるようになる。</p> <p>学校心理学における第1次、第2次、第3次援助サービスの内容とヘルパーの役割を理解することで、個々の障害特性に応じたようなリソース(資源)を用いれば、どのような効果が期待できるかについて整理し、個に応じた内容から集団・環境に及ぶ内容まで、多角的な支援の手立てを立案することができるようになる。様々な障害の定義と障害児(者)の心理・行動特性・支援の実践について理解することで、それぞれの個に応じる必要性を踏まえ、様々な支援方法から適切なものを選択して、提案することができるようになる。</p> <p>障害児(者)の社会参加を促進することについて、これまでの講義で得られた知識を体系的に整理し、障害者の権利に関する条約を引用しながら自らの考えを述べることができるようになる。</p>							
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。配布資料に目を通し、学習の流れについて見直しを持っておくこと。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。事後学習として知識や用語の理解だけではなく、実際の支援の方法等について考察しておくこと。							
授業時間外学習								
学習内容	概要			課題				
	第1回 障害の概念			確認テスト				
	障害分類や障害の捉え方について習得することを目標とし、世界保健機構(WHO)による国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)への転換を踏まえ、近年の障害児・障害者を取り巻く国内外の動向について学習する。							
	第2回 障害児・障害者の発達と教育			レポート				
	障害児(者)の発達について理解を深めることを目標とし、ヴィゴツキーによる発達の最近接領域の考え方を踏まえつつ、障害児(者)の教育の変遷について学習する。							
	第3回 障害理解・障害受容と家族支援			ディスカッション				
	障害をどのように理解し、どのように受け止めていくのかについて理解することを目標とし、障害の理解及び受容の心理的なプロセスと障害児・障害者本人や家族への支援について学習する。							
	第4回 障害児・障害者への心理的援助			レポート				
	障害児・障害者の心理的援助について習得することを目標とし、学校心理学における援助サービスの構造的な理解と様々なヘルパー(援助者)の役割を学習する。							
	第5回 聴覚障害について			確認テスト				
	聴覚障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、聴覚障害の定義を踏まえ、聴覚障害児(者)の心理・行動特性及び聴覚障害児(者)への支援について学習する。							
	第6回 視覚障害について			確認テスト				
	視覚障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、視覚障害の定義を踏まえ、視覚障害児(者)の心理・行動特性及び視覚障害児(者)への支援について学習する。							
	第7回 肢体不自由について			確認テスト				
	肢体不自由児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、肢体不自由の定義を踏まえ、肢体不自由児(者)の心理・行動特性及び肢体不自由児(者)への支援について学習する。							
第8回 病弱について			確認テスト					
病弱児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、病弱の定義を踏まえ、病弱児(者)の心理・行動特性及び病弱児(者)への支援について学習する。								
第9回 知的障害・発達障害の理解と定義方法			レポート					
知的及び発達障害の概要を把握することを目標とし、精神疾患に関する診断と統計マニュアル(DSM)や国際疾病分類(ICD)に基づき、知的障害及び発達障害の定義について学習する。								
第10回 知的障害について			確認テスト					
知的障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、知的障害の定義を踏まえ、知的障害児(者)の心理・行動特性及び知的障害児(者)への支援について学習する。								
第11回 学習障害(LD)について			確認テスト					
学習障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、学習障害の定義を踏まえ、学習障害児(者)の心理・行動特性及び学習障害児(者)への支援について学習する。								
第12回 注意欠如多動性障害(ADHD)について			確認テスト					
注意欠如多動性障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、注意欠如多動性障害の定義を踏まえ、注意欠如多動性障害児(者)の心理・行動特性及び注意欠如多動性障害児(者)への支援について学習する。								
第13回 自閉症スペクトラム障害について			確認テスト					
自閉症スペクトラム障害児(者)の心理について理解を深めることを目標とし、自閉症スペクトラム障害の定義を踏まえ、自閉症スペクトラム障害児(者)の心理・行動特性及び自閉症スペクトラム障害児(者)への支援について学習する。								
第14回 心の理論と自閉症スペクトラム障害			レポート					
自閉症スペクトラム障害の特性をさらに詳細に把握することを目標とし、パロン・コーエンによる「心の理論」課題の概要を踏まえた自閉症スペクトラム障害児(者)の心理について学習する。								
第15回 障害児・障害者の理解とインクルージョン			ディスカッション					
障害児・障害者の社会参画について理解を深めることを目標とし、サラマンカ宣言や障害者の権利に関する条約を踏まえ、インクルーシブ社会の実現に向けた動向について学習する。								

成績評価方法	<p>確認テスト、レポート課題、ディスカッションにおけるコメントの内容、単位修得試験レポートの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認テストによって知識の定着を測る。 ・レポート課題によって講義で習得したことから考察につなげることができているかを測る。 ・ディスカッションのコメントによって課題に対する応用的な思考力を測る。 ・単位修得試験レポートによって、障害の定義に関する理解度と学校心理学における援助サービスの考え方に関する習熟度を測る。 <p>【A評価】講義の内容を踏まえ、概要について正確に説明できていること。また、具体例を示す等、独自性の高い支援プランが論述できていること。 講義内容の引用等を用いながら、課題に応じ、論理的なコメントが書き込まれていること。他者の意見を踏まえ、他者の理解が深まるようなコメントが書き込まれていること。 障害の定義・心理・行動特性について正確に説明し、心理的援助を進めるにあたって、具体的かつ社会的に有益と思われる支援プランをそれぞれに立案することができていること。</p> <p>【B評価】講義の内容を踏まえ、概要について正確に説明できていること。また、具体性のある支援プランが論述できていること。 講義内容を踏まえつつ、課題に応じたコメントが書き込まれていること。他者の意見を踏まえ、さらにコメントが書き込まれていること。 障害の定義・心理・行動特性について説明し、心理的援助を進めるにあたって、具体的な支援プランをそれぞれに立案することができていること。</p> <p>【C評価】講義の内容を踏まえ、具体性のある支援プランが論述できていること。 講義内容を踏まえつつ、課題に応じたコメントが書き込まれていること。他者の意見を踏まえ、さらにコメントが書き込まれていること。 障害の定義・心理・行動特性について説明し、それに応じた支援プランを立案することができていること。</p> <p>【D評価】規定字数の支援プランが作成できていること。 課題に応じたコメントが書き込まれていること。 障害の定義・心理・行動特性について説明し、それに応じた支援プランを立案することができていること。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	
必須ソフト ・ツール	
備考	<p>【履修の前提とするもの】 『心理学概論』を修得済み、または、その科目のシラバスで示されている内容を学習した経験があり、その内容を十分に理解していること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 とくになし。</p>

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	障害者福祉			担当者	堀川 諭
レベルナンバ	400	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全授業回数2/3以上出席すること。ただし、最終日は必ず出席してください。		単位修得試験実施方法	現地試験 (レポート)			単位修得試験試験会場	本学 (さくら夙川キャンパス)
学習目標	さまざまな障害の理解を通して、障害者福祉について学びます。							
学習の進め方	主に講義形式で進めますが、できるだけ映像を使って理解を深めるとともに、時にディスカッションを交えて考える機会を持ちます。なお、教科書は使用せず、講義に必要なプリントを配布します。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・関連したサイトの閲覧を奨めます。 ・配布したプリントにもう一度目を通していただくこと。 							
学習内容	概要						課題	
	第1回 障害の理念							
	障害とはなにか、国際生活機能分類 (IFC)、わが国における障害者の法的定義について学ぶ							
	第2回 障害者福祉の基本理念①							
	障害者福祉の基本理念であるノーマライゼーションについて学ぶ							
	第3回 障害者福祉の基本理念②							
	リハビリテーションの意味、インクルージョンの歴史的経緯と展望を学ぶ							
	第4回 視覚障害について							
	視覚の構造と機能、視覚障害の原因と眼疾患、視覚障害の心理的影響と受容過程、介護について学ぶ							
	第5回 視覚・言語障害について						小レポート①	
	視覚・言語障害とはどういう障害か、その日常生活と介護について学ぶ							
	第6回 肢体不自由について							
	肢体不自由の原因、障害受容の過程、肢体不自由のある人の生活とその介護について学ぶ							
	第7回 内部障害について							
	内部障害とは何か、その生活のしづらさ、病態に応じた介護について学ぶ							
第8回 知的障害について								
知的障害の医学的理解、介護の留意点について学ぶ								
第9回 精神障害について								
精神障害の医学的理解、精神障害者への介護、在宅生活支援について学ぶ								
第10回 高次脳機能障害について						小レポート②		
高次脳機能障害とは何か、その具体的な症状と支援のありかたについて学ぶ								
第11回 発達障害についての理解								
発達障害の特性を理解し、適切な介護について学ぶ								
第12回 重症心身障害・難病について								
重症心身障害・難病の定義、多様な生活上のニーズ、介護のポイントについて学ぶ								
第13回 障害のある人に対する介護の基本視点								
障害のある人の自己決定・エンパワメント・権利擁護、および生活のニーズ・アセスメントについて学び、社会資源の活用方法について理解する								
第14回 家族への支援								
障害者のある人の家族への支援について学ぶ								
第15回 連携と協働						単位修得試験レポート【現地試験 (レポート)】		
保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携と、地域におけるサポート体制について学ぶ								
成績評価方法	小レポート (40%)、単位修得試験レポート (40%)、出席・発表など平常点 (20%) で、総合的に評価します。							
教科書	なし。講義に必要なプリントを配布します。							
参考書 (任意購入)	適宜紹介します。							
必須ソフト・ツール								
備考	長丁場です。できるだけ楽しい授業になるように工夫したいと思います。なお、上記学習内容は、授業の進捗状況により変更されることもあります。							

メジャー(専修)名	心理学 ライフデザイン		授業科目名	生涯発達心理学			担当者	松並 知子
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★	
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート	単位修得試験 試験会場	-	
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間をライフサイクルの観点から広く捉える視野を養う ・人間発達の本質を深く考えようとする姿勢を身につける ・自らの心の成長とアイデンティティの確立を模索・確認する 							
学習の進め方	本授業では、デジタル教材を主に活用して学習を進めます。ただし、教科書をよく読んで取りくむこと。デジタル教材の中で教科書のページや図表を参照する指示がある場合は、必ず確認をして下さい。また、デジタル教材では取り扱わない情報も掲載されていますのでよく読んで学習に臨んで下さい。毎回ごとに課題として確認テストがありますので、確認テストをクリアしてから次の回へ進みましょう。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習をはじめるときには必ず、各回の教科書の該当箇所を熟読してから学習を進めてください。 ・心理学に関連する専門書を活用すること。 ・参考図書で自己学習することと、ノートを取りながら受講することを推奨します。 ・受講後のレポートでは、「レポートの書き方」をよく読むことと、納得できるまで取り組むこと。 							
学習内容	概要				課題			
	第1回 はじめに				確認テスト			
	オリエンテーションと生涯発達心理学の概要を理解する							
	第2回 人はどこまで発達するのか ー生涯発達の考え方ー				確認テスト			
	人生は誕生から死までの継続した流れの中で発達していくものであることを理解する							
	第3回 赤ちゃんの誕生				確認テスト			
	赤ちゃんの持つかわり能力とその発達を理解する							
	第4回 愛着関係の発達 ーかかわりのなかで育つ心ー				確認テスト			
	かかわりの中で育つ愛着が対人関係に与える影響を考える							
	第5回 自己と情動の発達				確認テスト			
	自己意識の発達と情動の芽生え、さらには情動調整の発達について学ぶ							
	第6回 知的発達 ーその意味と保育者のかかわりー				確認テスト			
	幼児期にめざましい発達を遂げる知的能力について、いくつかの理論を紹介しながら、その発達のメカニズムを理解する							
	第7回 遊びと仲間作りを支える心の発達				確認テスト			
	就学後の仲間関係や仲間遊びの展開をも視野に入れて、子どもたちの保育にあたる者としての心構えを育てる							
	第8回 社会性の発達 ー思いやる心ー				確認テスト			
幼児期において社会性の問題がどのようにとらえられているのか把握し、共感性、他者理解、道徳心の芽生えなど、幼児期を中心とした理論や研究を理解できるようになる								
第9回 異文化と子どもの発達				確認テスト				
多文化化する現代社会において子どもの育ちについて文化間の違いを学び、国際結婚家庭の子育て観について理解すること								
第10回 大人への芽生え ー思春期の心の発達と問題ー				確認テスト				
身体的変化と共に心理的变化が出現する思春期の特徴を概観し、この時期に見られる心理的危機とその発生のメカニズムを理解する								
第11回 大人になること ー自我同一性の獲得ー				確認テスト				
エリクソンの理論に基づいて、高校生後半から成人期30歳くらいまでの範囲で、自我同一性に関する理論を学ぶ								
第12回 キャリア発達とその支援				確認テスト				
人生におけるキャリア発達を、職業選択だけにとどまらず、生涯発達の視点から自らの能力や対人関係なども含め、考えていけるようになること								
第13回 親となること				確認テスト				
初めて子どもをもつ親の心の動きをいくつかの視点から見て、本当の意味で親になることについて学ぶ								
第14回 老いを迎えること				確認テスト				
高齢期の肯定的な側面にも着目し、生きがいを持って人生を生きていく事、人生の意味をその人なりに見出すことの大切さを理解できるようになる								
第15回 まとめ				確認テスト				
これまでの内容をふまえて、科目のまとめを行う								
成績評価方法	平常点(60%)は、第1回～第14回に実施する各回の確認テストの結果によって決まる。単位修得試験は(40%)の配分とする。							
教科書	著書 『新時代の保育双書 発達心理学 子どもの発達と子育て支援』 著者 青木紀久代編 出版社 みらい 出版年度 2011年4月20日 ISBN 9784860151058							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト ・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	消費者のための法律知識			担当者	千代原 亮一
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	消費者法が社会の中で登場してきた歴史と背景をふまえて、消費者問題の現状と法的基礎知識について説明できる。具体的な消費者問題について、適切な法的解決方法を考え、例をあげられる。							
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。オンデマンド教材は、教科書の内容をまとめたものになっていますので、内容の理解を深めるために、教科書で補ってください。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 指定教科書を予習・復習に活用すること。 予習時（各回の受講前）に分からなかったところを受講時に確認し、受講後は重要ポイントについて教科書の該当箇所をしっかりと読むこと。 							
学習内容	概要						課題	
	第1回 消費者法の意義・概要						確認テスト	
	消費者法の意義、悪徳商法、サラ金問題、消費者保護の必要性							
	第2回 民法・特別法による救済						確認テスト	
	民法による救済、特別法（特定商取引法）による救済							
	第3回 消費者契約法①						確認テスト	
	消費者契約法の概要、消費者契約法における意思表示の取消し							
	第4回 消費者契約法②						確認テスト	
	消費者契約法における契約条項の無効							
	第5回 不適正勧誘取引						確認テスト	
	高齢者の消費生活トラブル、クーリング・オフ							
	第6回 マルチ商法・ネズミ講						確認テスト	
	ネズミ講、マルチ商法、悪質商法							
	第7回 宗教商法						確認テスト	
反社会的な宗教活動、宗教商法（強迫事例、詐欺事例、献金事例）								
第8回 先物取引						確認テスト		
先物取引の意味、先物取引被害の救済方法								
第9回 製造物責任・欠陥住宅						確認テスト		
製造物責任とPL法による解決、欠陥住宅被害の責任追及								
第10回 不動産取引・原野商法						確認テスト		
原野商法被害と救済方法、投資型・リゾートマンション持分売買、住宅・マンション値下げ販売								
第11回 金融と消費者、保険・証券取引						確認テスト		
消費者金融と商工ローン問題、ワラント取引被害、変額保険訴訟								
第12回 クレジット・サラ金問題と消費者						確認テスト		
クレジット・サラ金被害、多重債務問題、貸金業法の改正								
第13回 インターネットと消費者保護						確認テスト		
インターネットと消費者問題、ネット・オークションをめぐるトラブル、インターネットを利用したネズミ講、スパイウェア								
成績評価方法	確認テスト（40%）、単位修得試験（60%）							
教科書	著書 『消費者法（第2版）』 著者 鳥谷部茂・山田延廣 出版社 大学教育出版 出版年度 2010年5月7日 2版 ISBN 9784887309692							
参考書 (任意購入)	『消費者法（第3版）』、大村敦志、有斐閣、4,095円（税込）、2007年 『消費者法講義（第3版）』、日本弁護士連合会編、日本評論社、4,725円（税込）、2009年							
必須ソフト・ツール								
備考								

メジャー(専修)名				授業科目名	情報活用Ⅰ (基礎)			担当者	本田 直也, 野波 侑里, 多田 敦士
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	第1回から第14回まですべて受講していることを単位修得試験受験資格とする。			単位修得試験実施方法	現地試験 (課題)			単位修得試験試験会場	本学 (さくら夙川キャンパス)
学習目標	大学生活のあらゆる場面に対して身につけておくべきコンピュータの基礎的な活用能力を養う。本学での授業参加に不可欠なコンピュータの適切な利用方法を学ぶ。ワープロソフトでのレポート作成、表計算ソフトを用いた数値の集計やグラフ等の図解表現、スライド作成ソフトでのプレゼンテーション資料の作成などの基礎能力を習得する。								
学習の進め方	本授業は、大手前大学 さくら夙川キャンパスにてパソコンを用いて実践形式で学習を行います。スクーリング日程表を確認して、受講の申込みを行ってください。また、スクーリングへの参加前に事前学習として基礎的なタイピング能力を身につけておいてください (備考欄を参照)。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 様々な授業で課されるレポート課題 (アカデミックライティング) に必要なWordの機能を実践的に用いてみる。 実際のデータを用いたデータ入力および集計と、グラフを描き適切な加工を行い表現してみる。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 文字入力、基本操作								
	学内ネットワークの利用方法、テキストエディタでの文字入力、印刷、ファイルの保存、ネットワークドライブの利用等の演習を行い、大学生活において最低限必要なコンピュータ操作を習得する。								
	第2回 Word その1								
	文書作成に有用なWordについて学習する。基礎的なスキルとして、画面構成の把握、文字の入力・装飾、罫線の挿入などを習得に向けた演習を行う。								
	第3回 Word その2								
	Wordにて論理的で伝わりやすい文書作成を行う際に必要となる、「表」の作成・編集の基礎、および「クリップアート」や「図」などの挿入・編集の基礎を学習する。								
	第4回 Word その3								
	タブやインデント等のレイアウトに関するテクニックを学習する。								
	第5回 Word その4				Wordによるパンフレット作成				
	これまでの学習のまとめとして、指示に基づいた資料作成の演習を行う。								
	第6回 Excel その1								
	データの整理・計算に有用なExcelについて学習する。Excelの基礎的なスキルとして、画面構成の把握、値の入力・訂正、数式の入力による計算を学習する。								
	第7回 Excel その2								
	絶対参照と相対参照について学習する。								
第8回 Excel その3									
基本的な組み込み関数などを習得するための演習を行い、Excelを用いたあらゆるデータの効果的・論理的な整理や計算についての演習を行う。									
第9回 Excel その4									
および視覚的な表現を行うために必要となる、表の作成・編集 (書式、移動と複製など) とグラフの作成・編集についての演習を行う。									
第10回 Excel その5				Excelについての課題					
Excelを使用した総合的な演習を行う。									
第11回 PowerPoint その1									
プレゼンテーションに有用なツールであるPowerPointについて学習する。PowerPointの基礎的なスキルとして、画面構成の把握、文字入力・装飾、スライド構成の編集、デザイン変更、オブジェクトの挿入などを習得するための演習を行う。									
第12回 PowerPoint その2									
Word, Excelと連動させたPowerPointの操作について学習する。									
第13回 複合課題 その1									
これまでに習得した内容を総合的に活用するような複合課題に取り組む。									
第14回 複合課題 その2									
第13回と同じく複合課題に取り組む。									
第15回 まとめ				単位修得試験実施					
成績評価方法									
授業態度 (20%)、提出課題 (30%)、課題単位修得試験の結果 (50%) により総合評価する。									
教科書									
著書 『イチからしっかり学ぶ! Office基礎と情報モラル』 著者 noa出版 出版社 noa出版 出版年度 2014年									
参考書 (任意購入)									
必須ソフト・ツール									
Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel、Microsoft Office PowerPoint									
備考									
受講者上限人数 演習40名 本授業は全員で足並みを揃えながら課題を解き学習を進めていきます。パソコンの操作や入力に手間取って遅れないように、最低限の文字入力スキルを身につけておいてください。特別な事情を抱えており修得が困難な場合は個別に連絡ください。									
【文字入力】 日本語文章300文字を10~15分程度で入力できることが望ましいです。参考までに300文字の日本語文章入力サンプルを紹介します。									
全国商業高等学校協会主催の「ワープロ実務検定試験」では、入力速度を測定する試験問題の過去問題を公開しています。下記のサイトより3級検定問題の速度問題を開き、お試ください。全部で11回分あります (2012年2月3日アクセス)。 http://www.zensho.or.jp/puf/examination/pastexams/wp.html									
入力練習は、市販のタイピングソフト、タイピング練習Webサイト等、何を利用いたいただいても構いません。おすすめの練習サイトは「基礎タイピング」 (http://homepage3.nifty.com/asdf/) です。									

メジャー(専修)名				授業科目名	情報活用Ⅱ (応用)			担当者	本田 直也
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	第1回から第14回まですべて受講していることを単位修得試験受験資格とする。			単位修得試験実施方法	現地試験 (課題)			単位修得試験試験会場	本学 (さくら夙川キャンパス)
学習目標	実社会においてICT (情報通信技術) を実践的に活用するために必要な力として、情報の収集力、情報を効率的に扱うための整理力、情報を分析するための論理的思考力、その結果を他者に伝えるように表現するためのプレゼンテーション、等について習得する。								
学習の進め方	本授業は、大手前大学 さくら夙川キャンパスにてパソコンを用いて実践形式で学習を行います。スクーリング日程表を確認して、受講の申込みを行ってください。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 適切な情報セキュリティ状態を保つことができるようになるために、自身のコンピュータの情報セキュリティ対策をしっかりと行う。 表計算ソフト上で扱うデータベース形式により、何らかの実際のデータを入力し、データ管理を行ってみる。 単位修得試験のプレゼンテーションに向けて、テーマに関する情報収集や全体構成の考案など、発表本番に向けて必要な準備を行う。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 情報検索								
	発展し続ける情報化社会を生きる上で特に重要なインターネットにおける情報の性質とそれを利用した情報収集の方法について、演習を通し実践的に習得する。								
	第2回 情報運用								
	情報を正しく安全に運用するために必要な知識とスキルの習得を目標とし、インターネットを利活用する上で身につけておかなばならないモラルやマナー、またセキュリティについて学習する。								
	第3回 数値分析 その1								
	多種多様なデータを論理的に扱うために必要な数値化の方法を学び、それを基にした計算・分析の手法として、情報活用Ⅰ (基礎) で習得したExcelによる計算方法 (関数など) と分析手法とを演習を通して習得する。								
	第4回 数値分析 その2								
	第3回に引き続き数値分析について学習する。								
	第5回 数値分析 その3				学習内容に基づく課題を出題				
	第3回、第4回に引き続き数値分析について学習する。								
	第6回 データベース								
	データの整理や蓄積、抽出を効果的に行うためのデータベースの利用について学習する。データベースの基礎となるリスト構造の理解と、Excelにおけるその表現方法、および並べ替え・抽出・データの挿入・削除などの基礎的スキルを習得する。								
	第7回 ファイル・データ管理								
	ファイルの取り扱い方について学習する。ファイルについての知識、効率的な作業を行うためのファイルの整理方法 (ファイルの命名法、フォルダによる構造化など)、ファイルの共有方法などについて演習を通して習得する。								
第8回 インターネットコミュニケーション その1									
インターネットを通じたコミュニケーションツールとして代表的なメールや掲示板の利用に関するルールとマナーを実践的に習得する。									
第9回 インターネットコミュニケーション その2									
Web サイトの仕組みとhtmlの簡単な作成方法等について学ぶ。									
第10回 文書表現				学習内容に基づく課題を出題					
他者に誤解なく伝えるような、論理的な文章を作成するためのスキルを習得する。良い文章表現の特徴 (語彙の選択、語順、レイアウト等) を学び、実際に文書の修正・作成を行うことでスキルを体得する。									
第11回 ビジュアル表現									
文書表現と対をなす表現方法として、視覚に訴えるビジュアル表現について学習する。論文等に不可欠な図解表現、よいプレゼンテーションに必要な配色・図形の特徴などについて演習する。									
第12回 プレゼンテーション その1									
これまでに学習した「情報の収集、分析、整理、表現」の力をもとに、あるテーマについて「他者に効果的に伝える」ためのプレゼンテーションの基礎を学ぶ。その後、第13回の発表に向けてプレゼンテーションの資料作成 (PowerPoint) を行う。									
第13回 プレゼンテーション その2									
第12回に引き続きプレゼンテーションの資料作成を行う。									
第14回 プレゼンテーション その3									
第11回・第12回で準備したPowerPointの資料をもとに発表を行う。									
第15回 まとめ				単位修得試験実施					
成績評価方法	授業態度 (20%)、提出課題 (30%)、課題単位修得試験の結果 (50%) により総合評価する。								
教科書	著書 『考える 伝える 分かちあう 情報活用力』 著者 noa出版編 出版社 noa出版 出版年度 2011年								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel、Microsoft Office PowerPoint								
備考	受講者上限人数 演習40名 情報活用(基礎)で学習する内容の修得を前提条件とします。受講済みの方はよく復習しておくこと。未受講の方は独自で修得すること。 本授業を受講した成果測定のひとつとして、情報活用力を診断するテスト「Rasti」の受験 (費用は学生負担) を推奨する。「Rasti」の詳細は授業中に紹介予定。								

メジャー(専修)名				授業科目名	情報管理論			担当者	森本 雅博
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—
学習目標	情報化社会において情報管理を行うことの意義とその手法について理解し、データベースを用いた情報管理の仕組みについて説明できるようになること。								
学習の進め方	本授業は、デジタル教材を活用して授業を進めていきます。各回の学習では、前回の要点、当回の学習目標、最後に当回のまとめを提示し、ポイントが明確になるように工夫しています。教科書はデジタル教材にない内容もありますので、必ず学習前に読んでください。毎回、学習の理解をチェックするための確認テストを用意しています。テストをクリアして次の回へ進むようにしてください。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 全体を通して、学習単元の部分を事前に読んでください。できればノートにまとめてもらいたいです。 後半の学習ではSQLの問題があります。配布されているSQLBasicを利用するか、自身でSQLの学習をしっかりとってください。PCが詳しい人は「MySQL」をインストールして利用するのもいいでしょう。 データベースの書籍はたくさんありますので、関連図書で理解を深めてください。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 情報とは何か				確認テスト				
	情報の意味と特性を理解し、種類にもとづく情報の分類をする								
	第2回 情報管理とは				ディスカッション				
	情報管理の意義と必要性を理解する								
	第3回 データベースと情報管理のサイクル				確認テスト				
	情報管理の対象とサイクル、データベースの定義と歴史および種類と分類について理解する								
	第4回 情報の収集				確認テスト				
	情報源の選定し、さまざまな分野による情報収集の目的の違いを知る								
	第5回 インターネットと情報検索				確認テスト				
	インターネット上の検索エンジンと検索方法や検索機能の基本的理論を理解する								
	第6回 分析、利用する情報の種類				レポート				
	情報の種類に応じた分析と利用の方法を具体的事例で理解する								
	第7回 情報の加工と管理				確認テスト 前半のまとめ				
	情報を加工し、整理する意味を理解し、その方法や手順を学習する。								
第8回 データベースの概念				確認テスト					
データベースの特徴とデータベース管理システムの概要と基本機能を理解する									
第9回 データモデルの概念				確認テスト					
データモデルの種類と特徴を知り、データの独立性及びデータベースの管理と運用について理解する									
第10回 データベース管理システムの諸機能				確認テスト					
リレーショナルデータベース管理システム (RDBMS) を構成する主要な機能を理解する									
第11回 データベースの操作/SQL				確認テスト					
データベースを定義したり操作するための言語 (SQL) の種類と使用方法を理解する									
第12回 商用データベースの利用				確認テスト					
商用データベースの意義と種類を知り、高度な利用方法を具体的に探る									
第13回 情報の提供とプレゼンテーション				確認テスト					
情報の提供方法やプレゼンテーションを実施するための留意点を理解する									
第14回 これからの情報管理				確認テスト					
データウェアハウスとデータベースの新たな展開について理解する									
第15回 情報管理のまとめ				確認テスト					
情報管理についての理解をポイントを押さえながら確認し、知識の定着を図る									
成績評価方法	確認テスト及びレポート (20%)、前半のまとめ (20%)、単位修得試験 (60%)								
教科書	著書 『情報管理概論』 著者 田中一雄 出版社 白桃書房 出版年度 2005年6月6日 ISBN 9784561253037								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト ・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	情報機器プレゼンテーション			担当者	佐々木 英洋
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	本講義では、情報機器を活用したプレゼンテーション技法とその能力の習得を目的とする。プレゼンテーションソフトの基本的操作に加え、文章をチャートで表現したりして、ビジュアルなスライドを作成する。自己の考えや企画を情報機器の特性を活かし、効果的に表現する演習を行う。また、他のプレゼンテーション関連の講義科目とも連携を図り、その知識を十分活用し、より効果的なプレゼンテーションを可能にする知識を身につける内容とする。							
学習の進め方	オンデマンド教材を通してプレゼンテーションの概要・PowerPointを使ったスライド作成の技法・より効果的なプレゼンテーション技法について学び、スライド作成の課題を通してスライド作成・プレゼンテーション技法の包括的な理解を行う。各回の確認テストはすべて受験すること。自分だったらどのようにプレゼンテーションを行うかを意識しながら学習することを勧める。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、コンピュータ、PowerPointの基本操作について文献等で調べておくこと。また、プレゼンテーションについて書籍等で調べておくこと。 新聞・雑誌・ニュース等でプレゼンテーション技法がどのように生かされているかを調べ、理解すること。 							
学習内容	概要			課題				
	第1回 ガイダンス			確認テスト				
	プレゼンテーションの概要の基本について理解を深める。							
	第2回 スライドの作成1			確認テスト スライド作成				
	PowerPointのファイル構成・画面構成、スライドの作成、スライドのデザインについて学ぶ。							
	第3回 スライドの作成2			確認テスト スライド作成				
	表組み・グラフの概要について学び、スライドに表組み・グラフを挿入する方法について学ぶ。							
	第4回 スライドの作成3			確認テスト				
	図形・オブジェクトの概要について学び、スライドに図形・オブジェクトを挿入する方法について学ぶ。							
	第5回 効果的に伝えるコンテンツ作成の手法1			確認テスト				
	スライド作成のテクニック（図解化）、スマートアートの利用について学ぶ。							
	第6回 効果的に伝えるコンテンツ作成の手法2			確認テスト スライド作成				
	スライド作成のテクニック（箇条書き・表・グラフ）について学ぶ。							
	第7回 中間まとめ			確認テスト				
第1回～第6回の内容に関する内容でまとめのテストを行う。								
第8回 文字や図形のアニメーションの活用、スライドショー			確認テスト					
スライドにアニメーション効果の追加を行う方法を学ぶ。								
第9回 スライド画面の切り替え			確認テスト スライド作成					
画面切り替え効果の追加、スライドの印刷、スライドショーの実行について学ぶ。								
第10回 効果的な情報プレゼンテーション作成のコツ			確認テスト					
プレゼンテーションの評価の視点・ポイント、スライド作成のポイント・注意点について学ぶ。								
第11回 効果的なプレゼンテーション手法のコツ			確認テスト スライド作成					
プレゼンテーションの実践について学ぶ。								
第12回 スライド作成実践編1			確認テスト					
学校紹介のプレゼンテーションの際のポイント、実際のスライド作成、発表の実践について学ぶ。								
第13回 スライド作成実践編2			確認テスト スライド作成					
企画の立て方・まとめ方・プレゼンテーションの実践について学ぶ。								
第14回 プレゼンテーションを実施するにあたっての法規・モラル			確認テスト					
個人情報の保護・著作権の保護・プライバシーの保護について学ぶ。								
成績評価方法	確認テスト[第7回以外：2%×13回](26%) 確認テスト[第7回](20%) 課題提出[4%×6回](24%) 単位修得試験[提出必須](30%)							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	PowerPointの操作方法に関する書籍（特に指定しない）							
必須ソフト・ツール	Microsoft Office PowerPoint							
備考	このコンテンツはMicrosoft Office PowerPoint 2007をベースに設計されています。							

メジャー(専修)名				授業科目名	情報セキュリティ事例研究			担当者	鳥巢 泰生
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	情報漏えいなどの事例を研究することにより、情報資産に対するいろいろな脅威を分析することが出来るようになり、それらの脅威に対して適切なセキュリティ対策を施すことにより、安全かつ快適に情報資産を利用運用することが出来るようになる。								
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主に活用して学習を進めます。学習をはじめるときには必ず、各回の学習概要を閲覧してから学習を進めてください。オンデマンド教材の中で参考図書やWEBページを参照する指示がある場合はもちろん、指示がない場合でも関連する事柄を参考図書やインターネットなどで調べ学習してください。各回の学習の最後には、課題がありますので、課題を終わらせてから次の回へ進みましょう。								
授業時間外学習	・毎回の授業終わりの確認テストには、授業では解説できなかった資格試験の問題なども出題していますので、授業での知識だけでなく情報セキュリティに興味を持って関連する参考図書やネットサイトを閲覧するなど、独学し研究すること。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 情報セキュリティとは何か？				確認テスト、ディスカッション				
	様々なリスクの存在を知り、それらの対策を踏まえた情報セキュリティの必要性を学習する。								
	第2回 ネットワークのしくみ				確認テスト				
	ネットワークの構造を知り、通信プロトコルについて学習する。								
	第3回 侵入者から身を守ろう				確認テスト				
	通信プロトコルを利用した不正アクセスの事例を知り、その対策方法を学習する。								
	第4回 盗聴を防ごう				確認テスト				
	盗聴の事例を知り、その対策方法を学習する。								
	第5回 単純なパスワードはすぐに見破られる				確認テスト				
	パスワードの必要性、単純なパスワードの脆弱性を知り、パスワード運用のポイントを学習する。								
	第6回 Webサイトを守ろう				確認テスト				
	Webサイトを攻撃する手口を知り、その対策を学習する。								
	第7回 Webサイトを安全に利用しよう				確認テスト				
	Webサイトで個人情報が盗まれる危険性を理解し、安全にやり取りする方法を学習する。								
	第8回 メールは不正なデータを送りつけるのに最適				確認テスト				
メールを使った嫌がらせの手口を知り、対策のポイントを学習する。									
第9回 そのURLは本当に安全？				確認テスト					
Webサイトやメールを使った個人情報の盗み方を知り、情報の取捨選択を学習する。									
第10回 ウイルスは怖いもの				確認テスト					
ウイルスの危険性を知り、予防の方法を学習する。									
第11回 コンピュータの外も意識しよう				確認テスト					
コンピュータの外で個人情報が漏れる可能性を把握し、それらの対策を学習する。									
第12回 セキュリティポリシーを持とう				確認テスト					
情報セキュリティのポリシーを理解し、PDCAサイクルの重要性を学習する。									
第13回 セキュリティの標準規格とルールについて知ろう				確認テスト					
情報セキュリティの規格と仕組みを理解し、システム監査の重要性を学習する。									
第14回 次世代のセキュリティ技術				確認テスト					
情報セキュリティでは、新たな技術が出てくる事を知り、常に情報を集める姿勢が重要である理由を学習する。									
第15回 まとめ				ディスカッション					
14回の総復習とまとめを行う。									
成績評価方法	ディスカッション (20%)、授業期間内完了 (20%)、平常点 (各回の確認テスト) (20%)、単位修得試験 (40%)								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	『情報セキュリティ教本—組織の情報セキュリティ対策実践の手引き』、土居範久監修、独立行政法人情報処理推進機構著、実教出版、2010年10月15日 改訂版 『情報セキュリティ読本 四訂版—IT時代の危機管理入門』、情報処理推進機構(IPA)編著、実教出版、2013年1月								
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	人格心理学			担当者	五十嵐 英樹
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	人格（パーソナリティ）はどのように形成されるのでしょうか？人格に関わるさまざまな事柄を、さまざまな角度から心理学的に理解していくことを目指します。しかし、人の心は科学的に解明できていない未知の部分が多い領域です。既存の概念にとらわれすぎることなく、みなさんなりの率直な考えを大切にいただきながら、理解を深めていただきたいと思います。								
学習の進め方	本授業では、教科書に沿って学習を進めていきます。学習を始める時には必ず、各講のオンデマンド教材を閲覧してから進めてください。また、各講の学習の最後には小テストを実施し、理解度を確認していきます。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 人の心はわからないことだらけです。教科書や専門書の内容をうのみにせず、疑問や問題意識を持ちながら学習を進めてください。 人の心について理解したことを、今後の対人関係に活かさないか、考える習慣を身につけてください。 								
学習内容	概要								課題
	第1講 人格心理学におけるパーソナリティとは？								小テスト
	パーソナリティの意味								
	第2講 パーソナリティの理論化								小テスト
	性格、人格、気質、個性								
	第3講 さまざまな性格理論①								小テスト
	類型論と特性論								
	第4講 さまざまな性格理論②								小テスト
	構造論								
	第5講 パーソナリティ理解①								小テスト
	観察と面接								
	第6講 パーソナリティ理解②								小テスト
	心理アセスメント、投影法								
	第7講 パーソナリティの発達の变化								小テスト
	発達とは何か？								
	第8講 パーソナリティの発達①								小テスト
乳幼児から子ども時代の発達									
第9講 パーソナリティの発達②								小テスト	
思春期以降の発達									
第10講 パーソナリティ形成の要因								小テスト	
動機づけ、情緒、思考、言語、知能									
第11講 健康なパーソナリティとは？								小テスト	
社会適応、機能水準									
第12講 パーソナリティの障害								小テスト	
精神疾患									
第13講 ストレス								小テスト	
ストレス評価、ストレス対処									
第14講 パーソナリティと脳								小テスト	
脳の機能、脳の障害									
第15講 パーソナリティの成熟								小テスト	
カウンセリング									
成績評価方法	各回の小テスト（30%）と単位修得試験の結果（70%）により評価する。								
教科書	著書 『パーソナリティと心理学 ―コミュニケーションを深めるために―』 著者 近藤 卓 出版社 大修館書店 出版年度 2009年9月1日 ISBN 9784469265446								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	人事・労務管理			担当者	中嶋 哲夫
レベルナンバ	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<p>①人事・労務管理に関する専門用語を理解・修得し、人事担当者として、その企業の人事制度について、建設的な議論ができるようになる。同時に、専門用語のうち、とりわけ人事制度と人事評価に関する用語については専門家では無い人に対してもわかりやすく平易な言葉で説明できるようになる。</p> <p>②具体的なある会社の人事制度(例えば成果主義型の人事制度)が示されたときに、その制度の善し悪しを評価し、旧来の一般的な人事制度(例えば年功序列・終身雇用型の人事制度)と比べたときの長所、短所を述べるができるようになる。</p> <p>③経営者と従業員、上司と部下の間の円滑な関係を築くことができる人事制度の要素を挙げる事ができ、それを職場で説明したり実践したりすることができるようになる。</p>								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをとりながら受講すること。 ・雇用する立場から授業を理解をすること(従業員としての感想や意見ではなく)。 ・第6回のレポートを書く前に、添付の副教材を読むこと。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 人事・労務管理入門				確認テスト、ディスカッション				
	人事・労務管理を学ぶうえで、どのような観点を持てばよいのかを理解するために、人事・労務管理の学習内容の概要を説明する。								
	第2回 経営環境・労働市場と労働行政				確認テスト				
	企業内の人事・労務管理の仕組みが、経済環境や労働法の影響を大きく受けていることを説明する。								
	第3回 労働力の調達				確認テスト				
	高齢化、高学歴化(労働供給側)、高度知識化、サービス化(労働需要側)の動向を説明した上で、雇用契約の開始と終了にともなう人事・労務管理の内容を説明する。								
	第4回 キャリアの形成とその管理(1)				確認テスト、レポート				
	長期的な雇用契約の中で、個人がキャリアを形成するとき、人事・労務管理をどのようにとらえればよいかを説明する(この回だけは個人の側から見た人事・労務管理を説明)。								
	第5回 キャリアの形成とその管理(2)				確認テスト				
	明文化された人事制度と職場慣行、格付制度、社員区分制度、人事異動、昇格管理などについて説明する。								
	第6回 人事評価制度				確認テスト、レポート				
	人事評価制度を組み立てるときの考え方について説明を行う。評価対象、評価基準、評価方法、評価者の4つの要素を説明する。								
	第7回 評価制度の運用				確認テスト、レポート				
	現在、多くの先進企業で取り組まれている目標管理とコンピテンシー評価の運用を、職場のレベルで説明する。								
第8回 賃金制度の管理				確認テスト					
内的報酬と外的報酬、変動給と固定給、付加給付などの決め方について説明する。そのなかで、職能給や職務給の考え方の違いも説明する。									
第9回 能力開発の管理				確認テスト、ディスカッション					
生涯を通じた能力開発と仕事を通じた学習の理論を説明し、企業内の人材育成のあり方を説明する。									
第10回 働く環境の管理				確認テスト					
労働時間の弾力化と長時間労働、メンタル・ヘルス、ワーク・ライフ・バランス施策などについての企業の責任について述べる。									
第11回 従業員関係の管理				確認テスト					
集团的労使関係、個別的労使関係、労使のコミュニケーションなど、労使の信頼関係を深める手立てについて説明する。									
第12回 モチベーション理論と人事・労務管理				確認テスト、レポート					
角度を変えて、職場での部下の動機づけについて、モチベーション理論とリーダーシップ理論を説明する。									
第13回 戦略的人的資源管理				確認テスト					
1990年代以降に発達している事業戦略と人的資源管理戦略の補完関係に関する理論を説明する。									
第14回 グローバル人的資源管理				確認テスト					
企業がグローバルな活動を行う時代になり、人事・労務管理もグローバルな視野が必要になってきている。その具体的なイメージを描くため、日本企業の活動と、日本国内での外国人雇用の側面について説明する。									
第15回 労働過程の変化と人的資源管理				確認テスト、ディスカッション					
経済活動の内容の変化とそれに伴う近年のトピックスについて話を。労働内容の分化、サービス労働化、感情労働化、ダイバーシティ、労働市場流動化、ブラック企業などについて説明する。									
成績評価方法	<p>単位修得試験、第12回レポート課題(各回の課題含む)</p> <p>【A評価】各回の確認テストに準じた単位修得試験において満点に近い成績を修めた上で、レポート課題において、問題を具体的に指摘し、その改善策を的確に述べる事ができる。</p> <p>人事・労務管理に関する専門用語を理解・修得し、人事担当者の話のポイントを理解することができる(基礎的な能力)うえで、働いている組織の人事制度を正確に理解し、その長所と短所を指摘することができる。</p> <p>また、現状の人事制度の課題についての確な提案ができる。リーダーの立場にある人については、働いている組織の人事制度を活かして、職場運営を効果的にすることができる。</p> <p>【B評価】各回の確認テストに準じた単位修得試験において満点にやや近い成績を修め、レポート課題においては問題点を具体的に指摘しているが、その改善策についてはやや不十分なものとなっている。</p> <p>人事・労務管理に関する専門用語を理解・修得し、人事担当者の話を理解することができる(基礎的な能力)うえで働いている組織の人事制度を正確に理解し、その長所と短所を指摘することができるが、その改善策を意見具申するところまでは届いていない。</p> <p>【C評価】各回の確認テストに準じた単位修得試験において最低限として求められる成績を修める。レポート課題においては問題点の指摘に(偏りや曖昧さ)が見られ、改善策が述べられていない。</p> <p>人事・労務管理に関する専門用語を理解・修得し、人事担当者の話を丁寧に説明してもらえば理解することができる(基礎的な能力)うえで、働いている組織の人事制度を正確に理解する。ただし、その理解が長所と短所の両面を理解するところまでは及ばず、やや、一方的な理解に留まっている。</p> <p>【D評価】各回の確認テストに準じた単位修得試験において最低限として求められる成績を修めることができず、レポート課題の内容も感想文のレベルに留まる。ただし、各回の課題において学習内容を理解していることを示している。</p> <p>人事・労務管理に関する専門用語の理解が曖昧であり、人事担当者の話を聞かずに聞く可能性がある。働いている組織の制度の理解に偏りが見られ、制度の長所と短所を理解できていない。</p>								
教科書	なし								

参考書 (任意購入)	『新しい人事労務管理 第5版』、佐藤博樹・藤村博之・八代充史著、有斐閣アルマ、2160円（税込）、2015年 『正しい目標管理の進め方』、中嶋哲夫著、東洋経済新報社、1944円（税込）、2015年
必須ソフト ・ツール	
備考	【履修の前提とするもの】 特になし。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 組織での勤務体験があるほうが授業内容を理解しやすい（友人などに組織での人事のあり方を質問したりすることで補うことが可能である）。 組織での勤務体験に加えて、仕事のなかでリーダーの体験をしていると、より授業がわかりやすい。

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	身体科学			担当者	渡辺 勉
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	自分の体のことは意外と知らないものだ。人間の体の基本的な構造や機能を理解し、怪我や病気をした際に、適切な対処行動を取れるように自分の身体との付き合い方を学ぶ。また、マスメディアやインターネットにあふれる健康情報に振り回されない知識を身につける。								
学習の進め方	オンデマンド教材を主教材として授業を進める。教科書で事前に予習をしているとより理解しやすい。適宜、参考資料を提示している。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> シラバスを見て、事前に図書館などでその授業の参考になる本や資料を調べていると、理解が進むことでしょう。 レポートに取組む際にはデジタル教材だけではなく、参考になる本を調べる。授業でわかりにくいところは自ら参考になる本などを探す努力をすること。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 身体科学とは何か？				確認テスト				
	身体科学を歴史的に概観し、ヒトの体の構造や機能の概略を知る。身体科学のこれからについても考える								
	第2回 歩く、走る、立つ、座る				レポート				
	ヒトの骨格や筋肉について学び、二足歩行の巧妙さを知る								
	第3回 食べるということ				確認テスト				
	食べ物の栄養素や消化、吸収について学ぶ								
	第4回 メタボリック症候群とは？				レポート				
	メタボリック症候群について知り、肥満が万病の元であることを理解する。また、予防法を考える								
	第5回 病気から体を守る				確認テスト				
	病気とは何かを知り、人体に備わった免疫システムなど外敵からの防御システムを知る								
	第6回 眠るということ				レポート				
	睡眠とサーカディアンリズムについて学び、睡眠障害の現状を知る								
	第7回 体調を整える				確認テスト				
自律神経やホルモンについて理解する。環境ホルモンについても学ぶ									
第8回 臓器は体をめぐる				レポート					
心臓、肺、血管の構造と機能を知る。臓器移植についても考える									
第9回 見る、聞く、味わう...				確認テスト					
五感（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）について学び、痛みとはどういうものかを知る									
第10回 体内をきれいにする				レポート					
人体に備わっている排泄機能とそれを担っている臓器について知る									
第11回 記憶や情動は脳の働き				確認テスト					
脳の基本的な構造や機能を知る									
第12回 子どもを産むということ				レポート					
受精、妊娠、出産について理解する。不妊治療の現状や性感染症についても学ぶ									
第13回 疲れるとは？				確認テスト					
疲労研究の最前線を見る									
第14回 喫煙・飲酒と健康				レポート					
たばこの害、お酒やコーヒーの効用と害、薬物依存症の怖さを知る									
成績評価方法	課題や平常の学習態度が（40%）、単位修得試験が（60%）で評価する。								
教科書	著書 『図解入門 よくわかる生理学の基本としくみ（図解入門 メディカルサイエンスシリーズ）』 著者 當瀬規嗣 出版社 秀和システム 出版年度 2011年3月20日 1版 ISBN 9784798012223								
参考書 (任意購入)	『人体の構造と機能(1) 解剖生理学(系統看護学講座 専門基礎分野)』、坂井建雄、医学書院、3,990円(税込)、2009年 学習内容に沿って適宜提示する								
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	心理学概論			担当者	松並 知子
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★	
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	この講義では、心理学に初めて接する学生を対象に、心理学における基礎的な知識と考え方を紹介する。心理学の主な領域について、つまり、感覚や記憶・思考について解明する認知心理学、刺激と反応から心的過程を類推する行動心理学、人間の発達過程とそのメカニズムを研究する発達心理学、精神病理やパーソナリティについて研究する臨床心理学、脳の仕組みと働きについて研究する生理心理学、そして、個人や集団の心理と行動について研究する社会心理学などについて、学習を進めていく。また、これらの各分野の内容と主だった発見や理論を紹介しながら、心理学とは一体どのような学問であるのかを包括的に考え、解明していくことが目的である。学習意欲の高い受講生の参加を求める。							
学習の進め方	本授業では、デジタル教材を主に活用して学習を進めます。学習をはじめるときには必ず、各回の学習内容と学習目標を確認してから学習を進めてください。各回ごとに、確認テストがありますので確認テストをクリアしてから次の回へ進みましょう。また、確認テストには納得できるまで取り組むこと。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 心理学に関連する専門書を活用すること、参考書をよく読んで取り組むこと。 参考図書で自己学習すること、ノートを取りながら受講することを推奨します。 							
学習内容	概要			課題				
	第1回 はじめに			確認テスト				
	心理学概論のオリエンテーションで始まり、心理学の歴史と、さまざまな領域について学ぶ							
	第2回 認知心理学 (1) —感覚・知覚・運動—			確認テスト				
	感覚と知覚、視覚、聴覚、運動の知覚について学ぶ							
	第3回 認知心理学 (2) —知能・記憶・言語—			確認テスト				
	知能、記憶、言語について学ぶ							
	第4回 認知心理学 (3) —思考—			確認テスト				
	概念と推理、問題解決について学ぶ							
	第5回 行動心理学 (1) —学習—			確認テスト				
	学習について学ぶ							
	第6回 行動心理学 (2)			確認テスト				
	要求、行動について学ぶ							
	第7回 まとめテスト			まとめテスト				
	要求、行動について学ぶ							
第8回 発達心理学			確認テスト					
発達の原理、生物学的発達、社会的発達について学ぶ								
第9回 臨床心理学 (1) —パーソナリティ—			確認テスト					
パーソナリティ、適応と不適応について学ぶ								
第10回 臨床心理学 (2) —精神病理—			確認テスト					
精神障害、心理療法、その他の問題について学ぶ								
第11回 生理心理学			確認テスト					
脳と神経系、覚醒と睡眠、動機と情動の神経機構について学ぶ								
第12回 社会心理学 (1) —個人—			確認テスト					
自己、社会的相互作用、コミュニケーション、対人関係について学ぶ								
第13回 社会心理学 (2) —集団—			確認テスト					
集団の構造化、集団意思決定、集合現象について学ぶ								
第14回 実験 —身近に感じる心理学—			ディスカッション					
実験を実際に体験し、さまざまな心理学的現象を理解する								
第15回 まとめ			まとめのテスト					
最近の心理学の分野、科目の全体的まとめについて学ぶ								
成績評価方法	平常点 (50%) は、第1回～第13回に実施する各回の確認テストとまとめのテストの結果によって決まる。単位修得試験は、(50%) の配分とする。							
教科書	なし							
参考書 (任意購入)	『心理学』、詫摩武俊(編)、新曜社、2010年6月20日 改訂版、9784788503618 『心理学の基礎』、今田寛、賀集寛、宮田洋、培風館、2003年4月 3訂版 『心理学って何だろう』心理学ジュニアライブラリ、市川伸一、北大路書房、2002年11月							
必須ソフト・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	心理学研究法			担当者	西本 実苗
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	目に見えない「心」に対し、実証的にアプローチするために使われる、各種の心理学研究法について説明できることを目標とします。さらに、「心」について何らかの仮説を立て、その仮説を検証するための方法について説明できることも目標とします。							
学習の進め方	本授業では、デジタル教材を主に活用して授業を進めます。また、デジタル教材中で教科書のページを参照する指示がある場合は、必ず教科書も参照してください。回ごとに課題として確認テストがあります。確認テストを終わらせてから次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 教科書には、一通り目をおしておくこと。 確認テストの受験後、不正解の箇所および、理解が不十分であったところは、デジタル教材や教科書等を確認しておくこと。 							
学習内容	概要						課題	
	第1回 「心」に対する実証的なアプローチ						確認テスト	
	心という「目には見えないもの」に対し、心理学ではどのようなアプローチを行ってきたか概観する。							
	第2回 科学と実証						確認テスト	
	実証的科学としての心理学研究について概観する。							
	第3回 観察法						確認テスト	
	観察法の特徴と方法について学習する。							
	第4回 面接法						確認テスト	
	面接法の特徴と方法について学習する。							
	第5回 実験法						確認テスト	
	実験法の特徴と方法について学習する。							
	第6回 質問紙法						確認テスト	
	質問紙法の特徴と方法について学習する。							
	第7回 セマンティック・ディファレンシャル法(SD法)						確認テスト	
	セマンティック・ディファレンシャル法(SD法)の特徴と方法について学習する。							
第8回 心理検査法1						確認テスト		
心理検査法の特徴と代表的な心理検査について学習する。								
第9回 心理検査法2						確認テスト		
心理検査の質を判断するための統計的な手がかりおよび、心理検査を行う際の留意点について学習する。								
第10回 精神物理学的測定法						確認テスト		
精神物理学的測定法の特徴と方法について学習する。								
第11回 横断的研究法と縦断的研究法						確認テスト		
横断的研究法と縦断的研究法の特徴と方法について学習する。								
第12回 統計的仮説検定						確認テスト		
統計的仮説検定の考え方および、心理学研究においてよく使われる各種検定について学習する。								
第13回 実験計画法						確認テスト		
心理学研究における実験計画法について学習する。								
第14回 心理学研究と多変量解析						確認テスト		
心理学の研究においてよく使われる、因子分析等の多変量解析について学習する。								
成績評価方法	各回の確認テストの結果の合計(50%)、単位修得試験結果(50%)とした総合評価とする。							
教科書	著書 『心理学研究法—データ収集・分析から論文作成まで』 著者 大山正、宮埜壽夫、岩脇三良 出版社 サイエンス社 出版年度 2009年5月25日 1版 ISBN 9784781911083							
参考書(任意購入)	『心理学研究法—心を見つめる科学のまなざし』、高野陽太郎、岡隆、有斐閣、2,205円(税込)、2004年							
必須ソフト・ツール								
備考	「心理学統計法」の学習内容について理解していることが望ましい。							

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	心理学実験演習 A			担当者	櫻本 和也(東京/札幌/福岡)、寺田 未来(夙川) 布井 雅人(夙川/名古屋/岡山)、 高橋 裕美(夙川)、八木 彩乃(夙川)
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席			単位修得試験実施方法	現地試験 (レポート)			単位修得試験試験会場	本学 (さくら夙川キャンパス) 東京会場 札幌会場 仙台会場 名古屋会場 岡山会場 福岡会場
学習目標	心理学を学ぶ上で“実験”は欠くことのできないものである。本授業では、ある時は実験者として、またある時は被験者として、実際に心理学の実験に参加して実習を行う。様々な実験を通して得られたデータを各自が分析し、心理学における実験を通して研究の基礎を習得したい。								
学習の進め方	講義形式にて実験の目的・内容や方法、結果の考察など順を追って理解を深めていく。実験の内容から個人ではなく集団で取り組むことも多くなるため、主体的な姿勢が求められることになる。また、ひとつの実験を終える度に課題としてレポートの提出を求める。ひとつ区切りをつけて着実に進めていきましょう。レポートは完成度の高いものに仕上げるように取り組むこと。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 実験内容や理論に関わる事前学習は必要ないが、WordやExcelの基本操作(図表の作成や関数を用いた表計算等)を確認しておくことで、効率的にレポートを作成できる。特に、Excelの操作について事前学習用ホームページを確認すること。 レポート・論文を作成する際の書式や、図表を掲載する際の約束事や、心理学統計法の基礎知識を深めること。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 オリエンテーション								
	心理学実験演習の概要説明をはじめ、授業履修にあたっての注意事項についてふれる。								
	第2回 実験レポートの作成について								
	論文やレポートを構成する項目(目的、方法、結果、考察)について学ぶ。								
	第3回 ミュラー・リヤー錯視								
	ミュラー・リヤーの錯視図形を例にとり、刺激条件と知覚判断との間における法則性について学ぶ。								
	第4回 ミュラー・リヤー錯視								
	第3回で実施した実験データを整理し、錯視量に与える角度の影響について考察することを目的とする。								
	第5回 ミュラー・リヤー錯視				レポート				
	第3回で実施した実験データを整理し、錯視量に与える角度の影響についてレポートを作成する。								
	第6回 投影法の基礎								
	あいまいな刺激材料を基にして、個人間の反応がどのように変化するののかについて学ぶ。								
	第7回 投影法の基礎								
	第6回で実施した実験データを整理し、反応の個人差や投影法について考察することを目的とする。								
第8回 投影法の基礎				レポート					
第6回で実施した実験データを整理し、反応の個人差や投影法について考察してレポートを作成する。									
第9回 エゴグラム-TEG-									
心理学において代表的な心理検査の一つであるエゴグラムを用いて、自分自身を客観的に把握する。									
第10回 エゴグラム-TEG-				レポート					
第9回で収集したデータを整理し、客観的指標を基に、自分自身について考察し理解を深める。									
第11回 レポートについての講評									
成果と課題を中心に、ここまでの取り組みを中心に振り返る。									
第12回 語の記銘									
無意味語の記銘を課題とした記憶実験を通して、記銘・保持・再生などの過程を含む記憶について学ぶ。									
第13回 語の記銘									
第12回で実施した実験データを整理し、記憶過程について考察することを目的とする。									
第14回 語の記銘				レポート					
第12回で実施した実験データを整理し、記憶過程について考察してレポートを作成する。									
第15回 まとめ				レポート					
ここまで繰り返し実施してきた実験を振り返り、今一度その成果と課題について振り返る。									
成績評価方法	レポート課題の提出状況と内容(80%)を主にして、出席時の態度(授業への意欲的な参加・姿勢)(20%)を踏まえたうえで、総合的に評価する。								
教科書	著書 『教材心理学(第4版) -心の世界を実験する-』 著者 木下富雄 他編 出版社 ナカニシヤ出版 出版年度 2011年3月20日 4版 ISBN 9784888480123								
参考書(任意購入)	適宜、参考資料を配布する。								
必須ソフト・ツール									
備考	本授業はAとBの二つに分けて構成している。実験および授業内容から、演習Aを受講した後に演習Bを受講するのが望ましい。単位修得には全出席が条件となり、各実験の課題としてレポート提出が求められるため、作成時間の確保や、根気よく取り組む姿勢が強く求められる。また、自ら授業へ積極的に取り組む姿勢も重要となる。受講者の上限人数は実習40名とする。受講者数上限を超過した場合は、認定心理士資格取得希望者を優先し、受講調整を行う。レポートを作成するにあたり、Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel等の基本的な操作ができること。特に図表を作成する際、Excelの基本的な操作をおさえておくことが求められる。 ※先修条件「心理学統計法」「心理学研究法」の学習内容を理解していることを要する。								

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	心理学実験演習 B			担当者	櫻本 和也(東京/札幌/福岡)、寺田 未来(夙川) 布井 雅人(夙川/名古屋/岡山)、 高橋 裕美(夙川)、八木 彩乃(夙川)
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全授業への出席		単位修得試験実施方法	現地試験 (レポート)			単位修得試験試験会場	本学 (さくら夙川キャンパス) 東京会場 札幌会場 仙台会場 名古屋会場 岡山会場 福岡会場
学習目標	心理学を学ぶ上で“実験”は欠くことのできないものである。本授業では、ある時は実験者として、またある時は被験者として、実際に心理学の実験に参加して実習を行う。様々な実験を通して得られたデータを各自が分析し、心理学における実験を通して研究の基礎を習得したい。							
学習の進め方	講義形式にて実験の目的・内容や方法、結果の考察など順を追って理解を深めていく。実験の内容から個人ではなく集団で取り組むことも多くなるため、主体的な姿勢が求められることになる。また、一つの実験を終える度に課題としてレポートの提出を求める。ひとつひとつ区切りをつけて着実に進めていきましょう。レポートは完成度の高いものに仕上げるように取り組むこと。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・実験内容や理論に関わる事前学習は必要ないが、WordやExcelの基本操作(図表の作成や関数を用いた表計算等)を確認しておくことで、効率的にレポートを作成できる。また、Aで扱ったレポートの書き方・Excel等について確認すること。 ・レポート・論文を作成する際の書式や、図表を掲載する際の約束事や、心理学統計法の基礎知識を深めること。 							
学習内容	概要			課題				
	第1回 オリエンテーション							
	心理学実験演習の概要説明をはじめ、授業履修にあたっての注意事項について確認する。							
	第2回 Y-G性格検査							
	心理学において代表的な心理検査の一つであるY-G性格検査を用い、自分自身を客観的に把握する。							
	第3回 Y-G性格検査			レポート				
	第2回で収集したデータを整理し、客観的指標を基に自分自身について考察して理解を深める。							
	第4回 メンタル・ローテーション (心的回転)							
	2種類(平面・奥行き)の回転図形を用いて、心的回転と心的イメージの関係性について学ぶ。							
	第5回 メンタル・ローテーション (心的回転)			レポート				
	第4回で実施した実験データを整理し、心的イメージについて考察してレポートを作成する。							
	第6回 鏡像描写							
	古くから試みられている「学習の成立過程」の分析について、鏡像描写の実験を通して学ぶ。							
	第7回 鏡像描写							
	第6回で実施した実験データを整理し、知覚-運動学習および学習の転移について考察する。							
第8回 鏡像描写			レポート					
第6回で実施した実験データを整理し、知覚-運動学習および学習の転移についてレポートを作成する。								
第9回 情報伝達								
流言が口から口へと伝えられていく過程について、連鎖的再生法を用いて情報変容の法則性を学ぶ。								
第10回 情報伝達			レポート					
第9回で実施した実験データを整理し、情報伝達の心理過程について考察してレポートを作成する。								
第11回 レポートについての講評								
成果と課題を中心に、ここまでの取り組みを中心に振り返る。								
第12回 ストループ効果								
ストループの実験を通して、ストループ干渉がどのように生じているかについて学ぶ。								
第13回 ストループ効果								
第12回で実施した実験データを整理し、ストループ効果について考察し理解を深める。								
第14回 ストループ効果			レポート					
ストループ効果についてのレポートを作成し、あわせて統計法についての理解も深める。								
第15回 まとめ								
ここまで繰り返し実施してきた実験を振り返り、今一度その成果と課題について振り返る。								
成績評価方法	レポート課題の提出状況と内容 (80%) を主にして、出席時の態度 (授業への意欲的な参加・姿勢) (20%) を踏まえたうえで、総合的に評価する。							
教科書	著書 『教材心理学 (第4版) -心の世界を実験する-』 著者 木下富雄 他編 出版社 ナカニシヤ出版 出版年度 2011年3月20日 4版 ISBN 9784888480123							
参考書 (任意購入)	適宜、参考資料を配布する。							
必須ソフト・ツール								
備考	本授業はAとBの二つに分けて構成している。実験および授業内容から、演習Aを受講した後に演習Bを受講するのが望ましい。単位修得には全回出席が条件となり、各実験の課題としてレポート提出が求められるため、作成時間の確保、根気よく取り組む姿勢が強く求められる。また、自ら授業へ積極的に取り組む姿勢も重要となる。受講者の上限人数は実習40名とする。受講者数上限を超過した場合は、認定心理士資格取得希望者を優先し、受講調整を行う。レポートを作成するにあたり、Microsoft Office Word、Microsoft Office Excel等の基本的な操作ができること、特に図表を作成する際、Excelの基本的な操作をおさえておくことが求められる。 ※先修条件「心理学統計法」「心理学研究法」の学習内容を理解していることを要する。							

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	心理学総合演習			担当者	枚田 香 (夙川), 具 英姫 (東京)
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	15回の授業のうち2/3以上の出席をしていること			単位修得試験実施方法	現地試験 (レポート)		単位修得試験試験会場	本学 (さくら夙川キャンパス) 東京会場
学習目標	心理学のジャンルは多岐にわたっており、かといってそれぞれが浅いものではなく、深く広く学習することが理想ではあるが、現実には得意な分野についてより専門的な研究をすすめる方がよい。この先専門分野に特化するにしても、主な心理学の理論は知っておくべきことなので、一通りの基本を再確認する授業にしたい。							
学習の進め方	スクーリング当日までに教科書に目を通しておくこと。スクーリング終了後に理解できなかった箇所や気になった箇所は教科書を読んで復習すること。受け身の講義ではなく、他の受講生とディスカッションしたり、教員に質問したりするような進行となるため、積極的に参加するためにも一通り予習しておくことが望ましい。							
授業時間外学習	・教科書に目を通しておくこと。							
学習内容	概要				課題			
	第1回 ガイダンスおよび心理学の歴史				小レポート			
	学派と中心的な研究方法							
	第2回 心の進化と発達				小レポート			
	ヒトが優れている理由							
	第3回 ライフサイクルと発達課題				小レポート			
	生まれてから死ぬまでの心の発達							
	第4回 動機づけと情動				小レポート			
	やる気と感情							
	第5回 性格と知能				小レポート			
	性格類型、性格検査 (心理テスト)、知能検査							
	第6回 ストレスとメンタルヘルス				小レポート			
	ストレスの理論とメンタルヘルスケアへの応用							
	第7回 カウンセリングと心理療法				小レポート			
	カウンセリング技法と代表的な心理療法							
	第8回 感覚				小レポート			
人間の五感、刺激を処理する仕組み								
第9回 知覚				小レポート				
感覚情報を脳で処理する仕組み								
第10回 記憶				小レポート				
記憶のステップ、記憶の種類、忘却								
第11回 学習				小レポート				
行動の変容、動機づけ								
第12回 思考				小レポート				
問題解決、推論、創造力								
第13回 脳と心				小レポート				
脳の仕組み、脳地図、脳損傷の影響								
第14回 社会のなかの人と心理学				小レポート				
集団心理、群集心理								
第15回 まとめ				小レポート				
全体の振り返り								
成績評価方法	平常点 (60%)、レポート (40%)							
教科書	著書 『はじめて出会う心理学』 著者 長谷川春一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行 (著) 出版社 有斐閣アルマ 出版年度 2010年12月25日 改訂版 ISBN 9784641123458							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト・ツール								
備考	随時プリントを配布 受講者上限人数 グループワークを含む講義40名							

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	心理学統計法			担当者	西本 実苗
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	—
学習目標	心理学では実験やアンケート調査などによりデータを収集し、理論や仮説にもとづいてそれらのデータを分析するという実証的なアプローチをとることが特徴的です。心理学の学習と研究を進める上で必要な心理統計についての知識を習得し、データ分析の手法を身につけます。							
学習の進め方	(第1回～第15回) 本授業では、デジタル教材を主に活用して授業を進めます。デジタル教材中で教科書のページを参照する指示がある場合は、必ず教科書も参照してください。デジタル教材中では表計算ソフト (Excel) などを用いたPC上での実習を指示することもあります。デジタル教材を参照しながらそれらの実習を進めてください。回ごとに課題 (確認テスト等) があります。課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 教科書には、一通り目をおしておくこと。 確認テストの受験後、不正解の箇所および、理解が不十分であったところは、デジタル教材や教科書等を確認しておくこと。 							
学習内容	概要							課題
	第1回 心理学と統計法							確認テスト
	心理学に統計法が必要とされる背景と、心理学では統計法がどのように使われているかについて理解する。							
	第2回 記述統計1							確認テスト
	平均、度数分布表、分散と標準偏差について学習する。							
	第3回 記述統計2							確認テスト
	様々な代表値と散布度、各種グラフを用いたデータ表現について学習する。							
	第4回 測定の水準							確認テスト
	4つの尺度 (名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度) とそれぞれに適用できる記述統計について学習する。							
	第5回 統計的推測							確認テスト、プレゼンテーション
	標本から母集団を推測する区間推定と信頼区間について学習する。							
	第6回 2変数間の相関1							確認テスト
	散布図と相関係数について学習する。							
	第7回 2変数間の相関2							確認テスト
	クロス表について学習する。							
	第8回 統計的検定1							確認テスト
	仮説検定の考え方について学習する。							
第9回 統計的検定2							確認テスト、プレゼンテーション	
カイ二乗検定について学習する。								
第10回 統計的検定3							確認テスト	
t検定 (対応なし) について学習する。								
第11回 統計的検定4							確認テスト	
t検定 (対応あり) について学習する。								
第12回 統計的検定5							確認テスト	
分散分析 (1要因) について学習する。								
第13回 変数とは							確認テスト	
独立変数 (説明変数) と従属変数 (目的変数) の考え方について学習する。								
第14回 統計的検定6							確認テスト	
分散分析 (2要因) について学習する。								
第15回 まとめ							確認テスト	
本授業のまとめを行う。								
成績評価方法	全15回の確認テストの結果の合計を40%、プレゼンテーション課題(2つ)の評価結果の合計を10%、単位修得試験結果を50%とした総合評価とする。							
教科書	著書 『統計学がわかる』 著者 向後千春、富永敦子 出版社 技術評論社 出版年度 2011年2月15日 1版 ISBN 9784774131900							
参考書 (任意購入)	『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるすぐ初歩の統計の本』、吉田寿夫、北大路書房、2,625円 (税込)、1998年							
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Excel							
備考	Officeソフト (特にExcelなどの表計算ソフト) の基本操作に習熟していることが望ましい。このコンテンツはMicrosoft Office Excel 2007をベースに設計されています。							

メジャー(専修)名				授業科目名	スイーツ学で神戸スイーツ探訪			担当者	松井 博司
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	・全授業への出席 ・課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
学習目標	1. スイーツを学術的に捉えるとはどういうことかを説明できる。 2. 専門的スキルを論理的に表現できるようになる。 3. スイーツの経済的発展の経緯について説明できる。 4. 洋菓子の発祥地神戸について、歴史・文化の概要を解説できる。								
学習の進め方	スイーツ学を理解し神戸スイーツの歴史と文化を学ぶ。さくら夙川キャンパスにて、「スイーツ学」の講義、レポート作成、実習室でのスイーツ演習(試食付き)、グループディスカッションを行う。2日目は、見学・講習会を行ったうえ、レポート課題を期日までに提出する。								
授業時間外学習	・神戸のスイーツに関する参考資料などを調べておく。								
学習内容	概要				課題				
	第1日目				レポート、プレゼンテーション、ディスカッション				
	「スイーツ学」の講義をさくら夙川キャンパスの学内教室で実施する。 午前は、スイーツ学の概念を理解しスイーツの歴史と文化(世界史、日本史)を学ぶ。さらに、神戸の洋菓子文化について解説する、講義のあと、課題をレポート作成する。(A4用紙1枚) 午後からは、実習室でスイーツ演習としてデモンストレーション授業(試食付き)を行う。デモンストレーション授業後には、課題についてのグループディスカッションを行う。								
第2日目				レポート、ディスカッション					
9:10集合 阪神西宮駅前に集合し実地見学を行う。 当日の予定の確認および課題についての説明 9:45~11:00《見学・講習》 株式会社シュゼット ハーバースタジオ43 見学・講習 11:30~12:00 阪神西宮駅から阪神元町駅に移動 12:00~14:00 昼食および元町周辺を自由見学 14:00 午後の解散場所で集合 14:00~15:30《見学・講習》 神戸風月堂ゴルフミュージアム見学・講習会 16:20 まとめ、解散 ※課題レポートを期日までに提出									
成績評価方法	講義内容についての課題レポート、プレゼンテーション、実地見学講習時の課題レポートにより総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	特になし(一部授業中に紹介)								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	受講者上限人数 実地見学を含む演習20名 交通費や施設入場料、飲食代など、学外の実地見学における一切の費用は自費となります。また、実地見学において、集合時刻に遅れた場合は欠席となります。								

メジャー(専修)名				授業科目名	数学			担当者	花島 健吾
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	現代社会のビジネスにおける「数学」の活用場を知る。また、実務や実生活で「数学」を使いこなせるようになることを目標とする。								
学習の進め方	教科書に沿ったデジタル教材を主として学習を進めます。なお、数学に自信がない人、長い間遠ざかっている人、数学アレルギーの方も無理なく楽しく学習できるカリキュラムになっています。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に教科書の該当範囲の教科書を一読しておく、より理解が深まります。そのあとでデジタル教材を閲覧して下さい。 ・受講後は確認テストを復習し、教科書の該当範囲の例題や練習問題に取り組んでください。 								
学習内容	概要								課題
	第1章 微分積分								確認テスト
	1-1 関数とは？ 関数とは何か？グラフの読み方は？など、数学を学習する上での基本事項をおさらいする。 1-2 微分 「微分」の意味を理解し、株価変動の分析などの実生活での実用例を考察する。 1-3 積分 「積分」の意味を理解し、 $v-t$ グラフなど実生活での実用例を考察する。								
	第2章 確率								
	2-1 確率とは？ 確率の基本的な考え方を学ぶ。 2-2 条件付き確率 誤解しやすい条件付き確率を、トランプゲームを用いて考察する。 2-3 期待値 期待値の基本的な考え方を理解し、実生活での活用を目指す。主に「半・ルーレット・競馬」などのギャンブルを例にとり研究する。								確認テスト
	第3章 PERT/CPM								確認テスト
	3-1 PERT 代表的なスケジュール管理法であるPERTの基本をマスターする。 3-2 CPM PERTをさらに発展させた、積極的な納期・コスト管理のフレームワークを習得します。								
第4章 ゲーム理論								確認テスト	
4-0 ゲーム理論とは？ 近年、ビジネス界で脚光を浴びているゲーム理論とは何か？を考察する。 4-1 同時ゲーム 出店競争の事例を用いて、同時ゲームの解き方をマスターする。 4-2 事例研究 「囚人のジレンマ」「コミットメント」などをテーマに発展的な同時ゲームの事例研究をします。 4-3 交互ゲーム 出店競争のビジネス事例を用いて、交互ゲームの解き方をマスターする。									
第5章 線形代数								確認テスト	
5-0 線形代数の基礎 線形代数の基本的な考え方をマスターする。 5-1 行列式 行列式の仕組みについて学習する。 5-2 行列式 行列式の計算方法を習得する。									
成績評価方法	確認テスト (40%)、単位修得試験 (60%)								
教科書	著書 『ラストリゾート数学』 著者 花島健吾 出版社 じゃあそれだ堂 出版年度 2011年6月10日 1版								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	政治学			担当者	石黒 太
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法		デジタル教材 活用度	★★★		
単位修得試験 受験資格				単位修得試験 実施方法				単位修得試験 試験会場	
学習目標									
学習の進め方									
授業時間外学習									
学習内容	概要							課題	
成績評価方法									
教科書									
参考書 (任意購入)									
必須ソフト ・ツール									
備考									

現在は内容未定です。詳細が決まり次第、el-Campusにて、お知らせいたします。

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	精神分析学			担当者	赤坂 和哉
レベルナンバ	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フロイトから始まる精神分析について、主要な研究者の名前を挙げて、それぞれの研究対象や分析技法、功績や業績について説明することができる。 ・精神分析における様々な学派の理論や主張の相違点について、その原因や経緯も含めて比較しながら、説明することができる。 ・精神分析が日常生活においていかに身近なものであるのかを、自分自身の経験をもとにして、具体例を挙げて説明することができる。 ・芸術・文学作品を取り上げて、精神分析の観点から作家や作品の分析ができる。 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。レポート課題があるので、事前にel-Campusトップの「その他の学習」にある「レポートの書き方」をしっかり読んでおくこと（特に文字数に関して）。精神分析学の専門用語には似ている言葉が多いので、その違いに注意を払いながら、一つ一つの専門用語を把握しておくこと。								
授業時間外学習	・授業を聞いて重要と思う点をノートに取り、それを補足する形で自己学習をすることが望ましい。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 フロイトの精神分析①				確認テスト、ディスカッション				
	精神分析の創始者フロイトを取り上げ、その人物像からはじめ、精神分析の誕生過程を最初に確認します。そして、無意識などの精神分析の中心概念を概観し、精神分析でよく批判の対象となる性愛に関して解説します。								
	第2回 フロイトの精神分析②				レポート				
	フロイトの代表的な著作『夢判断』をもとに夢の意味を読み解く方法を概観し、臨床的に精神分析を学ぶ基礎と言われる5つの症例に触れ、最後にフロイト以降の精神分析の展開を大まかに確認します。								
	第3回 ユングの分析心理学				確認テスト				
	フロイトと決別し、分析心理学を打ち立てたユングを取り上げ、その生涯を最初に概観し、「内向的」等の言葉で知られるタイプ論を解説し、集合的無意識を形作る元型とその表現として箱庭やマンダラを取り上げます。								
	第4回 アドラーの個人心理学				確認テスト				
	フロイトと決別し、個人心理学を作ったアドラーを取り上げ、その人物像や考え方をまず確認し、初期の劣等性に関する研究、中期のライフスタイルに関する研究、後期の共同体感覚に関する研究を順に見ていきます。								
	第5回 アンナ・フロイトらの自我心理学				レポート				
	フロイトの娘であり、自我心理学の礎を築いたアンナ・フロイトの生涯と防衛機制に関する研究を最初に概観し、自我の自律性を強調したハルトマンと自我の心理・社会的発達を研究したエリクソンを取り上げます。								
	第6回 クラインの対象関係論				確認テスト				
	アンナ・フロイトと理論・実践面で対立したクラインを取り上げ、その対立の中心となった空想概念をまず確認します。そして、クラインが基礎を作り上げた対象関係論の鍵概念である投影同一化などを取り上げます。								
	第7回 ボウルビイらの母子研究				確認テスト				
	自我心理学的な発想に端を発した、乳幼児の直接観察に基づく母子関係の実証的研究を取り上げます。具体的には、ボウルビイの愛着理論、マラーの分離-個体化理論、スターンの自己感の研究を解説します。								
第8回 コフートの自己心理学				確認テスト					
自己心理学を考案したコフートを取り上げ、その人物像や生涯をまず概観し、自己心理学の中心概念である双極性自己と自己対象を解説し、最後に、そうした概念と現象面の結びつきを有名な症例「X氏」で確認します。									
第9回 ウィニコットの対象関係論				ディスカッション					
現代の精神分析で重要な理論的な柱である対象関係論から、間にあるものに重きを置いたウィニコットを取り上げ、その生涯と中心概念を概観します。具体的には、ほど良い母親、移行対象、遊ぶことなどを取り上げます。									
第10回 ビオンの対象関係論				ディスカッション					
精神分析の対象「O」を追求したビオンを取り上げ、まずその人物像と集団に関する考え方を確認します。そして、容器・内容モデル、アルファ機能、対象「O」といったビオンの中心的な概念について解説します。									
第11回 ラカンの精神分析				レポート					
フロイトへの回帰を主張し、精神分析を現代的に甦らせたラカンを取り上げ、まずその生涯を概観します。そして、言語的な無意識について解説し、その動きを症例で確認し、最後に、ラカンの理論的展開を説明します。									
第12回 ドルトの児童分析				確認テスト					
子供の精神分析において特に評価が高く、「魔法を使う」とまで言われた類い希な臨床力を持つドルトを取り上げ、その人物像の説明からはじめ、ドルトが目にした去勢概念を理論および実践面から解説します。									
第13回 精神分析と診断学				ディスカッション					
精神疾患の診断には、DSM-IV等に見られる、症状を記述して分類した操作的診断基準が使用されている。このような診断基準には社会的な圧力が影響する問題点があり、それを精神的な懐疑を用いて考察する。									
第14回 精神分析と現代社会				ディスカッション					
父権主義・家父長主義などの様々な権威が失墜した現代社会では、精神分析の観点からは、普通精神病と普通倒錯という二つの現代に特徴的な人間のあり方が想定されている。この回では、この二つについて解説する。									
第15回 精神分析と病跡学				レポート					
フロイトはダ・ヴィンチ等の有名な人物を精神分析の手法を用いて間接的に分析した。こうした病跡学の観点から、フロイトによるダ・ヴィンチ論、ラカンによるジョイス論、他には宮崎駿を取り上げる。									
成績評価方法	<p>確認テスト、レポート課題、ディスカッション課題、単位修得試験</p> <p>【A評価】B評価の基準とすべての下記の項目以上を満たすこと。 レポート課題で、授業で修得した精神分析の諸概念を適切に用いて、自らの体験を熟考し、自分自身等について精神的に考えることができていること。 ディスカッション課題で、受講者全体にさらなる理解や修得を促すような発言を行うこと。 単位修得試験を受け、正解が非常に多く、精神分析の基礎的な概念をよく理解していること。</p> <p>【B評価】C評価の基準とすべての下記の項目以上を満たすこと。 レポート課題で、授業で修得した精神分析の諸概念と自らの体験を基にして、自分自身等について部分的にでも精神的に考えることができていること。 ディスカッション課題で、前向きで積極的な発言を行うこと。 単位修得試験を受け、正解が多く、精神分析の基礎的な概念を十分に理解していること。</p> <p>【C評価】D評価の基準とすべての下記の項目以上を満たすこと。 レポート課題で、授業内容に適切に言及し、自分自身等について精神的に考えようとしていること。 ディスカッション課題で、間違ってもよいので自分の意見を述べること。 単位修得試験を受け、正解が半分はあり、精神分析の基礎的な概念を半分以上理解していること。</p> <p>【D評価】レポート課題を提出していること。 ディスカッション課題に参加していること。 単位修得試験を受けていること。</p>								
教科書	なし								

参考書 (任意購入)	『ラカン派精神分析の治療論』、赤坂和哉、誠信書房、3,564円(税込)、2011年 『はじめてのラカン精神分析』、赤坂和哉、誠信書房、2,160円(税込)、2013年 『集中講義・精神分析<上>』、藤山直樹、岩崎学術出版社、2,916円(税込)、2008年 『集中講義・精神分析<下>』、藤山直樹、岩崎学術出版社、2,916円(税込)、2010年 『露出せよ、と現代文明は言う』、立木康介、河出書房新社、2,592円(税込)、2013年
必須ソフト ・ツール	
備考	【履修の前提とするもの】 本科目を履修するまでに、参考書にあげた5冊の書籍、またはそれ以外の書籍でもよいので、精神分析の専門書(書店の精神分析の棚にある本)を一冊以上は読んでおくこと。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 特になし。

メジャー(専修)名	心理学	授業科目名	精神保健学			担当者	堀川 諭
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	☆☆☆
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート		単位修得試験試験会場	—
学習目標	近年、英国では、ガン、心疾患と並び、精神疾患を三大疾患に位置づけ、精神保健関連施策の充実が図られるようになりました。このように、現代社会において、精神保健はきわめて重要な問題となっています。この授業では、さまざまな角度から精神保健を学び、精神障害についての理解を深めたいと思います。						
学習の進め方	教科書を主教材として学習を進めます。各章のレポートを提出し、単位修得試験のレポートに取り組んでください。						
授業時間外学習	・関連したサイトの閲覧を奨めます。						
学習内容	概要			課題			
	第1章 精神保健の基礎			小レポート			
	精神保健とは、精神保健の歴史、精神障害の原因、発達、知能と人格の心理検査						
	第2章 精神症状の知識			小レポート			
	意識の障害、知能の障害、記憶の障害、知覚の障害、思考の障害、感情の障害、意欲と行動の障害、自我の障害						
	第3章 精神障害の知識			小レポート			
	症状性を含む器質性精神障害 精神作用物質使用による精神および行動の障害 統合失調症 気分障害 神経性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 成人の人格および行動の障害 精神遅滞 心理的発達の障害 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害 てんかん						
	第4章 精神障害の治療						
	身体療法 精神療法 社会療法 (精神科リハビリテーション)						
	第5章 社会と精神保健						
家庭と精神保健 学校と精神保健 職場と精神保健 病院と精神保健 施設と精神保健 災害と精神保健 地域精神保健福祉							
成績評価方法	各章のレポート (50%)、単位修得試験のレポート (50%)						
教科書	著書 『新版 精神保健 第2版』 著者 石井厚 監修 出版社 医学出版社 出版年度 2010年 9月24日 ISBN 9784870551190						
参考書 (任意購入)							
必須ソフト・ツール							
備考	el-Campusにて専用のレポート様式をダウンロードして使用してください。 この科目は、大学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。						

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	青年心理学			担当者	芳田 茂樹
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	この授業では、青年期の諸理論を通して、身体的・生理的発達や自己意識の形成を中心に青年期の心身の発達が人間形成において重要な時期であることを認識し理解することを目的に行う。							
学習の進め方	本授業では、指定したテキストを活用して学習を進めます。学習をスタートするときは、必ず各章の学習のポイントやねらいを十分把握して学習を進めて下さい。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布するテキスト等は必ず目を通しておくこと。 ・辞典、専門書及び関連サイトを活用すること。 ・関連する参考図書をよく読んで取り組むこと。 ・各自で規則的に学習するスタイルを身につけること。 ・興味・関心を持って取り組むこと。 							
学習内容	概要						課題	
	第1章 青年期と青年心理学						小テスト	
	青年期は発達段階では、どのような時期に位置づけられ、どのような課題に直面しているのかを考えてみよう。							
	第2章 青年期の思考と感情						小テスト	
	青年期特有の感情や思考的方向性を通して、価値観や生きがいについて考えてみよう。							
	第3章 身体とジェンダー						小テスト	
	思春期以降の身体・生理的発達特徴や性役割観について考えてみよう。							
	第4章 自己とアイデンティティ						小レポート	
	自己意識やアイデンティティとは青年にとってどのような概念で位置づけられているのか。またそれはどのようにして形成されていくのかを考えてみよう。							
	第5章 家族と友人						小テスト	
	青年期の親子関係や友人関係は、どのように発達し、どのように構築されていくのかを考えてみよう。							
	第6章 学校と学習						小テスト	
青年期の多くの時間を過ごす「学校」での生活や就学することの意味を通して、青年期の生活意識について考えてみよう。								
第7章 進路と職業						小テスト		
青年期のキャリア形成と職業観について考えてみよう。								
第8章 社会と政治						小テスト		
青年期における社会的期待と役割、また社会参加について考えてみよう。								
第9章 障害と臨床						小テスト		
思春期・青年期の問題解決にはどのようにしてサポートしていくべきかについて考えてみよう。								
第10章 大人になること						小レポート		
大人になることとはどのようなことか？さまざまな社会的イニシエーションを通して考えてみよう。								
成績評価方法	小レポート（25%）、小テスト（25%）及び単位修得試験（50%）により総合評価する。							
教科書	著書 『よくわかる「青年心理学」』 著者 白井利明 出版社 ミネルヴァ書房 出版年度 2010年10月5日 1版 ISBN 9784623044733							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト・ツール								
備考	この科目は、大学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。							

メジャー(専修)名				授業科目名	生物学概論			担当者	長野 太輝
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物のからだの仕組みについて理解し、ヒトや身の回りの生物で起こる生命現象について理論的な説明を与えることができるようになる。 ・生物学の知見を利用した生物工学の知識を得ることにより、医療や生命倫理問題について、その論点を明確にし、自らの考えを持つことができるようになる。 ・生物とそれを取り巻く環境との相互作用について学ぶことで、環境問題や自然の保全について自分の意見を持てるようになる。 								
学習の進め方	<p>この授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p> <p>【学習の手順】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定された箇所をよく読み内容を理解する。 ・オンデマンド教材（特に重要な部分の要約を行います）を視聴し、重要なポイントを確認する。 ・理解が不足していたと思われる箇所があれば、教科書を再読する。 ・確認テストを受験し、内容の理解が十分であることを確認する。 								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】</p> <p>教科書の目次および各章の扉に書かれた要点に目を通し、どのような内容について学ぶのかをあらかじめイメージしておく。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】</p> <p>確認テストでよくわからなかった点、不安な点がある場合、教科書を再読してください。オンデマンド教材は最重要なポイントのみの要約となっています。単位認定試験は教科書全域から出題されますので、繰り返し教科書を読んで内容をよく把握しておいてください。</p>								
学習内容	概要				課題				
	第1回 生物のからだを構成する細胞				確認テスト				
	教科書の1月「目に見えるもの、見えないもの」及び2月「細胞から個体へ」を讀破し、生物のからだの成り立ちとその構成単位である細胞について考える。また、細胞がどのような仕組みで生きて、ひとつの生物（個体）を形作っているのかを学ぶ。								
	第2回 生体を構成する物質と代謝				確認テスト				
	教科書の3月「変わらずに変わる」を讀破し、生命活動において重要なタンパク質について、構造や機能を学ぶ。また、酵素によって促進される生体内での化学反応について、代謝とエネルギー産生について重点的に学ぶ。								
	第3回 外界情報の受容とそれに対する応答				確認テスト				
	教科書の4月「情報を伝達する」及び5月「免疫からからだの防衛のしくみ」を讀破し、生物が外部の情報を認識し、それに応答して生命を維持する仕組みについて学ぶ。また、外敵からの防衛メカニズムである免疫の仕組みについて考える。								
	第4回 新たな個体を生みだす生殖と発生				確認テスト				
教科書の6月「性と生殖」及び7月「生命の旗立ち」を讀破し、生物がどのようにして次世代に子孫を残すのか、及び、生物種による仕組みの違いとそれが持つ意義について学ぶ。また、動物の受精卵から個体が発生する過程について学ぶ。									
第5回 生物の特徴が次世代に受け継がれる遺伝				確認テスト					
教科書の8月「遺伝のしくみ」及び9月「遺伝子の正体」を讀破し、生物が持つ特徴が子孫に受け継がれる遺伝現象の法則を学ぶ。また、遺伝現象を担う物質的体である染色体についても学ぶ。									
第6回 生物の生態系と進化				確認テスト					
教科書の10月～12月「植物の生きかた」、「地球生物圏は存続し得るか」、「生物の多様性と進化」の三章を讀破し、生態系の成り立ちについて学び、環境問題に対する態度を考える。また、生物の分類の基本単位である種と系統について知り、それらがどのように繁栄・衰退・多様化し、進化してきたかを学ぶ。									
成績評価方法	<p>各回課題、単位修得試験</p> <p>【A評価】生物の誕生・生存・生殖についての基本的な仕組みについて出題するが、これにほとんど満点に近いくらい正解できている。具体的には、一般的に知られている生命現象を十分に説明でき、かつ新たに提示された生命現象についても、自らの知識との関連性の有無を判断できるレベルである。一般的な生命現象について理論的な説明を十分に与えることができる。生物学が関わる社会問題（医療、環境、生命倫理など）について、何が問題なのかを明確にし、自らの考えを持つことができるようになっている。</p> <p>【B評価】生物の誕生・生存・生殖についての基本的な仕組みについて出題するが、これに満点ではないものの一定の水準以上に正解できている。具体的には、一般的に知られている生命現象をある程度説明でき、かつ新たに提示された生命現象についても、自らの知識との関連性の有無を判断できるレベルである。一般的な生命現象について一定の理論的な説明を与えることができる。生物学が関わる社会問題（医療、環境、生命倫理など）について、何が問題なのかを理解し、自らの学習過程の中に思考の糸口となる箇所があったかどうかを判断できる。</p> <p>【C評価】生物の誕生・生存・生殖についての基本的な仕組みについて出題するが、これに全般的ではないが、分野によっては十分に正解できている。具体的には、一般的に知られている生命現象の一部について詳細な説明ができ、かつ新たに提示された生命現象についても、自らの知識の及ぶ範囲であれば、理論的な推論が可能かどうかを判断できるレベルである。</p> <p>一般的な生命現象のうち、一定の範囲内の事象について理論的な説明を与えることができる。生物学が関わる社会問題（医療、環境、生命倫理など）について、自己の知識と照らし合わせて論点を明確にできるかどうかを判断できる。</p> <p>【D評価】生物の誕生・生存・生殖についての基本的な仕組みについて出題するが、これに高い正答率ではないが、勉強の成果が見られる。具体的には、一般的に知られている生命現象について、体系立った説明はできないが、断片的には知識を有するレベルである。一般的な生命現象についての断片的な知識を有し、今後の学習如何によっては、より広範な生命現象の説明ができるようになることが期待できる。生物学が関わる社会問題（医療、環境、生命倫理など）について、その存在を認知できる。</p>								
教科書	<p>著書 『好きになる生物学 第2版』</p> <p>著者 吉田邦久</p> <p>出版社 講談社</p> <p>出版年度 2012年8月1日</p> <p>ISBN:978-4-06-154178-8</p>								
参考書(任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考	<p>【履修の前提とするもの】</p> <p>なし</p> <p>【履修にあたって希求していることが望ましいもの】</p> <p>ヒトを含めた生き物について、「からだの仕組み」や「どのように生きているのか」ということに興味があることが望ましい。また、生物学と社会問題（医療、環境、生命倫理など）との関わりについても興味を持っていることが望ましい。</p>								

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	生命科学			担当者	渡辺 勉
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	生命科学は難しいと思われがちだが、実際の日常生活に深く関わっている。生命科学の基礎と現状を知り、どのような形で生活の中に入っているのかを具体的にみる。そして、生命科学の及ぼす影響がメリットばかりでなくデメリットもあることを理解し、生命科学の成果について批判的に考える力を身につける。							
学習の進め方	本授業では、オンデマンド教材を主に活用して学習を進めます。各回ごとに課題があるので、クリアしてから次の回へ進みましょう。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習をはじめるときには必ず、各回のシラバス(学習概要)を見て、事前に授業に関連することに関して、調べておくことで、よりよく理解できる。 ・各回の受講後は、授業の内容に関して、関連のある報道などに常に関心をもち、わからないことは調べるという習慣を身につけることで理解が深まる。 							
学習内容	概要						課題	
	第1回 生命科学とは何か?						確認テスト	
	生命科学とはどのような科学かを歴史や具体例を通して理解する							
	第2回 ヒトの進化						確認テスト	
	ヒトがサルから進化した歴史を知り、ヒトとは何かを知る							
	第3回 生命の誕生						確認テスト	
	海から生命が誕生し、突然変異と環境適応により多様な生物が誕生してきたことを知る							
	第4回 細胞						確認テスト、ディスカッション	
	生物の体を構成する細胞の構造や機能を理解する							
	第5回 DNAとRNA						確認テスト	
	DNAとRNA、ゲノムや遺伝子の基礎を学ぶ							
	第6回 遺伝子について						確認テスト	
	遺伝子の基本的な働きを学び、遺伝子がわかることで何が出来るようになったかを理解する							
	第7回 がん遺伝子						確認テスト、ディスカッション	
	がん遺伝子の関係を学び、がんのメカニズムと予防について理解する							
	第8回 ウィルスと細菌						確認テスト	
細菌とウィルスの違いを知り、感染症について理解を深める								
第9回 免疫のシステム						確認テスト		
ヒトの生体防衛機構である免疫の基本を知り、その重要性を理解する								
第10回 老化						確認テスト		
老化のメカニズムについて、最新の知見を織り込みながら学ぶ。アンチエイジング医学についても理解を深める								
第11回 生命を操る						確認テスト、ディスカッション		
遺伝子組み換えやクローンなど具体例を挙げながらその基礎知識や問題点を探る								
第12回 生殖と発生、分化						確認テスト		
生殖や発生の基礎的なメカニズムを知り、不妊治療についても考える								
第13回 生物の多様性						確認テスト		
生物多様性の重要性を知り、危機に瀕する多様性の問題点を理解する								
第14回 生命倫理						確認テスト、ディスカッション		
生命倫理の生まれてきた歴史を知り、その重要性を理解する								
第15回 まとめ						確認テスト		
これまでに学んできたことを振り返り、生命科学のこれからを考える								
成績評価方法	各回の確認テスト(15%)、平常の学習態度(期間内学習)(15%)、ディスカッションへの参加(30%)、単位修得試験(40%)により総合評価する。							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	学習内容に沿って適宜提示する。							
必須ソフト・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	対人コミュニケーションのトレーニング		担当者	後藤 亮子
レベルナンバ	200	単位	2	授業方法	スクーリング		
単位修得試験受験資格	試験はレポート課題 とします。レポートを提出するには、全授業へ出席する必要があります。		単位修得試験実施方法	現地試験(レポート)		単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス) 東京会場
学習目標	コーチングの手法を用い、対立や葛藤が起きている状況で建設的なコミュニケーションをとりながら合意形成を得ていく話し合いの進め方を学習します。						
学習の進め方	ベアワーク、グループワークなど演習はすべて参画型で構成されています。各自、対人コミュニケーションにおける悩みや課題を考察しておいてください。個別の悩みをテーマに相互にコーチングを行います。またケースを用いたグループでの演習で、話す力、聴く力を鍛え、総合的に話し合う力を磨いていきます。実践を通して学ぶ参画型の授業ですので心得て受講してください。授業で得た学びを日常で活用してください。						
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 各自、対人コミュニケーションにおける悩みや課題を考察しておいてください。対話やグループディスカッション中心の授業ですので、心得て受講してください。 授業で得た学びを日常で活用してください。 						
学習内容	概要						課題
	第1回 対人コミュニケーションの基本						
	<ul style="list-style-type: none"> 授業のオリエンテーションを実施します。 対人コミュニケーションとは何かについて考察します。 						
	第2回 人を動かす「論理と感情」						
	大事な場面でのコミュニケーションは論理で行われているようで、実は感情が重要な鍵を握っていることを考察します。						
	第3回 コーチングの基本						
	相手の答えを引き出す対人コミュニケーション方法であるコーチングを学びます。						
	第4回 コーチングの実践						
	演習を通してコーチング・スキルを磨きます。演習後は振り返りを実施し、個人のコミュニケーション課題を探索します。						
	第5回 学びの整理						レポート課題
	1~4の学びを整理します。授業時間内にレポート作成し、提出していただきます。(レポート課題)						
	第6回 コーチングの実践						
	1日目の学びを振り返ります。						
	第7回 コーチングの実践						
	ケースを読み、役割をもってコーチングを実践します。						
第8回 アサーションの理論							
アサーティブなコミュニケーションを学び、日頃の自分を振り返ります。							
第9回 アサーションのトレーニング							
演習を通してアサーション・スキルを磨きます。演習後は振り返りを実施し、個人のアサーション課題を探索します。							
第10回 学びの整理						レポート課題	
6~9の学びを整理します。授業時間内にレポート作成し、提出していただきます。(レポート課題)							
第11回 協働的問題解決の理論							
win-winを目指す協働的問題解決の理論を学びます。							
第12回 協働的問題解決の演習							
win-winを目指す協働的問題解決の演習を体験します。							
第13回 協働的問題解決の演習							
win-winを目指す協働的問題解決の演習を体験します。							
第14回 協働的問題解決の演習 続き							
演習を振り返り、学びを整理します。							
第15回 全過程の学びの統合						レポート課題	
全過程を振り返り学びを統合します。授業時間内にレポート作成し、提出していただきます。(レポート課題)							
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 全授業への出席が必要です。 成績評価は、出席時間(50%)と平常点(50% レポート、の提出と受講態度)で行います。 						
教科書	なし						
参考書(任意購入)							
必須ソフト・ツール							
備考	スクーリングに筆記具を持参すること。受講者上限人数 グループワークを含む講義40名 受講者数上限を超過した場合は、正科生の高学年を優先し、受講調整を行う。						

メジャー(専修)名				授業科目名	第二言語習得研究Ⅰ			担当者	高見澤 孟
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	第二言語習得研究とはどのような学問か、まずその歴史から現在の考え方を説明します。第二言語習得研究はまだまだ若い領域ですが、すでに多くの研究結果が言語教育の現場に生かされています。日本語教育の授業にそれらの知識をどのように応用していくことができるのかについて、特に第二言語習得を促進させる外的要因に焦点を置きながらお話をします。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各課の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の課に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 								
学習内容	概要								課題
	第5課 第二言語習得研究とは								レポート
	第5課では第二言語習得研究の考え方の変化について、母語転移、誤用分析、中間言語などの重要な用語の説明を加えながら説明します。また、特に語用論的転移について実際の会話例をみながら考えていってもらいます。								
	第6課 第二言語習得の外的要因								レポート
第6課では第二言語習得を促進する外的要因についてフォリナー・トーク、コミュニケーション・ストラテジー、意味交渉、リキャストなどの用語の説明をしながら、実際の会話例で自らそれらの特徴を見つけてもらったラインブットが習得にまで結びつくプロセスや有効な方法について考えてもらいます。									
成績評価方法	課題レポートおよび単位修得試験								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700円(税込)、2004年 『新・はじめての日本語教育1[増補改訂版]日本語教育の基礎知識』高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 『新・はじめての日本語教育2[増補改訂版]日本語教授法入門』高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年								
必須ソフト・ツール									
備考	【履修の前提とするもの】 『新・はじめての日本語教育1[増補改訂版]日本語教育の基礎知識』高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 『新・はじめての日本語教育2[増補改訂版]日本語教授法入門』高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 上記の書籍の内容を理解していること 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日本語教育の経験のない方はまず入門編(「日本語教育」「日本語の特徴と発音」「日本語の文法と表現Ⅰ」「日本語の文法と表現Ⅱ」「日本語教授法A」「日本語教授法B」)から入る方が望ましい								

メジャー(専修)名				授業科目名	第二言語習得研究Ⅱ			担当者	高見澤 孟
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	第二言語習得研究Ⅱでは第二言語習得を促進する教室におけるティーチャー・トークなどの外的要因と、学習ストラテジー、動機づけ、年齢要因などの学習者の内的要因について説明をします。これまでも様々な教授法が考案されてきましたが、すべての学習者に効果があったわけではありません。それは学習者一人一人の差異、つまり内的要因の違いから来ているわけですが、この科ではより内的要因に焦点を置いてお話をします。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各課の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の課に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に配布する資料は必ず目を通しておくこと。 シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 								
学習内容	概要				課題				
	第7課 教室環境と学習ストラテジー				レポート				
	第7課ではまず教室環境における外的要因に焦点を絞り、明示的学習/暗示的学習、肯定証拠/否定証拠、宣言的知識/手続き的知識、ティーチャー・トークについて説明します。次に、内的要因の学習ストラテジーについて説明し、読解ストラテジーの例を実際に試してもらいます。								
	第8課 第二言語習得の内的要因				レポート				
第8課は動機づけ、認知、スタイル適性、臨界期仮説、バイリンガルなどの内的要因に焦点を絞り説明をします。この課の中では日本に17年間在住している二人の中国人移民の説明を聞いてもらい、彼らの動機づけなどについて考えてもらいます。									
成績評価方法	課題レポートおよび単位修得試験								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700円(税込)、2004年 『新・はじめての日本語教育1[増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 『新・はじめての日本語教育2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年								
必須ソフト・ツール									
備考	【履修の前提とするもの】 『新・はじめての日本語教育1[増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 『新・はじめての日本語教育2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 上記の書籍の内容を理解していること 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日本語教育の経験のない方はまず入門編(「日本語教育」「日本語の特徴と発音」「日本語の文法と表現Ⅰ」「日本語の文法と表現Ⅱ」「日本語教授法A」「日本語教授法B」)から入る方が望ましい								

メジャー(専修)名				授業科目名	地球環境問題と対策			担当者	内山 雄介
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 様々な地球環境問題の原因と影響について理解し、説明ができる 様々な地球環境問題の今後の進行を遅らせる方策について理解し、行動できる 								
学習の進め方	<p>この授業では、オンデマンド教材を主教材として学習を進めます。各回の最後には、確認テストがありますので、それをクリアしてから次の回に進みましょう。なお、この授業の教科書は、オンデマンド教材をプリントアウトしたものです。確認テストや単位修得試験の際には、それを手元に置いておくことを勧めます。</p>								
授業時間外学習	事前に講義資料に目を通しておくこと。受講後は、科目に関連したサイトの閲覧を推奨します。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 序論				確認テスト				
	環境やエコという言葉について、また環境の構成要素について学習します。また、環境問題を考える前に重要である、地球の歴史と大気組成の変化について詳しく学習します。								
	第2回 環境問題の原因と取り組みの経緯				確認テスト				
	環境問題が地球的規模の問題になった原因と、地球環境問題への基本的な取り組みの経緯について学習します。								
	第3回 地球温暖化と気候変動①				確認テスト				
	気候変動枠組条約が国連にて作成され、毎年開催される締約国会議、通称COPについて解説し、またIPCCと呼ばれる気候変動に関する科学者の会議の目的や組織について学習していきます。								
	第4回 地球温暖化と気候変動②				確認テスト				
	気候変化とその影響に関する観測結果について、具体的にIPCCの評価報告書を参考にしつつ学習していきます。また、気候変化の原因である温室効果ガスの排出量が増加してきた経緯を示し、温暖化のメカニズムについて学習します。								
	第5回 予測される気候変動の影響①				確認テスト				
	社会の変化として予測される6つのシナリオについて述べ、次に気温上昇について学習します。また、異常気象による各分野への影響について解説し、気候変動により特に影響を受ける分野、地域について学習します。								
	第6回 予測される気候変動の影響②				確認テスト				
	温暖化が海面水位の上昇に及ぼす影響について、農業や漁業などの食糧生産に及ぼす影響について、また生態系への影響について具体例を示して学習します。								
	第7回 健康への影響及びIPCCの長期予測と対策				確認テスト				
	気候変動の健康への影響について、さらにエルニーニョ現象と感染症の関係についても簡単に学習します。また、温室効果ガスの安定化の様々なシナリオに対する気温上昇や海面水位の上昇などの予測値を示し、温暖化と気候変動に対する適応策と温室効果ガスの削減策について学習します。								
第8回 温室効果ガス排出の現状と対策				確認テスト					
世界と日本の二酸化炭素排出量の現状と予測について学習します。また、政府の排出量削減計画についてその目標と具体的方策について学習します。									
第9回 低炭素社会実現への具体的方策①				確認テスト					
政府や産業界における省エネの取り組みについて学習します。また、家庭における省エネについても身近なことを例に上げて学習します。									
第10回 低炭素社会実現への具体的方策②				確認テスト					
コージェネレーションやクリーン自動車などの炭素排出量がより少ないエネルギー利用法について、また原子力発電や、太陽光発電、風力発電などの自然エネルギーによる発電について学習します。									
第11回 地球温暖化以外の地球環境問題①				確認テスト					
酸性雨とオゾン層の破壊について学習します。									
第12回 地球温暖化以外の地球環境問題②				確認テスト					
生物種の分類法について学び、次に絶滅が心配されている種について学習します。また、観光客が増えている南極地域の環境保護について学習します。									
第13回 地球温暖化以外の地球環境問題③				確認テスト					
船の燃料油の流出や赤潮などの海洋汚染について学習します。医療廃棄物や電気電子機器廃棄物などの有害物質の国を超えての移動についてや、人間の活動の活発化によってもたらされた森林の減少について、特にアフリカで進んでいる砂漠化の現状についても学習します。									
第14回 地球温暖化以外の地球環境問題④				確認テスト					
日本における4大公害と呼ばれる公害について解説し、最後に開発途上国における環境問題について学習します。									
成績評価方法	確認テスト (40%)、単位修得試験 (60%)								
教科書	オンデマンド教材をプリントアウトして綴じて配布します。								
参考書(任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考	環境に関連する事柄は日々変化します。この授業の内容は、2010年10月から12月にかけて製作しました。手に入る限り新しい内容を盛り込む努力をしましたが、古くなっている内容もありますので、新聞やテレビの報道などにも注意して学習を進めていって下さい。								

メジャー(専修)名				授業科目名	地球環境論			担当者	貝柄 徹
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	高等学校などで地理や地学を履修していない学生であっても、地球科学の観点から地球環境の変遷を理解することを目標とする。詳細な専門用語の暗記よりはその事象を総合的に理解し、考察できるような力を養成したい。								
学習の進め方	記載してある専門用語よりも図や写真をよく観察し、テーマの話の流れを概観していくことが肝要である。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を一読する際に、知らない用語が出てきてもそのまま読み続けてゆくという意識を明確にしてください。 ・どうしても理解できない用語等がある場合、あるいは興味をもったテーマには、各自インターネット等でより詳細に調べていけば学習度が深くなります。また地名を画像や写真で検索すると理解度が増します。 								
学習内容	概要								課題
	第1章 プレートとブルームのテクトニクス								小テスト
	大陸移動説からプレートテクトニクスへの変化								
	第2章 地球の歴史								小テスト
	地球の誕生と環境の変化								
	第3章 マグマと火山								小テスト
	火山の種類と地形								
	第4章 断層と地震								小テスト
	地震の特徴と災害								
	第5章 岩石と地球の調べ方								小テスト
岩石から時代を知る									
第6章 地球表面から宇宙まで								小テスト	
地球のシステム									
第7章 地球の楽しみ方								小テスト	
景観地、博物館、ジオパーク									
成績評価方法	小テスト (50%)、単位修得試験 (50%) により総合評価する。								
教科書	著書 『地球のしくみ—地球の誕生から46億年の歴史と内部構造まで』 著者 平賀章三・宮嶋 敏・芝川明義・高木淳子・大木勇人 出版社 新星出版社 出版年度 2006年7月 ISBN 9784405106543								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考	この科目は、大学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。								

メジャー(専修)名				授業科目名	知能情報学			担当者	長行 康男
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	2/3以上の出席			単位修得試験実施方法	現地試験			単位修得試験試験会場	本学(さくら川キャンパス)
学習目標	人間や動物の脳(知能)の仕組み・機能などをコンピュータ上に実現することは人類の長年の夢であり、人工知能の分野をはじめとして、人工生命、強化学習、ニューラルネットワークなどの分野で広く研究されています。本授業は、これらの分野の概観を理解することを目的とします。								
学習の進め方	講義が中心になりますが、ほとんどの回で実習や演習を行います。第8回には、人工知能の推論プログラムを実際に作成してもらいます。第15回には、本授業の理解度を確かめるための筆記試験を行います(筆記試験の試験内容は第1回の授業中に提示します)。								
授業時間外学習	授業最終日までに、次の項目に関して一つ以上、しっかりと調べておいて下さい。 (授業最終日に論述試験があります。「8. その他(知能情報関連)」以外はすべて授業で説明します。) 1. 探索系問題 2. 記号論理 3. 古典的人工知能 4. 強化学習 5. 遺伝的アルゴリズム 6. ニューラルネットワーク 7. ファジィ 8. その他(知能情報関係)								
学習内容	概要				課題				
	第1回 オリエンテーション (テキストの第1章)								
	知能情報学とはどのようなものなのかについて学びます。								
	第2回 問題の表現 (テキストの第2章)								
	探索問題(迷路、8パズル、宣教師と先住民問題、ハノイの塔など)をコンピュータに解釈してもらうため問題の表現方法について学びます。								
	第3回 探索Ⅰ (テキストの第3章)								
	探索問題をコンピュータに解かせるための方法(深さ優先探索、幅優先探索、山登り法など)について学びます。								
	第4回 探索Ⅱ (テキストの第3章、第4章)								
	探索問題をコンピュータに解かせるための方法(最良優先探索、ミニマックス法、アルファベータ法など)について学びます。								
	第5回 推論Ⅰ (テキストの第5章)								
	人間が脳で行っている推論をコンピュータに行わせるために必要となる推論問題の表現方法について学びます。また、推論方法の一つである命題論理について学びます。								
	第6回 推論Ⅱ (テキストの第5章)								
	推論方法の一つである述語論理について学びます。								
	第7回 推論Ⅲ (テキストの第5章)								
	命題論理と述語論理について整理します。また、人工知能(推論)用プログラミング言語であるPrologについて学びます。								
第8回 推論Ⅳ									
Prologを利用して簡単な推論問題をプログラミングし、コンピュータに推論問題を解いてもらう実習を行います。									
第9回 ファジィ (テキストの第10章)									
1990年代に一世を風靡したファジィ家電などの「ファジィ」について、それがどのようなものなのかについて学びます。									
第10回 強化学習 (テキストの第11章)									
動物の脳の脳基底核で行われている強化学習について学びます。また、強化学習をコンピュータ上に実現することにより何ができるのかについて学びます。									
第11回 前回までの復習									
第10回までに学んだことの復習を行います。									
第12回 ニューラルネットワーク (テキストの第12章)									
脳の神経細胞網(ニューラルネットワーク)をコンピュータ上にどのように実現するのかについて学びます。また、そのコンピュータ上に実現されたニューラルネットワークに何ができるのかについて学びます。									
第13回 遺伝的アルゴリズム (テキストの第13章)									
生物の遺伝の仕組みをコンピュータ上にどのように実現するのかについて学びます。また、そのコンピュータ上に実現された遺伝の仕組み(遺伝的アルゴリズム)に何ができるのかについて学びます。									
第14回 最新トピックス									
知能情報学において現在どのような研究が行われているのか最新のトピックスについて学びます。									
第15回 筆記試験									
第1回から第14回までの学習内容の理解度を確かめるために筆記試験を行います。									
成績評価方法	単位修得試験の結果(50%)と第1回~14回までの授業受講状況(50%)により総合的に評価します。								
教科書	著書 『人工知能の基礎』 著者 小林一郎 出版社 サイエンス社 出版年度 2010年4月10日 1版 ISBN 9784781912172								
参考書(任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考	受講者上限人数 演習40名								

メジャー(専修)名				授業科目名	中国語入門			担当者	公文 三佐子
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法		デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての課題が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	初心者を対象とし、基礎から中国語を学習します。平易な中国語に慣れるとともに、実践的な運用力を身につけていきます。すべての授業を終了した段階で中国語検定試験（日本中国語検定協会）準4級レベルの内容となります。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始後に補助テキストをダウンロードの上、印刷をし、目を通しておきましょう。 学習した内容を、各回第3節の「チャレンジ」を中心に復習しましょう。 発音教材にて繰り返し練習をし、中国語の発音をマスターしましょう。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 「こんにちは。」你好！				確認テスト				
	単語の発音やあいさつ語の練習を通して中国語の声調と子音の一部について学びます。								
	第2回 「買い物はしますか。」你买东西吗？				確認テスト				
	単語の発音やあいさつ語の練習を通して中国語の母音・子音（無気音・有気音）、人称代名詞、動詞述語文、疑問文“吗”“呢”について学びます。								
	第3回 「私は学生です。」我是学生。				確認テスト				
	単語の発音や会話文の練習を通して、中国語の子音（そり舌音）・母音（はねる音）、肯定・否定の言い方、勧誘・推量・命令の表現や否定を表す副詞“不”、その他の副詞“也”“都”について学習します。								
	第4回 「それは何ですか。」那是什么？				確認テスト				
	単語の発音や会話文の練習を通して、中国語の“儿化”、指示代詞、疑問詞疑問文、所有を表す構造助詞“的”、動詞の重ね型について学びます。								
	第5回 「我が家に来てください。」欢迎大家来我家。				確認テスト				
単語の発音や自己紹介文、常用用語を通して、いくつかの形容詞、形容詞述語文、「ある；いる」の表現などについて学びます。									
第6回 「中国語は難しいですか。」汉语难不难？				確認テスト					
単語の発音や会話文を通して、数の数え方、モノの数え方、「いくつ・どのくらい」など不定の数を使った表現、反復疑問文について学びます。									
第7回 「いま何時ですか。」现在几点钟？				確認テスト					
単語の発音や会話文を通して、日付・曜日・時刻の表現、前置詞“在”“跟”、助動詞“要”“想”について学びます。									
第8回 「泳げますか。」你会游泳吗？				確認テスト					
単語の発音や会話文を通して、可能や許可を表す助動詞“能”“会”“可以”、経験を表す“过”について学びます。									
成績評価方法	<p>各回の確認テストおよび単位修得試験（選択式問題）の成績にて評価する。</p> <p>【A評価】単位修得試験では中国語検定試験（日本中国語検定協会）と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、リスニング・筆記いずれの試験でも満点に近いくらいに正解していること。 授業で学習した中国語の発音と基本的な語法（文法）のルールがしっかりと理解できていることが各回の確認テストの結果から読み取れる。中国語検定試験準4級に十分合格できるレベルである。</p> <p>【B評価】単位修得試験では中国語検定試験（日本中国語検定協会）と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、多少の欠けや弱みがあるものの、リスニング・筆記いずれの試験でも高得点を獲得していること。 授業で学習した中国語の発音と基本的な語法（文法）のルールがほぼ理解できていることが各回の確認テストの結果から読み取れる。中国語検定試験準4級に合格できるレベルである。</p> <p>【C評価】単位修得試験では中国語検定試験（日本中国語検定協会）と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、中国語の発音、表記、文法などについて、一定以上の水準で点数を獲得し、同試験を目指す状態にあること。 授業で学習した中国語の発音と基本的な語法（文法）のルールに対して一定の理解ができていることが各回の確認テストの結果から読み取れる。中国語検定試験準4級合格を十分に目指せるレベルである。</p> <p>【D評価】単位修得試験では中国語検定試験（日本中国語検定協会）と同じ範囲、同じレベルの問題を出題し、点数は高くないものの、学習の成果がみられること。 授業で学習した中国語の発音と基本的な語法（文法）のルールをある程度理解できていることが各回の確認テストの結果から読み取れる。中国語検定試験準4級合格を目指すレベルである。</p>								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	『中検準4級試験問題 第86・87・88回 解答と解説』、日本中国語検定協会編、白帝社、1,900円（税別）、2016年								
必須ソフト・ツール									
備考	<ul style="list-style-type: none"> 【履修の前提とするもの】 特になし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 特になし 								

メジャー(専修)名				授業科目名	データベース論			担当者	森本 雅博
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	データベースの意義や基本的な考え方を理解し、データベースを作成および操作できる。								
学習の進め方	デジタル教材を主教材として学習を進めます。各回の学習の最後には課題を用意してあるので、課題を終えて次の回に進むようにしましょう。第9回目以降はソフトウェアを使用して実習も交えて進めていきます。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 全体を通して、学習単元の部分を事前に読んでおいてください。できればノートにまとめてもらえるといいです。 後半の学習ではSQLの問題があります。配布されているSQLBasicを利用するか、自身でSQLの学習をしっかりとってください。PCが詳しい人は「MySQL」をインストールして利用するのもいいでしょう。 データベースの書籍はたくさんありますので、関連図書で理解を深めてください。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 データベースとは何か				確認テスト、ディスカッション				
	データベースの意義を理解し、「データベースとは何か」を学習する								
	第2回 データベースとデータモデル				確認テスト				
	データの効率的な管理の形について理解する								
	第3回 データベースの設計				確認テスト				
	データベースの設計について理解する								
	第4回 最近のデータベースの流れ				確認テスト				
	最近のデータベースの流れについて理解する								
	第5回 データベースの主なソフト				確認テスト、ディスカッション				
	データベースの主なソフトについて理解する								
	第6回 表と集合演算				確認テスト				
	表と集合演算について理解する								
	第7回 E-R図				確認テスト				
	E-R図とは何かを理解する								
	第8回 テーブルの正規化				確認テスト				
テーブルの正規化の意義と方法について理解する									
第9回 SQLの基本的な使い方				確認テスト					
SQLの基本的な使い方について理解する									
第10回 複数条件の組み合わせ				確認テスト					
複数条件の組み合わせや並べ替え、重複行の除外について理解する									
第11回 テーブル内での計算や集計				確認テスト					
テーブル内での計算や集計の方法について理解する									
第12回 テーブルの作成と行の挿入等の操作				確認テスト					
テーブルの作成と行の挿入等の操作について理解する									
第13回 テーブルの結合				確認テスト					
テーブルの結合について理解する									
第14回 より高度なデータベース処理				確認テスト					
より高度なデータベース処理について理解する									
第15回 まとめ									
データベースの基礎理論やSQLについて理解する									
成績評価方法	単位修得試験 (70%)、課題 (20%)、授業参加態度 (10%)								
教科書	著書 『データベースの常識』 書写 藤本 亨 出版社 技術評論社 出版年度 2009年8月1日 1版 ISBN 9784774139050								
参考書 (任意購入)	『データベースの知識と実務』、金宏和賞、翔泳社、2,310円(税込)、2007年								
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	哲学			担当者	石毛 弓
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート(第9回の授業内で課題の提示を行う)			単位修得試験試験会場	ー
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 各回で紹介された哲学思想について、簡単にまとめることができる 各回の学習の最後に設けられた課題において、自分なりの考えを書くことができる 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を読み問いに答えることで学習を進めます。必要に応じて教科書を参照する場合があります。各回の学習の最後には課題がありますので、提出してから次の回に進んでください。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 科目に関連する書籍等を読んで自分なりの理解を深めること。 ディスカッションでその回のまとめ・復習を充分に行うこと。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 哲学をすとはどういうことか				確認テスト、ディスカッション				
	「哲学」という考え方についての概説および主な授業の進め方について								
	第2回 古代ギリシャ哲学Ⅰ				確認テスト、ディスカッション				
	ソクラテス以前の古代ギリシャ哲学について								
	第3回 古代ギリシャ哲学Ⅱ				確認テスト、ディスカッション				
	ソクラテス、プラトン、アリストテレスについて								
	第4回 中世哲学				確認テスト、ディスカッション				
	アウグスティヌス、トマス・アキナスについて								
	第5回 近代哲学				確認テスト、ディスカッション				
	デカルト、スピノザ、ライブニッツについて								
	第6回 イギリス経験論				確認テスト、ディスカッション				
	ベーコン、ホブズ、ロック、バークリ、ヒュームについて								
	第7回 18世紀ドイツ哲学				確認テスト、ディスカッション				
	カントについて								
	第8回 ドイツ観念論				確認テスト、ディスカッション				
フィヒテ、シェリング、ヘーゲルについて									
第9回 現代哲学のはじまりⅠ				確認テスト、ディスカッション					
ショーペンハウアー、キルケゴール、ニーチェについて									
第10回 現代哲学のはじまりⅡ				確認テスト、ディスカッション					
マルクス、フロイトについて									
第11回 現象学				確認テスト、ディスカッション					
フッサール、ハイデガーについて									
第12回 言語哲学				確認テスト、ディスカッション					
ソシュール、フレゲ、ラッセル、ワイトゲンシュタインについて									
第13回 構造主義				確認テスト、ディスカッション					
レヴィ=ストロース、ラカン、バルトについて									
第14回 ポスト構造主義				確認テスト、ディスカッション					
フーコー、デリダ、ドゥルーズ=ガタリについて									
第15回 第1~14回の確認				確認テスト					
第1~14回のまとめ									
成績評価方法	平常点(30%)、各回の課題提出(15%)、レポート試験(55%) ※平常点は、期間内に学習が完了できたかや、提出課題の内容などを含みます								
教科書	著書 『はじめての哲学史』 著者 竹田青嗣・西研 出版社 有斐閣アルマ 出版年度 2011年2月15日 1版 ISBN 9784641120464								
参考書(任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	統計学			担当者	花島 健吾
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	現代社会のビジネスにおける「統計学」の活用を知る。また、実務や実生活で「統計」を使いこなせるようになることを目標にする。							
学習の進め方	教科書に沿ったデジタル教材を主として学習を進めます。初めて統計学に触れる方を対象としていますので、予備知識がなくても無理なく学習を進められます。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 平方根($\sqrt{\quad}$)の考え方や計算方法を理解していただければ、あとは教材に従ってスムーズに学習を進められます。また、事前に教科書の該当箇所を一読しておく、より理解が深まります。その後でデジタル教材を開覧して下さい。 受講後は、確認テストを復習し、教科書の該当範囲の例題や練習問題に取り組んでください。 							
学習内容	概要				課題			
	第0章 データと社会							
	0-1 統計の基本 0-2 統計は嘘をつく 統計学を学ぶと、どんなことができるようになるのか？また社会ではどのような使い方をされているのかを考察する。							
	第1章 ヒストグラム				確認テスト			
	1-1 ヒストグラム 統計の基本である度数分布表の読み取り方を理解し、データから度数分布表を作成できるようにする。							
	第2章 いろいろな平均				確認テスト			
	2-1 いろいろな平均 なじみ深い算術平均だけでなく、中央値や最頻値などの種々の平均の意味とその活用法を知る。							
	第3章 分散と標準偏差				確認テスト			
	3-0 偏差値って何？ 3-1 分散と標準偏差 3-2 基準化と偏差値 「同じ点数でも偏差値が違ったのはなぜか？」などデータの散らばり具合を、分散と標準偏差を用いて明らかにする方法を学ぶ。							
	第4章 確率密度関数				確認テスト			
	4-1 確率密度関数 一見、難解に見える確率密度関数のエッセンスだけを理解し、読み取りができるようにする。 4-2 正規分布 誰でも一度は目にしたことのある正規分布について考察する。 また、代表的な分布である標準正規分布について考察する。							
	第5章 相関				確認テスト			
	5-1 単相関 5-2 クラメールの連関係数 「牛乳を飲む量と身長の関係は？」などデータ間の関係性を明らかにする手法を学ぶ。							
第6章 統計的仮説検定				確認テスト				
6-0 統計的仮説検定 6-1 カイ二乗分布 6-2 カイ二乗検定 その統計は本当に正しいのでしょうか？統計の妥当性を検討する手法について習得します。								
第7章 区間推定				確認テスト				
7-1 中心極限定理 7-2 母平均の推定 7-3 母分散の推定 7-4 t分布 区間推定は、「一部から全体を探る」統計学の真髄です。少ないデータで鮮やかに全体を浮かび上がらせます。								
成績評価方法	確認テスト (40%)、単位修得試験 (60%)							
教科書	著書 『ラストリゾート統計学』 著者 花島健吾 出版社 じゃあそれで堂 出版年度 2011年6月10日 1版							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト・ツール								
備考								

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育			担当者	高見澤 孟	
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—	
学習目標	<p>少子高齢化の進む日本は、近い将来外国人の労働力が必要な時代に入ります。来日する外国人との「共生」のためには、外国人が日本語を学習して一定水準の日本語能力に達することが求められています。迎え入れる日本人の側も異文化の外国人と協働する社会を築く準備が必要です。このための日本語教育が現在どのような状況にあるのか、外国人はどのように日本語を学んでいるのかを知ることも外国人理解、異文化理解の上で重要な情報になります。このような情報に基づいて日本語教育への理解を深めてください。</p>									
学習の進め方	<p>オンデマンド教材を主教材として学習を進めます。教科書『新・はじめての日本語教育1：日本語教育の基礎知識』と「配布資料」には、補足情報が記載されていますから、必ずそれらも参照してください。各回の授業内容と教科書の関連箇所は、「配布資料」に記載してあります。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p>									
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 									
学習内容	概要								課題	
	第1回 日本語教育の現状	日本語教育の現状と将来の展望及び日本社会が近く迎える「外国人との共生の時代」について学習する。								レポート
	第2回 古代・中世における日本語学習者	古代から隣接する諸国の人々が日本語をいかに学んだか、また室町末期に来日したポルトガルの宣教師たちがどのように日本語を理解し、習得する努力をしてきたかについて学ぶ。								レポート
	第3回 キリシタンの日本語学習	キリスト教布教のために来日した宣教師のなかで最も優れた功績を残したロドリゲスの研究を中心に西洋人から見た日本語の姿を学ぶ。								レポート
	第4回 オランダ商館の日本語研究	江戸時代に唯一来日が許可されていたオランダ商館の人々の日本語研究、さらに日本研究について学ぶ。								レポート
	第5回 日本語と外国語	日本語と外国語（＝英語）の対照研究を通して、日本語の特性を学ぶ。								レポート
	第6回 日本語の特質	日本語の特質として「文脈依存性」や「感情表現」、「願望表現」などの他言語との相違を学ぶ。								レポート
	第7回 日本語の仕組み (1)	日本文法の中でも外国人にとって学習困難な「助詞」の扱いや「自動詞他動詞」に係る問題、「～ている形」の用法などを学ぶ。								レポート
	第8回 日本語の仕組み (2)	各種「て形の用法」や「授受表現」、「受身形」など他言語と異なる日本語の用法を学ぶ。								レポート
	第9回 日本語の音声 (1)	外国人にとって難しく感じられる「日本語の音声の特徴」や「特殊拍」などについて学ぶ。								レポート
	第10回 日本語の音声 (2)	日本語の「アクセント」、「リズム」、「イントネーション」について学ぶ。								レポート
	第11回 日本語の文字	「日本語の文字に係る問題」、「かな文字の用法」、「各種符号の用法」などを学ぶ。								レポート
	第12回 異文化間コミュニケーション (1)	日本人と外国人の間で発生する「コミュニケーショントラブル」の原因を「配慮表現」や「婉曲表現」など日本文化に係る側面から検討する。								レポート
	第13回 異文化間コミュニケーション (2)	コミュニケーションにおける「文化差」や「言語接触」における諸問題について学ぶ。								レポート
成績評価方法	平常点 (30%)、単位修得試験 (レポート試験70%)									
教科書	<p>著書 『新・はじめての日本語教育 1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』 監著者 高見澤 孟 出版社 アスク出版 出版年度 2016年8月8日 第1刷 ISBN 9784872179934</p>									
参考書 (任意購入)	『新・はじめての日本語教育 2 [増補改訂版] 日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円 (税別)、2016年									
必須ソフト・ツール										
備考	日本語教育関係の用語がわからない場合には、『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』(監著者 高見澤 孟 アスク出版 2,500円 2004年)を参照してください。									

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育演習			担当者	高村 めぐみ
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度			
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	-
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・初級の日本語学習者向けの授業を行うために、学習者のレディネス、ニーズ調査を行い、授業シラバスを設計することができるようになる。 ・「初級文型」について、「教師が知っておくべき知識」と「学習者に提示すべき点」とを明確に分類し、「学習者に提示すべき点」については、非常に簡単で分かりやすい日本語に言い換えて、説明することができるようになる。 ・文献や他者の教案を参考にしながら、入門～初級学習者向けの授業教案を記述することができるようになる。 ・自分で書いた教案をもとに、入門～初級学習者向けの日本語の模擬授業を実施することができるようになる。 ・他者の模擬授業を見て、相手のことを考えながら、直すべき点を批評したり、いい点を評価したりすることができるようになる。 ・模擬授業を通して、同じ志を持つ者同士がマナー良く話し合うことができるようになる。 								
学習の進め方	<p>この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。</p> <p>【模擬授業について】 第4回の模擬授業は、スクーリング形式（大手前大学さくら夙川キャンパス）、もしくはインターネット経由でのオンライン授業システムのいずれかで実施する。詳細については、後日周知する。</p>								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講中に分からない言葉などが出てきたとき、すぐに調べられるように辞典や日本語教育能力検定用の用語集を準備しておくこと 【学習後に復習として実施すべきこと】 ・設置された課題やレポートを納得できるまで取り組むこと 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 コースデザイン				レポート、ディスカッション				
	日本語教育の現状を理解し、その上で初級学習者向けの日本語の授業を行う前の準備段階として、コースデザイン（学習者のレディネス調査、ニーズ調査、シラバス作成）の方法を学ぶ。								
	第2回 初級文型の指導				レポート、プレゼンテーション				
	構造シラバスで使われる「初級文型」の中から、初級前半で指導すべき文型をいくつか取り出し、授業の前に教師が知っておくべき文型の知識（形、意味・機能、場面・使い方）を調べる方法を学ぶ。								
第3回 教案作成				プレゼンテーション					
「初級文型」の中から、特に、入門期に導入すべき文型に基づいた教案を作成する方法を学ぶ。									
第4回 模擬授業				プレゼンテーション					
「初級文型」の中から、初級前半で指導すべき文型の模擬授業を行う。									
成績評価方法	<p>レディネス・ニーズ調査（第1回の課題）、教科書分析、文型分析のレポート（第2回の課題）、教案（第3回の課題）、および受講者に対するコメント（第2回～第4回の課題）、単位修得試験</p> <p>【A評価】 第1回課題：過不足なく学習者のレディネスとニーズが正確に調査できるような質問紙を作成することができる。 第2回課題：複数の文献を用いて、様々な角度から教科書・文型を分析することができる。 第3回課題：導入 練習 タスクの流れに沿って、日本語学習に効果的で、かつ飽きさせないような工夫がある授業を展開することができる。 第2回～第4回課題のコメント：他者のレポートを読み、相手の気持ちに配慮しながら有益で、かつ広い視野にたったコメントを付けることができる。</p> <p>【B評価】 第1回課題：学習者のレディネスとニーズが正確に調査できるような質問紙を作成することができる。 第2回課題：複数の文献を用いて、教科書・文型を分析することができる。 第3回課題：導入 練習 タスクの流れに沿って、日本語学習に役立つ授業を展開することができる。 第2回～第4回課題のコメント：他者のレポートを読み、適切なコメントを複数付けることができる。</p> <p>【C評価】 第1回課題：学習者のレディネスとニーズが調査できるような質問紙を作成することができる。 第2回課題：最低1つの文献を用いて、教科書・文型を分析することができる。日本語学習に役立つ情報と練習を提供することができる。 第3回課題：導入 練習 タスクの流れに沿って、授業を展開することができる。 第2回～第4回課題のコメント：他者のレポートを読み、適切なコメントを付けることができる。</p> <p>【D評価】 第1回課題：学習者のレディネスとニーズが調査できるような質問紙を作成することができるが不足がある。 第2回課題：教科書・文型を分析することができる。日本語学習に役立つ情報と練習を提供することができる。 第3回：導入 練習 タスクの流れに沿って、授業を展開することがおおよそできている。 第2回～第4回課題のコメント：他者のレポートを読み、なんらかのコメントを付けることができる。 詳細は授業内の「成績評価方法について」を参照のこと</p>								
教科書	なし								
参考書（任意購入）	<ul style="list-style-type: none"> 『みんなの日本語初級 第2版 本冊』スリーエーネットワーク編著、スリーエーネットワーク、2700円（税込）、2012年 『みんなの日本語初級 第2版 用語集』スリーエーネットワーク編著、スリーエーネットワーク、2700円（税込）、2012年 『日本語教育能力検定試験に合格するための用語集』アルク編著、2012年 『新合格水準 日本語教育能力検定試験 用語集 改訂版』アークアカデミー編、2012年 などから一冊選ぶことをお勧めする。								
必須ソフト・ツール	第4回の模擬授業でオンライン授業システムを用いる場合は、各自で専用アプリをインストールする必要がある。専用アプリは無償でダウンロード可能。詳細については、後日周知する。								
備考	<p>以下を履修条件とする。履修登録までに配布するチェックリストに基づき、自身で確認すること。</p> <p>【履修の前提とするもの】</p> <p>日本語教員養成課程の「日本語教育」「日本語の特徴と発音」「日本語の文法と表現」「日本語の文法と表現」「日本語教授法A」「日本語教授法B」「日本語教育文法研究」「日本語教育文法研究」「第二言語習得研究」「第二言語習得研究」「日本語教育読解研究」「日本語教育聴解研究」をすべて修得していること、または、これに相当する知識を持っていること。</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】</p> <p>初級日本語学習者向けの指定の参考書に目を通しておくこと。</p>								

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育特講			担当者	鈴木 基伸, 大和 祐子, 小森 万里
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★★		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web試験			単位修得試験 試験会場	—
学習目標	公益財団法人日本国際教育支援協会が主催する、「日本語教育能力検定試験」の過去問題に取り組み、その出題範囲、出題傾向、問題の解き方等について学ぶ。								
学習の進め方	本講義では、平成28年の実施問題を用いて、問題の解説と確認テストを行う。第1・2回では試験Ⅰ（基礎知識部門）、第3・4回は試験Ⅱ（音声・聴解部門）、第5・6・7回は試験Ⅲ（実践・応用部門）の問題を取り扱う。								
授業時間外学習	授業開始前までに、『平成28年度日本語教育能力検定試験試験問題』の全ての問題を解いておくこと。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 日本語教育能力検定試験 試験Ⅰ①				確認テスト				
	試験Ⅰのうち、問題1～7を中心に解説する。								
	第2回 日本語教育能力検定試験 試験Ⅰ②				確認テスト				
	試験Ⅰのうち、問題8～15を中心に解説する。								
	第3回 日本語教育能力検定試験 試験Ⅱ①				確認テスト				
	試験Ⅱのうち、問題1～3を中心に解説する。								
	第4回 日本語教育能力検定試験 試験Ⅱ②				確認テスト				
	試験Ⅱのうち、問題4～6を中心に解説する。								
	第5回 日本語教育能力検定試験 試験Ⅲ①				確認テスト				
試験Ⅲのうち、問題1～8を中心に解説する。									
第6回 日本語教育能力検定試験 試験Ⅲ②				確認テスト					
試験Ⅲのうち、問題9～16を中心に解説する。									
第7回 日本語教育能力検定試験 試験Ⅲ③				確認テスト					
試験Ⅲのうち、問題17（記述式問題）を中心に解説する。									
第8回 まとめと振り返り									
これまで学んできた内容をまとめ、特に重要な点を振り返る。									
成績評価方法	単位修得試験の得点割合によって評価する。 A評価：90%以上 B評価：80%以上 C評価：70%以上 D評価：60%以上								
教科書	著書 『平成28年度 日本語教育能力検定試験 試験問題』 著者 日本国際教育支援協会 出版社 凡人社 出版年度 2017年 3月								
参考書 (任意購入)									
必須ソフト ・ツール									
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育特講			担当者	鈴木 基伸, 大和 祐子, 小森 万里
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格				単位修得試験実施方法	現地試験(筆記)			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
学習目標	公益財団法人日本国際教育支援協会が主催する、「日本語教育能力検定試験」の過去問題に取り組み、その出題範囲、出題傾向、問題の解き方等について学ぶ。								
学習の進め方	本講義では、平成28年の実施問題を用いて、問題の解説と確認テストを行う。第1・2回では試験Ⅰ(基礎知識部門)、第3・4回は試験Ⅱ(音声・聴解部門)、第5・6・7回は試験Ⅲ(実践・応用部門)の問題を取り扱う。								
授業時間外学習	スクーリング当日までに、『平成28年度日本語教育能力検定試験試験問題』の全ての問題を解いておくこと。								
学習内容	概要								課題
	第1回 日本語教育能力検定試験 試験Ⅰ① 試験Ⅰのうち、問題1~7を中心に解説する。								確認テスト
	第2回 日本語教育能力検定試験 試験Ⅰ② 試験Ⅰのうち、問題8~15を中心に解説する。								確認テスト
	第3回 日本語教育能力検定試験 試験Ⅱ① 試験Ⅱのうち、問題1~3を中心に解説する。								確認テスト
	第4回 日本語教育能力検定試験 試験Ⅱ② 試験Ⅱのうち、問題4~6を中心に解説する。								確認テスト
	第5回 日本語教育能力検定試験 試験Ⅲ① 試験Ⅲのうち、問題1~8を中心に解説する。								確認テスト
	第6回 日本語教育能力検定試験 試験Ⅲ② 試験Ⅲのうち、問題9~16を中心に解説する。								確認テスト
	第7回 日本語教育能力検定試験 試験Ⅲ③ 試験Ⅲのうち、問題17(記述式問題)を中心に解説する。								確認テスト
	第8回 単位修得試験								
	成績評価方法	単位修得試験の得点割合によって評価する。 A評価: 90%以上 B評価: 80%以上 C評価: 70%以上 D評価: 60%以上							
教科書	著書 『平成28年度 日本語教育能力検定試験 試験問題』 著者 日本国際教育支援協会 出版社 凡人社 出版年度 2017年 3月								
参考書(任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育文法研究Ⅰ			担当者	高見澤 孟
レベルナンバ	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<p>第一課の第一部では日本語の言語的・文化的特性を復習し、外国人日本語学習者にとって日本語の「難しさ」の原因を再確認する。第二部では、日本語の用法上の問題点を取り上げて、文脈依存性の問題や配慮表現、婉曲表現、敬意表現などを復習し、それらを適正に指導する方法を考察する。第三部では、日本語学習で多くの学習者にとって習得が難しい「日本語の拍」の指導法を再検討し、特に、長音、促音、撥音などの特殊拍の習得を促進する指導技術の実践方法を紹介する。</p> <p>第二課の第一部は、助詞「ハ」と「ガ」の用法に関する各種理論を紹介し、「ハ」と「ガ」の相違や「ハ」と「ガ」の混在文の特徴を明らかにしている。さらに実例を通して教育現場でこの問題がどのように扱われているかを解説している。第二部は、多様な用法がある助詞、「ヲ」(目的語の「ヲ」や場所を示す「ヲ」)、「ニ」(目的地や相手を示す「ニ」、存在場所を示す「ニ」、時間や日にちを示す「ニ」)、「デ」(活動が行われる場所を示す「デ」、手段を示す「デ」、行為者を示す「デ」、自然現象の原因を表す「デ」、時間の限界や範囲を示す「デ」)などの様々な用法を解説し、それぞれの使い分けの指導法を紹介している。第三部は、動詞の種類と使い分けの確認のための解説を行い、自動詞と他動詞の相違やそれに関連した日本語の特徴、「〜ている形」の用法の違いを復習し、実例を通して説明している。</p>								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各課の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の課に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 								
学習内容	概要				課題				
	第1課 日本語の言語的特徴の研究				レポート				
	<p>本課では、第一部では日本語の言語的・文化的特性を復習し、外国人日本語学習者にとって日本語の「難しさ」の原因を再確認する。第二部では、日本語の用法上の問題点を取り上げて、文脈依存性の問題や配慮表現、婉曲表現、敬意表現などを復習し、それらを適正に指導する方法を考察する。第三部では、日本語学習で多くの学習者にとって習得が難しい「日本語の拍」の指導法を再検討し、特に、長音、促音、撥音などの特殊拍の習得を促進する指導技術の実践方法を紹介する。</p> <p>なお、「応用編」では、各部の最終部分などに、「さらなる研究のために」と称する「学習を深化させるための課題」が提示されているが、これは各部で取り上げた学習内容の中で重要な点を学習者に考察させることが目的になっている。従って、ここでの考察は自主学習を目的としているので、採点や評価は行わない。各課の成績や単位取得にかかわる「課題」は別に提示され、学習者は「レポート」をe-Campus上で提出することが義務になっている。</p>								
第2課 文法研究(1)				レポート					
<p>本課の第一部は、助詞「ハ」と「ガ」の用法に関する各種理論を紹介し、「ハ」と「ガ」の相違や「ハ」と「ガ」の混在文の特徴を明らかにしている。さらに実例を通して教育現場でこの問題がどのように扱われているかを解説している。第二部は、多様な用法がある助詞、「ヲ」(目的語の「ヲ」や場所を示す「ヲ」)、「ニ」(目的地や相手を示す「ニ」、存在場所を示す「ニ」、時間や日にちを示す「ニ」)、「デ」(活動が行われる場所を示す「デ」、手段を示す「デ」、行為者を示す「デ」、自然現象の原因を表す「デ」、時間の限界や範囲を示す「デ」)などの様々な用法を解説し、それぞれの使い分けの指導法を紹介している。第三部は、動詞の種類と使い分けの確認のための解説を行い、自動詞と他動詞の相違やそれに関連した日本語の特徴、「〜ている形」の用法の違いを復習し、実例を通して説明している。</p>									
成績評価方法	課題レポートおよび単位修得試験								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700円(税込)、2004年 『新・はじめての日本語教育1[増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 『新・はじめての日本語教育2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年								
必須ソフト・ツール									
備考	【履修の前提とするもの】 『新・はじめての日本語教育1[増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 『新・はじめての日本語教育2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 上記の書籍の内容を理解していること 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日本語教育の経験のない方はまず入門編(「日本語教育」「日本語の特徴と発音」「日本語の文法と表現Ⅰ」「日本語の文法と表現Ⅱ」「日本語教授法A」「日本語教授法B」)から入る方が望ましい								

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育文法研究Ⅱ			担当者	高見澤 孟
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<p>第三課の第一部は、副詞節の研究で、仮定や条件、時を示す表現、「タラ」、「レバ」、「ナラ」、「ト」などの相違を解説し、それぞれの特徴や適切な用法の指導を紹介する。第二部では、二種類の接続表現「〜シ」と「〜(シ)テ」の相違や用法の特性を解説する。さらに接続文の前文と後文の主語が同一の場合と主語が別である場合の用法の問題も説明する。第三部は、名詞節の研究で、「〜コト」と「〜ノ」の違いや用法の相違を解説し、どのような場合に、「〜コト」が使われ、他の場合に「〜ノ」が使われるかを事例によって明らかにしている。</p> <p>さらに関連した文法的な用法として、引用の「〜ト」の用法や関連表現（「〜と考える」、「〜と判断する」、「〜と信じる」）などを検討し、次いで、「〜と言うこと」の用法を説明し、それぞれの違いを学習者に説明する方法を解説している。</p> <p>第四課の第一部は、日本語の受身文の特徴を確認する。まず、「直接受身文」と「間接受身文」の相違や「中立受身文」と「被害受身文」の違いを解説して、次に、日本語の自動詞受身文のあり方を紹介し、他の言語にない特別な用法であり、独特のニュアンスを持つことを指導するための例文を提示している。第二部では、「受身」、「可能」、「自発」、「尊敬」などを表す「〜られる文」の用法の違いとそれぞれの特徴を見分ける方法を解説している。さらに、日本語ではどのような場合に、「受身文」の使用を選択するかを検討している。さらに、「使役文」の受身形「使役受身形」の特徴と用法を解説している。第三部では、関係節の時制について、日本語と他の言語（英語）との相違を明らかにし、日本語の特徴と外国人学習者の陥る可能性のある誤用の原因を検討している。さらに、時制に関連して、日本語の動詞や繫辞の過去形の特徴な用法を紹介し、何故そのような用法が使われているかを解説している。</p>								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各課の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の課に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 								
学習内容	概要				課題				
	第3課 文法研究(2)				レポート				
	<p>本課の第一部は、副詞節の研究で、仮定や条件、時を示す表現、「タラ」、「レバ」、「ナラ」、「ト」などの相違を解説し、それぞれの特徴や適切な用法の指導を紹介する。第二部では、二種類の接続表現「〜シ」と「〜(シ)テ」の相違や用法の特性を解説する。さらに接続文の前文と後文の主語が同一の場合と主語が別である場合の用法の問題も説明する。第三部は、名詞節の研究で、「〜コト」と「〜ノ」の違いや用法の相違を解説し、どのような場合に、「〜コト」が使われ、他の場合に「〜ノ」が使われるかを事例によって明らかにしている。</p> <p>さらに関連した文法的な用法として、引用の「〜ト」の用法や関連表現（「〜と考える」、「〜と判断する」、「〜と信じる」）などを検討し、次いで、「〜と言うこと」の用法を説明し、それぞれの違いを学習者に説明する方法を解説している。</p>								
	第4課 文法研究(3)				レポート				
<p>本課の第一部は、日本語の受身文の特徴を確認する。まず、「直接受身文」と「間接受身文」の相違や「中立受身文」と「被害受身文」の違いを解説して、次に、日本語の自動詞受身文のあり方を紹介し、他の言語にない特別な用法であり、独特のニュアンスを持つことを指導するための例文を提示している。第二部では、「受身」、「可能」、「自発」、「尊敬」などを表す「〜られる文」の用法の違いとそれぞれの特徴を見分ける方法を解説している。さらに、日本語ではどのような場合に、「受身文」の使用を選択するかを検討している。さらに、「使役文」の受身形「使役受身形」の特徴と用法を解説している。第三部では、関係節の時制について、日本語と他の言語（英語）との相違を明らかにし、日本語の特徴と外国人学習者の陥る可能性のある誤用の原因を検討している。さらに、時制に関連して、日本語の動詞や繫辞の過去形の特徴な用法を紹介し、何故そのような用法が使われているかを解説している。</p>									
成績評価方法	課題レポートおよび単位修得試験								
教科書	なし								
参考書(任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考	<p>【履修の前提とするもの】</p> <p>『新・はじめての日本語教育1[増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円（税別）、2016年</p> <p>『新・はじめての日本語教育2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円（税別）、2016年</p> <p>上記の書籍の内容を理解していること</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】</p> <p>日本語教育の経験のない方はまず入門編（「日本語教育」「日本語の特徴と発音」「日本語の文法と表現Ⅰ」「日本語の文法と表現Ⅱ」「日本語教授法A」「日本語教授法B」）から入る方が望ましい</p>								

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教授法A			担当者	高見澤 孟		
レベルナンバ	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆				
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	—		
学習目標	<p>【ビジネス日本語の教え方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ビジネス日本語とアカデミック日本語の相違を理解し、ビジネス志望の学生を正しく指導することができる。 2) 学習者のニーズを理解して、その応える教育を行う能力が育成される。 3) 実践的なコミュニケーションの指導法を学習し、学習者のコミュニケーション能力向上の訓練ができる。 4) ビジネス日本語教育に必要な日本企業文化の概要を理解し、それを学習者に伝達する能力が育成される。 5) コミュニカティブ・アプローチの基本理論が理解できる。 <p>【コミュニケーションとは】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションに関連した各種理論を予備知識として学習できる。 2) コミュニケーションの各種手段を学習し、学習者の指導に役立てる。 3) 日本語における言語コミュニケーションの特徴を理解し、学習者の指導に役立てる。 4) 日本語の非言語メッセージの特徴を学習し、学習者の指導に役立てる。 5) 異文化コミュニケーションの指導法を学び、学習者の指導に応用できる。 										
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。										
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 										
学習内容					概要			課題			
	第6課第1部 ビジネス日本語の目標				アカデミック日本語とビジネス日本語の学習目標の違い、ビジネス日本語の教師として必要とされる能力や教育内容について解説する。						
	第6課第2部 ビジネス日本語の学習者				ビジネス日本語学習者の特性と、ビジネス日本語に必要な能力をどのように訓練すれば良いかを解説する。						
	第6課第3部 言語教授理論				言語教授理論について解説します。ビジネス日本語教育というものが、どのような言語理論、どのような教授法理論に支えられているのかを解説する。			レポート			
	第8課第1部 コミュニケーションとは				「コミュニケーションとは何か」ということを、その目的、定義、理論、性質、要素など、さまざまな観点から解説する。						
	第8課第2部 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション				言語を用いて行う「言語コミュニケーション」と、それ以外の要素を用いて行う「非言語コミュニケーション」について解説する。						
	第8課第3部 異文化コミュニケーション				他の文化や社会について理解を深めるための「異文化コミュニケーション」について解説する。			レポート			
	成績評価方法				平常点、単位修得試験（レポート試験）						
	教科書				なし						
	参考書 (任意購入)				『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700円（税込）、2004年 『新・はじめての日本語教育1[増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円（税別）、2016年 『新・はじめての日本語教育2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円（税別）、2016年						
必須ソフト・ツール											
備考											

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教授法B			担当者	高見澤 孟
レベルナンバ	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<p>【指導法各論】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教案の作成法を学び、授業担当に際して効果的な教案の作成ができる。 2) 日本語教育における「文法」指導の要点を学び、学習者の指導に役立てる。 3) 日本語教育における「音声指導」の要点を学び、学習者の指導に役立てる。 4) 聴解、読解の指導法を学び、学習者の指導に役立てる。 5) 作文の指導法を学び、テーマの扱いや文の訂正法など学習者の指導に役立てる。 <p>【第二言語習得理論】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 第二言語理論の概要が理解でき、学習者の指導において応用できる。 2) 社会言語能力の構成を学習し、学習者の指導に役立てる。 3) フォーカス・オン・フォームの理論を理解し、学習者の指導に役立てる。 4) 接触場面の理論を学び、その面から授業のあり方を研究できる。 5) ここで紹介されている第二言語習得理論の学習がさらに新しい習得理論への関心を広げていく契機になる可能性がある。 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	・事前に配布する資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。								
学習内容	概要				課題				
	第9課第1部 教案作成とさまざまな指導法1～教案の書き方・文法指導法～								
	教案の書き方・文法指導法について解説します。どのように教案を書くべきか、気をつける点はなにか、絵カードやフラッシュカードを使用する理由と活用方法についても解説する。								
	第9課第2部 教案作成とさまざまな指導法2～文法・発音指導法～								
	文法・発音指導法について解説します。動詞のグループごとの教え方と注意点、文法・文型、会話・読解の教え方についてを解説する。								
	第9課第3部 教案作成とさまざまな指導法3～聴解・読解・作文・漢字指導法～				レポート				
	聴解・読解・作文・漢字指導法について解説します。聴解を指導する際の注意点、読解を指導する際の注意点、作文を指導する際の注意点、漢字を指導する際の注意点についてを解説する。								
	第10課第1部 インプット・インタラクション・アウトプット								
	インプット、インタラクション、アウトプットの3つに区切って、教室指導との関係、その理論と実際の研究、教室での実践の方法について解説する。								
	第10課第2部 フォーカス・オン・フォーム								
形式に焦点を絞って教えるのか、あるいは目標言語は道具であるとして、意味に焦点を絞って教えるのか、という点について、フォーカス・オン・フォーメス、フォーカス・オン・フォーム、そしてフォーカス・オン・ミーニングについて解説する。									
第10課第3部 現実の接触場面でのコミュニケーション行動				レポート					
学習者が実際にコミュニケーションする場所である接触場面について解説する。									
成績評価方法	平常点、単位修得試験（レポート試験）								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700円（税込）、2004年 『新・はじめての日本語教育1[増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円（税別）、2016年 『新・はじめての日本語教育2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円（税別）、2016年								
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育読解研究			担当者	高見澤 孟, 阿曾村 陽子
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 読解クラスを運営していくうえで必要な用語や概念が理解できるようになる 読解クラスを行ううえで考慮すべきことを知る さまざまな読解ストラテジーを理解し、自分の言葉で説明できるようになる 外国語教育における「読解」を成功させるために学習者が獲得すべき読み方とはどのようなものかを理解し、教員としてのアプローチ方法を自分なりに持つ 読解の教案作成の方法を理解し、実際に作成できるようになる 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各課の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の課に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に配布する資料は必ず目を通しておくこと。 シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 								
学習内容	概要				課題				
	第9課 読解指導の理論				レポート				
	第9課では、読解授業を行う際に必要な、さまざまな概念や、学習者が身につけるべきストラテジーを中心に学びます。そして9課の後半では、初級クラスの読解の例を見ていきます。								
	第10課 読解指導の方法				レポート				
第10課では、実際の日本語教育の現場では、どのような文章を扱い、どのように読解を進めていくのかについて、具体的に見ていきます。文学、意見文、新聞等、さまざまなパターン of 文章の読み方の例をみながら、みなさんが実際に読解クラスを担当する際の注意点もお話ししていきます。									
成績評価方法	課題レポートおよび単位修得試験								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700円(税込)、2004年 『新・はじめての日本語教育1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 『新・はじめての日本語教育2 [増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年								
必須ソフト・ツール									
備考	【履修の前提とするもの】 『新・はじめての日本語教育1 [増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 『新・はじめての日本語教育2 [増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 上記の書籍の内容を理解していること 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日本語教育の経験のない方はまず入門編(「日本語教育」「日本語の特徴と発音」「日本語の文法と表現Ⅰ」「日本語の文法と表現Ⅱ」「日本語教授法A」「日本語教授法B」)から入る方が望ましい								

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語教育聴解研究			担当者	高見澤 孟, 阿曾村 陽子
レベルナンバー	300	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	—
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・聴解クラスを運営していくうえで必要な用語や概念が理解できるようになる ・聴解クラスを行ううえで考慮すべきことを知る ・さまざまな聴解ストラテジーを理解し、自分の言葉で説明できるようになる ・外国語教育における「聴解」を成功させるために学習者が獲得すべき聞き方とはどのようなものかを理解し、教員としてのアプローチ方法を自分なりに持つ ・聴解の教案作成の方法を理解し、実際に作成できるようになる ・日本語教育におけるさまざまな評価法を知る 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各課の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の課に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 								
学習内容	概要								課題
	第11課 聴解指導の理論								レポート
	第11課では、聴解授業を行う際に必要な、さまざまな用語や概念、日本語学習者が身につけるべき聴解ストラテジーを中心に学びます。そして、聴解指導における、教員に求められるスキルとは何か、考えます。また、授業がより効果的に進められるような、授業前課題の出し方についても確認します。								
	第12課 聴解指導の方法								レポート
第12課では、聴解ストラテジーや聴解および日本語教育で使用されている用語や概念を確認した後、実際の日本語教育の現場ではどのような聴解教材を用い、どのように聴解を進めていくのか、授業前課題の扱い方と合わせて、具体的にみていきます。また、テキスト別・レベル別の指導法をみることで、それぞれのポイントについても考えます。最後に、日本語教育におけるさまざまな評価法にも触れます。									
成績評価方法	課題レポートおよび単位修得試験								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700円(税込)、2004年 『新・はじめての日本語教育1[増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 『新・はじめての日本語教育2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年								
必須ソフト・ツール									
備考	【履修の前提とするもの】 『新・はじめての日本語教育1[増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 『新・はじめての日本語教育2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 上記の書籍の内容を理解していること 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 日本語教育の経験のない方はまず入門編(「日本語教育」「日本語の特徴と発音」「日本語の文法と表現Ⅰ」「日本語の文法と表現Ⅱ」「日本語教授法A」「日本語教授法B」)から入る方が望ましい								

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語の特徴と発音			担当者	高見澤 孟
レベルナンバ	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	—
学習目標	<p>【日本語の特徴】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本語の特徴を理解し、外国人日本語学習者(学習者)を指導する言語的な必須知識が習得できる。 2) 日本語が属する言語類型である「膠着語」の特徴を理解し、学習者の母語の言語類型と比較し、対照言語学的解説が可能になる。 3) 文脈依存性など、日本語の特殊な用法を学習者に実例の提示を通してわかり易く解説ができるようになる。 4) 社会言語学的に重要な日本語の敬意表現を理解し、その正しい用法を学習者に指導できる。 5) 配慮表現、婉曲表現など、日本語の特殊な表現方法を学習者に実例の提示を通してわかり易く解説ができるようになる。 <p>【日本語の発音】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本語の音声にかかわる知識を再確認し、学習者の音声指導ができる。 2) 学習者に日本語の音節構造の特徴を解説し、正しい発音ができるように訓練できる。 3) 受講生自身が日本語の特殊音節の特徴を理解したうえで、学習者に正しい発音の方法を指導できる。 4) 学習者に日本語のアクセントの構造を理解させ、正しい発音ができるように訓練できる。 5) 学習者に日本語の息継ぎの位置やイントネーション、プロミネンスの用法を解説し、聞きやすい日本語の発話を指導できる。 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 								
学習内容	概要				課題				
	第1課第1部 語順や言語類型								
	日本語とその他の語順との違いや言語類型の解説に始まり、言語類型が日本語教育へ与える影響についても解説する。								
	第1課第2部 日本語の文脈依存性								
	文脈依存性の高い日本語での会話において、省略される情報というものにはどういったものがあるのか。また、感情表現と願望表現において主語が省略されるケースについても解説する。								
	第1課第3部 日本語の特性				レポート				
	日本文化における慣用表現の重要性など、日本語の特性について解説する。								
	第2課第1部 CV構造 母音と子音力行～ザ行								
	まずCV構造や調音点や長音法について解説します。その後、子音力行～ザ行までの発音を解説する。								
	第2課第2部 CV構造 子音タ行～フ行								
引き続きタ行～フ行までの発音を解説する。									
第2課第3部 特殊構造				レポート					
撥音と促音と長音、そして、拍とリズム、アクセント、イントネーション、プロミネンスについて解説する。									
成績評価方法	平常点、単位修得試験(レポート試験)								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700円(税込)、2004年 『新・はじめての日本語教育1[増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 『新・はじめての日本語教育2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年								
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語の文法と表現Ⅰ			担当者	高見澤 孟
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート試験			単位修得試験 試験会場	—
学習目標	<p>【文法1】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 外国人のための日本語教育文法と国文法との相違を理解できる。 2) 日本語教育特有の文法用語が習得できる。 3) 日本語教育特有の動詞、形容詞の活用方法を理解し、学習者に指導できる。 4) 日本語の複雑な数詞の用法を学習者に指導し、正しい表現が使用できるよう訓練できる。 <p>【文法2】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本語特有の眼前指示や文脈指示の用法を学習者に理解させ、正しい用法を指導できる。 2) 日本語学習の困難点の一つであるオノマトベの特徴を学習者に理解させることができる。 3) 日本語の多様な助詞の用法を学習者に理解させ、正しい用法を指導できる。 4) 学習者が間違えやすい日本語の方法を誤用例を挙げて解説し、正しい用法を指導できる。 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 								
学習内容	概要				課題				
	第3課第1部 日本語教育の文法と国語教育の文法、文型の導入順序、名詞文、形容詞文								
	日本語教育と国語教育についてと、その文法の違いの解説に始まり、文型の導入順序、名詞文、形容詞文についてを解説する。								
	第3課第2部 動詞文								
	動詞の分類と動詞の活用(テ形)、テ形以外の動詞の活用について解説する。								
	第3課第3部 数詞、助数詞、副詞				レポート				
	数詞、助数詞、陳述(誘導) 副詞、程度副詞、様態(情態) 副詞について解説する。								
	第4課第1部 指示詞、オノマトベ								
	指示詞(眼前指示、文脈指示)と、オノマトベ(擬音語、擬態語)とオノマトベのパターンについて解説する。								
	第4課第2部 助詞、敬語								
助詞と敬語について解説します。敬語の解説では、尊敬語、謙譲語、丁寧語といった種類についてや、ウチとソトの関係、二重敬語についても解説する。									
第4課第3部 主語と主題、自動詞と他動詞、学習者の誤用例				レポート					
主語と主題、自動詞と他動詞について解説します。学習者の誤用例を挙げながら、何が問題なのかについても解説する。									
成績評価方法	平常点、単位修得試験(レポート試験)								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700円(税込)、2004年 『新・はじめての日本語教育1[増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年 『新・はじめての日本語教育2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円(税別)、2016年								
必須ソフト ・ツール									
備考									

メジャー(専修)名				授業科目名	日本語の文法と表現Ⅱ			担当者	高見澤 孟
レベルナンバ	200	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<p>【文法3】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習者に日本語のテンスとアスペクトの使い分けを解説し、正しい用法を指導できる。 2) 日本語の多様な文末表現をムードとして解説し、学習者に正しい用法を指導できる。 3) 日本語特有な受身形や使役形、使役受身形の特徴を解説し、学習者に正しい用法を指導できる。 4) 以上の学習を通して、日本語文法の概要を理解し、その立場から学習者を指導する能力を向上させる。 <p>【日本語の表記・表現】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本語の表記法全般が学習でき、学習者に説明できる。 2) 「ひらがな」や「カタカナ」の由来や用法を学習者に説明できる。 3) 日本語教育における「漢字」の学習範囲や用法を学習者に説明できる。 4) 「漢字」の訓読み、音読みの区別などを学習者に説明できる。 5) 日本語の文章作成に必要な各種「符号」の使い方を学習者に指導できる。 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配布する資料は必ず目を通しておくこと。 ・シラバスにあげた参考図書を読んで取り組むこと。 								
学習内容	概要				課題				
	第5課第1部 テンス・アスペクト								
	いつ（現在・過去・未来）のことなのかを示す「テンス」と、動作がどの段階にあるのかをあらわす「アスペクト」について解説する。								
	第5課第2部 ムード（モダリティ）								
	話し手がどのように受け止めているかを文末で表現する「ムード（モダリティ）」について解説する。								
	第5課第3部 ヴォイス（受身・可能・使役・使役受身）				レポート				
	視点が話し手と聞き手の、どちらにあるのかによって表現を変える「ヴォイス」について解説する。								
	第7課第1部 平仮名と片仮名								
	平仮名と片仮名の筆順や似ている文字の見分け方、平仮名と片仮名の長音の違いなどについて解説する。								
	第7課第2部 漢字								
漢字の成り立ちや、漢字を数多く覚える方法、漢字の筆順、部首・音訓・画数からの辞書の引き方、似ている漢字の見分け方などについて解説する。									
第7課第3部 文を書くときの注意点				レポート					
書きことばと話しことばの種類や、論文・新聞記事・説明文・連絡文などの文体の特徴について解説します。また、これらの文末表現の違いや、句読点の使い方、括弧の種類についても解説する。									
成績評価方法	平常点、単位修得試験（レポート試験）								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』高見澤孟著、アスク出版、2,700円（税込）、2004年 『新・はじめての日本語教育1[増補改訂版]日本語教育の基礎知識』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円（税別）、2016年 『新・はじめての日本語教育2[増補改訂版]日本語教授法入門』、高見澤孟著、アスク出版、1,900円（税別）、2016年								
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	日本語表現			担当者	秋田 久子
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	社会生活の中で正しく情報を受信し、また相手に自分の意図が正しく伝わるように発信するための日本語能力を養う。日本語の発声や発音、慣用句やことわざなども学び、さまざまな文章に触れることで「読む」能力を伸ばすと共に、課題発表などを通して「書く」能力も身に付ける。							
学習の進め方	(第1回～第14回) 本授業では、デジタル教材を主に活用して学習を進めます。提出課題は、学んだ知識を基礎に、自らの日本語力を磨く機会として、取り組むこと。回ごとに確認テストがありますので、その確認テストをクリアしてから次の回へ進みましょう。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・普段無意識に使っている「日本語」に対して、客観的な視点を持ちながら、受講を進めること。 ・受講後には、学んだことを、実際の日常生活の中で活用していくこと。 							
学習内容	概要						課題	
	第1回 社会生活と自己表現						ディスカッション 確認テスト	
	コミュニケーションと日本語、話しことばと書きことば、挨拶やその受け答えなどについて、学ぶ。							
	第2回 音声表現						確認テスト	
	日本語の発声や発音について学ぶと共に、美しい日本語や魅力的な話し方、また話し方の基本とスピーチの方法を身に付ける。							
	第3回 語彙と表現						確認テスト	
	語彙の特徴や分類、修辭法や慣用句、比喩、ことわざ、四字熟語、漢字の標記、同訓・同音意義語などについて学ぶ。							
	第4回 ディスカッション						ディスカッション 確認テスト	
	設定されたテーマについて発表し、他の受講者の発表についての感想を述べる。							
	第5回 敬語の基本						確認テスト	
	尊敬語・謙譲語・丁寧語の違いを理解し、正しく用いることができるようになる。							
	第6回 間違いやすい敬語						確認テスト	
	社会生活の中で間違いやすい敬語について考え、正しい敬語を身に付ける。							
	第7回 ビジネスでの日本語						プレゼンテーション課題 確認テスト	
	ビジネス場面での日本語について学び、社会人としての基本を身に付ける。							
第8回 中間まとめ						中間まとめ		
第9回 さまざまな文章						確認テスト		
文章の種類を理解し、美しい日本語の文章に触れる。								
第10回 原稿用紙の用法						確認テスト		
原稿用紙に正しい規則で文章を書くことを学ぶ。								
第11回 文章の構成と推敲						確認テスト		
序論や本論といった文章構成やパラグラフなどについて学び、目的に合った文章を作成する。								
第12回 手紙とはがき						確認テスト		
手紙やはがきの書き方のルールを学び、美しい文書を書くことを目的とする。								
第13回 ビジネス文書						プレゼンテーション課題 確認テスト		
さまざまな種類のビジネス文書について学び、目的に合った正しい文書を作成する。								
第14回 レポート作成						確認テスト		
レポートを書くときのルールや構成について学ぶ。また実際に履歴書やエントリーシートなどを書き、社会生活に活かす。								
成績評価方法	前半のまとめ (40%)、単位修得試験 (40%)、ディスカッションと課題発表 (20%) により総合評価する。							
教科書	著書 『新・日本語表現法』 著者 水原道子、福井愛美、上田知美 出版社 アイシー印刷株式会社 出版年度 2011年6月29日 改訂版							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	心理学 ライフデザイン		授業科目名	人間関係論			担当者	森下 朝日
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆	
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web試験		単位修得試験 試験会場	—
学習目標	人は社会生活の中で、常に誰かと影響しあひながら育ち、学び、他者との協力や競争を体験します。こうした人間関係の諸相に触れ、そこで生じる葛藤や心理状態を考察しつつ、望ましい人間関係について考えることがこの授業の目的です。							
学習の進め方	学習は、教科書を主とし、教科書の補足や要約・解説をデジタル教材にて確認する形となっています。また、自己を分析するための検査や実習の方法もデジタル教材にて提示されます。各章の終わりには確認テストが実施されますので、確実にクリアしてから次の章に進んでください。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 自己を中心とした人間関係の様相に意識を向け、どうありたいか考えてみる。 用語や定義を丸暗記するのではなく、自らの日常に照らし合わせてイメージしながら振り返ること。 デジタル教材だけでなく、教科書の該当箇所にも必ず目を通していただく。 							
学習内容	概要				課題			
	第1章 人間関係のなかの自己				確認テスト			
	人間関係を築くとき、私たちは、相手に対してさまざまなイメージを抱くのと同様、自分自身に対しても特定のイメージを抱く。そして、自分の行動や感情の動きを見つめながら、相手に対してどうアプローチしていこうかと考える。本章では、私たちがいかにかして自分を知り、自己を評価し、それを他者へ表現するかについて考える。							
	第2章 出会いからの人間関係の展開				確認テスト			
	私たちは、ある人と出会ったとき、その人がどういう人であるか、見た目や態度から判断しようとする。このとき、わかりやすく目立つものを基準にしたり、時には思いこみによって相手のタイプを決めてしまうことがある。本章では、対人認知や印象形成にどのようなメカニズムがあり、どのような思いこみが存在するかについて考える。							
	第3章 言語的・非言語的コミュニケーション				確認テスト			
	私たちは一生を通じて、さまざまな人と相手に、さまざまなメッセージを送り続ける。時には相手の気持ちが分からないと悩み、自分の思いをうまく伝えることができないと苦しむ。対人コミュニケーションは複雑かつ繊細なものであり、人間関係を築く上での中核となるものである。本章では、人と人のコミュニケーション、特に対面時の二者間のコミュニケーションの諸相について考える。							
	第4章 好きと嫌いの人間関係				確認テスト			
私たちは、さまざまな人間関係の中で、ある人を好きになったり、またある人を嫌いになったりする。私たちはなぜ他者に心惹かれるのだろうか。また、どうすれば親密な人間関係を築くことができるのだろうか。本章では、対人好悪や対人魅力と呼ばれる、この現実的かつ日常的なテーマについて考える。								
第5章 援助の人間関係				確認テスト				
あなたは人を助けたことがあるだろうか。また、人に助けられたことはあるだろうか。なぜ人は人を助けようとするのだろうか。1964年にニューヨークで起きたある事件をきっかけに、援助行動にはさまざまな要因が関係していることが明らかとなった。本章では、援助行動を引き起こす要因と、援助行動を阻害する要因について考える。								
第6章 支配と服従の人間関係				確認テスト				
私たちは、現代社会の中にあつて、人に影響を与え、また与えられながら生活している。こうした影響力の相互作用は、時に支配と服従の関係を生み出す。このとき、相手から受ける影響力の根拠となるのが社会的勢力である。本章では、社会的勢力の諸相について触れ、支配と服従の関係がどのような要因によって成り立つかを考える。								
第7章 攻撃と対立の人間関係				確認テスト				
誰もこれまでに、誰かの悪口を言ったり、言葉を無視したり、罵ったり、時には暴力に訴えるなど、何らかの形で他者に対して攻撃行動を行ってきたことだろう。また、同様に、他者から攻撃を受けた経験も多いだろう。人はなぜ誰かを攻撃するのだろうか。また、こうした攻撃行動を促進する要因はどのようなものだろうか。本章では、攻撃行動の諸要因について学ぶとともに、望ましい人間関係のあり方について考える。								
成績評価方法	確認テスト (35%)、単位修得試験 (65%)							
教科書	著書 『イラストレート 人間関係の心理学』 著者 齋藤 勇 出版社 誠信書房 出版年度 2013年4月20日 ISBN 9784414301502							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	心理学			授業科目名	認知行動療法			担当者	池田 浩之
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
学習目標	認知行動療法の実践的な事例や手法を修得し、日々の臨床現場で修得した内容を活かせるようになる。認知行動療法の基本的な理論や背景、意義、そして限界を理解し、実際の臨床現場や日常生活を想定したときに、その知識を適切に活用できるようになる。自身の行動や認知の傾向はどのようなものなのか分析できるようになる。また、それを踏まえて、臨床においてどのように作用しているのか説明できるようになる。								
学習の進め方	本授業は、連続する2日間のそれぞれ1~4時限に開講する。本科目では、近年evidence-basedな心理療法として注目される認知行動療法について学ぶ。基本的な構成理論(学習理論、ABC分析、ABC理論等)や実践的な事例や手法を修得し、日々の臨床現場や日常生活において、他者および自身に活かせるようになることを目指す。授業では講義と演習を織り交ぜ、実際の手法を用いたロールプレイを行い、実践力を高める。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 履修にあたっては、行動理論、ABC理論(認知療法の理論)について、あらかじめ調べたり、本を読むなどして概要を把握しておくことが望ましい。また、シラバスを確認して、興味のある内容を整理しておくこと。 受講後には、自身が関心を持った内容について日常生活の中での実践を心がけること。また、講義で通知した研修等に参加することを推奨します。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 認知行動療法と心理療法								
	本講座のガイダンスを行うことで、認知行動療法の概要を知る。臨床的な適応範囲や先進的な研究などについて触れ、認知行動療法の意義と限界について知る。								
	第2回 認知行動療法の位置づけ①				ディスカッション				
	認知行動療法理論の基礎をなす、学習理論やそれらを基にした行動分析を学ぶ。日常生活に置き換えて行動を見る視点の重要性について押さえる。実際に行動を見るためのワークも行う。								
	第3回 認知行動療法の位置づけ②								
	認知行動療法の代名詞的な理論となった、認知療法の基礎理論であるABC理論について学び、その理論を基にして構成されている認知再構成という技法について触れる。								
	第4回 認知行動療法の位置づけ③				プレゼンテーション				
	認知行動療法と他の心理療法について、比較をし、認知行動療法の意義と限界を知る。認知行動療法を生かすための基本的なカウンセリングマインドを知り、実際に演習も行う。								
	第5回 認知行動療法の臨床的な適応範囲(精神障害)								
うつ病や神経症圏への認知行動療法の実践例を紹介する。それらを通して、精神障害への認知行動療法の展開について学ぶ。実際に事例で用いているワークシートなどを講義でも用いる。									
第6回 認知行動療法の臨床的な適応範囲(発達障害)									
近年関心が高まっている発達障害への認知行動療法の実践について知る。アセスメントから介入まで、実践するために必要な要素について、事例を通して学ぶ。									
第7回 認知行動療法の臨床的な適応範囲(各領域から)				ディスカッション					
療育現場や教育現場、就労現場で行われている認知行動療法の実践を紹介する。各領域に合わせた実践を知り、現場で認知行動療法を行うために必要な要素について学ぶ。先行研究から情報を得るという視点についても学ぶ。グループ形式でワークも行う。									
第8回 認知行動療法の先進的な研究紹介				プレゼンテーション					
認知行動療法の第3世代と言われる技法について紹介する。また国内ではどのような機関で認知行動療法が実践されているか知り、今後自身で認知行動療法を学ぶ際のリソースを知る。									
成績評価方法	授業中の発言と参加、レポート課題、グループワークでの発言と参加、他者のプレゼンに対する質問とコメントにより総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	認知行動療法ケースフォーミュレーション入門 マイケル・ブルック、フランク・W・ボンド編著 下山晴彦編訳 金剛出版 2006 ISBN-13: 978-4772409391 認知行動療法入門 短期療法の観点から B・カーウェン、S・パーマー、P・ルデル著 下山晴彦 監訳 2004 金剛出版								
必須ソフト・ツール									
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義70名								

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	認知心理学			担当者	谷口 康祐
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★	
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	授業で取り扱った専門的な語句の意味や理論を理解し、正確に説明できるようになる。認知心理学における研究の対象を理解し、それらがどのような手法を用いることによって理論や知見が得られているのかを説明できるようになる。自身の興味のある認知心理学的テーマに関して、自分なりに実験計画を組み立て、その目的や予測される結果を明確に説明できるようになる。							
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する科目(特に「行動の科学」「学習心理学概論」)について十分に復習しておくこと。 ・この科目の難易度は高めに設定されているため、短期間で一気にやろうとせず、計画的に授業を進めること。 ・ノートを取りながら受講し、それを使って復習すること。また、自身の興味のあるテーマに関連する研究を調べることを推奨する。 ・授業で紹介した内容が日常生活とどのように関連しているのかについて考えることを推奨する。 							
学習内容	概要			課題				
	第1回 認知心理学概論			レポート				
	数ある心理学の中でも、認知心理学というのはどのような心理学なのかについて説明する。特に、心理学において認知とはどのようなものを示すのか、その歴史的背景も含めて紹介する。							
	第2回 認知心理学の方法論と心理統計			確認テスト				
	認知心理学の研究がどのような手法を用いて行われているのか、心理統計と合わせて紹介する。							
	第3回 感覚・知覚1			確認テスト				
	認知心理学における基本的な概念である、感覚・知覚・認知について再確認する。その後、人間にとって最も重要な感覚である視覚を群化の法則や図地分離、錯覚(錯視)の観点から紹介する。							
	第4回 感覚・知覚2			確認テスト				
	感覚に関する閾値測定などの心理学の研究手法について説明する。また、複数の感覚に関する知見や時間知覚に関する研究についても紹介する。							
	第5回 注意1			確認テスト				
	覚醒度、選択、制御といった注意の機能を概説した後、さまざまな注意の分類について紹介する。その後、選択的注意についての研究を紹介する。また、注意の視覚や聴覚に関する研究、注意の見落としについて紹介する。							
	第6回 注意2			確認テスト				
	注意の中でも分離的注意について扱った研究を説明する。ここでは、注意資源の考え方や、注意の自動化について紹介する。							
	第7回 学習1			確認テスト				
	古典的条件付けや、オペンラント条件、連合学習といった基本的な学習理論を再確認した後、認知心理学との関係を紹介する。学習心理学の分野で行われている研究手法や知見について紹介を行う。							
第8回 学習2			確認テスト					
認知心理学で扱われてきた、知識や技能を身につけていくプロセスについて概説する。ここでは、熟達化や並列分散処理、認知地図、メタ認知についての研究や知見を紹介する。								
第9回 記憶1			確認テスト					
記憶の構造や分類や理論を再確認した後、感覚記憶の特性を扱った研究や短期記憶の保持時間について、ワーキングメモリの理論とその研究といったに関する研究や知見を紹介する。								
第10回 記憶2			確認テスト					
主に長期記憶に関して説明を行う。長期記憶の中でも、意味記憶やエピソード記憶や潜在記憶に関する知見や研究を紹介し、最後に目撃証言といった現実場面を想定した研究についても紹介する。								
第11回 思考			確認テスト					
問題解決と推論についての再確認を行う。その後、ヒューリスティクスやバイアス、意思決定に関する研究を紹介する。								
第12回 言語			確認テスト					
言語と概念の関係を再確認する。その後、語彙プライミングの影響や、文章の理解、会話の理解といった研究について紹介する。								
第13回 社会的認知			確認テスト					
社会的認知は、認知心理学の方法論や理論的な枠組みを取り込んだ社会心理学の研究である。ここでは、対人認知、認知的不協和、観察学習、帰属理論に関する研究や知見を紹介する。								
第14回 ヒューマンエラー			レポート					
ヒューマンエラーの原因は様々な種類に分類されている。認知心理学の観点から実際に起きたヒューマンエラーによる事故について取り上げ、どのような対策をすればよいのかを考察する。								
第15回 まとめ			レポート					
認知心理学に関する研究が実生活とどのように関連することができるのか、これまで扱った題材を基に考える。								
成績評価方法	単位修得試験(レポート)、各回の課題(確認テスト、レポート) 【A評価】B評価に加え、自身が考えた認知心理学的研究を実施することによって、どのような知見が得ることができるのか、またどのように応用できるのかを考え、明確に説明できている。 【B評価】C評価に加え、自身で考えた認知心理学的な実験計画で調べたいことを明確に説明でき、どのような手法を用いれば調べたいことを明らかにできるかを説明できている。 【C評価】D評価に加え、認知心理学の研究で用いられる様々な手法や考え方が、どのような研究でどのように用いられるのか説明できている。 【D評価】各回の試験およびレポートを提出し、認知心理学における基本的な語句や理論の理解し、説明できている。 単位取得試験であるレポートを課題にて、自分で考えた実験計画を説明できている。							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	『マンガ心理学入門』、ナイジェル・C.ベンソン、講談社、864円(税込)、2001年							
必須ソフト・ツール								
備考	【履修の前提とするもの】 「行動の科学」「学習心理学」の内容を修得していること。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 「心理学統計法」の内容を修得していること。 【注意】 この授業はこれまでに心理学についてしっかり学んでいることを前提にして、心理学の知識の幅をさらに広げていくことを目的とした授業になっております。確認テストやレポートの難度はほかの授業と比べて高くなっており、履修する人は相応の覚悟を持って授業に臨んでください。							

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	脳の科学			担当者	西村 治彦
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	脳について知ることによって、心というものの理解に迫ります。そして、「心とは意識と無意識を含めた脳活動の作用である」という観点に立つて脳を科学することの大切さを理解します。							
学習の進め方	この授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 参考図書や関連サイトなども活用して、各自で自主的に学習するスタイルを身につけるよう努力してください。 設置されたレポート課題に納得できるまで取り組むようにしてください。 							
学習内容	概要						課題	
	第1回 脳の性質・無意識と脳の解釈 <ul style="list-style-type: none"> はじめに (脳を知り、心に迫る/脳を調べるメソッドロジー/鍵を握る無意識の世界) サイエンスの視点: 対象におけるデータの相関関係と因果関係 錯覚・ゲシュタルト群化原理・顔認識に観る脳の癖 変化音・単純接触現象・錯覚帰属に観る脳の性質: 行動への感情の妥協 サブリミナルな刺激への脳の反応と学習: やる気と直感のルーツ 						レポート	
	第2回 脳と記憶・記憶の役割 <ul style="list-style-type: none"> 記憶の役割を探る: 自我の存続とパターン・コンプリーション 正誤の基準: 慣れと記憶 好き嫌いの形成と記憶の再構築 						レポート	
	第3回 記憶の身体性 <ul style="list-style-type: none"> 意識を越えた身体反応と感情の変化 分離脳・海馬損傷と記憶・行動 脳機能の前適応と心の構造 						レポート	
	第4回 生物の進化と感覚 <ul style="list-style-type: none"> 脳のニューロン数と情報量、および生物の定義とチューリング・テスト 脳と聴覚・皮膚感覚・嗅覚: そのしくみと機能 脳と視覚: そのしくみと機能 						レポート	
	第5回 意志と行動と脳活動 <ul style="list-style-type: none"> 自由意志の測定とエイリアンアーム・シンドローム 脳のゆらぎと行動 自由否定の存在、および行動の知覚 						レポート	
	第6回 脳の仕組み・自己言及の構造 <ul style="list-style-type: none"> 脳の消費エネルギー・遺伝子と設計図・ニューロン活動 脳のフィードバックとリカーション おわりに 						レポート	
成績評価方法	各回のレポート (60%)、単位修得試験 (40%)							
教科書	著書 『単純な脳、複雑な「私」』 著者 池谷裕二 出版社 朝日出版社 出版年度 2010年3月1日 1版 ISBN 9784255004327							
参考書(任意購入)	『よくわかる最新「脳」の基本としくみ (How - nual Visual Guide Book)』、後藤和宏、秀和システム、1,470円 (税込)、2009年 『心の脳科学「わたし」は脳から生まれる』、坂井克之、中央公論新社、945円 (税込)、2008年							
必須ソフト・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	俳句と川柳			担当者	水野 達朗					
レベルナンバ	200	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★							
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—					
学習目標	<p>俳句がたぶん世界最短の「まじめな」詩であることは、よく知られている。とはいえ、それが現にどれほど短いかにについては、日本人自身でさえ、本当によく実感しているとはいえない。西洋では、俳句はわずか三行の極端な短詩だと見なされている。たしかに西洋では、もっとも短い「まじめな」定型詩でも十四行の長さをもつものだから、たった三行といえども、とんでもなく短い詩には違いない。だが実は、日本語俳句の五・七・五音、あわせて十七音は、英語やフランス語など西洋の言語の情報量に換算すれば、ほんの十音節にも足りない。つまり俳句は、西洋詩のわずか一行よりもっと短い詩なのであり、これは極端に短い諺か、コマーシャル・メッセージなみの信じがたい短小である。「閑(しづか)さや岩に浸(し)み入る蟬(せみ)の声」——ほとんど意味不明の片言(かたこと)に近いこのようなテキストが、そもそもどのようにして「詩」であり得るのか、なぜ複雑微妙な意味をはらんで、読者に深い感動を与えるのだろうか。この講座では、芭蕉の名句の数々をじっくり読み味わいながら、そうした俳句の不思議な成り立ちとくみを、一から考え直してみたい。あわせて、たぶん世界最短の「おかしい」詩である川柳についても、同じ観点から、あらためて見直してみたい。</p> <p>同じ五・七・五の短詩でも、俳句は季語と切字を含む芸術的な自然詩、川柳はそのどちらをも含まない軽快なユーモア詩・人情詩というのが一般的な見方であろう。そうした通念はおおむね当たっている。とはいえ、俳句と川柳がこれまでたどってきた歴史を考えると、またどちらともわずかに十七字の極端に短い詩だという点から見ても、両者には意外に多くの共通点がある。この二つをはじめから別物だと決め付けず、むしろ兄弟のように近いもの、一本の木の枝分かれしたようなものと考えて、それぞれに似たところや異なるところを観察してみれば、色々とよく見えてくるものがありそうである。</p> <p>本授業では、俳句と川柳の成り立ちや発展のあとをたどりながら、それぞれの詩としての特性を考え、あわせて俳句・川柳の古今の名作をじっくり味わってみることにする。</p>													
学習の進め方	第1回、第2回と各回、順を追って学習を進めること。 まず、各回のコンテンツで十分に学習をしてから教科書を熟読し、再度コンテンツにて学習をすること。													
授業時間外学習	・『芭蕉全句集』(角川ソフィア文庫)等で、講義で出て来た句を確認するとともに、それ以外の句についても、講義で示された読み方を応用して読み進めてみることを推奨。													
学習内容	概要				課題									
	第1回 十七字の世界				小テスト									
	第1節 俳句の短さ 第2節 ハイクとイマジズム													
	第2回 読者は作者				ディスカッション、小テスト									
	第1節 俳句は脇が甘い 第2節 開かれた作品													
	第3回 写生				小テスト									
	第1節 リアリズム(写実主義) 第2節 俳句は十七字が出発点													
	第4回 本意の働き				小テスト									
	第1節 歌語とコノテーション 第2節 季語、俳言													
	第5回 秋の夕暮				小テスト									
	第1節 『万葉集』の「秋の夕暮」 第2節 『古今集』の「秋の夕暮」 第3節 『後撰集』以後の「秋の夕暮」 第4節 『新古今集』の「秋の夕暮」と「三夕」													
	第6回 俳句の二重構造									小テスト				
	第1節 滑稽の本質 第2節 詩的意義と文体特徴													
	第7回 誇張—表現・意味の構造(1)				小テスト									
	第1節 「も」考 第2節 「も」以外の誇張													
第8回 矛盾—表現・意味の構造(2)				小テスト										
第1節 矛盾法(1) 第2節 矛盾法(2) 第3節 矛盾法(3)														
第9回 意義の方向づけ				ディスカッション、小テスト										
第1節 干渉部の働き(1) 第2節 干渉部の働き(2)														
第10回 「閑かさや」の句				小テスト										
第1節 「岩にしみ入る蟬の声」 第2節 「閑かさや」														
第11回 俳句の翻訳				小テスト										
第1節 俳句の翻訳における問題点 第2節 様々な俳句の英訳														
第12回 芭蕉の桜				小テスト										
第1節 ミモロジスム 第2節 「花」と「桜」														
第13回 川柳とは				小テスト										
第1節 川柳の成り立ち(1) 第2節 川柳の成り立ち(2)														
第14回 川柳の構造				ディスカッション、小テスト										
第1節 川柳の構造(1) 第2節 川柳の構造(2)														
第15回 川柳の名作				小テスト										
第1節 川柳を楽しむ(1) 第2節 川柳を楽しむ(2)														
成績評価方法	平常点(コンテンツ学習、ディスカッション、小テスト)50%、単位修得試験50%													
教科書	著書 『日本詩歌の伝統—七と五の詩学—』 著者 川本皓詞 出版社 岩波書店 出版年度 2010年4月5日 ISBN 9784000016889													
参考書(任意購入)														
必須ソフト・ツール														

備考	
----	--

メジャー(専修)名				授業科目名	バズルで情報活用			担当者	本田 直也
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	レポート			単位修得試験 試験会場	—
学習目標	<p>バズルといえは、どのようなバズルを思い浮かべますか。ジグソーバズル、テトリス、脳トレ、スマートフォンでみんな電車の中でやっているやつ、などなど様々なバズルありますが、この授業では「覆面算」、「セレクトワーズ」、「数独」の3つのバズルを厳選し、学習テーマとして扱います。</p> <p>これらの3つのバズルを解く際には、いずれもデータ処理や数値処理を必要とします。能力としては、論理力、数理力はもちろんのこと、情報活用能力も必要となってきます。バズルの解答や、バズルの表現の過程で、楽しみながら、頭も使いながら、情報活用能力を養っていくことを目指します。</p> <p>バズル問題は表計算ソフトExcel上に表現し、Excelの機能を用いて様々な処理を行っていきます。ですから、この授業はExcelの学習も大きなテーマの1つです。</p> <p>【この授業の学びを通してできるようになること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「覆面算」、「セレクトワーズ」、「数独」バズルのルールを理解し、楽しむことができるようになる ・Excelの様々な機能を知り、それらを適切に扱うことができるようになる ・Excelで様々な関数や数式を正しく記述できるようになる ・コンピュータ操作やExcel操作を覚えて暗記するのではなく、思い出し方を身につけることで、時間が経っても修得した内容を再度活用できるようになる ・情報検索、情報分析といった情報活用能力を駆使して課題解決ができるようになる ・課題に直面したときに、それを成し遂げるための必要な学習を自ら定め、自ら修得することができるようになる。(自己学習能力の向上) 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みます。								
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 もし以前にExcelに関する学習を行ったことがあり、テキストなどの教材があれば、参照できるように手元に用意しておきましょう。参照できると学習がスムーズになる場合もあります。</p> <p>el-Campusその他の学習教材「レポートの書き方」に一通り目を通しておきましょう。必要となったらいつでも参照して活用できるように準備しておきます。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 各回の学習を終えるごとに、どのように情報活用能力を駆使して課題解決を行ったのか、学習の過程でどのように情報活用能力が鍛えられたのか、その都度思い返しておいてください。本科目の学習以外でも、例えば仕事やその他の学習活動や研究活動において、情報活用能力を用いることができた例などありましたら、その都度気に留めておいてください。</p>								
学習内容	概要				課題				
	第1回 表計算ソフトでの数式活用				レポート				
	<p>【第1回学習内容】 表計算ソフトでの数式の扱い方を学ぶ。教わるだけでなく、情報活用能力を駆使して自ら課題解決できるようになることを目指す。</p> <p>【第1回課題】 基礎的な関数の扱い方を確認するための問題を解きます。問題指示入りのExcelブックファイルを配布しますので、指示に従って関数を利用した数式を記述してもらいます。完成したExcelブックファイルをel-Campusでアップロード提出する、という課題です。(文書作成のレポート課題ではありません)</p>								
	第2回 覆面算(1)				レポート				
	<p>【第2回学習内容】 表計算ソフトを用いて覆面算を解くための補助ツールの製作に着手する。そのために必要な関数と数式の扱い方について学ぶ。</p> <p>【第2回課題】 第2回の学習テーマの1つである表検索関数について、その関数の扱い方の修得と定着を目指して、Excel上で演習を行う。完成したExcelブックファイルをel-Campusで提出します。(文書作成のレポート課題ではありません)</p>								
	第3回 覆面算(2)				レポート、ディスカッション				
	<p>【第3回学習内容】 覆面算を解くための補助ツールを完成させる。完成までの過程で情報活用能力を駆使する。完成後のさらなる発展について考えをめぐらす。</p> <p>【第3回課題】 第2回、第3回の学習を通して作成した覆面算を解くための補助ツール (Excelファイル) を提出する課題です。独自のアイデアを盛り込み、工夫を重ね、授業で完成したもの以上の作品を目指すことも良いでしょう。そのためのアイデア出し、質問、相談、意見交換、ヒント、手助けはディスカッション上で行われます。</p>								
	第4回 セレクトワーズ(1)				確認テスト				
	<p>【第4回学習内容】 表計算ソフトを用いてセレクトワーズを扱う。関数と数式の扱い方に加えて、数理力を用いた問題解決にも挑む。</p> <p>【第4回課題】 第1回～第4回までに学習した関数について、その用途や使い方について確認するための確認テストを出題します。</p>								
	第5回 セレクトワーズ(2)				レポート、ディスカッション				
<p>【第5回学習内容】 セレクトワーズを解答まで導き、ツールの完結まで至る。情報技術の中の特にネットを活用して言葉の意味の検索を行い、課題解決を行う。</p> <p>【第5回課題】 第3回課題と同じ形式の課題です。第4回、第5回の学習を通して作成したセレクトワーズ解答ツール (Excelファイル) を提出します。可能であれば、独自のアイデアを盛り込み、工夫を重ねます。そのためのアイデア出し、質問、相談、意見交換、ヒント、手助けはディスカッション上で行われます。</p>									
第6回 数独(1)				確認テスト					
<p>【第6回学習内容】 世界的に有名となり大流行を起したバズル、数独を扱う。数独のルールや特性を把握した上で、解答に向けての処理手続きを表現する。</p> <p>【第6回課題】 第1回～第6回までに学習した関数について、その用途や使い方について確認するための確認テストを出題します。</p>									
第7回 数独(2)				レポート					
<p>【第7回学習内容】 論理力を駆使した適切なデータ処理について学習する。セルアドレスの相対参照、複合参照、絶対参照をそれぞれ適切に使い分ける。</p> <p>【第7回課題】 第7回の学習の中で作成したExcelファイルを提出します。学習指示通りに適切に数式を記述できていれば課題達成です。(文書作成のレポート課題ではありません)</p>									
第8回 数独のまとめとバズルの情報活用能力				レポート、ディスカッション					
<p>【第8回学習内容】 数独ツールの完成と、その後の発展について議論を通して深めていく。バズル問題を扱いつつ養ってきた情報活用能力について振り返る。</p> <p>【第8回課題】 第3回、第5回課題と同じ形式の課題です。第6回、第7回、第8回の学習を通して作成した数独解答ツール (Excelファイル) を提出します。独自のアイデアを盛り込み、工夫を重ね、授業で完成したもの以上の作品を目指すことも良いでしょう。そのためのアイデア出し、質問、相談、意見交換、ヒント、手助けはディスカッション上で行われます。</p>									
成績評価方法	<p>各回の課題、単位修得試験 (レポート)</p> <p>【A評価】レポート課題：本授業で学習した以上の成果をもって課題解決のための工夫が数多く施されている。ディスカッション：他者が学習内容をより深く理解するための手助けや支援を行っている。単位修得試験：課題解決力や自己学習力について触れつつ、情報活用能力という能力について自分なりに語る事ができており、読み手が十分納得できるようなレポートの仕上がりに到達している。</p> <p>表計算ソフトを用いて解決することができる課題に直面した時に課題の特性を見抜き、論理力、数理力、情報活用能力を駆使して総合的な課題解決が可能であり、その解決の方法または方向性を自分の言葉で適切に述べていること。</p> <p>【B評価】レポート課題：本授業で学習した内容を適切に用いて的確な課題解決に至っている。ディスカッション：適切な発言や受け答えが行われており、他者に何らかの影響を与えられている。単位修得試験：情報活用能力という能力について本授業の教材の中で説明されていたことを踏まえつつ、自分なりに語る事ができていること。形式面においては「レポートの書き方」に準じた仕上がりとされており、適切な形式に仕上がっていること。</p> <p>表計算ソフトを用いて解決することができる課題に直面した時にいくつかの課題解決のパターンの中からの的確な手法を自ら選択して実際に当てはめて解決ができること。</p> <p>【C評価】レポート課題：本授業で学習した内容を部分的に用いて課題解決に当たろうとしている。ディスカッション：双方向に何らかの話題が通じている。単位修得試験：情報活用能力という能力について本授業の教材や資料を参照したり、他者の意見や手助けを用いたりしながらまとめる事ができている。</p> <p>表計算ソフトを用いて解決することができる課題に直面した時に解決方法のヒントやアドバイスを他者からもらい、自分の持っている知識や能力を引き出して活用することで課題解決ができること。</p> <p>【D評価】レポート課題：何らかの課題解決を示している。ディスカッション：参加し、自身が発言することと他者の発言に耳を傾ける事ができている。単位修得試験：情報活用能力とは何なのか自分なりに何かを語る事ができている。</p> <p>表計算ソフトを用いて解決することができる課題に直面した時に解決手順を他人から示されればそれに沿って自力で解決まで辿り着くことができること。</p>								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	なし								
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Excel (バージョンは問わない)								

備考	<p>【履修の前提とするもの】</p> <p>表計算ソフト (Excel) で四則計算 (＋－×÷) ができること。</p> <p>表計算ソフト (Excel) で合計を求める関数 (SUM関数) を扱うことができること。</p> <p>表計算ソフト (Excel) に関する情報検索ができること。(書籍やWebサイトを用いることを想定している)</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】</p> <p>表計算ソフト (Excel) でSUM関数以外の関数も使ったことがあれば望ましい。</p>
----	--

メジャー(専修)名	ライフデザイン ビジネス・キャリア		授業科目名	働くことを考える			担当者	後藤 亮子
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材 活用度		
単位修得試験 受験資格	レポート③を試験とします。レポート③を提出するには、全授業へ出席する必要があります。		単位修得試験 実施方法	現地試験 (レポート)			単位修得試験 試験会場	本学 (さくら川キャンパス)
学習目標	キャリア論の概要を理解し、社会を知ること、自分を知ることによってキャリアへの肯定的な意図を創ります。さらに社会人基礎力を体感することも加えて、「何のために働くのか」という問いの答えを探します。							
学習の進め方	個人演習やグループワークなど多面型で構成されています。							
授業時間外学習	・人生全体や職歴を振り返り、その満足度について、授業で話していただく機会があります。記述用のフォーマットは授業中に配布しますが、お互いが自己開示できることを前提に授業が進みますので、心得て受講してください。							
学習内容	概要						課題	
	第1回 現代社会とキャリアデザイン							
	現代社会におけるキャリアデザインの必要性を理解します。							
	第2回 キャリアデザインと人生設計							
	現代人のライフスタイルと職業について考察します。							
	第3回 キャリアデザインのための自己理解①							
	第3回、第4回、第6回、第7回では、自己のキャリア意識を明確にするために、自己理解の演習を行います。							
	第4回 キャリアデザインのための自己理解②							
	自己理解の演習							
	第5回 第1回～第4回の学びの整理						レポート①	
	学びの整理として、振り返りを行います。授業時間内にレポート課題①があります。							
	第6回 キャリアデザインのための自己理解③							
	自己理解の演習							
	第7回 キャリアデザインのための自己理解④							
	自己理解の演習							
第8回 キャリアデザインと仕事理解①								
第8回、第9回では、キャリア形成の外的環境(社会、就労環境)を理解し、多様な働き方を考察します。								
第9回 キャリアデザインと仕事理解②								
働き方の考察								
第10回 第5回～第10回の学びの整理						レポート②		
学びの整理として振り返りを行います。授業時間内にレポート課題②があります。								
第11回 キャリア理論の基礎①								
第11回～第12回ではキャリア形成に役立つキャリア理論の中から代表的な考え方を学びます。								
第12回 キャリア理論の基礎②								
キャリア理論の学習								
第13回 キャリアデザインと基礎能力～社会人基礎力の養成①								
企業が職場で求める能力を「社会人基礎力」と呼びます。第13回～第14回では、仕事と個人をつなぐ役割をなす社会人基礎力を体感し、働くことを考える材料のひとつに加えます。								
第14回 キャリアデザインと基礎能力～社会人基礎力の養成②								
社会人基礎力を体感する演習								
第15回 全過程の学びの整理						レポート③		
質疑応答と意見交換を行います。レポート課題③として当科目を受講した感想と学びを記述していただきます。								
成績評価方法	・全授業への出席が必要です。 ・成績評価は、出席点 (50%) と平常点 (50% レポート①、②、③の提出と受講態度) で行います。							
教科書	なし							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト ・ツール								
備考	筆記具をスクーリングに持参すること 受講者上限人数 グループワークを含む講義40名							

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	犯罪心理学			担当者	牧田 香
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★	
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<p>犯罪心理学という学問では基礎心理学をどのように応用して、社会でどのように役立てる学問なのか説明できるようになる。実際に起きている犯罪を例に挙げ、心理学をベースにした理論により考えられる犯罪が発生する要因について説明できるようになる。犯罪者の処遇について説明できるようになる。被害者の心理を理解し、被害者と親しい関係の立場にいると想定した場合に自分にできる被害者への支援について具体案を述べられるようになる。犯罪を防止する環境整備について説明できるようになる。犯罪心理学が社会にどのように役立てられるようになればよいか、自身の考えを述べられるようになる。</p>							
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。心理学概論の教科書または心理学の入門書などの書籍で一通りの心理学の基礎知識を確認しておくこと。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。また、各回の内容をしっかり理解できているか自己評価し、自信がない場合は教材を読み直して復習すること。							
授業時間外学習	・科目に関連したサイトの閲覧や心理学概論に関する書籍講読をしておくこと。							
学習内容	概要			課題				
	第1回 犯罪心理学とは			レポート				
	学問としての犯罪心理学はどのように研究が行われているのか、また、犯罪心理学の専門家が活躍する現場はどのようなものなのか学ぶ。							
	第2回 犯罪とは			確認テスト				
	人間の行為が犯罪だとみなされ裁かれるまでの現代社会の仕組みを確認し、犯罪の定義と犯罪が起こる要因について学ぶ。							
	第3回 ささまざまな犯罪			確認テスト				
	暴力犯罪・窃盗・強盗・放火・ホワイトカラー犯罪・サイバー犯罪など、それぞれの犯罪の特徴と現状を学ぶ。							
	第4回 性犯罪と身近な暴力			レポート				
	犯罪として表面化しにくい性犯罪、身近な人が被害を受けている可能性があるストーカー、DV、虐待などの現状を学ぶ。							
	第5回 少年犯罪と非行			レポート				
	少年非行と犯罪、非行少年の心理について学び、社会が少年に与える影響について考える。							
	第6回 犯罪の原因を考える (生物学的アプローチ)			確認テスト				
	遺伝的要因や脳、神経伝達物質、精神疾患などの要因から犯罪の原因を考える生物学的アプローチについて学ぶ。							
	第7回 犯罪の原因を考える (臨床心理学的アプローチ)			確認テスト				
	精神力動および心の発達の理論、パーソナリティ、人間関係などの要因から犯罪の原因を考える臨床心理学的アプローチについて学ぶ。							
第8回 犯罪の原因を考える (社会学的アプローチ)			確認テスト					
社会との関係に焦点を当てた研究に関する理論から犯罪や非行の原因を考える社会学的アプローチについて学ぶ。								
第9回 捜査の心理学			レポート					
テレビなどの影響で世間一般に知られるようになったプロファイリングやポリグラフ検査をはじめとする犯罪心理学に関連する手法が現実の捜査の現場ではどのように活かされているか学ぶ。								
第10回 成人犯罪者の処遇と矯正			確認テスト					
検挙、起訴、裁判、判決までの流れと精神鑑定、裁判員制度について正しい知識を持ち、我が国での矯正(更生)の考え方と刑務所の役割について学ぶ。								
第11回 非行少年の処遇と矯正			確認テスト					
成人犯罪者とは異なる処遇の流れと目的を理解し、個々の少年に応じた矯正教育を行うための仕組みについて学ぶ。								
第12回 犯罪被害者の心理			確認テスト					
多くの人に正しく理解されていない被害者とその家族の心理について学ぶ。PTSDについての知識を得る。								
第13回 被害者支援の実態			レポート					
被害者支援に携わる人の活動内容を知る。事例を通して被害者の話を聞く上で留意すべき点などを学ぶ。								
第14回 犯罪とメディア			レポート					
マスメディアによる犯罪報道が過熱している現代社会に生きる人間の心理と、インターネット、ケータイ、ゲームが犯罪に与える影響について考える。								
第15回 防犯の心理学			確認テスト					
犯罪を抑止するための環境整備に関する研究と対策について、環境心理学・社会心理学的アプローチについて学ぶ。								
成績評価方法	<p>各回の課題、単位修得試験(レポート)</p> <p>【A評価】確認テストのほぼ全てが正解しており、犯罪心理学の体系を十分に理解した上で、様々な事例に対して的確な判断、推察、選択できるようになっている。レポートからオンデマンド教材の内容を理解している様子や、自分自身の考えをしっかりと論じられている様子がかかえ、犯罪に関する現代社会の諸問題について基礎心理学を基盤とした犯罪心理学の観点からの確かな分析と解決案を論じることができている。各回で定めた学習目標をすべて達成し、レポートにおいては考察としてオリジナリティのある自分自身の考えを述べている。</p> <p>【B評価】確認テストのほとんどが正解しており、犯罪心理学の体系を理解した上で、ある一定水準以上の判断ができるようになっている。レポートからオンデマンド教材の内容を理解している様子や、自分自身の考えをある程度論じられている様子がかかえ、基礎心理学を基盤とした犯罪心理学の体系を踏まえた妥当な提案や主張が述べられている。各回で定めた学習目標をほとんど達成し、レポートにおいては考察として既存の理論や主張に沿った自分自身の考えを述べていることができる。</p> <p>【C評価】確認テストのほとんどが正解しており、犯罪心理学の体系に沿った最低限の判断ができるようになっている。レポートからオンデマンド教材の内容を理解している様子がかかえ犯罪心理学の観点を取り入れた主張が含まれている。各回で定めた学習目標をおおむね達成し、レポートにおいては客観性や妥当性はともかく独自の考察が述べられている。</p> <p>【D評価】確認テストは正解の方が多く、最低限、犯罪心理学に触れたことがあるといえる判断力が身につけている。レポートからオンデマンド教材の内容を最低限理解している様子がかかえ、少なくとも犯罪心理学の用語は間違えずに用いることができている。各回で定めた学習目標を最低限達成し、レポートにおいては犯罪事例に対して独自の考察を述べることができず、どの理論が当てはまるのか指し示すことができる。</p>							
教科書	なし							
参考書(任意購入)								

必須ソフト ・ツール	
備考	【履修の前提とするもの】 「心理学概論」の内容を修得していること。 【履修にあたって希求していることが望ましいもの】 「臨床心理学」の授業内容と同等の知識があること。

メジャー(専修)名				授業科目名	阪神間の観光開発			担当者	四方 啓暉, 田中 義次
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席 課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
学習目標	明治以降の阪神間の開発において私鉄が核となって進められた観光開発の歴史について理解を深め、説明ができるようになる。 代表的な施設である甲子園球場の建設経緯並びに役割について理解し説明ができるようになる。								
学習の進め方	1日目は教室において明治以降の阪神間の開発と観光の歴史および2日目に訪れる甲子園球場について、午前・午後それぞれ講義と質疑応答を行い理解を深め各自ミニレポートにまとめる。 2日目は甲子園球場歴史館前に集合、歴史館を見学し、理解を深める。その後各自昼食をとり、教室にてグループごとにテーマに沿ってディスカッションと発表を行い理解を深め、各自レポートにまとめる。								
授業時間外学習	・関連する参考資料・図書等を機会を見つけて目を通しておくこと ・阪神間に古くから住んでおられる方に出来るだけテーマに関する昔話を聞いておくこと。								
学習内容	概要								課題
	1日目								レポート、ディスカッション
	<p>さくら夙川キャンパスの教室にて講義とディスカッションを行う。</p> <p>《講義》 明治以降の阪神間の開発において観光開発の果たした役割について講義。</p> <p>昼食(各自自由に) 《ディスカッション》 質疑応答 《講義》 甲子園球場の建設経緯・役割・歴史等について講義 《ディスカッション、レポート》 質疑応答とミニレポートの作成 翌日のプログラム説明</p>								
2日目								レポート、ディスカッション、プレゼンテーション	
<p>甲子園球場 球場歴史館を見学したのち、教室での質疑応答・レポートの作成並びに発表を行う。</p> <p>《見学》 甲子園球場に集合。 球場施設と「歴史館」の見学。 入場料 ¥600 (各自負担)</p> <p>昼食をとり夙川キャンパスへ移動 ・昼食は各自球場周辺等で自由にとる。 ・学校への移動は阪神電車を利用 「甲子園～香榎園」 各駅停車 4駅 (乗車料金各自負担) 「香榎園駅」から夙川キャンパスまで徒歩約10分 (経路地図は当日配布します) 《グループディスカッション、プレゼンテーション》 テーマに沿ってグループディスカッションと発表。 レポートの作成と提出。</p>									
成績評価方法	ディスカッションでの発言内容、見学への参加意欲、単位修得試験、ミニレポートの内容により総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	必要に応じて資料を配布する。								
必須ソフト・ツール	なし								
備考	受講者上限人数 実地見学を含む演習30名 交通費や施設入場料、飲食代など、学外の実地見学における一切の費用は自費となります。また、実地見学において、集合時刻に遅れた場合は欠席となります。								

メジャー(専修)名				授業科目名	阪神間の文学めぐり			担当者	盛田 帝子
レベルナンバ	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席 課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
学習目標	講義や映画『細雪』の鑑賞を通して、『細雪』の内容を把握し、阪神間の文化の魅力をまとめ発表できるようになる。 『細雪』に描かれた阪神文化について、適切な課題を設定し、実地見学を通して見解を深め、論拠を示した上で、レポート用紙1枚に文章化することができる。								
学習の進め方	1日目は、谷崎潤一郎と『細雪』について概説を聴き、谷崎と『細雪』にゆかりのある阪神間の諸地域や文化について理解します。またペア・ワーク、グループ・ワークを通して、阪神文化の魅力についてまとめ発表します。2日目は、倚松庵、谷崎潤一郎記念館などを見学し、後日『細雪』に描かれた阪神文化についてというテーマでレポート用紙に自分の見解をまとめます。								
授業時間外学習	・設置された課題やレポートについて、授業中にとったノートを見直し、図書館にある参考図書や辞書を活用しながら納得できるまで取り組むこと。								
学習内容	概要				課題				
	1日目				レポート、プレゼンテーション、ディスカッション				
	さくら夙川キャンパスで講義と演習を行う。 《講義：谷崎潤一郎と『細雪』》 (1) 谷崎潤一郎と谷崎をめぐる人々 (2) 谷崎潤一郎の関西移住と『細雪』の成立 (3) 授業内レポート1 《講義：『細雪』と阪神文化》 (1) 『細雪』のあらすじ (2) 時岡家四姉妹と描かれた阪神文化 (3) 授業内レポート2 《講義：『映画鑑賞』市川崑監督作品『細雪』》 ※船場ことば、着物などの風俗、阪急電車や建物、描かれた阪神間の季節の移りや自然に注目して鑑賞。テキストとの違いにも着目する。 《まとめ》 (1) 本日の授業のまとめ (2) 阪神文化の魅力について各自がまとめ、発表する。 (ペア・ワーク、グループ・ワーク) (3) 授業内レポート3								
2日目				レポート					
夙川周辺で実地見学を行う。 《実地見学》 阪急夙川駅集合→夙川堤→倚松庵(谷崎潤一郎旧家、次女「時岡幸子」の住んでいた家のモデル)→阪神芦屋駅 (昼食 阪神芦屋駅周辺) 《実地見学》 阪神芦屋駅→谷崎潤一郎記念館(資料・ビデオ・展示などを見学)→業平橋(阪神大水害の場面で描かれる橋)→津知バス停(妙子が本山の洋裁学校に通う時の最寄りバス停)→重信医院(榎田医院のモデル。榎田医院は幸子、三女「雪子」、妙子の掛かり付け医)→『細雪』記念碑→阪急芦屋川駅(幸子の家から一番近い駅、『細雪』にもしばしば登場する)→解散 ※解散時までに授業内レポート4を作成し提出する。 授業内レポート4課題：『細雪』に描かれた阪神文化について、適切な課題設定(最終レポートのテーマ) ※後日、『細雪』に描かれた阪神文化について、2日目の最終時間に設定した課題を基にして授業外レポート5を作成・提出。									
成績評価方法	単位修得試験(最終レポート(授業外レポート5))・各時限の授業内レポート(1~4)により総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	細雪(新潮文庫)(上、中、下)、谷崎潤一郎、新潮社、1955年、ISBN-10: 4101005125、ISBN-13: 978-4101005126 『細雪』(中公文庫)、谷崎潤一郎、中央公論新社、1983年、ISBN-10: 412200991X ISBN-13: 978-4122009912								
必須ソフト・ツール									
備考	受講者上限人数 実地見学を含む演習20名 交通費や施設入場料、飲食代など、学外の実地見学における一切の費用は自費となります。また、実地見学において、集合時刻に遅れた場合は欠席となります。								

メジャー(専修)名				授業科目名	阪神間の歴史紀行			担当者	川口 宏海
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	全授業への出席課題等、教員の指示による学習活動をすべて完了していること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	本学(いたみ稲野キャンパス)
学習目標	地域の歴史を自ら探索し、素晴らしさを体感する能力を身につける。阪神間の歴史の特徴などを学ぶことを通じて、歴史史料や遺跡などの歴史遺産を見出し、歴史史料の読み解き方、地域の歴史を考える力、地域の歴史を活用し役立てる力を身につけ、初歩的に活用できるようになる。								
学習の進め方	阪神間の歴史について教室で史料や遺跡の写真などで学び、現地の歴史遺産(遺跡や博物館)を公共交通機関を利用して実地見学し、実物を見るとともに、活用のなされ方などについても学ぶ。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史に関するニュースや図書を読むこと。 後日の最終レポート作成では、できる限り自身の地域の歴史を実地確認すること。 								
学習内容	概要								課題
	1日目								レポート
	いたみ稲野キャンパスとその周辺地域にて講義と演習を行う。 《講義》 「阪神地域の原始時代と遺跡」旧石器時代から弥生時代までの様相と遺跡について講義します。(小課題) 《講義》 「阪神地域の古代と行基」古墳時代から平安時代までの様相と行基の足跡について講義します。 また、最後に御願塚古墳を見学します。(小課題) 《講義》 「阪神地域の中世・戦国時代と有岡城」鎌倉時代から安土桃山時代までの様相と有岡城について講義します。(小課題) 《講義》 「阪神地域の近世・近代と酒造業」江戸時代から明治時代までの様相と酒造業について講義します。(小課題) 《演習》 「阪神間の歴史遺産調査」講義で学んだ歴史遺産について、図書館などを利用して、自ら調べてレポートにします。								
	2日目								レポート、プレゼンテーション
伊丹周辺で実地見学を行う。 《実地見学》(受講者は見学場所で、案内解説をプレゼン) 阪急伊丹駅集合→バス→伊丹廃寺見学→徒歩→伊丹市立博物館見学・学芸員解説→バス→阪急伊丹駅 《昼食 阪急伊丹駅周辺》 《実地見学》(受講者は見学場所で、案内解説をプレゼン) 三軒寺→徒歩→猪名野神社→徒歩→岡田家住宅(酒蔵)→徒歩→柿衛文庫・学芸員解説→有岡城跡→JR伊丹駅→解散 後日、見学についてのレポート提出									
成績評価方法	第1日目の小課題5題(25%)、第2日目の現地プレゼンテーション1回(25%)、後日のまとめレポート1回(50%)により総合評価する。成績評価の詳細についてはスクーリング初日に説明する。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	『伊丹市史』全7巻、『尼崎市史』全13巻、『池田市史』全6巻など								
必須ソフトウェア・ツール	デジタルカメラ(必須ではない または、iPhone 代替可)								
備考	受講者上限人数 実地見学を含む演習25名 交通費や施設入場料、飲食代など、学外の実地見学における一切の費用は自費となります。また、実地見学において、集合時刻に遅れた場合は欠席となります。見学に際しては、歩きやすい服装で授業に参加してください。								

メジャー(専修)名	心理学	授業科目名	ひとと動物の心理学		担当者	中島 由佳
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート		単位修得試験試験会場
学習目標	ひとと家庭動物との絆を見つめることを通じて、家庭動物との関係における心理を理解し、ひとと動物の関係について深く考える機会を持つことを本授業の目的とする。 ・ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を得ることができる。 ・ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて深く考えることができる。					
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各週の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次に進みましょう。					
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 特になし 【学習後に復習として実施すべきこと】 【学習後に復習として実施すべきこと】 参考図書を読むことにより、より詳しい内容を理解する。					
学習内容	概要					課題
	第1週 ひとはどうして動物と暮らすのか					確認テスト、ディスカッション
	どうして私たちは、家庭動物とともに暮らすのか。ともに暮らすことによって、私たちと動物の関係はどのように変わったのかについて学ぶ。					
	第2週 動物は「効く」のか					確認テスト、ディスカッション
	「動物と暮らしていると、心身が健康になりそうだ」、「癒しの力が動物にはある」。そのように感じるひとは多い。動物との暮らしは本当に、ひとの心身の健康に良い影響を与えるのか、もしそうだとしたら、それはいったいなせなのかについて、学んでいく。					
第3週 恩恵の光に対する「影」					確認テスト、ディスカッション	
動物との愛着の絆は、私たちに様々な恩恵を与える。しかし、光があれば必ず影ができるように、私たちと動物との関係も、良い部分、恩恵だけではない。動物との暮らしで得られる恩恵に対する「影」の部分について学ぶ。						
第4週 子どもたちになにを伝えよう？					確認テスト、ディスカッション	
子どもの心に、動物はどのように映るのだろうか。子どもたちが動物と愛着を築いて幸せに生きていくために、「おとな」は、子どもたちに何を伝えてあげればよいのか、学ぶ。						
成績評価方法	確認テスト、ディスカッション、単位修得試験(レポート) 【A評価】確認テスト正答率：90%以上。ディスカッション：課題文の問いかけをよく理解した上で、答えが述べられている。受講内容を理解した上で自分独自の考えが述べられたコメントである。また、複数の受講者を巻き込んで議論を活性化するようなコメントが含まれる。単位修得試験：問いに沿った答えが各設問においてなされている。各受講回の内容をよく理解した上で、授業内容をさらに発展させた自分独自の考えが述べられており、かつ説得力がある内容である。 ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を十分に修得している。ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて深く考えることができている。 【B評価】確認テスト正答率：90%以上。ディスカッション：課題文の問いかけに沿った答えが述べられている。受講内容への理解を踏まえてのコメントである。また、他の受講者との議論を活性化するようなコメントが含まれる。単位修得試験：問いの趣旨を理解した上での答えが各設問においてなされている。各受講回の内容をよく理解した上で、授業内容をさらに発展させた自分独自の考えが述べられている。 ひとと動物の関係に関する心理学に十分に修得している。ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて考えることができている。 【C評価】確認テスト正答率：80%以上。ディスカッション：課題文の問いかけに関連する答えが述べられている。受講内容に沿ったコメントである。また、他の受講者の意見に関連したコメントが見られる。単位修得試験：問いに沿った答えが各設問においてなされている。各受講回の内容をよく理解した上で、授業内容をさらに発展させた自分独自の考えが述べられている。 ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を修得している。ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて考えることができている。 【D評価】確認テスト正答率：80%以上。ディスカッション：受講内容に関連するコメントである。また、他の受講者の意見に関連したコメントが見られる。単位修得試験：問いに沿った答えが各設問においてなされている。各受講回の内容に関連した答えが述べられている。 ひとと動物の関係に関する心理学に基づいた知識を修得している部分がある。ひとと動物の関係について、心理学的知識を用いて考えることができている面が見受けられる。					
教科書	なし					
参考書(任意購入)	『ひとと動物の絆の心理学』、中島由佳、ナカニシヤ出版、1800円(税抜)、2015年					
必須ソフト・ツール						
備考	【履修の前提とするもの】 特になし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 本講義の基となっている参考図書を読むことで授業内容に対する理解を深める。					

メジャー(専修)名	ライフデザイン ビジネス・キャリア			授業科目名	ファイナンシャル・プランニング			担当者	伊藤 亮太
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材 活用度	★★★		
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web試験			単位修得試験 試験会場	—
学習目標	子育てや介護、自身に起こるかもしれない不慮の出来事を想定し、受講生自身の人生・生活設計の問題点や課題を金銭面から指摘し、改善策を講じることができるようになる。社会保険と民間保険の適用範囲をそれぞれ説明することかでき、適切に保険の選択ができるようになる。源泉徴収票の各項目の意味と、その社会的な役割を説明できるようになる。ファイナンシャルプランナーの資格について、学習体系や取得までの流れ、難易度、取得後の活用について、説明できるようになる。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 受講前には新聞やテレビなどのニュースにおいて、経済動向などを知っておく。また、貯蓄や投資などの本を一冊読んで関心をよせてみましょう。 受講後には、実生活において、貯蓄・投資といった側面や贈与・相続などのライフイベントで授業で習ったことがいかせることを望みます。また、FP3級はぜひ受験してください。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 ライフプランに関わるお金				確認テスト、ディスカッション				
	生涯にわたるお金との接し方を考える。家計簿等の金銭管理、入出金管理のみならず、保険、税金、運用、年金、相続など、ライフプランには必要不可欠な金銭的側面について、その種類を学ぶ。								
	第2回 社会保険の仕組み				確認テスト				
	社会保険（医療保険・介護保険・年金保険・労災保険・雇用保険）の仕組みと改正点を中心に、今後の動向も踏まえた社会保険の全体像を学ぶ。								
	第3回 民間保険の仕組み				確認テスト				
	民間の保険（生命保険、損害保険、第三分野の保険）の仕組みを学ぶ。第2回で学習した社会保険でカバーされない範囲を考慮して、どういった場合にどんな保険に加入することが望ましいのか、様々な選択肢についても学ぶ。								
	第4回 保険のプランニング				確認テスト、ディスカッション				
	第2回、第3回での学習内容を、学習者自身の状況に置き換えて、実際の保険のプランニングを行い、具体的な加入プランを導き出す。								
	第5回 税金の仕組み				確認テスト				
我が国の税制の仕組みについて学ぶ。徴収した税の用途や、社会と個への還元について学び、税は取られるものという意識から、納めるものという意識へと変えていく。今後の税制改正についても学ぶ。									
第6回 源泉徴収と社会保険の仕組み				確認テスト					
第2回社会保険と、第5回税金の仕組みを統合して、税徴収と社会保険料徴収、そしてそれらの仕組みとサービス全体を学ぶ。									
第7回 支払（保険料・税）と受給の計算比較				確認テスト					
実際の保険や税金の例を用いて、将来、加入者・納税者が受給したり還元されたりする金額を算出し、支払と受給のバランスを比較する。									
第8回 ライフプランニングとファイナンシャルプランナー				確認テスト					
ファイナンシャルプランニングには、税と保険のみならず、さらに範囲を広げて資産運用、不動産、相続など、様々な要素を考慮しなければならないことを学ぶ。それらを統合した体系がFP資格であり、その資格そのものについて学ぶ。									
成績評価方法	<p>確認テスト、ディスカッションの内容（質問やコメント含む）、単位修得試験</p> <p>【A評価】ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。また、ディスカッションの内容に適した意見を述べることができていること。</p> <p>単位修得試験では、各内容においてバランスよく（選択式問題18問以上）回答ができていること。また論述試験では問題に対して的を射た意見・解決策（何が問題で、複数の解決策からどういった解決策を行うことが最適なのか）が記載されていること。ライフプランから保険、税の仕組みまで幅広く家計問題を解決できるようなアドバイスができる状態となっていること。</p> <p>【B評価】ディスカッションにおいて、自己の意見を述べるとともに、他者の意見に対するコメントや質問を行い積極的に参加していること。</p> <p>単位修得試験では、各内容においてほぼ（選択式問題15問～17問）回答ができていること。また論述試験では問題に対する自己の意見・解決策が複数記載されていること。その解決策が実際の状況において適用できること。ライフプランの設計ができるようになっていること。</p> <p>【C評価】ディスカッションにおいて、自己の意見を述べることができていること。</p> <p>単位修得試験では、各内容に7割程度の（選択式問題13問～14問）回答ができていること。また論述試験においては実際の状況において選択可能な解決策として自己の意見が明確に述べられていること。ライフプランの設計上、問題点に沿った解決策が描けること。</p> <p>【D評価】ディスカッションにおいて、自己の意見を述べることができていること。</p> <p>単位修得試験では、各内容において5割程度（10問～12問程度）回答ができていること。また、論述試験においては自己の意見が明確に述べられていること。ライフプランの設計上、問題点に沿った解決策が描けること。</p>								
教科書	なし								
参考書 (任意購入)	『FP技能士3級最速合格ブック〈14→15年版〉』家計の総合相談センター著、成美堂出版、1,512（税込）、2014年 『FP技能士3級重要過去問スピード攻略〈14→15年版〉』伊藤亮太著、成美堂出版、1,728（税込）、2014年								
必須ソフト・ツール	授業時に計算を行うこともあるため、電卓を準備すること。								
備考	<p>【履修の前提とするもの】 特になし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 保険や税金を考慮したプランニングの演習を行うので、契約中の保険の資料、検討中の保険の資料、自身の源泉徴収票などがあれば、具体的に理解を深めることができる。</p>								

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	福祉住環境論			担当者	藤本 幹也
レベルナンバ	300	単位	4	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	住宅という器は、人が生活していくためには必要不可欠なものであり、この場所は、安全で、快適であることが必要不可欠である。この授業では、高齢者、障害者の疾患の特徴をよく理解した上で、どのように住まいを改善すれば、本人自身が望む、住環境が提供できるのかを考えていくとともに、そのために建物の基礎的な知識から法律や様々な制度、福祉用具に関する知識を身につけ、建物をより、安全で快適なものに改修していくために必要な知識や、技術を幅広く学んでいくことを目的とする。								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として学習を進めます。教科書を参照しながら進めていきますので、教科書を準備してオンデマンド教材を視聴すること。各回の学習の最後に確認テストを実施する。								
授業時間外学習	・参考図書で自己学習すること、ノートを取りながら受講することを推奨。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 高齢者を取り巻く社会状況 (1)				確認テスト				
	世界でも類をみない本格的な高齢社会を日本は迎えている。また、出生率低下による少子化は、ライフスタイルや家族形態など色々な面で影響を及ぼすことが考えられます。ここでは、少子高齢社会において、高齢者人口および世帯構成を把握し、さらに今後の住環境整備の重要性・必要性について説明できるようになることが目標である。								
	第2回 高齢者を取り巻く社会状況 (2)				確認テスト				
	ここでは、介護保険制度の概要・基本的なしくみや改正後の内容や、さらには高齢者向けの住宅施策の変遷と概要について理解し、説明できるようになることが目標である。								
	第3回 障害者を取り巻く社会状況と住環境				確認テスト				
	ここでは、障害者が自立した社会生活を営むうえで、必要な地域支援事業や、これまで我が国が取り組んできた障害者に関する福祉制度や住環境整備に関する知識を身に付け、さらに高齢者や障害者を支援する福祉住環境コーディネーターの役割とその必要性について説明できるようになることが目標である。								
	第4回 障害のリハビリテーションと自立支援				確認テスト				
	障害者に関する様々な制度や支援を理解した上で、障害のとらえ方を理解し、障害者の自立支援の手法および、障害者の身体的機能や生活環境に対応したリハビリテーション支援について提案できるようになることが目標である。								
	第5回 心身の特性と在宅介護での自立支援のあり方				確認テスト				
	高齢者の心身の特性や、かかりやすい疾患及び、障害者の身体的・心理的特性を把握し、それを住環境整備にどのように役立てるか、また、今後の高齢者、障害者の在宅介護において理解すべき視点と住環境整備の重要性について説明できるようになることが目標である。								
	第6回 高齢者に多い疾患別に見た福祉住環境整備 (1)				確認テスト				
	ここでは、高齢者がかかりやすい、脳血管障害、廃用症候群、骨折、認知症をとりあげ、疾患や特徴だけでなく、疾患によってもたらされる日常生活の不自由さについて把握し、具体的な福祉住環境整備の提案ができるようになることが目標である。								
	第7回 高齢者に多い疾患別に見た福祉住環境整備 (2)				確認テスト				
高齢者がかかりやすい関節リウマチ・パーキンソン病・糖尿病・心筋梗塞をとりあげ、特徴だけでなく、疾患によってもたらされる日常生活の不自由さについて把握し、具体的な福祉住環境整備の提案ができるようになることが目標である。									
第8回 障害別に見た福祉住環境整備 (1)				確認テスト					
肢体不自由者・内部障害者が残存する機能を生かし、自立した日常生活がおくれるように、必要な知識を身につけ、その特性に応じた福祉住環境整備の提案ができるようになることが目標である。									
第9回 障害別に見た福祉住環境整備 (2)				確認テスト					
視覚障害者、聴覚・言語障害者、認知・行動障害者が残存する機能を生かし、自立した日常生活がおくれるように、必要な知識を身につけ、その特性に応じた福祉住環境整備の提案ができるようになることが目標である。									
中間テスト				中間テスト					
中間テスト									
第10回 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方				確認テスト					
ここでは、福祉住環境整備を進めるうえで、対象となる高齢者、障害者との接し方が非常に重要であることを理解し、相談援助において必要となる姿勢や配慮しなければならない項目、ケアマネジメントの観点について学び、実践に役立てることができるようになることが目標である。									
第11回 福祉住環境整備の共通基本技術				確認テスト					
建物の構造や、介助スペースの確保といった住環境整備に必要な基本技術は非常に重要である。ここでは、段差の解消・建具、照明、非常時の対応等の基本的な考え方と具体的な対応方法が提案できるようになることが目標である。									
第12回 生活行為別福祉住環境整備の手法 (1)				確認テスト					
建物の構造や、介助スペースの確保といった住環境整備に必要な基本技術は非常に重要である。ここでは、外出・屋内移動・排泄における住環境整備の対応等の基本的な考え方と具体的な対応方法が提案できるようになることが目標である。									
第13回 生活行為別福祉住環境整備の手法 (2)				確認テスト					
建物の構造や、介助スペースの確保といった住環境整備に必要な基本技術は非常に重要である。ここでは、入浴・更衣・洗面・整容・調理・就寝等における住環境整備の対応等の基本的な考え方と具体的な対応方法が提案できるようになることが目標である。									
第14回 バリアフリーとユニバーサルデザイン				確認テスト					
バリアフリーおよびユニバーサルデザインについて、その誕生の背景と、法的な内容を理解し、さらに法的な内容を理解した上で、高齢者、障害者の住環境整備にどのように役立てることができるのか説明できるようになることが目標である。									

	概要	課題
学習内容	第15回 福祉用具の意味と適用および、生活行為別にみた福祉用具の活用	確認テスト
	福祉用具の定義を理解し、その活用にあたり、使用者の身体状況や住環境を考慮した上で、適切な福祉用具を提案できるようになることが目標である。	
成績評価方法	評価の割合は、毎回実施する確認テスト（10%）、中間テスト（30%）、単位修得試験（60%）で行う。	
教科書	著書 『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト』 著者 東京商工会議所 出版社 東京商工会議所編 出版年度 2016年1月 改訂4版	
参考書 (任意購入)	『福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト』、東京商工会議所、2014年	
必須ソフト・ツール		
備考		

メジャー(専修)名				授業科目名	物理学概論			担当者	庭瀬 敬右
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	物理学は物に関する考え方を教えてくれる学問です。飛行機や携帯電話などの人が創り出したものは、物理学の発展に依るところが大きいものです。現代社会は物理を基礎とした科学技術の上に成り立っていますが、多くの人は物理の学習を無味乾燥に感じてしまうようです。これは、物理現象に対してのイメージを持たずに学習を行っているところに原因があるようです。この授業では、図解を特徴とした教科書を用いて、物理学の発展の歴史から、ニュートン力学や熱力学、波動、電磁気学、そして相対性理論に関しての教養レベルでの基礎知識を獲得することを目標としています。								
学習の進め方	本授業は、教科書を主に活用して学習を進めます。学習を進めるうえで重要なポイントは小テストを行うことによって確認できるようになっています。また、補足説明をデジタル教材に掲載しますので活用してください。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に教科書やビデオ教材で、専門的な用語および内容の理解に努めること。 確認テストで、理解度をチェックし、より深い内容理解に努めること。 								
学習内容	概要				課題				
	第1章 物理学のはじまり								
	物理学は、様々な星の動きを説明することで発展しました。古代ギリシャで地球を中心に天体が動くと考えた天動説は、以後千数百年にわたり信じられました。中世に太陽のまわりを地球が運動するという地動説に大転換しました。精密な天体観測の解析結果をもとに、ニュートンは万有引力の法則を見いだしました。ここでは、物理学誕生の歴史とその探求の過程について学習します。				小テスト				
	第2章 ニュートン力学								
	物体の運動に関しての基本的な法則であるニュートン力学を学習します。ニュートン力学の確立によって、人類は月に行って、帰ってくるまでになりました。物体を動かす力に関する考察やガリレオの自由落下の考察、そして物体の運動の基本法則である、ニュートンの運動の3法則を学習します。また、衝突現象に関する運動量保存則やエネルギー保存則を学習します。				小テスト				
	第3章 熱力学								
	水が凍ったり、沸騰したり、冷房や暖房など、身のまわりには熱的現象がたくさんあります。熱力学は、熱と温度の違いを理解することで発展してきました。物質への熱の流入によって、物質は、固体、液体、気体の状態へと変化します。熱の伝わり方も物質によって違いがあります。気体は温度や圧力の変化に対して大きな変化が現れます。ここでは、熱力学の基本法則から熱エネルギーの利用までを学習します。				小テスト				
	第4章 波動								
海辺の波と同様に音や光も波の性質をもっています。波は、重なり合って強めあったり弱めあったりする独特の性質があります。救急車が近づくときと遠ざかるときで音の高さが変化することも波の性質に起因しています。空の青さや虹の七色も波の性質です。地震も波として地中を伝わります。ここでは、これらの現象を記述する波の基本法則について学習します。				小テスト					
第5章 電磁気学									
私たちの身のまわりには、電気製品や通信機器など電気や磁気に関係したもので溢れています。モーターや発電機は、電気や磁気の性質を明らかにすることによって作られました。電気や磁気では空間を通して力が伝わり、その連携によって電磁波として伝わります。電磁波は、テレビやラジオの電波として使われています。このような電磁気学の基本法則を学習します。				小テスト					
第6章 相対性理論									
時間は過去から未来に誰にも等しく進んでいくような絶対的空間が存在していると私たちは考えがちです。しかしながら、マイケルソンとモーリーの実験によって絶対空間は確認できませんでした。アインシュタインは、この実験事実を説明するために相対性理論を構築しました。この理論では、物体の動きが光の速度に近づくとき時間と空間が結び付いた時空での考えが必要となることが示されました。ここでは、相対性理論の基礎的な内容を学習します。				小テスト					
成績評価方法	小テスト (40%)、単位修得試験 (60%)								
教科書	著書 『図解雑学 物理のしくみ』 著者 井田屋文夫 出版社 ナツメ社 出版年 2005年8月 ISBN 9784816339776								
参考書(任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	プレゼンテーション演習Ⅰ(基礎)			担当者	福井 愛美
レベルナンバ	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	プレゼンテーションとは何か、その効果的なプレゼンテーションの基礎知識と技術を習得すること。聞き手を納得させる話し方や文章の構成、またアイコンタクトやボディランゲージなどを効果的に活用し、表現力豊かに、聞き手に感動を与えるような話しかたができるようになること。身近なテーマでプレゼンテーションが行えるようになること。								
学習の進め方	本授業では、デジタル教材を活用して学習を進めます。学習を始める前にオリエンテーションをご覧ください。またその回の講義のポイントを閲覧してから学習を始めてください。国内外のニュース番組やテレビの報道番組などを見て、キャスターがどのように話しているか、またどのようなツールを使って表現しているか研究してください。また、新聞記事等は音読をして消舌の練習をしてください。各回の終わりには確認テストがありますので確認テストをクリアしてから次の回へ進みましょう。プレゼンテーションは実施が伴って上達します。さまざまな場面で、発表の機会があれば、学んだ事を生かして積極的にプレゼンテーションしてください。また、授業内での演習問題は納得できるまで取り組んでください。教科書はデジタル教材で扱わない箇所もありますがぜひ参考になさってください。								
授業時間外学習	・教科書を事前に読んで自己学習すること、ノートをとりながら受講することを推奨します。 ・受講は、各自で規則的に学習するスタイルを身につけてください。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 プレゼンテーションとは				自己紹介 確認テスト				
	プレゼンテーションの基本と定義を学び、コミュニケーションとの違いを理解する。								
	第2回 プレゼンテーションを行うために				確認テスト				
	プレゼンテーションへの準備。全体の流れを理解し、構成の重要性を学ぶ。								
	第3回 プレゼンテーションのツール				レポート 確認テスト				
	ツールの種類と特徴、活用上の注意点などを学ぶ。								
	第4回 話し方の基本				確認テスト				
	魅力的に話すための技術を学び、呼吸法や発声・発音などの練習をする。								
	第5回 パーバル・ノンパーバルコミュニケーション				確認テスト				
	言い回しのテクニックとボディランゲージ・表情・態度・服装など第一印象の重要性について学ぶ。								
	第6回 聴衆に好感を持たれる話し方				確認テスト				
	話し方の具体例として実際に行われたスピーチを見ながら検証する。								
	第7回 ホームルーム(ディスカッションをしよう)				ディスカッション				
	これまでのふりかえりと、今後の目標など“eI-Campus上で”の自由な意見交換を行う。								
	第8回 身近なプレゼンテーション				確認テスト				
地図による道案内や自己紹介など、日常のプレゼンテーションから、人にものを伝える際の伝え方のポイントを学ぶ。									
第9回 紹介をしてみよう				確認テスト					
自己分析をして構成を考え、より印象付ける自己紹介をしてみる。									
第10回 インタビューをしてみよう				確認テスト					
相手の立場を考え人間性を尊重して、その人の魅力を引き出す手法を学ぶ。									
第11回 スピーチをしてみよう				確認テスト					
テーブルスピーチを例にスピーチの準備や注意点について学ぶ。また司会とその進行を考える。									
第12回 学校生活について話してみよう				確認テスト					
自分の学校を紹介するという観点から、情報収集、原稿作成、リハーサルなど準備全般から、視覚資料としてのポスター制作までを行う。									
第13回 テーマに合わせてさまざまな手法				確認テスト					
新入生へのクラブ紹介を題材に、手法が異なればプレゼンテーションも異なる事を学ぶ。									
第14回 プレゼンテーションの実際Ⅰ				確認テスト					
ビジネスの失敗談からのケーススタディー、業務処理の仕方を学ぶ。									
第15回 プレゼンテーションの実際Ⅱ				ディスカッション					
受講生3名によるプレゼンテーションと、学習の成果を自由に話し合う。									
成績評価方法	各回の課題(確認テストとレポート)40%、単位修得試験60%により評価します。								
教科書	著書 『プレゼンテーション演習』 著者 伊藤 宏・福井愛美他 出版社 樹村房 出版年度 2011年6月3日 初版 ISBN 9784883672134								
参考書(任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	プレゼンテーション演習Ⅱ (応用)			担当者	福井 愛美
レベルナンバ	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	さまざまな場面で効果的な自己表現ができ、説得力を持って聞き手に自分の考えを話せること。論理的に物事を考え、新たな内容を作り出すことができること。主体性を持って物事を処理できること。最終的にテーマを設定してプレゼンテーションが行えるようになること。							
学習の進め方	本授業では、デジタル教材を活用して学習を進めます。学習を始める前にオリエンテーションをご覧ください。またその回の講義のポイントを閲覧してから学習を始めてください。テレビのニュースや新聞に目を通し、身近な話題から話すテーマを見つけておくといでしょう。また、新聞記事等は音読をして滑舌の練習をしてください。各回の終わりには確認テストがありますので確認テストをクリアしてから次の回へ進みましょう。プレゼンテーションは実施が伴って上達します。さまざまな場面で、発表の機会があれば、学んだ事を生かして積極的にプレゼンテーションしてください。また、授業内での演習問題は納得できるまで取り組んでください。教科書はデジタル教材で扱わない箇所もあります。各自で定期的に学習するスタイルを身につけてください。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を事前に読んで自己学習すること、ノートをとりながら受講することを推奨します。 受講は、各自で定期的に学習するスタイルを身につけてください。 							
学習内容	概要			課題				
	第1回 プレゼンテーション基礎知識			確認テスト				
	プレゼンテーション演習Ⅰの復習とプレゼンテーションの評価方法について学ぶ。							
	第2回 就職試験に向けてのプレゼンテーション			確認テスト				
	面接試験の挑み方や企業訪問のマナーについて再確認をする。							
	第3回 就職試験と自己PR			確認テスト				
	自己PRと志望動機を考え方を手順を追って学ぶ。							
	第4回 社会人としての話し方 (企業内でのプレゼンテーション)			確認テスト				
	社会人としての敬語の使い方をはじめ企業内スピーチなど基本的な話し方を身につける。							
	第5回 プレゼンテーション・ブレイクタイム (掲示板の活用)			掲示板への参加				
	el-Campus上で他人の意見を聞いて自分の考え方の違いを実感する。							
	第6回 企業内でのミーティングと会議			確認テスト				
	ディベート・ディスカッション・ミーティングとプレゼンテーションとの関係を学ぶ。							
	第7回 ホームルーム (ディスカッションをしよう)			ディスカッション				
	自分の感想や目標など自由に意見交換をする。							
第8回 業務としての会議 (QCサークル活動)			確認テスト					
QCサークルの概要、進め方、データの分析手法について学ぶ。								
第9回 セールストーク①			確認テスト					
成功するためのセールストークとはどのようなものかを実感する。								
第10回 セールストーク②			確認テスト					
顧客の購買心理を知り、セールストークの話し方を事例から学ぶ。								
第11回 ポスターセッションとクレームへの対応			キャッチコピー作成 確認テスト					
パワーポイントを使ったポスター作りや、クレーム対応について学ぶ。								
第12回 企画立案をしてみよう			確認テスト					
企画立案から企画書作成までの一連の手順について学ぶ。								
第13回 企画書を書いてみよう			確認テスト					
本格的な企画書づくりを進める。また実際のビジネスの現場で使われた企画書を紹介、そのリアル感を体験する。								
第14回 事例研究			まとめレポート 確認テスト					
学生のプレゼンテーションを見ながら、良い点、改善点など客観的に学ぶ。								
成績評価方法	各回の課題 (確認テストとレポート) 40%、単位修得試験60%により評価します。							
教科書	著書 『プレゼンテーション演習』 著者 伊藤 宏 福井愛美他 出版社 樹村房 出版年度 2011年6月3日 初版 ISBN 9784883672134							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト・ツール								
備考	プレゼンテーション演習Ⅰ (基礎) を先に受講していることが望ましい							

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	プレゼンテーション概論			担当者	水原 道子
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験		単位修得試験試験会場	—
学習目標	自分の考えや情報を、他の人に伝え、理解し、好意的に行動していただけるように、限られた時間や条件の中で最適な手法と技能を用いてプレゼンテーションできるようになることを目指す。							
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材に、教科書を副教材として学習を進める。各章には確認テストがある。この確認テストを完了し、次の回へと進む。第7回の中間テストは、繰り返し行うことで、しっかりと復習できる。最終の修得試験では、テキストとともに学びの集大成としてじっくりと取り組むこと。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習として、テキストを熟読し、各章のポイントと疑問点を書き出したうえで、メディア画面の学習に入ること。 事後学習として、印象に残った言葉や説明を書き出し、自分用のガイドラインノートを作成する。また、積極的に講演会や説明会などに参加し、プレゼンテーションの聴衆体験を積み重ねること。 							
学習内容	概要				課題			
	第1回 プレゼンテーションとは何か				確認テスト			
	プレゼンテーションが、社会における活動の効果をあげるために有利なノウハウであることを学ぶ							
	第2回 話す目的を考える				確認テスト			
	相手にどのような行動を求めめるのかによって伝え方が異なることを、具体例を入れて学ぶ							
	第3回 聞き手分析が成功のカギ				ディスカッション、確認テスト			
	相手の情報を、どのようにして収集するべきかを学ぶ							
	第4回 組み立ては三段構成で				確認テスト			
	プレゼンテーションの一つの要素である、原稿作りの基本を学ぶ							
	第5回 会場設定とレイアウト				確認テスト			
	会場や環境などの物理的なものが、プレゼンテーションに与える影響を学ぶ							
	第6回 表現技術を工夫しよう				確認テスト			
	どのように表現すると、プレゼンテーションの効果があがるのかを、さまざまな手法を取り入れて学ぶ							
	第7回 中間まとめ				中間まとめ、ディスカッション			
	1回～6回までのポイントを確認する							
第8回 話し方のテクニック				確認テスト				
聞き手から好意を持ってもらえる話し方を学ぶ								
第9回 非言語表現の力				確認テスト				
視覚に訴える方法と内容を学ぶ								
第10回 ビジュアル資料の種類と機能				確認テスト				
ビジュアルツールの種類と特性を知り、目的や場面による使い分けを学ぶ								
第11回 提示資料はインパクトが大切				確認テスト				
効果的な資料の作成方法を学ぶ								
第12回 レジュームの良さで差をつける				確認テスト				
配布資料としてのレジюме作成のポイントを学び、代表的なレジюме事例を研究する								
第13回 質疑応答を成功させるには				確認テスト				
質疑応答が意見交換の場として重要であり、いかに活用するべきかを学ぶ								
第14回 自分自身をプレゼンテーションする				確認テスト				
これまでに学んだ基本知識と手法を元に、身近な題材でプレゼンテーションを実習する								
第15回 コミュニケーションについて考えてみよう				ディスカッション、確認テスト				
プレゼンテーションがコミュニケーションの一つの形であり、一方方向性の強い話し方であることを、事例を交えて学ぶ								
成績評価方法	平常点として期間内の学習完了とディスカッションでの積極的な発言を高く評価し、20%とする。その他、各回確認テスト(20%)、中間まとめ(20%)、単位修得試験(40%)の総合評価とする。							
教科書	著書 『新訂版 プレゼンテーション概論』 著者 大島 武(編) 出版社 樹村房 出版年度 2014年 ISBN 9784883672349							
参考書(任意購入)								
必須ソフト・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	心理学	授業科目名	文化心理学			担当者	亀井 美弥子	
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材 活用度	★★☆	
単位修得試験 受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験 実施方法	Web試験		単位修得試験 試験会場	—
学習目標	文化的存在である人間にとって、その心理的側面が文化と切り離せないものであることはいままでもない。本講座では文化と人間の行為、活動、発達との関係についていくつかの理論的立場とその関連領域について理解を深めることをめざす。各章の論説の背後に共通した文化心理学的観点があることに気づいてほしい。具体的な学習目標としては重要なキーワードを適切な文脈において使用できることとする。							
学習の進め方	教科書を利用しての学習とするが、学習の順序が教科書の章立てと異なるので注意すること。適宜、補足説明や資料を提示する。学習者は基本的な心理学の知識を持っていることが望ましい。学習テーマの区切りには小テストを実施する。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からメディアなどから得られる文化に関連する情報を集めておくこと。 ・自分の関心のある文化的問題が文化心理学の理論によってどのように説明できるかまとめておくこと。 							
学習内容	概要						課題	
	第1回 文化心理学の起源と源流 (教科書0章)						小テスト	
	文化心理学の起源と源流について理解する。							
	第2回 社会心理学アプローチ (教科書8章)						小テスト	
	文化心理学と比較心理学のアプローチの違い、集団主義-個人主義の問題について理解を深める。							
	第3回 文化仮知論 (教科書6章)						小テスト	
	主にブルーナーの理論から認知発達の文化的問題を理解する。							
	第4回 生物学的側面と文化的側面の統合 (教科書7章)						小テスト	
	主にトマセロの理論からヒトの生物学的側面と文化との関連について理解する。							
	第5回 ヴィゴツキー理論 (教科書1章)						小テスト	
	ヴィゴツキーの理論について理解する。							
	第6回 社会文化的アプローチ (教科書2章)						小テスト	
	ワーチの理論の概要を理解する。							
第7回 社会歴史的発達論 (教科書3章)						小テスト		
社会的実践のなかでの発達について理解する。								
第8回 活動理論 (教科書4章)						小テスト		
活動理論と呼ばれる理論的立場について理解する。								
第9回 状況論 (教科書5章)						小テスト		
状況論と呼ばれる理論的立場について理解する。								
第10回 認知科学と文化心理学 (教科書9章)						小テスト		
文化心理学と共通する認知科学的視点について理解する。								
第11回 心の社会理論 (教科書10章)						小テスト		
相互行為分析について理解する。								
第12回 日本語教育における「文化」解釈 (教科書11章)						小テスト		
日本語教育における「文化」という問題について考える。								
成績評価方法	小テスト (10%)、単位修得試験 (90%)							
教科書	著書 『朝倉心理学講座11 「文化心理学」』 著者 田島信元 (編) 出版社 朝倉書店 出版年度 2010年9月10日 ISBN 9784254526714							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト ・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	簿記論・財務会計			担当者	小野 慎一郎
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	会計の基本的な用語や考え方を理解し、その内容について説明できるようになる。 会計数字の意味する内容を理解し、会計数字から企業活動を読み取ることができるようになる。							
学習の進め方	この授業では、教科書を主教材として学習を進めます。各章の学習の最後には、課題を設置しています。課題を終わらせてうえで、次の章に進みましょう。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、日本商工会議所による簿記検定試験のサイト (https://www.kentei.ne.jp/bookkeeping) を閲覧しておくことを推奨。 設置された課題を納得できるまで取り組むこと。 							
学習内容	概要						課題	
	第1章 会計情報の役割						確認テスト	
	経済社会における会計、企業活動と会計情報、会計の機能							
	第2章 会計制度と社会						確認テスト	
	株式会社の利害関係者、会社法の会計、金融商品取引法の会計、法人税法の会計							
	第3章 会計の仕組み						確認テスト	
	貸借対照表、当期純利益、損益計算書							
	第4章 貸借対照表						確認テスト	
	貸借対照表の役割、流動・固定分類、資産、負債、純資産							
	第5章 在庫の会計						確認テスト	
	商品の仕入と製品の生産、売上原価の計算、棚卸資産の期末評価、棚卸資産回転期間							
	第6章 生産設備の会計						確認テスト	
	固定資産の範囲と区分、有形固定資産の取得、減価償却、減損処理							
	第7章 金融資産の会計						確認テスト	
	金融資産の種類と目的、現金及び預金、有価証券、時価評価							
第8章 負債と資本の会計						確認テスト		
自己資本と他人資本による資金調達、営業負債と有利子負債、純資産の内訳と配当								
第9章 損益計算書						確認テスト		
損益計算書の仕組み、利益算出の流れ、損益計算書にみる企業の経営形態								
第10章 営業活動の会計						確認テスト		
企業の営業活動と営業循環、売上代金の回収と収益の認識、代金回収の不確実性								
第11章 備かる仕組みの分析						確認テスト		
収益性の分析、ROEの3分解、安全性の分析								
第12章 利益構造の分析						確認テスト		
損益分岐点、損益分岐分析にみる利益構造、内部経営分析としてのCVP分析								
第13章 経営管理と会計						確認テスト		
PDCAサイクル、原価管理								
第14章 会計を活用する仕事						確認テスト		
経理担当者、財務諸表の分析者、公認会計士、税理士、企業経営者								
成績評価方法	各回の確認テスト (50%)、単位修得試験 (50%)							
教科書	著書 『1からの会計』 著者 谷武幸・桜井久勝 出版社 碩学舎 出版年度 2011年6月10日 1版 ISBN 9784502299803							
参考書 (任意購入)	『カラー版 会計のことが面白いほどわかる本(会計の基本の基本編)』、天野敦之、中経出版、1,728円(税込)、2012年 『財務会計・入門(第10版補訂)』、桜井久勝・須田一幸、有斐閣、1,944円(税込)、2016年							
必須ソフト・ツール	計算機							
備考	この科目は、大学から送付された教科書を主に使用し、与えられた課題に沿って学習を進めます。							

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	マーケティングリサーチ入門			担当者	杉林 弘仁	
レベルナンバー	200	単位	1	授業方法	メディア授業	デジタル教材活用度			★★★
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	Web試験			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングリサーチの基礎的な手法を理解し、マーケティングリサーチの事例について、習得したリサーチのフレームに照らして解説することができるようになる。 ・マーケティングにおいて直面しそうな架空の具体的事例に対して、適切なマーケティングリサーチの手法を選択し、その狙いを説明できるようになる。 ・マーケティングリサーチによって得られた結果を、説得力を持って示すことができるようになる。 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。								
授業時間外学習	普段から「市場をみる」「消費者行動を捉える」ようにしてみましょう。複雑怪奇な消費者行動を捉えるために、企業はさまざまにリサーチをおこなっています。どのように情報を集めようとしているのか、店頭にあるアンケートや送られてくるアンケートをチェックしてみて、何を目的としたものか、リサーチの意図や背景、アンケートの答えやすさや矛盾点を探ってみるようにしてください。アンケートだけではありません。街頭で行われているプロモーション、店舗のレイアウト、消費者行動を探る視点で日常を観察するようにしてみてください。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 リサーチとマーケティング				確認テスト				
	リサーチのフレームから、企業を主体として行われるマーケティングとマーケティングリサーチについて学習する。								
	第2回 マーケティングリサーチのデザイン				確認テスト				
	マーケティングリサーチをデザインするためのリサーチの分類と設計のためのプロセスについて学習する。								
	第3回 マーケティングリサーチのアプローチ				確認テスト				
	アプローチ別に代表的なマーケティングリサーチの種類とその内容について学習する。								
	第4回 マーケティングリサーチのアプローチとケース				確認テスト、ディスカッション				
	観察法、実験法の具体的な手法と、総合したマーケティングリサーチのケースについて学習する。								
	第5回 質問票によるデータ収集				確認テスト				
	代表的なデータ収集方法である質問票を作成するためのプロセスと尺度について学習する。								
第6回 データの収集・集計と仮説検定				確認テスト					
基本統計量とサンプリングのプロセス、データ集計への留意点、仮説検定の考え方について学習する。									
第7回 データ分析と解釈				確認テスト					
定量データの統計的分析手法とその種類、分析結果の解釈について学習する。									
第8回 報告書とプレゼンテーション				確認テスト、ディスカッション					
マーケティングリサーチの最終ステップである報告書の作成とプレゼンテーションの方法について学習する。									
成績評価方法	単位修得試験、ディスカッションへの寄与度、確認テスト 【A評価】B評価の基準に加えて、ディスカッションへの寄与度が高く、他の学習者にとって十分な刺激を与えられていること。 【B評価】C評価の基準に加えて、リサーチ全般を通した理解があり、各回の内容をよく理解できており、マーケティング課題に対応したマーケティングリサーチのデザインについて意見を述べるができること。 また、ディスカッションにおいて双方向的なやりとりが成り立っていること。 【C評価】D評価の基準に加えて、各回の内容について概ね理解し、定性的、定量的マーケティングリサーチの手法について他者に説明できるようになっていること。 【D評価】マーケティングとマーケティングリサーチの関係がわかり、リサーチのデザインや手順についての内容が概ね理解できていること。								
教科書	なし								
参考書(任意購入)	『調査・リサーチ活動の進め方 (日経文庫)』 酒井 隆著、日本経済新聞社、2002年 『実践 アンケート調査入門』 内田 治、醍醐 朝美著、日本経済新聞社、2001年								
必須ソフト・ツール									
備考	【履修の前提とするもの】 特になし。 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 マーケティングの基礎的な知識、経営基礎科目、統計の基礎知識があれば望ましい。								

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア			授業科目名	マーケティング論			担当者	杉林 弘仁
レベルナンバー	200	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度	☆☆☆		
単位修得試験受験資格	2/3以上の出席 レポート評価とディスカッションへの寄与度で評価します。			単位修得試験実施方法	現地試験 (レポート)			単位修得試験試験会場	本学 (さくら川キャンパス)
学習目標	マーケティングは企業活動のなかでどのような役割を果たしているのか、マーケティングとは何か、マーケティングの基本概念を体系的に学びます。しかし、マーケティングは企業活動だけのものではなく、日常生活や仕事のなかで、問題解決の思考や、価値観や生き方を考えるヒントを取り入れることでもあります。本講でのディスカッションを通じて、皆さんとともに市場を見る目、マーケティングセンスを磨いていきたいと思えます。								
学習の進め方	主にパワーポイントを使って、基礎的な知識・理論について説明しますが、時折、発言を求め、双方コミュニケーションを図ります。スクーリングの後半に、各自、業界・企業・商品について事例報告、または、消費者ニーズの探求についてレポートしていただき、それをもとにディスカッションします。								
授業時間外学習	1週間で、市場を読むマーケティングの基礎的なフレームワークを学びます。学んだフレームを使って、ショッピングセンターのような商業集積、個々の店舗、ネットやテレビのCMをみてみましょう。普段の何気なく見過ごしてきた企業行動がどのように見えるかを試してみてください。学習したフレームでは合わないところや説明できないところも考えるようにしてください。								
学習内容	概要				課題				
	第1回 マーケティング概要 (はじめに)								
	まず、最初にマーケティングの全体像がわかるようにマーケティング管理の体系について説明します。								
	第2回 マーケティング変遷								
	マーケティングのなりたち、時代背景によって変化するマーケティング論の発展について学習します。								
	第3回 マーケティング戦略								
	戦略とは何か、経営戦略論の知識と合わせて学習します。								
	第4回 マーケティングとマーチャンダイジング								
	小売業のマーケティングとマーチャンダイジングについて、流通論の基本的な知識とあわせて説明します。								
	第5回 標的市場の設定 (ターゲット)								
	第5回以降はマーケティングの各詳細項目にはいっていきます。この回はターゲットのとらえ方についてみていきます。								
	第6回 製品マネジメント								
	マーケティングの中心課題である製品、製品・商品の考え方、製品開発過程についてみていきます。								
	第7回 価格マネジメント								
	価格のもつ特性・消費者への効果について、価格のもつ意味、価格戦略について考えます。								
	第8回 チャネル・マネジメント								
流通チャネルの構造、チャネル構築と管理について、チャネルとは何かについて考えていきます。									
第9回 プロモーション・マネジメント									
広告・プロモーション、人的販売、その他プロモーションの種類とその役割について、考えていきます。									
第10回 ブランド・マネジメント									
ブランドとは何か、マーケティング課題の中心、非価格競争について考えていきます。									
第11回 顧客マネジメント									
営業という仕事を取り上げて、これからの顧客との関係の構築について考えてみます。									
第12回 企業の社会的責任									
事業を通じた社会問題の解決について考えてみます。									
第13回 消費者ニーズの探求・マーケティング・アイ (1)									
各自のレポート発表に基づき、マーケティングセンスを高めるディスカッションを行います。									
第14回 消費者ニーズの探求・マーケティング・アイ (2)									
各自のレポート発表に基づき、マーケティングセンスを高めるディスカッションを行います。									
第15回 マーケティング (おわりに)									
このスクーリングで得たマーケティングとは何だったのか整理し総括とします。									
成績評価方法	課題レポート (70%)、ディスカッション寄与度 (30%)								
教科書	著書 『1からのマーケティング第3版』 著者 石井淳蔵・廣田章光 出版社 碩学舎 出版年度 2011年1月30日 3版 ISBN 9784502665509								
参考書 (任意購入)	著者 『マーケティングを学ぶ』 著者 石井淳蔵 出版社 ちくま新書 出版年度 2010年 ISBN 978-4-480-06530-8								
必須ソフト・ツール									
備考	受講者上限人数 グループワークを含む講義40名								

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	マネジメントとリーダーシップ			担当者	山縣 康浩
レベルナンバ	200	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	「自分が動く」ことで「人を動かす」ということについてマイケースを通じて実践に生かすことができる。							
学習の進め方	この講義では、みなさんが実際に経験したことを、「マイケース」として作成し、その内容の課題解決を中心に、オンデマンド教材と教科書を使って学習を進めていきます。まず、しっかりとマイケースを作成してみてください。各回の学習の最後には、課題のレポートがありますので、自分なりの理解をさらに深めて欲しいと思います。							
授業時間外学習	「人を動かす」ためには、「どのように自分が動くよいか」という視点で、自身の行動を考え、職場で活用してください。							
学習内容	概要						課題	
	第1回 マネジメント：行動科学アプローチ						レポート	
	マネジメントについての理解、行動科学の考え方を学ぶ							
	第2回 意欲と行動：人間行動の基本的な理解促進						レポート	
	欲求段階説（マズロー）を中心に、人間行動の基礎的な考え方を学ぶ							
	第3回 意欲を育む状況条件：基礎理論の理解						レポート	
	ホーソン工場実験、X仮説とY仮説、意欲要因—環境要因論の考え方を学ぶ							
第4回 リーダーシップ：基本的な概念の理解						レポート		
リーダーシップ基礎理論、状況対応アプローチを学ぶ								
第5回 マイケースにおける課題解決								
今までの理論やモデルの振り返り、マイケースにおける課題解決に向けて、具体的な行動を考える								
成績評価方法	各回レポート（40%）、単位修得試験（60%） マイケース作成用紙1・2の提出、各回レポートの提出、マイケース課題解決用紙の提出が必須。 評価のポイントは、各理論とマイケース状況を繋げて具体的な行動が、論理的に一貫性をもって記述出来ていること。							
教科書	著書 『入門から応用へ、行動科学の展開 [新版] 人的資源の活用』 著者 P・ハーシー、K・H・ブランチャード、D・E・ジョンソン 出版社 生産性出版 出版年度 2011年5月10日 ISBN 9784820116844							
参考書 (任意購入)								
必須ソフト・ツール								
備考								

メジャー(専修)名	ライフデザイン		授業科目名	民法			担当者	前田 春樹
レベルナンバ	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	民法全般についての基本理念を理解する。 総則、物権、債権、親族、相続の個々の論点について問題点を理解し、法律的な思考を身につける。							
学習の進め方	この授業では教科書を主教材として学習を進めます。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に教科書の該当部分を精読すること。 ・引用されている条文に必ず目を通しておくこと。 ・各回の授業終了後に、教科書と授業内容をもとに、サブノートを作っておくこと。 							
学習内容	概要						課題	
	第1回 民法総則						レポート	
	民法の基本理念、権利主体、意思表示							
	第2回 財産法(1)物権						レポート	
	物権変動と登記の関係							
	第3回 財産法(2)債権						レポート	
	債権の効力(契約の解除、損害賠償請求)、人的物的担保							
	第4回 家族法(1)親族						レポート	
	婚姻、離婚、親権							
第5回 家族法(2)相続						レポート		
日本の相続制度の骨組み								
成績評価方法	各回レポート (40%)、単位修得試験 (60%)							
教科書	著書 『民法第九版』 著者 我妻栄 遠藤浩他 出版社 勁草書房 出版年度 2013年 9版 ISBN 9784326451012							
参考書(任意購入)	『トピックからはじめる法学』、今井雅子他、成文堂、2,625円(税込)、2010年							
必須ソフト・ツール								
備考								

メジャー(専修)名				授業科目名	リサイクル問題			担当者	渡辺 勉
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★☆		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	世界人口が60億人を超え、限られた資源をいかに持続的に使っていかは人類が生き残っていくかどうかの問題といえる。それを可能にするのがリサイクルという環境の負荷を低減する方法だ。しかし、リサイクルには多くの問題がある。この講義ではリサイクルの現状を知り問題点を明らかにして、リサイクルについての理解を深めるとともに、将来的な望ましいリサイクル(循環型)社会のあり方を探る。								
学習の進め方	本授業は、教科書を主に活用して学習を進めます。教科書には掲載されていない事項、学習を進めるうえで重要なポイントや補足説明、新しいデータをオンデマンド教材に掲載しますので活用してください。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> リサイクルは身近な問題なので、事前学習として生活の中でリサイクルに関するどのような課題があるのかを常に考えて授業にのぞむこと。 授業の内容に関して、具体的な事例を探し出す努力をすることで理解が深まる。探し出す方法はネットをはじめ、新聞や図書館など多様な手段を試みてください。 リサイクルに関する情報に常に興味をもつこと。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 リサイクルとは？				レポート				
	リサイクルの概要を知る								
	第2回 リサイクルの歴史と背景				確認テスト				
	日本におけるリサイクルの歴史を知る								
	第3回 日本におけるリサイクルの現状				確認テスト				
	リサイクルの関連法とデータでリサイクルの現状を知る								
	第4回 捨てればごみ、分ければ資源				レポート				
	資源ごみの分別工場の現場。分別の重要性を知る								
	第5回 紙のリサイクルの現場				確認テスト				
	古紙回収とリサイクルの現状と問題点を知る								
	第6回 アルミや鉄のリサイクルの現場				確認テスト				
	アルミ、鉄のリサイクルの現状と問題点を知る								
	第7回 ガラスのリサイクルの現場				確認テスト				
	ガラスのリサイクルの現状と問題点を知る								
第8回 プラスチックのリサイクルの現場				レポート					
ペットボトルやDVDなどのリサイクルの現状と問題点									
第9回 食品廃棄物のリサイクルの現場				レポート					
食品廃棄物リサイクルの現状と問題点を知る									
第10回 自動車のリサイクルの現場				確認テスト					
自動車リサイクルの現状と問題点を知る									
第11回 家電製品のリサイクルの現場				確認テスト					
家電リサイクルの現状と問題点を知る									
第12回 レアメタルのリサイクルの現場				確認テスト					
レアメタルがなぜ注目されるのかを知る									
第13回 ゼロエミッションとは？				レポート					
ゼロエミッションの模範ビール工場から現状を知る									
第14回 リサイクル批判を考える				レポート					
武田邦彦さんのリサイクル批判を中心に問題点を探る									
第15回 循環型社会は可能か？				レポート					
リサイクルを中心とした循環型社会の現状と将来を考える									
成績評価方法	課題と平常の学習態度(40%)、単位修得試験の結果(60%)により総合評価する。								
教科書	著書 『シリーズ地球と人間の環境を考える06 リサイクル 回るカラクリ止まる理由』 著者 安井 至 出版社 日本評論社 出版年度 2007年5月20日 1版 ISBN 9784535048263								
参考書(任意購入)	学習内容に沿って適宜提示								
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	心理学	授業科目名	臨床心理学	担当者	酒井 健
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	通信授業 デジタル教材活用度
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること		単位修得試験実施方法	Web試験	単位修得試験試験会場
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理学に関する基礎理論や知識を簡潔に説明できるようになること。 心の病の分類や病理の理解について、心理学を専門としない患者の立場で理解できるレベルで基礎的な内容を説明できること。 臨床心理学の基本的な考え方(本科目で扱う精神分析、行動主義、人間性心理学など)について、知識のない人にわかりやすく説明できるための適切な知識をもっていること。 臨床場面で使用される心理検査(本科目で扱う知能検査、発達検査、パーソナリティ検査)について、正しく説明するために必要な知識を持っていること。 代表的な、心理カウンセリングや心理療法について、それぞれの考え方や位置づけ、特徴などを簡潔に説明できるようになること。 心理援助のために必要な基本的な内容について、説明できるようになること。 臨床心理学と関連する他の心理学分野の基礎理論や知識について説明できるようになること。 学んだ知識を統合して、または関連する必要な知識を自ら学び、事例の理解を深めることができること。 <p>例を挙げると、この授業ではマラーの分離-個体化理論や、ボウルビーの愛着理論、エリクソンの発達論、などは他の授業での学習に任せるなどの理由で取り上げていないが、必要に応じて復習もしくは追加で自ら学ぶことをある程度期待している。</p>				
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。各回の学習の最後には、課題がありますので課題を終わらせ、次の回に進みましょう。各回の確認テストには、オンデマンド教材で直接取り上げてはいたませんが、その回の内容と関連する内容、用語、概念等も出題しますので、それらが出てきたときは調べながら考えることで、知識はより深まるものと思います。				
授業時間外学習	<p>【学習前に準備しておくべきこと】 各自で読みやすいと思う入門的な位置づけの臨床心理学の図書を手に入れて読んでおくことが望ましいです。入門的なもしくは概念的な図書は、本によってボリュームがずいぶん異なります。講義でそのすべてを網羅することは困難であるので、授業はガイドライン的側面もあると考えて望んでほしいと思います。</p> <p>【学習後に復習として実施すべきこと】 各回で講義している内容は、扱っているテーマやトピックをすべて網羅できているわけではありませんので、学習前の準備と併せて各自で学習ノートを作るなどの作業を、復習および事後学習として行うことがとても望ましいと考えています。</p>				
学習内容	概要		課題		
	第1回 臨床心理学とは何か	臨床心理学という学問がどういったものかについて、説明します。	確認テスト		
	第2回 主な理論と治療・介入技法1 精神分析	精神分析についての概要を説明いたします。	確認テスト		
	第3回 主な理論と治療・介入技法2 分析心理学	日本でも興味関心の高いユング心理学についての概要を説明します。	確認テスト		
	第4回 主な理論と治療・介入技法3 行動療法、認知・行動療法	臨床心理学における主要な理論である、行動主義と行動療法、さらにそこから認知療法、認知行動療法について説明します。	確認テスト		
	第5回 主な理論と治療・介入技法4 人間性心理学	臨床心理学における主要な理論である、人間性心理学について説明します。	確認テスト		
	第6回 主な理論と治療・介入技法5 その他の心理療法	第2回から第5回で取り上げてこなかった、理論や技法について説明します。催眠療法、短期療法、家族療法、EMDR、内観療法、森田療法などを取り上げます。	確認テスト		
	第7回 心理アセスメントの考え方と心理検査1	臨床心理の実践に関連して、主要なプロセスの一つであるアセスメントについて説明します。	レポート		
	第8回 心理アセスメントの考え方と心理検査2	アセスメントにおける主要な手法の一つである心理検査について、知能検査、発達検査、人格検査にわけて説明します。	確認テスト		
	第9回 様々な心の問題1	心の病をどのように捉え分類しようとしているのか、その考え方にはどのようなものがあるのかを含め疾患分類について説明します。	確認テスト		
	第10回 様々な心の問題2	第9回に続いて、心の病や症状について説明します。	確認テスト		
	第11回 心理臨床の場	心理臨床の場と、関連する法律および専門家の教育と倫理など、心理臨床と社会との関連に関わるトピックについて説明します。	確認テスト		
	第12回 ケースを理解する1	提示された事例に対して、これまで学んできた知識や各自で学んだ内容をつかって各自が考え、意見交換することによって学んだ内容を深めます。	ディスカッション		
	第13回 ケースを理解する2	提示された事例に対して、これまで学んできた知識や各自で学んだ内容をつかって各自が考え、意見交換することによって学んだ内容を深めます。	ディスカッション		
	第14回 ケースを理解する3	提示された事例に対して、これまで学んできた知識や各自で学んだ内容をつかって各自が考え、意見交換することによって学んだ内容を深めます。	ディスカッション		
第15回 ケースを理解する4	提示された事例に対して、これまで学んできた知識や各自で学んだ内容をつかって各自が考え、意見交換することによって学んだ内容を深めます。	ディスカッション			

成績評価方法	<p>第12回～15回目のディスカッションにおける、コメントおよび他者へのコメントと単位修得試験の結果</p> <p>【A評価】ディスカッション：適切なコメントや判断を述べ、また他者へのコメントが、心理臨床活動で必要とされる援助者の特質を十分に体现していること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。</p> <p>単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、複数の内容を組み合わせて説明できるレベルであること。</p> <p>臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、正しい知識を前提に、妥当な回答を行うことができる。</p> <p>【B評価】ディスカッション：コメント内容や判断の根拠はやや正確さに欠けているが、おおむね妥当である内容を述べており、また他者に対するコメントが、心理臨床活動で必要とされる援助者の特質を十分に体现していること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。</p> <p>単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、多少不十分ではあるにせよ複数の内容を組み合わせて説明できるレベルであること。</p> <p>臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、正しい知識を前提に、妥当な回答を行うことができる。</p> <p>【C評価】ディスカッション：コメント内容や判断の根拠は正確さに欠くところがあり、知識の不十分さが見られるが、妥当な内容も述べていること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。</p> <p>単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、概ね正確な知識を有しているレベルであること。</p> <p>臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、正しい知識に基づいた簡単な回答ができる。</p> <p>【D評価】ディスカッション：テーマに沿ったコメントを行っていること。正しい知識に基づいているとは言いがたい面もあるが、妥当な内容のコメントもできていること。不適切なコメントが多い場合は、減点となり得る。</p> <p>単位修得試験：現代の臨床心理学で扱う概念や知識について、専門的にみて適切な知識を有しているレベルであること。</p> <p>臨床心理学で扱う概念や知識について全く知らない人から、心理療法や心の病等について相談された場合、少なくとも妥当ではない回答はしない程度の知識を持っていること。</p>
教科書	なし
参考書 (任意購入)	<p>・臨床心理学の入門的位置づけの図書</p> <p>これは各自が読みやすいと思ったものでかまいません。ただし出版時期の古いものは内容も古くなっているため、おおむね7～5年以内の出版（改定版）で見つけることが望ましいと思います。ただし古いものがいけないと言うことではありません。古いものも、概念の部分はよくまとめられた良書は多々あります。ただそういった図書の場合は客観的知識として古い面があることに注意してください。</p> <p>例：『よくわかる臨床心理学』、下山晴彦編、ミネルヴァ書房、3,240円（税込）、2009年</p>
必須ソフト・ツール	
備考	<p>【履修の前提とするもの】</p> <p>なし</p> <p>【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】</p> <p>「心理学概論」、「生涯発達心理学」、「青年心理学」、「人格心理学」、「学習心理学」、「行動の科学」の内容はなるべく、また「精神分析学」の内容もできれば、修得していること。</p>

メジャー(専修)名	心理学		授業科目名	臨床心理学実習			担当者	酒井 健, 辻野 達也
レベルナンバー	300	単位	2	授業方法	スクーリング	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	3/4以上の出席		単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	本学(さくら夙川キャンパス)
学習目標	臨床心理学の基本的な理論や技法について学びながら、さまざまなワークやエクササイズを通じて、自己理解および他者理解を深めることを目標とする。							
学習の進め方	講義部分では、実習のときの基本となる理論や考え方の習得をめざす。実習部分では、ワークやエクササイズを通じて、体験的に学習を深める。							
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、心理学全般の基礎知識について復習しておくこと。任意の臨床心理学の概論的な入門書に当たり、臨床心理学全般についての理解を確かめておくこと。 受講後は、授業で扱った理論や技法、検査等に関して、各自でより専門的な図書に当たり、内容を深めていくこと。 							
学習内容	概要							課題
	第1回 心理アセスメント 描画法1							
	全30回の授業のなかで、前半15回は主に心理アセスメントを中心に授業と実習を行う。第1回は、描画法による心理査定の方と、具体的な方法について学ぶ。							
	第2回 心理アセスメント 描画法2							
	描画法による心理査定の方と、具体的な方法について学ぶ。							
	第3回 心理アセスメント 投影法1							
	パーソナリティ検査として広く使われている投影法の一つであるロールシャッハテストについて、その考え方を解説する。							
	第4回 心理アセスメント 投影法2							
	パーソナリティ検査として広く使われている投影法の一つであるロールシャッハテストについて、その考え方を解説する。							
	第5回 心理アセスメント 投影法3							レポート
	パーソナリティ検査として広く使われている投影法の一つであるロールシャッハテストについて、その考え方を解説する。同じ投影法であるTATも紹介する。							
	第6回 心理アセスメント その他のパーソナリティ検査1							
	PFスタディや20答法、SCTなど、ここまで紹介してこなかった検査について解説しいくつかを体験的に施行する。							
	第7回 心理アセスメント その他のパーソナリティ検査2							
	PFスタディや20答法、SCTなど、ここまで紹介してこなかった検査について解説しいくつかを体験的に施行する。							
第8回 心理アセスメント 知能検査1								
ことに病院臨床では必須の知能検査について、その代表であるWAISを取り上げ、知能とは何かについて検討する。								
第9回 心理アセスメント 知能検査2								
ことに病院臨床では必須の知能検査について、その代表であるWAISを取り上げ、知能とは何かについて検討する。								
第10回 心理アセスメント 知能検査3							レポート	
ことに病院臨床では必須の知能検査について、その代表であるWAISを取り上げ、知能とは何かについて検討する。								
第11回 心理アセスメント 発達理解1								
発達検査について講義と実習を行う。								
第12回 心理アセスメント 発達理解2								
発達検査について講義と実習を行う。								
第13回 心理アセスメント 発達理解3								
発達検査について講義と実習を行う。								
第14回 心理アセスメント 神経心理学検査								
神経心理学的検査について講義と実習を行う。								
第15回 まとめ							まとめレポート	
質疑を中心に、14回の受容についてのまとめを行う。								

	概要	課題
学習内容	第16回 ストレス・マネジメント	
	ストレス・マネジメントの考え方と方法	
	第17回 認知行動療法	
	認知行動療法の理論と技法	
	第18回 アサーション・トレーニング	
	アサーション・トレーニングの原則	
	第19回 イメージ療法	
	イメージ療法の特徴と種類	
	第20回 人間性・トランスパーソナル心理学	
	人間性心理学およびトランスパーソナル心理学について	レポート
	第21回 ユング心理学①	
	タイプ論	
	第22回 ユング心理学②	
	元型論	
	第23回 ユング心理学③	
	個性化の過程	
	第24回 ユング心理学④	
	共時性と布置	
	第25回 ユング心理学⑤	
	夢分析	レポート
	第26回 心理アセスメント①	
	エゴグラム	
	第27回 心理アセスメント②	
	描画法 (バウム・テスト、風景構成法)	
	第28回 心理療法①	
	アートセラピー	
	第29回 心理療法②	
	箱庭療法	
	第30回 単位修得試験と解説	
成績評価方法	第1回～第15回 二つの小レポート (30%)、授業への取組 (授業中やディスカッションでの発言、実習への取り組み方を含む 30%)、まとめレポート (40%) 第16回～第30回 各回のレポート (50%)、単位修得試験 (50%) なお、前半15回と後半15回の評価をそれぞれ50%とし、合計したもので最終的な評価とする。	
教科書	なし。適宜レジュメを配布する。	
参考書 (任意購入)	『よくわかる臨床心理学』、下山晴彦、ミネルヴァ書房、2011年10月30日	
必須ソフト ・ツール		
備考	受講者上限人数 実習40名 受講者数上限を超過した場合は、認定心理士資格取得希望者を優先し、受講調整を行う。 先修条件は、特にこの科目、という条件はありませんが、心理学関連の科目をなるべく履修していることが望ましく、また必要であれば各自で補ってください。	

メジャー(専修)名	ライフデザイン			授業科目名	倫理と道徳			担当者	石毛 弓
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	★★★		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート			単位修得試験試験会場	—
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の学習の最後に設けられた課題において、自分なりの考えを書くことができる。 ・すべての授業を受講し終えた時点で、自己の価値判断基準を自覚し、その基準をもって授業で習った課題を評価する(自分なりの考えを書く)ことができる。 								
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を読み問いに答えることで学習を進めます。必要に応じて教科書を参照します。各回の学習の最後には課題がありますので、提出してから次の回に進んでください。								
授業時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・科目に関連する書籍等を読んで自分なりの理解を深めること。 ・ディスカッションでその回のまとめ・復習を充分に行うこと。 								
学習内容	概要				課題				
	第1回 倫理って? 道徳って? — 概論				ディスカッション				
	<ul style="list-style-type: none"> ・「倫理」と「道徳」の概念について ・今後の学習の見直しについて 								
	第2回 「幸福」という基準 — 功利主義Ⅰ				ディスカッション				
	功利主義について — ベンサムを中心に								
	第3回 量の問題、質の問題 — 功利主義Ⅱ				ディスカッション				
	功利主義について — ミルを中心に								
	第4回 「人格」について — 義務論Ⅰ				ディスカッション				
	義務論について								
	第5回 「嘘」について — 義務論Ⅱ				ディスカッション				
	倫理学における「嘘」のとらえ方について								
	第6回 自然なルールとしての倫理・道徳 — 社会契約説				ディスカッション				
	社会契約説について								
	第7回 分配のルールとしての倫理・道徳 — 正義論				ディスカッション				
	正義論について								
第8回 徳、ケア、共同体 — 徳倫理学				ディスカッション					
徳倫理学について									
第9回 「である」と「べきである」のちがいは? — メタ倫理学				ディスカッション					
メタ倫理学について									
第10回 いか生きるかということ — 生命倫理学Ⅰ				ディスカッション					
QOL、インフォームド・コンセントを中心とした生命倫理学について									
第11回 人格と責任 — 生命倫理学Ⅱ				ディスカッション					
人格論を中心とした生命倫理学について									
第12回 自然の生存権の問題 — 環境倫理学Ⅰ				ディスカッション					
自然の生存権の問題を中心とした環境倫理学について									
第13回 地球全体主義、世代間倫理 — 環境倫理学Ⅱ				ディスカッション					
地球全体主義および世代間倫理を中心とした環境倫理学について									
第14回 現代倫理学あれこれ				ディスカッション					
現代におけるさまざまな倫理学について									
成績評価方法	各回の課題状況 (35%) およびレポート試験 (65%)								
教科書	著書 『動物からの倫理学入門』 著者 伊勢田哲治 出版社 名古屋大学出版会 出版年度 2010年4月15日 1版 ISBN 9784815805999								
参考書(任意購入)									
必須ソフト・ツール									
備考									

メジャー(専修)名	ビジネス・キャリア		授業科目名	ロジカル・シンキング		担当者	今宮 信吾
レベルナンバー	100	単位	1	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度	
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場
学習目標	ツールの使い方について知り、課題に沿って使ってみる。その結果ツールの良さを感じ、日常での思考に生かすことができる。各回の課題を提出し、ツール活用やロジカル・シンキングについてのリフレクションを行う。この授業で学んだことをこれからの生活に生かしていこうという意欲的な学びの姿勢を作ることができる。						
学習の進め方	この授業では、オンデマンド教材を主教材として、学習を進めます。第2回～第7回では、ワークシートを使った演習を行います。						
授業時間外学習	【学習前に準備しておくべきこと】 ワークシートを使って演習を行うので、別の紙にメモしながら学習できるように、筆記用具を用意すること 現代的な課題を取り扱っているため、テレビや新聞など日常的な話題の情報を集めておくこと 前の回で学習したことを振り返り、ツールの使い方や目的、思考の方法は、どこがどのように違うのかという学習の構えを作ること 【学習後に復習として実施すべきこと】 授業で修得したツールの活用方法を日常生活で使いながら、単位修得試験に備えること、専門用語などわからないことがあれば、調べておくこと						
学習内容	概要			課題			
	第1回 ロジカル・シンキングとラテラル・シンキング			アンケート			
	ロジカル・シンキングをするために、その反対軸にあるラテラル・シンキングを学び、ロジカル・シンキングの必要性について学ぶ。意識的にロジカルな頭を作るために、ツールの活用について紹介する。						
	第2回 ロジカル・シンキングのためのツール活用1			レポート(ワークシート提出)			
	ロジカル・シンキングのためのツールを紹介する。「比べる」「わかる」という思考の方法を学ぶ。						
	第3回 ロジカル・シンキングのためのツール活用2			レポート(ワークシート提出)			
	ロジカル・シンキングのためのツールを紹介する。「つなぐ」「組み立てる」という思考の方法を学ぶ。						
	第4回 ロジカル・シンキングのためのツール活用3			レポート(ワークシート提出)			
	ロジカル・シンキングのためのツールを紹介する。「筋道立てる」「価値づける」という思考の方法を学ぶ。						
	第5回 ロジカル・シンキングのためのツール活用4			レポート(ワークシート提出)			
	第2回～第4回で紹介した以外のツールの活用方法について学ぶ。						
	第6回 パブリックスピーチと話し合いのためのロジカル・シンキング			レポート(ワークシート提出)			
思考ツールとして活用するものをスピーチや話し合いでも活用できることを学ぶ。							
第7回 ライティングスキルのためのロジカル・シンキング			レポート(ワークシート提出)				
ロジカルに考えたことを記録として残し、文章にしていくための方法について学ぶ。ノート活用と小論文を書くための準備を学ぶ。							
第8回 ロジカル・シンキング活用法			確認テスト				
能動的に学ぶこと、そして見ることでロジカルに考えることを学ぶ。今まで学んだロジカルな頭を活用する方法を学ぶ。							
成績評価方法	各回の演習課題(確認テスト)・単位修得試験 【A評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方を理解し、課題に対して、一覧表にあるように、思考のパターンに沿って適切に活用することができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして十分に理解できている。十分とは、解答例に照らして満足できる状態をいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされ、自分なりの活用方法を見出すことができている。ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、目標に沿った内容であると判断できるように書かれている。 【B評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方を理解し、課題に対して主体的に取り組むことができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして概ね理解できている。概ねとは、解答例に照らしてほぼねらい通りであることをいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされている。ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、主体的に活用しようとしている。 【C評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方は不十分であるが、学ぶ意欲は感じることができる。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方を一覧表に照らして概ね理解できているが、一部使い方が理解できていないものもあることをいう。単位修得試験において、ツールの選択や活用が十分になされている。ツールの使い方を考えながら、意欲的に活用しようとしている。 【D評価】ロジカル・シンキングのためのツールの使い方の理解が不十分であるが、何度かの修正によって課題を捉え直そうとしている。 各回の演習、課題において、本授業で学習したツールの使い方は不十分であるが、修正を促すことによって課題をクリアしていることをいう。単位修得試験において、ツールの使い方を考えながら、活用しようとし、目標に沿った内容であると判断できるように書かれている。						
教科書	なし						
参考書(任意購入)							
必須ソフト・ツール	Microsoft Office Word						
備考	【履修の前提とするもの】 特になし 【履修にあたって充たしていることが望ましいもの】 特になし						

メジャー(専修)名				授業科目名	基礎ゼミナール		担当者	野波 侑里, 畑 耕治郎, 本田 直也
レベルナンバー	100	単位	2	授業方法	通信授業	デジタル教材活用度		
単位修得試験受験資格	全ての教材が「済」になること			単位修得試験実施方法	レポート試験		単位修得試験試験会場	-
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高校までの学びと、大学での学びの違いを把握し、説明できるようになる。 ・自分の学習スタイルを把握し、それを説明できるようになる。 ・興味のある科目や分野、学んでみたい科目や分野を選んで示すことができるようになる。 ・中長期の目標や、自分の学習スタイルを踏まえた上で、少し先までの具体的な履修計画を立てることができるようになる。 ・学習途中(クールの途中や年度の途中)で、自身の学習が調子よく進んでいるのかどうか、計画通りに進んでいるのいかないのか、自分で状況を認識し、他者に話すことができるようになる。 							
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の学習は複数クールにまたがって継続する。 ・学習開始クールは原則として入学直後のクールとする。 ・単位修得試験は第4クール末に実施する。 ・動画視聴(オンデマンド)と、関連する課題の提出により学習を進めていく。 ・学習者本人と教員との間で、クールごとに、合計して数回の面談(電話やSkype、可能ならば対面など、形式は応相談)を行う。 							
授業時間外学習								
学習内容	概要							課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の学びと高校までの学びの違いを学習する。 ・大学生としての勉強方法を身につけるための学習教材と学習方法に触れる。 ・大学の様々な学びの分野に触れ、これからの学び方を学んでいく。 ・クール末や成績開示後などの節目に、自身の学習について振り返りを行う。 ・先々の履修計画と学習計画を立てる。 ・自身のライフデザイン、キャリアデザインを行う。 ・学習目標に記載の「学習状況を他者に話す」ことを目的とし、教員との面談を数回程度実施する。以下、話題の一例。 履修登録後の履修科目の内容を話す 各科目の単位修得試験後に状況を話す 成績開示後に前クールの学習を振り返る 履修登録期間に選択する科目や分野について話す 年度末には次年度の計画を話す							レポート
成績評価方法	以下の評価項目により総合的に評価する。きちんと各回の学習を完了させていることを重視する。 <ul style="list-style-type: none"> ・受講・参加状況(ログイン回数や学習回数) ・面談実施と完了状況 ・課題の提出状況 ・単位修得試験(レポート試験) 							
教科書	なし							
参考書(任意購入)	なし							
必須ソフト・ツール	文章作成し提出してもらう以外には特別なソフト・ツールは必要なし。							
備考	1年次(18~22歳)を対象とした授業です。 高校卒業からあまり時間が経っていない学生を対象とした、「高校と大学の学びの違い」をテーマとする大学への導入教育を行ったり、社会での経験が必ずしも豊富ではない若年者向け未就業者向けのキャリア教育を行ったりするため、対象者を限定しています。							

2017年度「卒業研究」概要

教員名	浦畑 育生
研究テーマ	「日本語教育」 「大学教育」
授業概要	1.日本語教育 外部の協力機関を利用して一か月～三か月の期間、外国人に日本語を教える経験を積み、日本語教師としての実力を付ける。その内容を論文にまとめる。(希望者のみ) 2.大学教育 大学教育について調べたり考えたりした内容を論文にまとめる。
卒論テーマ	1.日本語教育 ① 直説法による日本語教育の有効性 ② eラーニングで日本語は身につくか ③ 技能実習生の日本語教育について 2.大学教育 ① 日本の大学の世界ランキングは正しいか ② MOOCの可能性について ③ これからの大学教育はどうあるべきか
先修条件	1.日本語教育 日本語教員養成課程の必修科目を全て単位修得していること。 これから全て履修することを誓約する者も条件付きで認める。 2.大学教育 文部科学省の中教審答申の中から大学教育に関するものを1つ選んで熟読し、それに対する自分の考えをパワーポイントで5分間プレゼンできることを条件とする。
授業の運営方法	1.日本語教育 外部の協力機関を利用して事前研修を行った上で、一か月～三か月の間、外国人に日本語教育を実際に行い、日本語教授法の実力を付ける。(希望者のみ) ※研修の詳細については、下記の連絡先にお問い合わせください。 Email:urahata@otemae.ac.jp 2.大学教育 テーマを決めて、それに関連する文献調査を行い、考察し、まとめる。この間、面談を何度か行いながら進める。
履修生に伝えたいこと	日本語教師を目指す方を歓迎します。特に海外で日本語教師として活躍したい方を全面的に応援します。

2017年度「卒業研究」概要

教員名	川口 宏海
研究テーマ	<p>「日本考古学に関する研究」 「生活文化(衣・食・住)の歴史に関する研究」 「都市の歴史に関する研究」 「人間環境の歴史に関する研究」 など</p>
授業概要	<p>日本の歴史や、考古学に関する研究、特に都市の歴史や生活文化(衣・食・住)の歴史、あるいは人間環境の歴史、産業の歴史などを専門としているので、それに近いテーマであればかまわない。江戸時代や明治時代でもかまわない。 文献史料や考古資料を使って、歴史を解明し、新たな発見をしていけるように指導を行う。 過去を振り返ることによって、今後の日本が歩むべき道、あるいは私たちが歩むべき道を見つけていきたい。</p>
卒論テーマ	<p>①「前方後円墳の変遷に関する研究」 ②「奈良時代の衣・食・住に関する研究」 ③「中世都市鎌倉の都市構造に関する研究」 ④「巨大都市江戸のごみ問題に関する研究」 ⑤「近世酒造業の発展に関する研究」など</p>
先修条件	<p>「考古学の世界」 を修得していること</p>
授業の運営方法	<p>方 法：「通信指導」及び「面接指導」で行う。 回 数：「面接指導」は進捗状況に応じて、1回以上適宜行う。 時 期：「面接指導」は8月または9月と進み具合によって適宜行う。「通信指導」は随時実施する。 その他：テーマに応じた現地見学や資料調査を指示することがある。方法や行き先などは相談の上進める。</p>
履修生に伝えたいこと	<p>楽しんで論文を書き、思い出に残るような経験にしてほしい。</p>

2017年度「卒業研究」概要

教員名	酒井 健
研究テーマ	「臨床心理学とその周辺領域に関する、心理学的研究」
授業概要	<p>臨床心理学およびその周辺領域に関するテーマについて、卒業研究制作を通して深く学ぶ。心理学は実証科学であるということ、また臨床心理学分野における証拠に基づく研究の重視を踏まえて、卒業研究では各自の研究テーマについて調査や実験などを行い、データ分析の結果に基づいて論文作成を行う。</p> <p>テーマは各自の興味や関心から選んでいくことになるが、そのテーマを研究可能な内容にしていくためにも、積極的な自主学習を期待している。</p>
卒論テーマ	<p>①リラクゼーションの心理効果とパーソナリティの関係 ②親子関係が、その後の対人関係に与える影響について ③学校臨床における、教員への有効なサポートの研究 ④統制の所在と自己コントロール感の関連について ⑤コミュニケーションにおける表情の影響について など</p>
先修条件	<p>「心理学研究法」 「心理学統計法」の2科目を修得していること。</p> <p>それ以外の心理学関連科目はなるべく多く履修していることが望ましい。 統計ソフトを含め、パソコンの操作にはなるべく習熟するよう準備しておくこと。</p>
授業の運営方法	<p>方 法：「通信指導」及び「面接指導」で行う。 回 数：「面接指導」2回以上を含み、随時行う。 時 期：「面接指導」および「通信指導」は必要に応じて随時実施する。 その他：指導は進み具合などにより適宜変更する場合がある。</p>
履修生に伝えたいこと	<p>卒論テーマで挙げたことはあくまで例ですので、研究雑誌などをみて各自でテーマを温めて臨んで欲しいと思います。卒業研究の作成は、主体的かつ自発的に取り組むほど得られる成果と達成感は大きいと思います。指導はそのお手伝いと思っております。ぜひがんばって取り組んでいただければと思います。</p>

2017年度「卒業研究」概要

教員名	鈴木 基伸
研究テーマ	「日本語と日本語教育」
授業概要	<p>日本語学又は日本語教育学に関連する分野の研究を行います。日本語学であれば、日本語の文法、語彙、音声、方言（地域方言、社会方言）に関する研究。日本語教育学であれば、日本語教授法、第二言語習得、学習者の心のケア等に関する研究が可能であり、その領域は広大です。受講生はそれぞれ興味のある分野、大まかな研究テーマを決定したうえで卒論の指導を行います。</p>
卒論テーマ	<p>①「現代の若者ことばについて」 ②「『させていただく』はなぜ乱用されるのか？」 ③「関西弁の語彙に関する研究」 ④「受身文の効果的な教授法に関する研究」 ⑤「日系ブラジル人日本語学習者が抱える問題について」 など。</p>
先修条件	<p>「日本語教育」 「日本語の特徴と発音」 「日本語の文法と表現Ⅰ」 「日本語の文法と表現Ⅱ」</p> <p>の4科目をすべて修得していること。</p>
授業の運営方法	<p>方 法：「通信指導」及び「面接指導」で行う。 回 数：「面接指導」3回以上を含み、随時行う。 時 期：「面接指導」は学生との相談のうえ決定する。「通信指導」は随時。 その他：指導方法等については状況に応じて臨機応変に対応する。</p>
履修生に伝えたいこと	<p>履修するからには、自分なりの研究計画をあらかじめ立てておいてください。</p>

2017年度「卒業研究」概要

教員名	仲谷 伸子
研究テーマ	「ライフ・サイクルにおける諸事象の発達心理学的考察」
授業概要	<p>人生の中でのさまざまな事象を発達心理学的に考察し、次の発達段階に何が大切かを考える。また、次の世代にとって何が大切か、について考える。</p> <p>授業内容には、問題とそれにもなう適切な研究法について考え、テーマを確定していくことを含む。</p> <p>「卒論テーマ」の欄に例を挙げるが、この中から選ばなければいけないのではない。主体的に、自分が何をしたいのか、それはなぜか、を考えて決定してほしい。</p>
卒論テーマ	<p>①「乳児期の発達の諸側面（身体・運動・認知・情動・対人関係等）の相互連関、またそれに伴う言語の問題」</p> <p>②「幼児期のことばの発達と対人関係の変化」</p> <p>③「児童期における『集団』の問題」</p> <p>④「青年期の職業観とアイデンティティの発達」</p> <p>⑤「中高年期の自己認知の問題 対人関係の再構築について」</p>
先修条件	<p>「心理学概論」 「生涯発達心理学」 「心理学研究法」 「心理学統計法」の4科目すべてを修得していること。</p> <p>下記の「履修生に伝えたいこと」の内容を合わせて確認すること。</p>
授業の運営方法	<p>方 法：通信指導、および面接指導で行う。</p> <p>回 数：「面接指導」数回、「通信指導」は随時。</p> <p>時 期：「面接指導」は、集団での面接・討論を中心に8月を含み随時。（追って通知する） 「通信指導」は随時。</p> <p>その他：指導方法等、追って連絡することがある。</p>
履修生に伝えたいこと	<p>研究方法として調査・実験を行なう場合、そのフィールドの確保も学生自身がおこなう。このとき、研究の倫理をしっかりとわきまえて計画・実施・報告することが必要となる（該当の学生には改めて確認をおこなう）。</p>

2017年度「卒業研究」概要

教員名	二階堂 達郎
研究テーマ	「わが国の家計をめぐる諸問題の現状の分析と考察」
授業概要	<p>家計、社会福祉、社会保障、消費者問題など、現代社会における家庭の経営にかかわる諸問題の中から、テーマを自分で選択し、必要な資料を調査・収集し、分析し、自らの考察を行って、論文の形にまとめる。</p> <p>現代の社会に生きる社会人として身につけておくことが求められる諸問題について、主に経済的な側面から追究することによって、それらについての理解を深めることをめざす。そして、こうした作業を通じて、問題解決能力や物事についての洞察力を養うとともに、経済的な考え方についても身につけてもらうことを狙いとする。</p>
卒論テーマ	<p>①「勤労者世帯の家計収支とその構成の変化についての研究」 ②「家事労働の世帯類型ごとに見られる動向と特徴についての研究」 ③「高齢者世帯の家計収支の現状と動向についての研究」 ④「ライフステージごとの家計収支の特徴と変化についての研究」 ⑤「近年の消費者被害と消費者行政の対応についての研究」</p>
先修条件	<p>「家庭の経営」 を修得していること</p> <p>「消費者のための法律知識」 「暮らしの安全と消費者問題」 「暮らしから見る福祉」 のうち、1科目以上を修得していること</p>
授業の運営方法	<p>方 法：「通信指導」を主として、「面接指導」を必要に応じて実施する。 ただし、遠方在住の受講生は、「通信指導」のみ実施する。</p> <p>回 数：「通信指導」は必要に応じて実施し、「面接指導」は3回以上実施する。</p> <p>時 期：「面接指導」は相互に調整して実施し、「通信指導」は随時実施する。</p> <p>その他：特になし。</p>
履修生に伝えたいこと	

2017年度「卒業研究」概要

教員名	西村 道信
研究テーマ	「英文の文体研究」
授業概要	<p>英文の文体的特徴をコンピュータを使用して解明する。対象とする英文は、文学でも、メディアの英語でも、歌の歌詞でもよい。それぞれの英文には、作者自身の特徴が現れることもあれば、ジャンル毎の特徴が見られることも多い。</p> <p>研究内容としては、ある作者についての英文の特徴を探り出したり、別の作者との対比をしたり、英字新聞や英文雑誌、あるいはウェブ上の英文の比較研究を行う。また、英文コーパスの利用と作成の仕方も解説する。そしてその際に使用するソフトウェアはフリーのものを紹介し、使用方法も詳しく指導する。</p>
卒論テーマ	<p>①「作家の文体解析」 ②「新聞の文体」 ③「メディアの英文の特徴」 ④「コンピュータによる文体解析」 ⑤「コーパス研究」</p>
先修条件	なし
授業の運営方法	<p>方法：「通信指導」及び「面接指導」で行う。ただし、遠方在住の受講生は、「通信指導」のみ実施する。 回数：「面接指導」1回以上を含み、3回以上行う。 時期：「面接指導」は8月または9月、「通信指導」は随時実施する。 その他：特になし</p>
履修生に伝えたいこと	<p>英語とコンピュータの両方に特に興味のある学生を対象とする。コンピュータで英文の処理をするので、ある程度のコンピュータリテラシーが必要。コンピュータ環境はWINDOWSが好ましいが、MACも対応可。</p>

2017年度「卒業研究」概要

教員名	野波 侑里
研究テーマ	<p>「医療と健康に関する社会文化的研究」 「病気・治療・健康に関する社会科学研究」 「西洋医学と代替補完医療に関する研究」</p>
授業概要	<p>人間の健康・病気・治療について社会文化的な背景をもとに研究を行う。研究は、基本的には医療人類学の観点から視野に入れて考察を行う。 西洋医学の台頭と科学の進歩により人間は様々な病いを克服することができるようになった。しかし一方で慢性病への治療効果や薬害、延命治療の問題には様々な議論がある。 このような状況において代替補完医療が注目を集めている。代替補完医療の範囲は中国医学やアユルベータなどの伝統医学からアロマセラピー・音楽セラピーなどの新しい民間医療まで多岐にわたる。また治療や癒しという観点において、心と身体の治療のみならず、霊性（スピリチュアリティ）を含んだ統合的な治療の試みも進んでいる。 本卒業研究では、医療従事者・患者・患者の家族といった様々な視点から、健康、病気、治療について学生の興味・関心に応じて研究を行う。 目標は、健康・病気・治療を切り口として、社会・文化的背景に基づいた様々な考え、価値観から多面的に事象を考察することができるようになることである。</p>
卒論テーマ	<p>①「慢性病におけるアロマセラピーの治療と癒し効果に関する研究」 ②「笑いが身体や疾患に与える影響に関する研究」 ③「漢方と西洋医学の効果的な共存の可能性に関する研究」 ④「医療現場における医療従事者と患者の語り（ナラティブ）に関する研究」 ⑤「高齢者介護におけるスピリチュアルケアに関する研究」など</p>
先修条件	<p>「心と身体のセラピー演習」を修得していることが望ましい。 医療人類学についての知識は特に必要なし。</p>
授業の運営方法	<p>方法：「通信指導」及び「面接指導」で行う。 回数：「面接指導」は5回程度行う。 （遠方に在住の方には、希望があればスカイプによる指導も可）。 時期：「面接指導」は、個人あるいはグループでのディスカッションなど学生と相談の上、決定する。 「通信指導」は随時。 その他：指導方法は、状況に応じて随時変更する場合がある。</p>
履修生に伝えたいこと	<p>医療従事者・患者・患者の家族の立場で病気と向き合った身近な経験などから、現代の医療に関わる疑問点を解明し、新たな角度で医療を見直すことに興味のある学生を歓迎します。</p>

2017年度「卒業研究」概要

教員名	藤田 道代
研究テーマ	「家族、ジェンダーおよびそれらに関連する事象の社会学的考察」
授業概要	<p>家族やジェンダー、および、それらに関連する事象について社会学的視点から、かたい言葉を使えば「考察」する。しかし、広く社会学的な好奇心を持って取り組む意欲があれば、テーマはそれほど厳しく限定しない。可能であれば、履修生個々の関心テーマを中心に展開したい。</p> <p>そこで、履修生個々の卒業論文のテーマを掘り下げるために前半は、文献・資料収集と、その中の主要なもの整理とまとめを行う。平行して、自分自身で行動して調べるフィールドワークに取り組み、卒業論文作成への足掛かりとする。後半は個々の論文作成指導。</p>
卒論テーマ	<p>過去の卒業論文のテーマを一部紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「認知症高齢者における行方不明者の防止策について」 ②「鉄軌道駅構内における福祉マップの提案」 ③「宮崎駿作品に描かれる家族」 ④「現代家族の食卓」 ⑤「高齢者介護とジェンダー」 ⑥「少年漫画の変遷と現代社会 一週刊少年ジャンプを代表する3作品の比較検討一」
先修条件	<p>「現代社会と家族」、「ジェンダーと社会」の2科目を修得していること。</p> <p>ただし、「少子高齢社会の家族」を、2014年度以前に修得した場合、当該科目を含めて2科目以上を修得していること。</p>
授業の運営方法	<p>方法：「通信指導」及び「面接指導」で行う。</p> <p>回数：「面接指導」2回以上を含み、3回以上行う。</p> <p>時期：「面接指導」は4月、8月または9月、12月、「通信指導」は随時実施する。</p> <p>その他：面接指導の回数は履修生が可能であれば、上記回数には拘らない。</p>
履修生に伝えたいこと	<p>事前の面接選考時に大まかな関心を聞き、関連科目を個別に指導するので、先修条件に挙げた科目はできれば履修して欲しい。</p> <p>履修希望者には、良い意味で社会学的な好奇心を持って卒業研究のテーマに主体的に取り組む意欲が欲しい。指示待ちのタイプの方は履修しても苦しいかもしれない。</p>

2017年度「卒業研究」概要

教員名	堀川 諭
研究テーマ	「精神保健」をめぐる問題
授業概要	<p>わが国の精神保健は、現在、さまざまな問題に直面しています。たとえば、高齢社会の進展に伴う認知症患者の増加、職場におけるいわゆる新型うつ病や過労にともなう自殺への対応、学校におけるいじめの多発や発達障害児の療育上の課題、などといった問題です。その一方で、急増する患者や多様化した疾患に対する精神保健医療体制は決して十分に整備されているとは言えません。</p> <p>この授業では、こうしたわが国が現在直面している精神保健の諸問題について、調査・研究したいと思いません。</p>
卒論テーマ	<p>① 青年期の心を巡る問題 ② 発達障害の現状 ③ 認知症高齢者の対応 ④ 新型うつ病 ⑤ 過重労働とうつ病および自殺の問題 ⑥ 性同一性障害を巡る問題 ⑦ 精神障害者の社会復帰 などなど。</p> <p>* 卒論テーマは相談しながら決めたいと思います。 一例として上記のテーマをあげました。参考にして下さい。</p>
先修条件	「精神保健学」および「医学一般」の2科目を修得していることが望ましい。
授業の運営方法	<p>方 法：「面接指導」および「通信指導」で行います。el-Campusを通してのみの受講は不可。 回 数：「面接指導」は1回以上行います。 時 期：「面接指導」は5月、10月、12月を予定、「通信指導」は随時行います。</p>
履修生に伝えたいこと	卒論と聞くと何となく難しそうなイメージが湧きますが、コツコツと自分のペースで楽しんでやっていただけたらと思っています。

	ページ	授業科目名	教員名	備考
英	4	ITビジネス論	竹本 拓治	
	5	NPO概論	前田 佐保	
ア	6	アカデミック・ライティング	杉田 米行	
	7	医学一般	堀川 諭	
	8	イギリスの文化と歴史	太田 素子	
	9	異文化コミュニケーション	神谷 善美	
	10	異文化コミュニケーション演習	安藤 幸一	(ス)
	11	医療人類学入門	野波 侑里	
	12	インターネット活用	中崎 修一	
	13	宇宙科学	山田 義弘	
	14	英語A(実用文法)	石谷 春奈	
	16	英語C(文書作成)	石谷 春奈	
	17	英語D(英会話)	田中 キャサリン	(ス)
	18	英語表現Ⅰ(基礎)	堂村 由香里	
	19	英語表現Ⅱ(応用)	西村 道信	
	20	音楽とコミュニケーション	萬 圭介	
	カ	21	オンライン教育概論	合田 美子
22		カウンセリング心理学	寺田 未来【夙川】 / 具 英姫【東京】	(ス)
23		カウンセリング論	酒井 健 / 辻野 達也	(ス)
24		化学概論	牧野 壯一	
25		学習心理学	枚田 香	
26		家庭の経営	二階堂 達郎	
27		環境デザイン	川窪 広明 / 井之上 節朗 / 神農 悠聖 / 松富 謙一 / 山野 松雄	
28		韓国語Ⅰ(基礎)	村上 純	
29		韓国語Ⅱ(応用)	村上 純	
30		企業経営論	小江 茂徳	
32		キャリア概論	岩波 薫	(ス)
33		キャリア形成と社会	山縣 康浩	
34		キャリアデザイン論	森元 伸枝	
35		キャリアの心理学	坂本 理郎	(ス)
36		キャリアマネジメント	山縣 康浩	
37		教育心理学	枚田 香	
38		暮らしから見る福祉	二階堂 達郎	(ス)
39		暮らしの安全と消費者問題	二階堂 達郎	
40		経営学総論	藤本 秀俊	
42		経営組織論	小江 茂徳	
43		経済学入門	大沼 穰	
44		健康心理学	北島 順子	
45		現代社会と家族	藤田 道代	
46		考古学の世界	川口 宏海	
47		行動の科学	櫻本 和也	
48		心と身体セラピー演習	野波 侑里	(ス)
49		子育て支援活動事例研究	寺村 ゆかの	(ス)
50		子育てと仕事	細見 正樹	
51		子育てと食育	山下 陽子	
52		コミュニケーション概論	森川 知史	
53		コンピュータサイエンス	佐々木 英洋	
54		コンピュータと通信	中崎 修一	
サ		55	財務分析	上野 精一
	56	産業・組織心理学	服部 泰宏	
	57	ジェンダーと社会	藤田 道代	(ス)
	58	色彩論Ⅰ	山下 真知子	
	59	社会心理学	森下 朝日	
	60	社会福祉援助技術	堀川 諭	(ス)

ページ	授業科目名	教員名	備考
61	社会福祉概論	堀川 諭	(ス)
63	宗教学	長谷川 琢哉	
64	障害児・障害者心理学	楠 敬太	
66	障害者福祉	堀川 諭	(ス)
67	生涯発達心理学	松並 知子	
68	消費者のための法律知識	千代原 亮一	
69	情報活用Ⅰ(基礎)	本田 直也 / 野波 侑里 / 多田 敦士	(ス)
70	情報活用Ⅱ(応用)	本田 直也	(ス)
71	情報管理論	森本 雅博	
72	情報機器プレゼンテーション	佐々木 英洋	
73	情報セキュリティ事例研究	鳥巢 泰生	
74	人格心理学	五十嵐 英樹	
75	人事・労務管理	中嶋 哲夫	
77	身体科学	渡辺 勉	
78	心理学概論	松並 知子	
79	心理学研究法	西本 実苗	
80	心理学実験演習A	櫻本 和也【東京/札幌/福岡】 / 寺田 未来【仙台】/布井 雅人【兼名古屋/岡山】 / 高橋 裕美/ 八木 彩乃	(ス)
81	心理学実験演習B	櫻本 和也【東京/札幌/福岡】 / 寺田 未来【仙台】/布井 雅人【兼名古屋/岡山】 / 高橋 裕美/ 八木 彩乃	(ス)
82	心理学総合演習	枚田 香【夙川】 / 具 英姫【東京】	(ス)
83	心理学統計法	西本 実苗	
84	スイーツ学で神戸スイーツ探訪	松井 博司	(ス)
85	数学	花島 健吾	
86	政治学	石黒 太	
87	精神分析学	赤坂 和哉	
89	精神保健学	堀川 諭	
90	青年心理学	芳田 茂樹	
91	生物学概論	長野 太輝	
92	生命科学	渡辺 勉	
タ	93 対人コミュニケーションのトレーニング	後藤 亮子	(ス)
	94 第二言語習得研究Ⅰ	高見澤 孟	
	95 第二言語習得研究Ⅱ	高見澤 孟	
	96 地球環境問題と対策	内山 雄介	
	97 地球環境論	貝柄 徹	
	98 知能情報学	長行 康男	(ス)
	99 中国語入門	公文 三佐子	
	100 データベース論	森本 雅博	
	101 哲学	石毛 弓	
	102 統計学	花島 健吾	
ナ	103 日本語教育	高見澤 孟	
	104 日本語教育演習Ⅰ	高村 めぐみ	
	105 日本語教育特講	鈴木 基伸、大和 祐子、小森 万里	
	106 日本語教育特講	鈴木 基伸、大和 祐子、小森 万里	(ス)
	107 日本語教育文法研究Ⅰ	高見澤 孟	
	108 日本語教育文法研究Ⅱ	高見澤 孟	
	109 日本語教授法A	高見澤 孟	
	110 日本語教授法B	高見澤 孟	
	111 日本語教育読解研究	高見澤 孟、阿曾村 陽子	
	112 日本語教育聴解研究	高見澤 孟、阿曾村 陽子	
	113 日本語の特徴と発音	高見澤 孟	
	114 日本語の文法と表現Ⅰ	高見澤 孟	
	115 日本語の文法と表現Ⅱ	高見澤 孟	
	116 日本語表現	秋田 久子	
	117 人間関係論	森下 朝日	
	118 認知行動療法	池田 浩之	(ス)
	119 認知心理学	谷口 康祐	
	120 脳の科学	西村 治彦	
ハ	121 俳句と川柳	水野 達朗	
	123 パズルで情報活用	本田直也	

	ページ	授業科目名	教員名	備考
	125	働くことを考える	後藤 亮子	(ス)
	126	犯罪心理学	枚田 香	
	128	阪神間の観光開発	四方 啓暉 / 田中 義次	(ス)
	129	阪神間の文学めぐり	盛田 帝子	(ス)
	130	阪神間の歴史紀行	川口 宏海	(ス)
	131	ひとと動物の心理学	中島 由佳	
	132	ファイナンシャル・プランニング	伊藤 亮太	
	133	福祉住環境論	藤本 幹也	
	135	物理学概論	庭瀬 敬右	
	136	プレゼンテーション演習Ⅰ(基礎)	福井 愛美	
	137	プレゼンテーション演習Ⅱ(応用)	福井 愛美	
	138	プレゼンテーション概論	水原 道子	
	139	文化心理学	亀井 美弥子	
	140	簿記論・財務会計	小野 慎一郎	
マ	141	マーケティングリサーチ入門	杉林 弘仁	
	142	マーケティング論	杉林 弘仁	(ス)
	143	マネジメントとリーダーシップ	山縣 康浩	
	144	民法	前田 春樹	
ラ	145	リサイクル問題	渡辺 勉	
	146	臨床心理学	酒井 健	
	148	臨床心理学実習	酒井 健 / 辻野 達也	(ス)
	150	倫理と道徳	石毛 弓	
	151	ロジカル・シンキング	今宮 信吾	
基礎ゼミ	152	基礎ゼミナール	野波 侑里、畑 耕治郎、本田 直也	
卒業研究	153	卒業研究	浦畑 育生	
	154	卒業研究	川口 宏海	
	155	卒業研究	酒井 健	
	156	卒業研究	鈴木 基伸	
	157	卒業研究	仲谷 伸子	
	158	卒業研究	二階堂 達郎	
	159	卒業研究	西村 道信	
	160	卒業研究	野波 侑里	
	161	卒業研究	藤田 道代	
	162	卒業研究	堀川 諭	